

IV. 調查結果（市民調查）

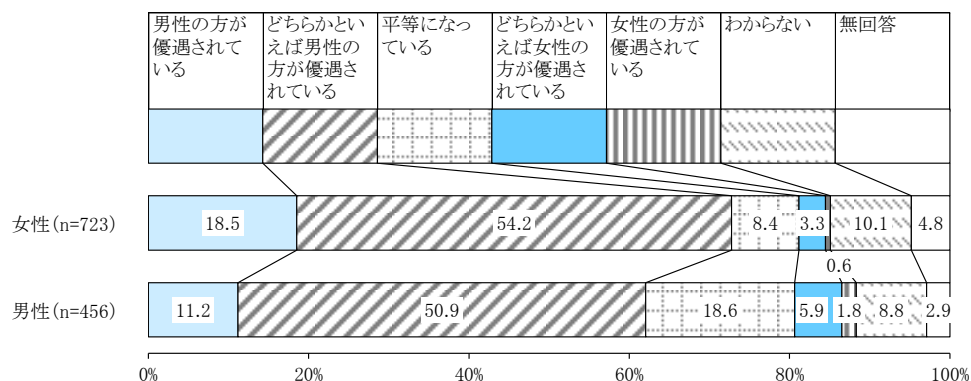
1. 日常生活や社会全般について

(1) 男女の平等感

①社会全体で

問6 一般的に、次の①～⑧の各分野で男女は平等になっていると思いますか。
(それぞれ〇はひとつずつ)

【図表 1-1① 社会全体で】



<性別> (図表 1-1①)

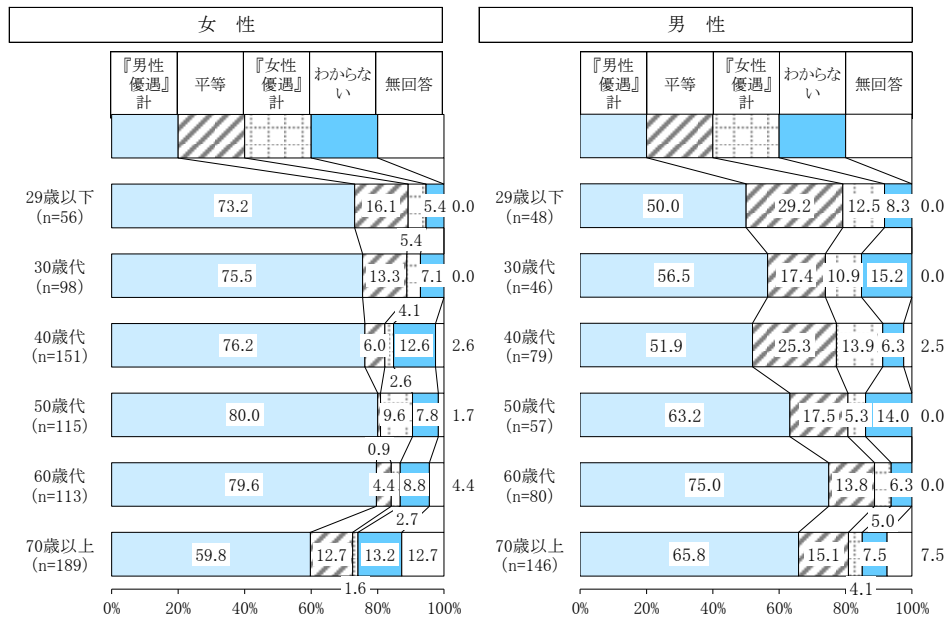
社会全体の男女の平等感について、「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた「男性優遇」が男女ともに最も多い。しかし、女性では72.8%、男性では62.1%となっており、女性が男性より10.7ポイント高くなっている。

「平等」は男性で18.6%なのに対し、女性では8.4%と男性より10.2ポイント低い。女性のほうが男性より男性優遇を強く認識している。

<性・年代別> (図表 1-1①-1)

男女ともに、いずれの年代も「男性優遇」が最も多い。女性の50歳代以下の「男性優遇」は男性の割合を大きく上回っている。どの世代においても、男性は女性より「平等」の割合が高く、50歳代以外で「女性優遇」の割合が女性よりも高くなっている。

【図表 1-1①-1 性・年代別 社会全体で】



＜前回調査（平成 27 年（2015 年））との比較＞（図表 1-1①-2）

前回調査の結果に比べ、「男性優遇」が女性で 5.3 ポイント、男性で 2.9 ポイント高くなっている。「平等」「女性優遇」については、大きな差はみられない。

【図表 1-1①-2 前回調査との比較 社会全体で】

	女性						男性					
	n	計『男性優遇』	平等	計『女性優遇』	わからない	無回答	n	計『男性優遇』	平等	計『女性優遇』	わからない	無回答
今回調査	723	72.8	8.4	3.9	10.1	4.8	456	62.1	18.6	7.7	8.8	2.9
前回調査	1,064	67.5	8.2	3.4	15.5	5.5	780	59.2	19.4	6.8	9.7	4.9
スコア差		+5.3	+0.2	+0.5	-5.4	-0.7		+2.9	-0.8	+0.9	-0.9	-2.0

＜他調査（大阪府：令和元年度男女共同参画に関する府民意識調査）との比較＞（図表 1-1①-3）

大阪府民意識調査の結果に比べ、女性では大きな差はみられないものの、男性では、「男性優遇」が 11.8 ポイント高く、「平等」が 12.4 ポイント低くなっており、豊中市の今回調査では男性において「男性優遇」がより強く認識されている。

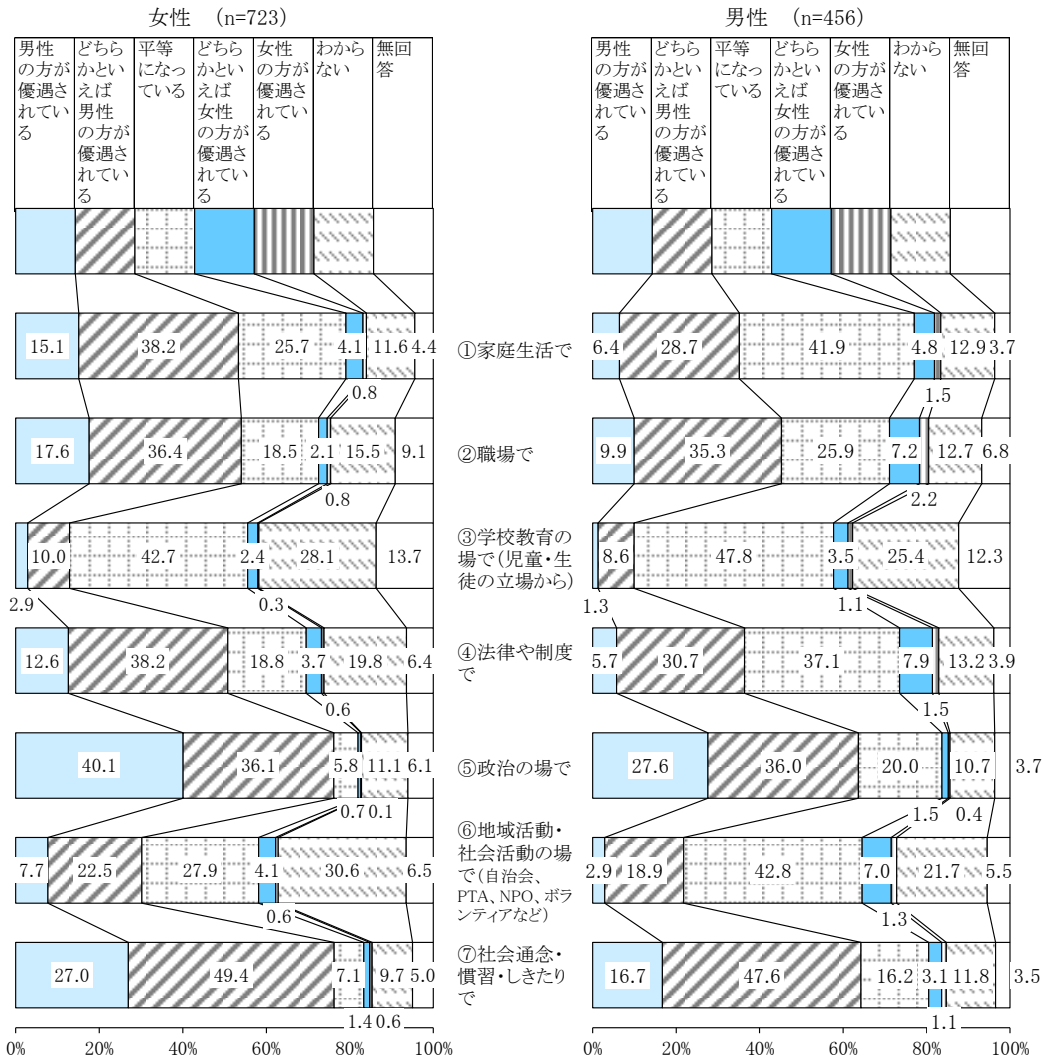
【図表 1-1①-3 他調査との比較 社会全体で】

	女性						男性					
	n	計『男性優遇』	平等	計『女性優遇』	わからない	無回答	n	計『男性優遇』	平等	計『女性優遇』	わからない	無回答
今回調査	723	72.8	8.4	3.9	10.1	4.8	456	62.1	18.6	7.7	8.8	2.9
他調査	497	74.8	10.7	2.6	7.8	4.0	384	50.3	31.0	7.3	7.8	3.6
スコア差		-2.0	-2.3	+1.3	+2.3	+0.8		+11.8	-12.4	+0.4	+1.0	-0.7

②各分野別の平等感

問6 一般的に、次の①～⑧の各分野で男女は平等になっていると思いますか。
(それぞれ〇はひとつずつ)

【図表 1-1② 各分野別の平等感】



<性別> (図表 1-1②)

各分野での男女平等感について、男女とも「平等」の割合が「男性優遇」を上回っているのは「③学校教育の場で(児童・生徒の立場から)」のみである。「平等」が女性42.7%、男性47.8%である。

また、「男性優遇」の割合は、男女とも「⑦社会通念・慣習・しきたりで」「⑤政治の場で」が最も高く、女性で約76%、男性で約64%となっている。次いで、「②職場で」が女性54.0%、男性45.2%で続いている。

男性では、「⑥地域活動・社会活動の場で(自治会、PTA、NPO、ボランティアなど)」(42.8%)、「①家庭生活で」(41.9%)や「④法律や制度で」(37.1%)の項目で「平等」が最も多くなっており、すべての項目で「平等」の割合は女性の割合よりも高くなっている。

男女で「平等」の認識で差がでている領域がある。「①家庭生活で」、「④法律・制度で」、「⑥地域活動・社会活動の場で」である。「①家庭生活で」では「平等」と答えた男性は4割以上だ

が、女性では2割半にとどまっている。また「④法律・制度で」では「平等」と答えた男性は3割強だが、女性では1割強にとどまっている。さらに、「⑥地域活動・社会活動の場で」で「平等」と答えた男性は4割以上だが、女性では2割強となっている。

<性・年代別> (図表 1-1②-1)

① 家庭生活で

女性では、すべての年代で「男性優遇」が最も多く、30歳代以上で5割を占めている。一方男性では、60歳代以下のすべての年代で「平等」が最も多く、50歳代では、全体と比べて「女性優遇」の割合(10.5%)がやや高くなっており、どの世代においても、同年代の女性とは認識が異なっている。

② 職場で

29歳以下男性を除くすべての年代で「男性優遇」が最も多くなっており、女性の50～60歳代で6割台と高めである。女性の60歳代以下のすべての年代で「男性優遇」は男性の割合を上回っている。

③ 学校教育の場で(児童・生徒の立場から)

70歳以上女性を除くすべての年代で「平等」が最も多くなっている。

④ 法律や制度で

女性では、すべての年代で「男性優遇」が最も多く、29歳以下、40～60歳代で50%以上となっている。一方男性では、50歳代以下のすべての年代で「平等」が最も多くなっており、同年代の女性とは認識が異なっている。29歳以下、30歳代の男性においては、「女性優遇」の割合が、全体に比して10%以上高くなっている。

⑤ 政治の場で

男女とも、すべての年代で「男性優遇」が最も多くなっている。特に、女性60歳代以下では、「男性優遇」が7割から8割となっており、特に男性の50歳代以下の「男性優遇」の5割から6割と比較すると大きく上回っている。

⑥ 地域活動・社会活動の場で(自治会、PTA、NPO、ボランティアなど)

女性では、30歳代以下で「わからない」が50%前後、40～60歳代では「男性優遇」が3割台、70歳以上では「平等」が29.1%で最も多くなっている。

男性では、30歳代を除くすべての年代で「平等」が最も多くなっている。40～60歳代では「平等」が4割台と高くなっており、同年代の女性とは認識が異なっている。また、30歳代では「わからない」が最も多くなっている。

⑦ 社会通念・慣習・しきたりで

男女とも、すべての年代で「男性優遇」が50%以上を占めている。女性の50歳代以下の「男性優遇」はほぼどの年代も8割となっており、男性の割合(5割から6割)を大きく上回っている。29歳以下の男性では「平等」の割合が全体と比して10%以上高くなっている。

【図表 1-1②-1 性・年代別 各分野別の平等感①】

	n	①家庭生活で					②職場で					③学校教育の場で (児童・生徒の立場から)					
		計 『男性 優遇』	平 等	計 『女性 優遇』	わ か ら な い	無 回 答	計 『男性 優遇』	平 等	計 『女性 優遇』	わ か ら な い	無 回 答	計 『男性 優遇』	平 等	計 『女性 優遇』	わ か ら な い	無 回 答	
全体	上段/実数 下段/%	1,207 100.0	565 46.8	381 31.6	66 5.5	145 12.0	50 4.1	609 50.5	260 21.5	66 5.5	171 14.2	101 8.4	146 12.1	533 44.2	42 3.5	324 26.8	162 13.4
女性	29歳以下	56 100.0	27 48.2	17 30.4	4 7.1	8 14.3	-	26 46.4	18 32.1	4 7.1	8 14.3	-	12 21.4	26 46.4	4 7.1	14 25.0	-
	30歳代	98 100.0	54 55.1	26 26.5	7 7.1	11 11.2	-	52 53.1	27 27.6	7 7.1	11 11.2	1 1.0	6 6.1	54 55.1	2 2.0	32 32.7	4 4.1
	40歳代	151 100.0	78 51.7	46 30.5	3 2.0	21 13.9	3 2.0	82 54.3	39 25.8	5 3.3	18 11.9	7 4.6	17 11.3	90 59.6	4 2.6	29 19.2	11 7.3
	50歳代	115 100.0	61 53.0	27 23.5	10 8.7	15 13.0	2 1.7	69 60.0	24 20.9	1 0.9	20 17.4	1 0.9	16 13.9	52 45.2	2 1.7	34 29.6	11 9.6
	60歳代	113 100.0	64 56.6	26 23.0	4 3.5	13 11.5	6 5.3	72 63.7	16 14.2	1 0.9	17 15.0	7 6.2	19 19.5	37 32.7	2 1.8	37 32.7	15 13.3
	70歳以上	189 100.0	101 53.4	43 22.8	8 4.2	16 8.5	21 11.1	89 47.1	10 5.3	3 1.6	38 20.1	49 25.9	20 10.6	50 26.5	5 2.6	57 30.2	57 30.2
	70歳以上	189 100.0	101 53.4	43 22.8	8 4.2	16 8.5	21 11.1	89 47.1	10 5.3	3 1.6	38 20.1	49 25.9	20 10.6	50 26.5	5 2.6	57 30.2	57 30.2
男性	29歳以下	48 100.0	12 25.0	23 47.9	4 8.3	9 18.8	-	16 33.3	18 37.5	5 10.4	9 18.8	-	2 4.2	24 50.0	9 18.8	13 27.1	-
	30歳代	46 100.0	11 23.9	31 67.4	2 4.3	2 4.3	-	21 45.7	14 30.4	6 13.0	5 10.9	-	4 8.7	24 52.2	4 8.7	14 30.4	-
	40歳代	79 100.0	25 31.6	36 45.6	4 5.1	12 15.2	2 2.5	30 38.0	25 31.6	17 21.5	5 6.3	2 2.5	7 8.9	50 63.3	2 2.5	16 20.3	4 5.1
	50歳代	57 100.0	21 36.8	25 43.9	6 10.5	5 8.8	-	25 43.9	20 35.1	8 14.0	4 7.0	-	3 5.3	32 56.1	1 1.8	17 29.8	4 7.0
	60歳代	80 100.0	27 33.8	32 40.0	5 6.3	15 18.8	1 1.3	40 50.0	22 27.5	4 5.0	12 15.0	2 2.5	12 15.0	32 40.0	2 2.5	22 27.5	12 15.0
	70歳以上	146 100.0	64 43.8	44 30.1	8 5.5	16 11.0	14 9.6	74 50.7	19 13.0	3 2.1	23 15.8	27 18.5	17 11.6	56 38.4	3 2.1	34 23.3	36 24.7
	70歳以上	146 100.0	64 43.8	44 30.1	8 5.5	16 11.0	14 9.6	74 50.7	19 13.0	3 2.1	23 15.8	27 18.5	17 11.6	56 38.4	3 2.1	34 23.3	36 24.7

【図表 1-1②-1 性・年代別 各分野別の平等感②】

	n	④法律や制度で					⑤政治の場で					⑥地域活動・社会活動の場で (自治会、PTA、NPO、ボランティア など)					
		計 『男性 優遇』	平 等	計 『女性 優遇』	わ か ら な い	無 回 答	計 『男性 優遇』	平 等	計 『女性 優遇』	わ か ら な い	無 回 答	計 『男性 優遇』	平 等	計 『女性 優遇』	わ か ら な い	無 回 答	
全体	上段/実数 下段/%	1,207 100.0	547 45.3	309 25.6	75 6.2	207 17.1	69 5.7	859 71.2	135 11.2	15 1.2	131 10.9	67 5.6	328 27.2	403 33.4	73 6.0	326 27.0	77 6.4
女性	29歳以下	56 100.0	28 50.0	11 19.6	6 10.7	11 19.6	-	47 83.9	4 7.1	-	5 8.9	-	6 10.7	16 28.6	4 7.1	30 53.6	-
	30歳代	98 100.0	41 41.8	23 23.5	5 5.1	29 29.6	-	78 79.6	5 5.1	-	15 15.3	-	17 17.3	33 33.7	1 1.0	47 48.0	-
	40歳代	151 100.0	84 55.6	29 19.2	8 5.3	25 16.6	5 3.3	127 84.1	7 4.6	-	14 9.3	3 2.0	60 39.7	36 23.8	11 7.3	41 27.2	3 2.0
	50歳代	115 100.0	66 57.4	16 13.9	7 6.1	23 20.0	3 2.6	90 78.3	6 5.2	4 3.5	13 11.3	2 1.7	42 36.5	26 22.6	4 3.5	40 34.8	3 2.6
	60歳代	113 100.0	71 62.8	17 15.0	3 2.7	16 14.2	6 5.3	94 83.2	3 2.7	2 1.8	10 8.8	4 3.5	42 37.2	35 31.0	4 3.5	25 22.1	7 6.2
	70歳以上	189 100.0	76 40.2	40 21.2	2 1.1	39 20.6	32 16.9	114 60.3	17 9.0	-	23 12.2	35 18.5	52 27.5	55 29.1	10 5.3	38 20.1	34 18.0
	70歳以上	189 100.0	76 40.2	40 21.2	2 1.1	39 20.6	32 16.9	114 60.3	17 9.0	-	23 12.2	35 18.5	52 27.5	55 29.1	10 5.3	38 20.1	34 18.0
男性	29歳以下	48 100.0	11 22.9	15 31.3	8 16.7	14 29.2	-	26 54.2	10 20.8	2 4.2	10 20.8	-	5 10.4	21 43.8	4 8.3	17 35.4	1 2.1
	30歳代	46 100.0	12 26.1	13 28.3	13 28.3	7 15.2	2 2.2	29 63.0	9 19.6	-	8 17.4	-	5 10.9	19 41.3	2 4.3	20 43.5	-
	40歳代	79 100.0	30 38.0	33 41.8	9 11.4	5 6.3	2 2.5	47 59.5	23 29.1	1 1.3	6 7.6	2 2.5	19 24.1	36 45.6	6 7.6	16 20.3	2 2.5
	50歳代	57 100.0	18 31.6	26 45.6	4 7.0	9 15.8	-	38 66.7	9 15.8	2 3.5	8 14.0	-	8 14.0	27 47.4	8 14.0	14 24.6	-
	60歳代	80 100.0	34 42.5	33 41.3	4 5.0	8 10.0	1 1.3	62 77.5	10 12.5	1 1.3	6 7.5	1 1.3	17 21.3	38 47.5	6 7.5	16 20.0	3 3.8
	70歳以上	146 100.0	61 41.8	49 33.6	5 3.4	17 11.6	14 9.6	88 60.3	30 20.5	3 2.1	11 7.5	14 9.6	45 30.8	54 37.0	12 8.2	16 11.0	19 13.0
	70歳以上	146 100.0	61 41.8	49 33.6	5 3.4	17 11.6	14 9.6	88 60.3	30 20.5	3 2.1	11 7.5	14 9.6	45 30.8	54 37.0	12 8.2	16 11.0	19 13.0

【図表 1-1②-1 性・年代別 各分野別の平等感③】

		n	⑦社会通念・慣習・しきたりで				無回答
			計『男性優遇』	平等	計『女性優遇』	わからない	
全体	上段/実数	1,207	863	130	33	125	56
	下段/%	100.0	71.5	10.8	2.7	10.4	4.6
女性	29歳以下	56 100.0	47 83.9	6 10.7	1 1.8	2 3.6	- -
	30歳代	98 100.0	74 75.5	11 11.2	1 1.0	12 12.2	- -
	40歳代	151 100.0	125 82.8	8 5.3	- -	14 9.3	4 2.6
	50歳代	115 100.0	93 80.9	4 3.5	5 4.3	12 10.4	1 0.9
	60歳代	113 100.0	92 81.4	3 2.7	2 1.8	11 9.7	5 4.4
	70歳以上	189 100.0	120 63.5	19 10.1	5 2.6	19 10.1	26 13.8
	男性	29歳以下	48 100.0	29 60.4	11 22.9	1 2.1	7 14.6
30歳代		46 100.0	26 56.5	7 15.2	4 8.7	9 19.6	- -
40歳代		79 100.0	50 63.3	14 17.7	5 6.3	8 10.1	2 2.5
50歳代		57 100.0	34 59.6	10 17.5	3 5.3	10 17.5	- -
60歳代		80 100.0	62 77.5	9 11.3	1 1.3	7 8.8	1 1.3
70歳以上		146 100.0	92 63.0	23 15.8	5 3.4	13 8.9	13 8.9

<前回調査（平成27年（2015年））との比較>（図表 1-1②-2）

前回調査の結果に比べ、大きな変化がみられた領域は以下である。「①家庭生活で」「②職場で」では男女ともに「男性優遇」の割合が低下し、特に「②職場で」では10ポイント程度低下している。また「③学校教育の場で（児童・生徒の立場から）」「④法律や制度で」「⑤政治の場で」では「男性優遇」の割合は男女ともに上昇し、特に「⑤政治の場で」では女性で10ポイント程度上昇している。一方「⑥地域活動・社会活動の場で（自治会、PTA、NPO、ボランティアなど）」「⑦社会通念・慣習・しきたりで」では5ポイント以上の差はみられない。

【図表 1-1②-2 前回調査との比較 各分野別の平等感】

(%)

		女 性					男 性						
		n	計『男性優遇』	平等	計『女性優遇』	わからない	無回答	n	計『男性優遇』	平等	計『女性優遇』	わからない	無回答
①家庭生活で	今回調査	723	53.3	25.7	5.0	11.6	4.4	456	35.1	41.9	6.4	12.9	3.7
	前回調査	1,064	56.0	18.9	8.0	11.8	5.3	780	40.5	33.8	10.5	11.3	3.8
	スコア差		-2.7	+6.8	-3.0	-0.2	-0.9		-5.4	+8.1	-4.1	+1.6	-0.1
②職場で	今回調査	723	53.9	18.5	2.9	15.5	9.1	456	45.2	25.9	9.4	12.7	6.8
	前回調査	1,064	63.3	11.0	4.5	15.3	5.8	780	55.9	20.9	9.2	8.6	5.4
	スコア差		-9.4	+7.5	-1.6	+0.2	+3.3		-10.7	+5.0	+0.2	+4.1	+1.4
③学校教育の場で (児童・生徒の立場から)	今回調査	723	12.9	42.7	2.6	28.1	13.7	456	9.9	47.8	4.6	25.4	12.3
	前回調査	1,064	10.7	49.2	4.3	27.7	8.1	780	6.5	58.2	3.7	22.9	8.6
	スコア差		+2.2	-6.5	-1.7	+0.4	+5.6		+3.4	-10.4	+0.9	+2.5	+3.7
④法律や制度で	今回調査	723	50.8	18.8	4.3	19.8	6.4	456	36.4	37.1	9.4	13.2	3.9
	前回調査	1,064	42.4	20.9	6.3	23.9	6.6	780	30.8	36.4	12.8	14.6	5.4
	スコア差		+8.4	-2.1	-2.0	-4.1	-0.2		+5.6	+0.7	-3.4	-1.4	-1.5
⑤政治の場で	今回調査	723	76.2	5.8	0.8	11.1	6.1	456	63.6	20.0	2.0	10.7	3.7
	前回調査	1,064	66.3	8.6	0.7	18.3	6.1	780	57.9	21.4	2.8	12.6	5.3
	スコア差		+9.9	-2.8	+0.1	-7.2	0.0		+5.7	-1.4	-0.8	-1.9	-1.6
⑥地域活動・社会活動の場で (自治会、PTA、NPO、ボランティアなど)	今回調査	723	30.3	27.9	4.7	30.6	6.5	456	21.7	42.8	8.3	21.7	5.5
	前回調査	1,064	33.3	24.6	3.9	31.1	7.0	780	20.0	41.4	7.4	25.5	5.6
	スコア差		-3.0	+3.3	+0.8	-0.5	-0.5		+1.7	+1.4	+0.9	-3.8	-0.1
⑦社会通念・慣習・しきたりで	今回調査	723	76.3	7.1	1.9	9.7	5.0	456	64.3	16.2	4.2	11.8	3.5
	前回調査	1,064	72.2	7.7	1.7	12.8	5.6	780	64.6	16.7	4.0	9.7	5.0
	スコア差		+4.1	-0.6	+0.2	-3.1	-0.6		-0.3	-0.5	+0.2	+2.1	-1.5

<他調査（大阪府：令和元年度男女共同参画に関する府民意識調査）との比較>（図表 1-1②-3）

大阪府民意識調査の結果に比べ、「男性優遇」の割合は、「③学校教育の場で（児童・生徒の立場から）」「⑥地域活動・社会活動の場で（自治会、PTA、NPO、ボランティアなど）」では男女ともに低くなっており、特に女性では「平等」が10ポイント以上高くなっている。一方、「④法律や制度で」は、男女ともに「男性優遇」が20ポイント以上高くなっており、女性では「平等」が24.9ポイント低くなっている。

【図表 1-1②-3 他調査との比較 各分野別の平等感】

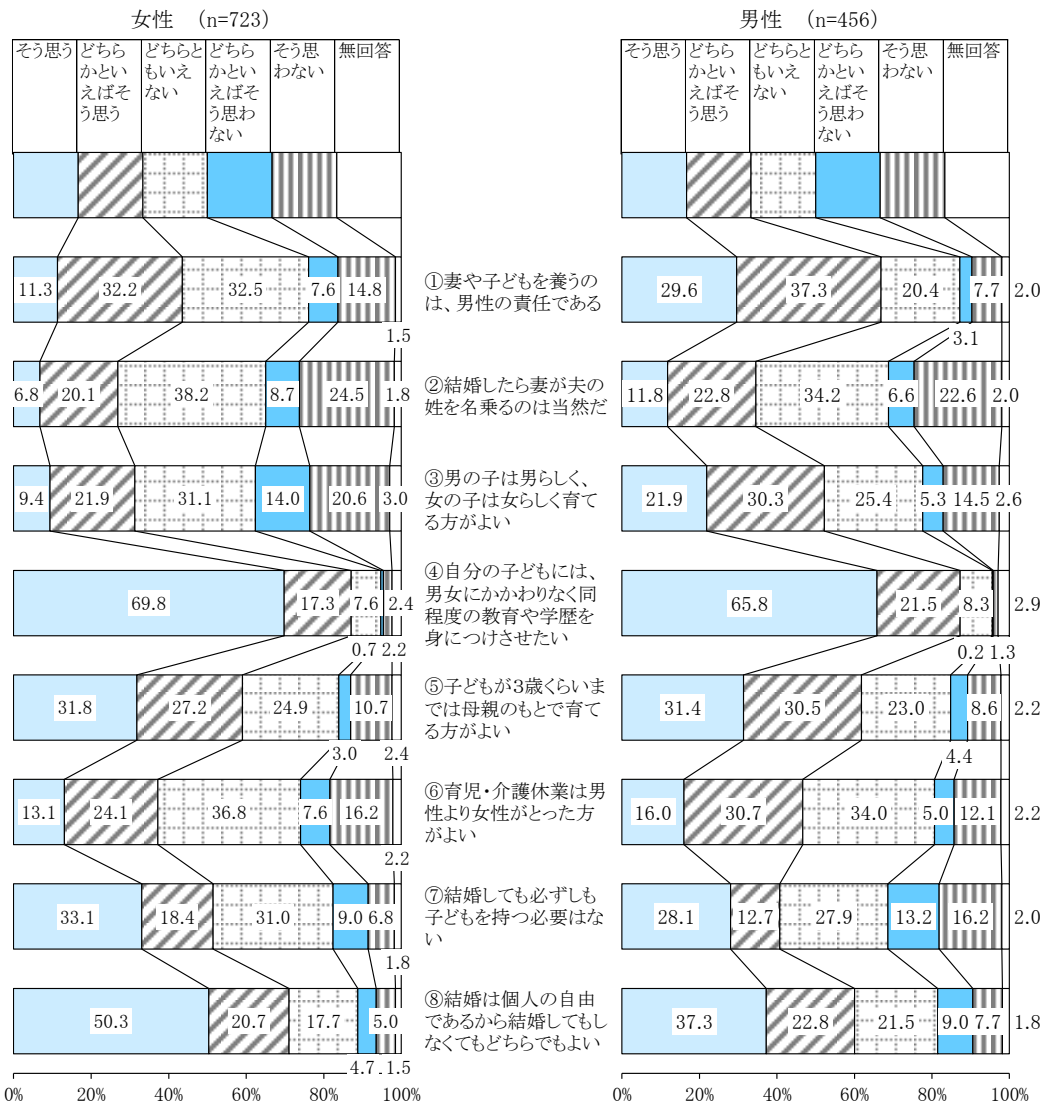
(%)

		女 性						男 性					
		n	計『男性優遇』	平等	計『女性優遇』	わからない	無回答	n	計『男性優遇』	平等	計『女性優遇』	わからない	無回答
①家庭生活で	今回調査	723	53.3	25.7	5.0	11.6	4.4	456	35.1	41.9	6.4	12.9	3.7
	他調査	497	58.7	25.6	7.2	5.8	2.6	384	32.8	45.8	12.7	7.0	1.6
	スコア差		-5.4	+0.1	-2.2	+5.8	+1.8		+2.3	-3.9	-6.3	+5.9	+2.1
②職場で	今回調査	723	53.9	18.5	2.9	15.5	9.1	456	45.2	25.9	9.4	12.7	6.8
	他調査	497	57.7	19.3	6.2	8.9	7.8	384	47.4	27.3	13.1	6.0	6.3
	スコア差		-3.8	-0.8	-3.3	+6.6	+1.3		-2.2	-1.4	-3.7	+6.7	+0.5
③学校教育の場で (児童・生徒の立場から)	今回調査	723	12.9	42.7	2.6	28.1	13.7	456	9.9	47.8	4.6	25.4	12.3
	他調査	497	41.5	25.4	3.6	24.7	4.8	384	23.4	41.9	10.4	19.3	4.9
	スコア差		-28.6	+17.3	-1.0	+3.4	+8.9		-13.5	+5.9	-5.8	+6.1	+7.4
④法律や制度で	今回調査	723	50.8	18.8	4.3	19.8	6.4	456	36.4	37.1	9.4	13.2	3.9
	他調査	497	23.7	43.7	1.8	23.1	7.6	384	15.6	50.0	6.8	20.3	7.3
	スコア差		+27.1	-24.9	+2.5	-3.3	-1.2		+20.8	-12.9	+2.6	-7.1	-3.4
⑤政治の場で	今回調査	723	76.2	5.8	0.8	11.1	6.1	456	63.6	20.0	2.0	10.7	3.7
	他調査	497	76.8	5.6	1.4	11.3	4.8	384	63.5	18.0	3.9	10.7	3.9
	スコア差		-0.6	+0.2	-0.6	-0.2	+1.3		+0.1	+2.0	-1.9	0.0	-0.2
⑥地域活動・社会活動の場で(自治会、PTA、NPO、ボランティアなど)	今回調査	723	30.3	27.9	4.7	30.6	6.5	456	21.7	42.8	8.3	21.7	5.5
	他調査	497	55.9	17.5	5.4	15.1	6.0	384	31.0	39.3	14.8	10.9	3.9
	スコア差		-25.6	+10.4	-0.7	+15.5	+0.5		-9.3	+3.5	-6.5	+10.8	+1.6
⑦社会通念・慣習・しきたりで	今回調査	723	76.3	7.1	1.9	9.7	5.0	456	64.3	16.2	4.2	11.8	3.5
	他調査	497	79.3	5.4	2.4	8.7	4.2	384	60.2	18.8	7.3	10.7	3.1
	スコア差		-3.0	+1.7	-0.5	+1.0	+0.8		+4.1	-2.6	-3.1	+1.1	+0.4

(2) 日常生活や社会全般についての考え方

問7. 次の①～⑧の項目についてどのように思いますか。(それぞれ〇はひとつずつ)

【図表 1-2 日常生活や社会全般についての考え方】



<性別> (図表 1-2)

日常生活や社会全般についての考え方について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた「肯定派」の割合では、男女とも「④自分の子どもには、男女にかかわらず同程度の教育や学歴を身につけさせたい」が8割台で最も多くなっている。次いで、女性では「⑧結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもどちらでもよい」(71.0%)が、男性では「①妻や子どもを養うのは、男性の責任である」(66.9%)が続いている。

<性・年代別> (図表 1-2-1)

①妻や子どもを養うのは、男性の責任である

女性では、29歳以下では「否定派」が、30歳代以上では「肯定派」が最も多くなっており、年代による差がみられる。一方男性では、すべての年代で「肯定派」が最も多くなっている。い

ずれの年代でも、「肯定派」は男性の割合（5割から7割台）が女性（3割から5割台）を20ポイント以上上回っており、同年代の女性とは認識が大きく異なっている。

②結婚したら、妻が夫の姓を名乗るのは当然だ

男女ともに、30歳代以下では「否定派」が最も多く、40歳代、60歳代では「どちらともいえない」が最も多くなっている。女性50歳代では、「どちらともいえない」が最も多いが、「否定派」も0.8ポイント差と僅差である。男性50歳代と男女70歳以上では、「肯定派」が最も多くなっている。

③男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい

女性では、50歳代以下では「否定派」が、60歳代では「どちらともいえない」が、70歳以上で「肯定派」が多くなっている。男性では、29歳以下では「否定派」が最も多いが、30歳代以上はいずれの年代でも「肯定派」が多く、30～40歳代で4割台、50歳代で5割台、60歳代以上で6割台となっている。

④自分の子どもには、男女にかかわらず同程度の教育・学歴を身につけさせたい

男女とも、すべての年代で「肯定派」が多くなっている。女性では、すべての年代で8～9割台となっている。男性では、30歳代で78.3%とやや低いものの、その他の年代では8割以上となっている。

⑤子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい

30歳代を除くすべての年代で「肯定派」が最も多くなっている。ただし、30歳代では「否定派」、「肯定派」、「どちらともいえない」がどれも30%前後となっており、意見が分散傾向にあることがうかがえる。

⑥育児・介護休業は、男性より女性がとった方がよい

男女とも、30歳代以下では「否定派」が最も多いが、30歳代では「否定派」「どちらともいえない」「肯定派」のいずれもが3割台となっており、意見が分散傾向にあることがうかがえる。女性では、50～60歳代では「どちらともいえない」、40歳代、70歳以上では「肯定派」が最も多くなっている。男性では、40歳代で「どちらともいえない」、50歳代以上では「肯定派」が最も多くなっている。

⑦結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない

男女とも、50歳代以下のすべての年代で「肯定派」が多く、若い年代ほどその割合は高くなっている。女性60歳代以上では「どちらともいえない」、男性50歳代以上で「否定派」が最も多くなっている。中高年とそれより若い年代での差が見られる。

⑧結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもどちらでもよい

男女とも、いずれの年代でも「肯定派」が多く、割合は若い年代ほどその割合は高くなっている。女性はいずれの年代でも「肯定派」が男性の割合を上回っている。

【図表 1-2-1 性・年代別 日常生活や社会全般についての考え方①】

	n	①妻や子どもを養うのは、男性の責任である				②結婚したら妻が夫の姓を名乗るのは当然だ				③男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい				
		計『肯定派』	いどちらもない	計『否定派』	無回答	計『肯定派』	いどちらもない	計『否定派』	無回答	計『肯定派』	いどちらもない	計『否定派』	無回答	
全体	上段/実数 下段/%	1,207 100.0	635 52.6	334 27.7	216 17.9	22 1.8	361 29.9	441 36.5	383 31.7	22 1.8	476 39.4	348 28.8	347 28.7	36 3.0
女性	29歳以下	56 100.0	19 33.9	12 21.4	25 44.6	-	17 30.4	10 17.9	29 51.8	-	5 8.9	10 17.9	41 73.2	-
	30歳代	98 100.0	39 39.8	35 35.7	24 24.5	-	19 19.4	37 37.8	42 42.9	-	28 28.6	28 28.6	41 41.8	1 1.0
	40歳代	151 100.0	59 39.1	58 38.4	34 22.5	-	39 25.8	64 42.4	48 31.8	-	39 25.8	55 36.4	55 36.4	2 1.3
	50歳代	115 100.0	46 40.0	43 37.4	25 21.7	1 0.9	19 16.5	48 41.7	47 40.9	1 0.9	35 30.4	37 32.2	41 35.7	2 1.7
	60歳代	113 100.0	53 46.9	35 31.0	23 20.4	2 1.8	24 21.2	54 47.8	33 29.2	2 1.8	32 28.3	40 35.4	38 33.6	3 2.7
	70歳以上	189 100.0	99 52.4	51 27.0	31 16.4	8 4.2	75 39.7	63 33.3	41 21.7	10 5.3	87 46.0	55 29.1	33 17.5	14 7.4
	男性	29歳以下	48 100.0	29 60.4	10 20.8	9 18.8	-	8 16.7	19 39.6	21 43.8	-	14 29.2	14 29.2	20 41.7
30歳代		46 100.0	26 56.5	9 19.6	11 23.9	-	9 19.6	15 32.6	22 47.8	-	21 45.7	9 19.6	16 34.8	-
40歳代		79 100.0	49 62.0	20 25.3	8 10.1	2 2.5	22 27.8	29 36.7	27 34.2	1 1.3	33 41.8	29 36.7	16 20.3	1 1.3
50歳代		57 100.0	37 64.9	14 24.6	6 10.5	-	22 38.6	18 31.6	17 29.8	-	31 54.4	16 28.1	9 15.8	1 1.8
60歳代		80 100.0	57 71.3	19 23.8	4 5.0	-	25 31.3	32 40.0	23 28.8	-	48 60.0	21 26.3	10 12.5	1 1.3
70歳以上		146 100.0	107 73.3	21 14.4	11 7.5	7 4.8	72 49.3	43 29.5	23 15.8	8 5.5	91 62.3	27 18.5	19 13.0	9 6.2

【図表 1-2-1 性・年代別 日常生活や社会全般についての考え方②】

	n	④自分の子どもには、男女にかかわらず同程度の教育や学歴を身につけさせたい				⑤子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい				⑥育児・介護休業は男性より女性がとった方がよい				
		計『肯定派』	いどちらもない	計『否定派』	無回答	計『肯定派』	いどちらもない	計『否定派』	無回答	計『肯定派』	いどちらもない	計『否定派』	無回答	
全体	上段/実数 下段/%	1,207 100.0	1,045 86.6	102 8.5	29 2.4	31 2.6	721 59.7	294 24.4	162 13.4	30 2.5	492 40.8	430 35.6	257 21.3	28 2.3
女性	29歳以下	56 100.0	52 92.9	3 5.4	1 1.8	-	27 48.2	11 19.6	18 32.1	-	15 26.8	12 21.4	29 51.8	-
	30歳代	98 100.0	89 90.8	6 6.1	3 3.1	-	35 35.7	35 35.7	28 28.6	-	31 31.6	31 31.6	36 36.7	-
	40歳代	151 100.0	131 86.8	13 8.6	6 4.0	1 0.7	82 54.3	46 30.5	22 14.6	1 0.7	62 41.1	52 34.4	36 23.8	1 0.7
	50歳代	115 100.0	96 83.5	10 8.7	6 5.2	3 2.6	67 58.3	32 27.8	14 12.2	2 1.7	35 30.4	51 44.3	28 24.3	1 0.9
	60歳代	113 100.0	96 85.0	12 10.6	1 0.9	4 3.5	71 62.8	31 27.4	9 8.0	2 1.8	29 25.7	57 50.4	25 22.1	2 1.8
	70歳以上	189 100.0	165 87.3	11 5.8	4 2.1	9 4.8	144 76.2	25 13.2	8 4.2	12 6.3	96 50.8	63 33.3	18 9.5	12 6.3
	男性	29歳以下	48 100.0	43 89.6	3 6.3	2 4.2	-	23 47.9	13 27.1	12 25.0	-	12 25.0	15 31.3	21 43.8
30歳代		46 100.0	36 78.3	6 13.0	3 6.5	1 2.2	15 32.6	13 28.3	17 37.0	1 2.2	15 32.6	14 30.4	16 34.8	1 2.2
40歳代		79 100.0	70 88.6	7 8.9	-	2 2.5	40 50.6	29 36.7	9 11.4	1 1.3	28 35.4	34 43.0	16 20.3	1 1.3
50歳代		57 100.0	48 84.2	9 15.8	-	-	36 63.2	13 22.8	8 14.0	-	29 50.9	21 36.8	7 12.3	-
60歳代		80 100.0	72 90.0	5 6.3	-	3 3.8	55 68.8	17 21.3	8 10.0	-	38 47.5	34 42.5	7 8.8	1 1.3
70歳以上		146 100.0	129 88.4	8 5.5	2 1.4	4 4.8	113 77.4	20 13.7	5 3.4	8 5.5	91 62.3	37 25.3	11 7.5	7 4.8

【図表 1-2-1 性・年代別 日常生活や社会全般についての考え方③】

	n	⑦結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない				⑧結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもどちらでもよい				
		計 『肯定派』	い ど ち ら い も	計 『否定派』	無 回 答	計 『肯定派』	い ど ち ら い も	計 『否定派』	無 回 答	
全体	上段/実数 下段/%	1,207 100.0	566 46.9	362 30.0	256 21.2	23 1.9	801 66.4	236 19.6	150 12.4	20 1.7
女 性	29歳以下	56 100.0	48 85.7	6 10.7	2 3.6	-	52 92.9	3 5.4	-	1 1.8
	30歳代	98 100.0	74 75.5	17 17.3	7 7.1	-	88 89.8	8 8.2	2 2.0	-
	40歳代	151 100.0	99 65.6	39 25.8	12 7.9	1 0.7	127 84.1	17 11.3	7 4.6	-
	50歳代	115 100.0	51 44.3	38 33.0	25 21.7	1 0.9	86 74.8	17 14.8	11 9.6	1 0.9
	60歳代	113 100.0	43 38.1	47 41.6	20 17.7	3 2.7	71 62.8	29 25.7	12 10.6	1 0.9
	70歳以上	189 100.0	57 30.2	77 40.7	47 24.9	8 4.2	90 47.6	53 28.0	38 20.1	8 4.2
	男 性	29歳以下	48 100.0	34 70.8	11 22.9	3 6.3	-	42 87.5	6 12.5	-
30歳代		46 100.0	28 60.9	9 19.6	9 19.6	-	36 78.3	6 13.0	4 8.7	-
40歳代		79 100.0	35 44.3	28 35.4	15 19.0	1 1.3	53 67.1	18 22.8	7 8.9	1 1.3
50歳代		57 100.0	26 45.6	12 21.1	19 33.3	-	40 70.2	8 14.0	9 15.8	-
60歳代		80 100.0	26 32.5	31 38.8	22 27.5	1 1.3	42 52.5	26 32.5	11 13.8	1 1.3
70歳以上		146 100.0	37 25.3	36 24.7	66 45.2	7 4.8	61 41.8	34 23.3	45 30.8	6 4.1

＜前回調査（平成 27 年（2015 年））との比較＞（図表 1-2-2）

前回調査の結果に比べ、結婚に関して「⑦結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」「⑧結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもどちらでもよい」の「肯定派」の割合が男女とも上昇している。これ以外の項目では「肯定派」は男女とも低下し、「④自分の子どもには、男女にかかわらず同程度の教育や学歴を身につけさせたい」以外は、男女ともに 10 ポイント以上低下している。

「②結婚したら妻が夫の姓を名乗るのは当然だ」「③男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい」については男女とも、「①妻や子どもを養うのは、男性の責任である」については女性で、「否定派」が 10 ポイント以上上昇している。

全体的に、今回調査では、男女の固定的な性別役割を肯定する考え方より固定的な考え方にとらわれない考え方に変化してきていると言える。

【図表 1-2-2 前回調査との比較 日常生活や社会全般についての考え方】

(%)

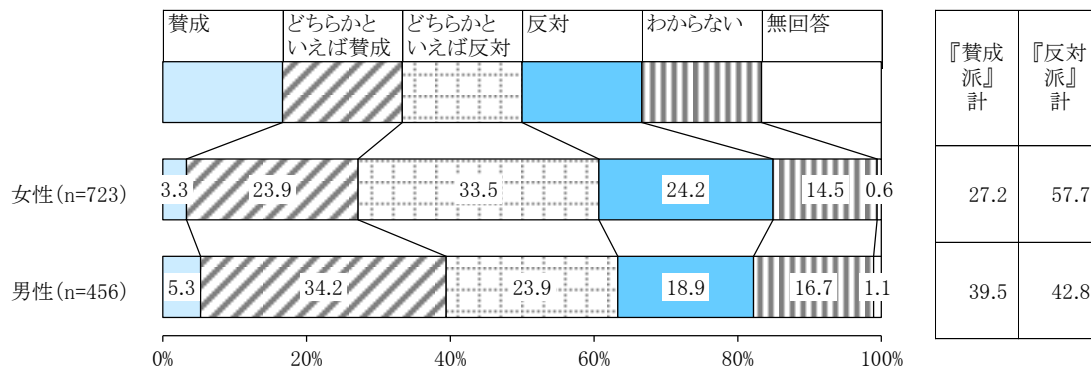
		女 性					男 性				
		n	計『肯定派』	いどえちならとも	計『否定派』	無回答	n	計『肯定派』	いどえちならとも	計『否定派』	無回答
①妻や子どもを養うのは、男性の責任である	今回調査	723	43.6	32.5	22.4	1.5	456	66.9	20.4	10.7	2.0
	前回調査	1,064	60.3	24.9	12.4	2.3	780	79.2	14.5	4.7	1.5
	スコア差		-16.7	+7.6	+10.0	-0.8		-12.3	+5.9	+6.0	+0.5
②結婚したら妻が夫の姓を名乗るのは当然だ	今回調査	723	26.8	38.2	33.2	1.8	456	34.6	34.2	29.2	2.0
	前回調査	1,064	46.4	30.8	21.1	1.6	780	60.4	27.4	10.8	1.4
	スコア差		-19.6	+7.4	+12.1	+0.2		-25.8	+6.8	+18.4	+0.6
③男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい	今回調査	723	31.3	31.1	34.6	3.0	456	52.2	25.4	19.7	2.6
	前回調査	1,064	52.4	27.1	18.2	2.3	780	73.7	15.5	8.8	1.9
	スコア差		-21.1	+4.0	+16.4	+0.7		-21.5	+9.9	+10.9	+0.7
④自分の子どもには、男女にかかわらず同程度の教育や学歴を身につけさせたい	今回調査	723	87.1	7.6	2.9	2.4	456	87.3	8.3	1.5	2.9
	前回調査	1,064	91.2	4.8	2.3	1.8	780	89.7	5.9	2.8	1.5
	スコア差		-4.1	+2.8	+0.6	+0.6		-2.4	+2.4	-1.3	+1.4
⑤子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい	今回調査	723	59.1	24.9	13.7	2.4	456	61.8	23.0	12.9	2.2
	前回調査	1,064	76.0	15.2	6.8	2.0	780	72.4	16.9	7.8	2.8
	スコア差		-16.9	+9.7	+6.9	+0.4		-10.6	+6.1	+5.1	-0.6
⑥育児・介護休業は男性より女性がとった方がよい	今回調査	723	37.2	36.8	23.8	2.2	456	46.7	34.0	17.1	2.2
	前回調査	1,064	48.9	33.1	16.3	1.8	780	58.7	27.8	11.3	2.2
	スコア差		-11.7	+3.7	+7.5	+0.4		-12.0	+6.2	+5.8	0.0
⑦結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない	今回調査	723	51.5	31.0	15.8	1.8	456	40.8	27.9	29.4	2.0
	前回調査	1,064	41.4	30.9	26.1	1.6	780	27.7	29.2	40.9	2.2
	スコア差		+10.1	+0.1	-10.3	+0.2		+13.1	-1.3	-11.5	-0.2
⑧結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもどちらでもよい	今回調査	723	71.1	17.7	9.7	1.5	456	60.1	21.5	16.7	1.8
	前回調査	1,064	61.6	20.3	16.4	1.8	780	45.6	24.9	27.9	1.5
	スコア差		+9.5	-2.6	-6.7	-0.3		+14.5	-3.4	-11.2	+0.3

2. 家庭生活について

(1) 性別役割分担意識について

問8 「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について、どう思いますか。
(○はひとつ)

【図表 2-1 性別役割分担意識について】



<性別> (図表 2-1)

性別役割分担意識については、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた「賛成派」の割合は、女性 27.2%、男性 39.5%で、男性の方が 12.3 ポイント高くなっている。一方、「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせた「反対派」の割合は、女性 57.7%、男性 42.8%となっており、女性のポイントの方が 14.9 ポイント高くなっている。男女とも「賛成派」より「反対派」の方が多くなっているが、女性で「反対派」が「賛成派」より 30.5 ポイントと多くなっているのに比べ、男性では「反対派」と「賛成派」の差は 3.3 ポイントと僅差となっている。

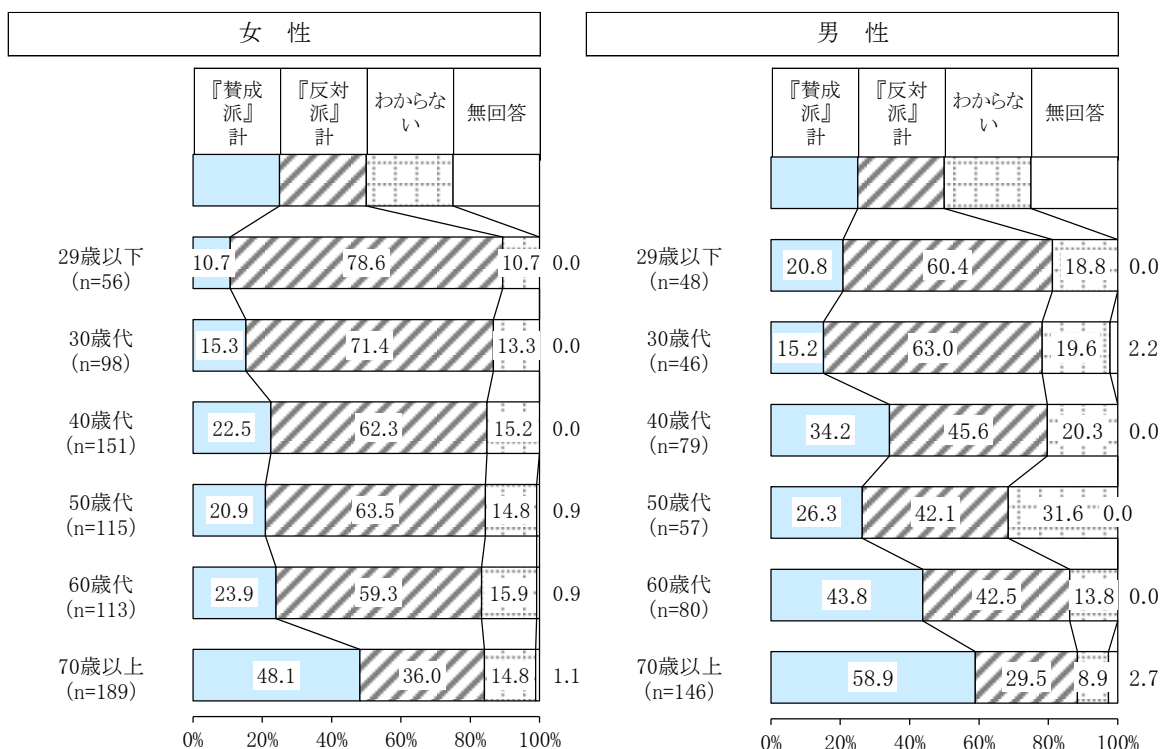
<性・年代別> (図表 2-1-1)

女性では、60歳代以下ではいずれの年代でも「反対派」が最も多くなっている。その割合は若い年代ほど高く、29歳以下では78.6%である。一方70歳以上では「賛成派」が48.1%で最も多くなっている。

男性では、50歳代以下ではいずれの年代でも「反対派」が最も多くなっている。60歳代では、「賛成派」と「反対派」がほぼ同率で意見が分かれており、70歳以上は「賛成派」が多い。

30歳代を除いて、「賛成派」の割合は女性より男性の方が高く、29歳以下、40歳代、60歳代以上では10ポイント以上上回っている。

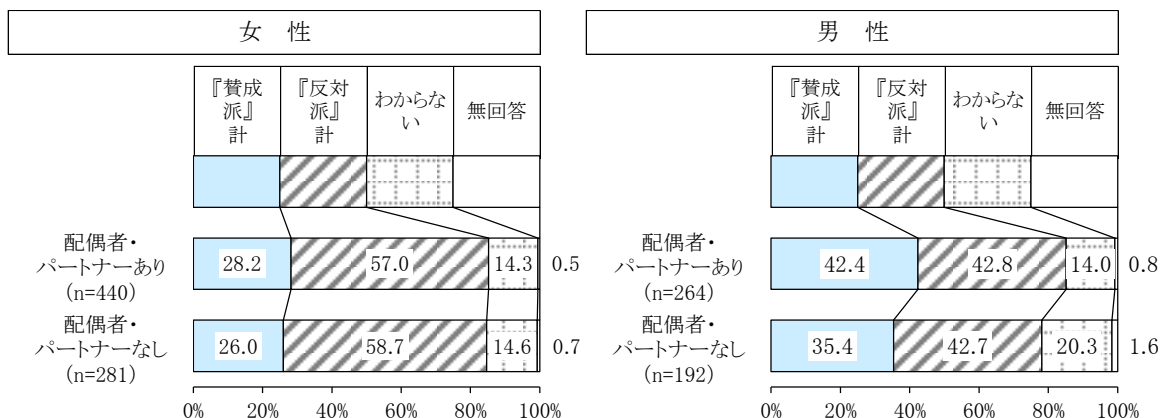
【図表 2-1-1 性・年代別 性別役割分担意識について】



<性・配偶者の有無別> (図表 2-1-2)

女性では、いずれも「反対派」が多くなっており、配偶者・パートナーあり／なしでの差はあまりみられない。男性では、いずれも「反対派」が多いものの、「賛成派」が配偶者・パートナーなしでは 35.4%、配偶者・パートナーありでは 42.4%と、配偶者・パートナーあり／なしで「賛成派」に 7.0 ポイントの差がみられる。

【図表 2-1-2 性・配偶者の有無別 性別役割分担意識について】



<前回調査 (平成 27 年 (2015 年)) との比較> (図表 2-1-3)

前回調査の結果に比べ、「賛成派」が男女とも 20 ポイント程度低下しており、「反対派」が女性で 18.4 ポイント、男性で 15.7 ポイント上昇している。男女とも前回調査から今回調査の間に性別役割意識について固定的な考え方からそれにとらわれない考え方へと変化してきているといえる。

【図表 2-1-3 前回調査との比較 性別役割分担意識について】

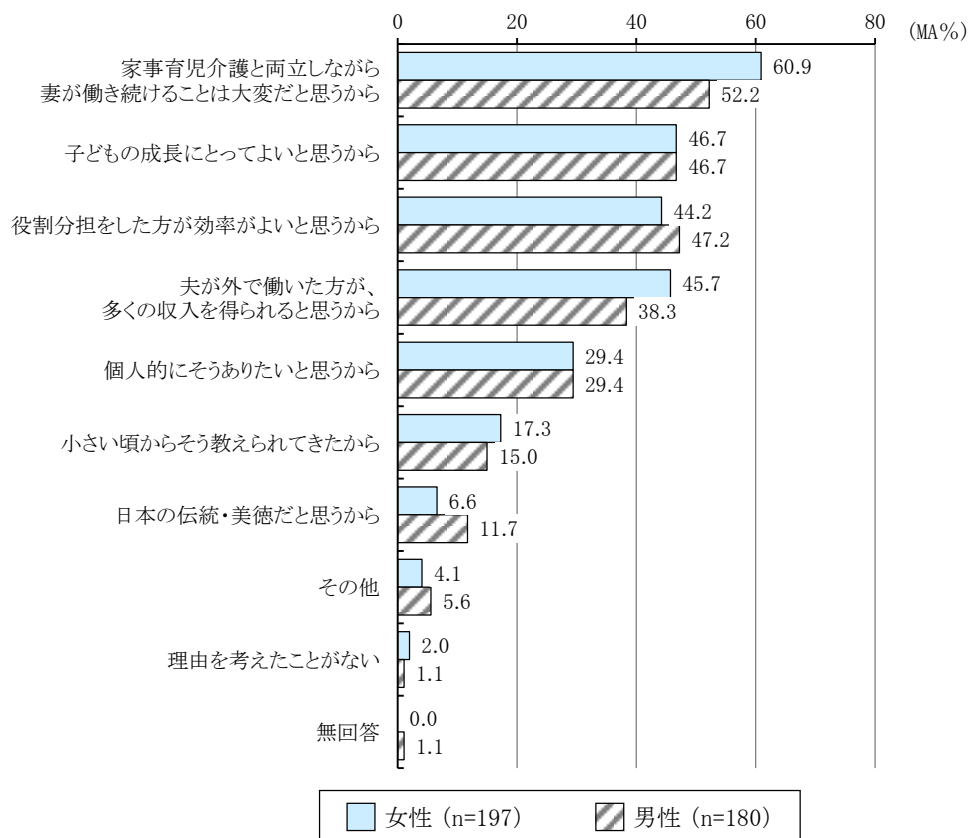
	女性					男性				
	n	計『賛成派』	計『反対派』	わからない	無回答	n	計『賛成派』	計『反対派』	わからない	無回答
		(%)	(%)	(%)	(%)		(%)	(%)	(%)	(%)
今回調査	723	27.2	57.7	14.5	0.6	456	39.5	42.8	16.7	1.1
前回調査	1,064	48.1	39.3	10.7	1.9	780	60.8	27.1	9.9	2.3
スコア差		-20.9	+18.4	+3.8	-1.3		-21.3	+15.7	+6.8	-1.2

(2) 性別役割分担意識について賛成の理由

【問8で「1. 賛成」「2. どちらかといえば賛成」と答えた方にお聞きします。】

問8-1 その理由をお聞かせください。(〇はいくつでも)

【図表 2-2 性別役割分担意識について賛成の理由】



<性別> (図表 2-2)

性別役割分担意識について「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答した人に、その理由をたずねたところ、男女とも「家事・育児・介護と両立しながら妻が働き続けることは大変だと思うから」が最も多く、女性60.9%、男性52.2%で、女性の方が8.7ポイント高くなっている。次いで、女性では「子どもの成長にとってよいと思うから」が46.7%、男性では「役割分担をした方が効率が良いと思うから」が47.2%となっている。

女性では、上記に次いで「夫が外で働いたほうが、多くの収入を得られると思うから」の回答が多くなっており、45.7%を占めている。

<性・年代別> (図表 2-2-1)

女性では、40歳代では「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」(58.8%)、50歳代以上では「家事・育児・介護と両立しながら妻が働き続けることは大変だと思うから」が最も多くなっている。

男性では、40歳代では「子どもの成長にとってよいと思うから」(44.4%)、60歳代以上では「家事・育児・介護と両立しながら妻が働き続けることは大変だと思うから」(60歳代:68.6%、70歳代:55.8%)が最も多くなっている。

(※男女30歳代以下、男性50歳代は、回答者数が少ないため、参考値とする。)

【図表 2-2-1 性・年代別 性別役割分担意識について賛成の理由】

		n	はが家事育児介護と両立すること	子どもが成長にとってよい	役割分担をうけた方が効率	夫が外で働いた方が、多く収入を得られると思う	個人的にそうありたい	小さい頃からそう教えられた	日本の伝統・美德だと思う	その他	理由を考えたことがない	無回答
全体	上段/実数	389	218	181	177	166	113	64	37	19	6	2
	下段/MA%	100.0	56.0	46.5	45.5	42.7	29.0	16.5	9.5	4.9	1.5	0.5
女性	29歳以下	6	5	2	3	3	2	-	-	1	-	-
		100.0	83.3	33.3	50.0	50.0	33.3	-	-	16.7	-	-
	30歳代	15	11	7	10	8	4	2	1	1	-	-
		100.0	73.3	46.7	66.7	53.3	26.7	13.3	6.7	6.7	-	-
	40歳代	34	19	17	19	20	12	5	1	-	2	-
		100.0	55.9	50.0	55.9	58.8	35.3	14.7	2.9	-	5.9	-
女性	50歳代	24	14	13	7	12	7	1	1	2	-	-
		100.0	58.3	54.2	29.2	50.0	29.2	4.2	4.2	8.3	-	-
	60歳代	27	16	12	15	11	5	1	2	2	-	-
		100.0	59.3	44.4	55.6	40.7	18.5	3.7	7.4	7.4	-	-
	70歳以上	91	55	41	33	36	28	25	8	2	2	-
		100.0	60.4	45.1	36.3	39.6	30.8	27.5	8.8	2.2	2.2	-
男性	29歳以下	10	2	1	8	5	1	-	-	-	1	-
		100.0	20.0	10.0	80.0	50.0	10.0	-	-	-	10.0	-
	30歳代	7	5	3	4	1	3	-	-	-	-	-
		100.0	71.4	42.9	57.1	14.3	42.9	-	-	-	-	-
	40歳代	27	9	12	10	9	9	1	2	4	-	-
		100.0	33.3	44.4	37.0	33.3	33.3	3.7	7.4	14.8	-	-
男性	50歳代	15	6	11	6	7	3	3	2	-	-	-
		100.0	40.0	73.3	40.0	46.7	20.0	20.0	13.3	-	-	-
	60歳代	35	24	15	18	10	7	4	3	-	1	2
		100.0	68.6	42.9	51.4	28.6	20.0	11.4	8.6	-	2.9	5.7
70歳以上	86	48	42	39	37	30	19	14	6	-	-	
	100.0	55.8	48.8	45.3	43.0	34.9	22.1	16.3	7.0	-	-	

<前回調査（平成 27 年（2015 年））との比較>（図表 2-2-2）

前回調査の結果に比べ、「個人的にそうありたいと思うから」は女性で 9.9 ポイント低下している。「役割分担をした方が効率がよいと思うから」は、女性で 5.7 ポイント、男性で 6.5 ポイント上昇している。

【図表 2-2-2 前回調査との比較 性別役割分担意識について賛成の理由】

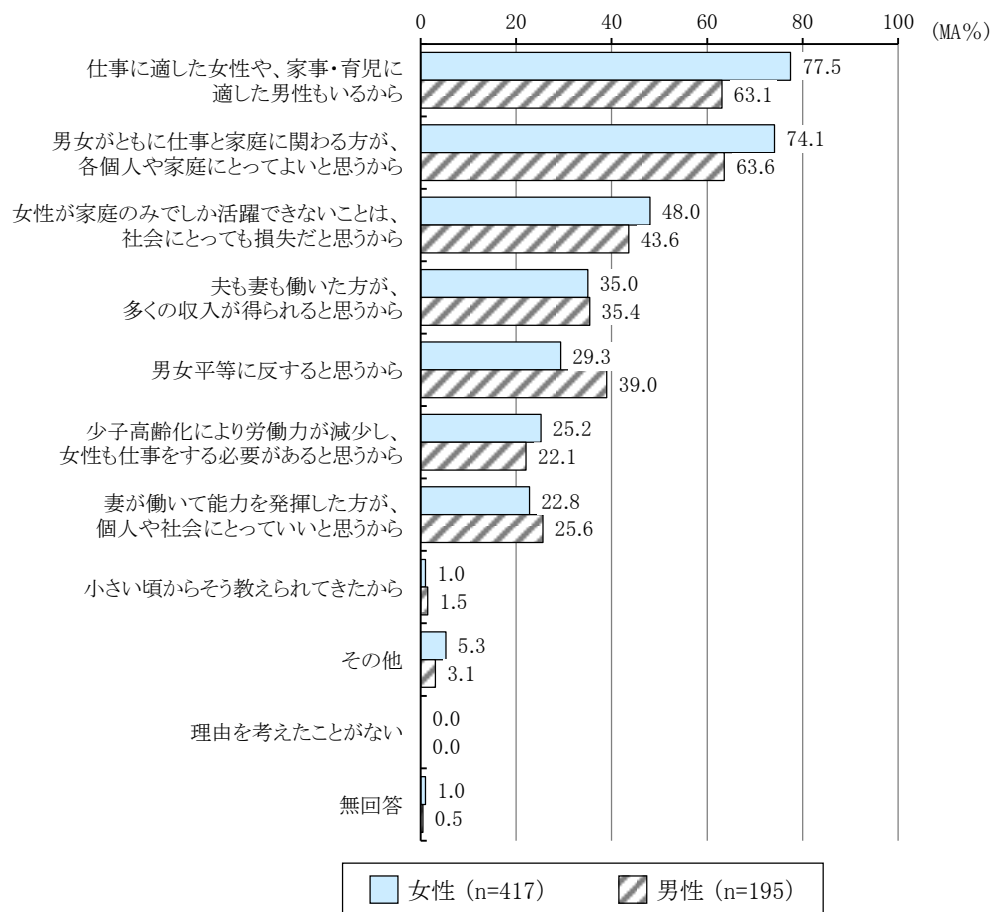
		(MA%)										
		n	家事育児介護と両立しながら大変だと思えること	子どもの成長にとってよいと思うから	役割分担をした方が効率が良いと思うから	夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから	個人的にそうありたいと思うから	小さい頃からそう教えられてきたから	日本の伝統・美徳だと思うから	その他	理由を考えたことがない	無回答
女性	今回調査	197	60.9	46.7	44.2	45.7	29.4	17.3	6.6	4.1	2.0	-
	前回調査	512		44.9	38.5		39.3	13.9		9.6	3.5	2.0
	スコア差			+1.8	+5.7		-9.9	+3.4		-5.5	-1.5	-2.0
男性	今回調査	180	52.2	46.7	47.2	38.3	29.4	15.0	11.7	5.6	1.1	1.1
	前回調査	474		51.1	40.7		28.7	14.6		7.0	2.1	1.7
	スコア差			-4.4	+6.5		+0.7	+0.4		-1.4	-1.0	-0.6

(3) 性別役割分担意識について反対の理由

【問8で「3. どちらかといえば反対」「4. 反対」と答えた方にお聞きします。】

問8-2 その理由をお聞かせください。(〇はいくつでも)

【図表 2-3 性別役割分担意識について反対の理由】



<性別> (図表 2-3)

性別役割分担意識について「反対」「どちらかといえば反対」と回答した人に、その理由をたずねたところ、女性では「仕事に適した女性や、家事・育児に適した男性もいるから」が77.5%で最も多く、次いで「男女がともに仕事と家庭に関わる方が、各個人や家庭にとってよいと思うから」が74.1%である。男性では「男女がともに仕事と家庭に関わる方が、各個人や家庭にとってよいと思うから」が63.6%で最も多く、次いで「仕事に適した女性や、家事・育児に適した男性もいるから」が63.1%となっている。どちらの項目も女性の方が10ポイント以上高くなっている。また、「男女平等に反すると思うから」は、女性29.3%、男性39.0%と、男性の方が9.7ポイント高くなっている。

<性・年代別> (図表 2-3-1)

女性では、50歳代以下のすべての年代で「仕事に適した女性や、家事・育児に適した男性もいるから」が最も多く、60歳代以上では「男女がともに仕事と家庭に関わる方が、各個人や家庭にとってよいと思うから」が最も多くなっている。

男性では、29歳以下、40歳代、60歳代では「仕事に適した女性や、家事・育児に適した男性もいるから」、30歳代、50歳代、70歳以上で「男女がともに仕事と家庭に関わる方が、各個人や家庭にとってよいと思うから」が最も多くなっている。

男女ともに30歳代では、「夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから」の割合がすべての年代中で最も高く、この結果は子育ての支出や年齢による収入の額などの影響を受けたこの年代の経済的な負担が背景となっていると思われる。

【図表 2-3-1 性・年代別 性別役割分担意識について反対の理由】

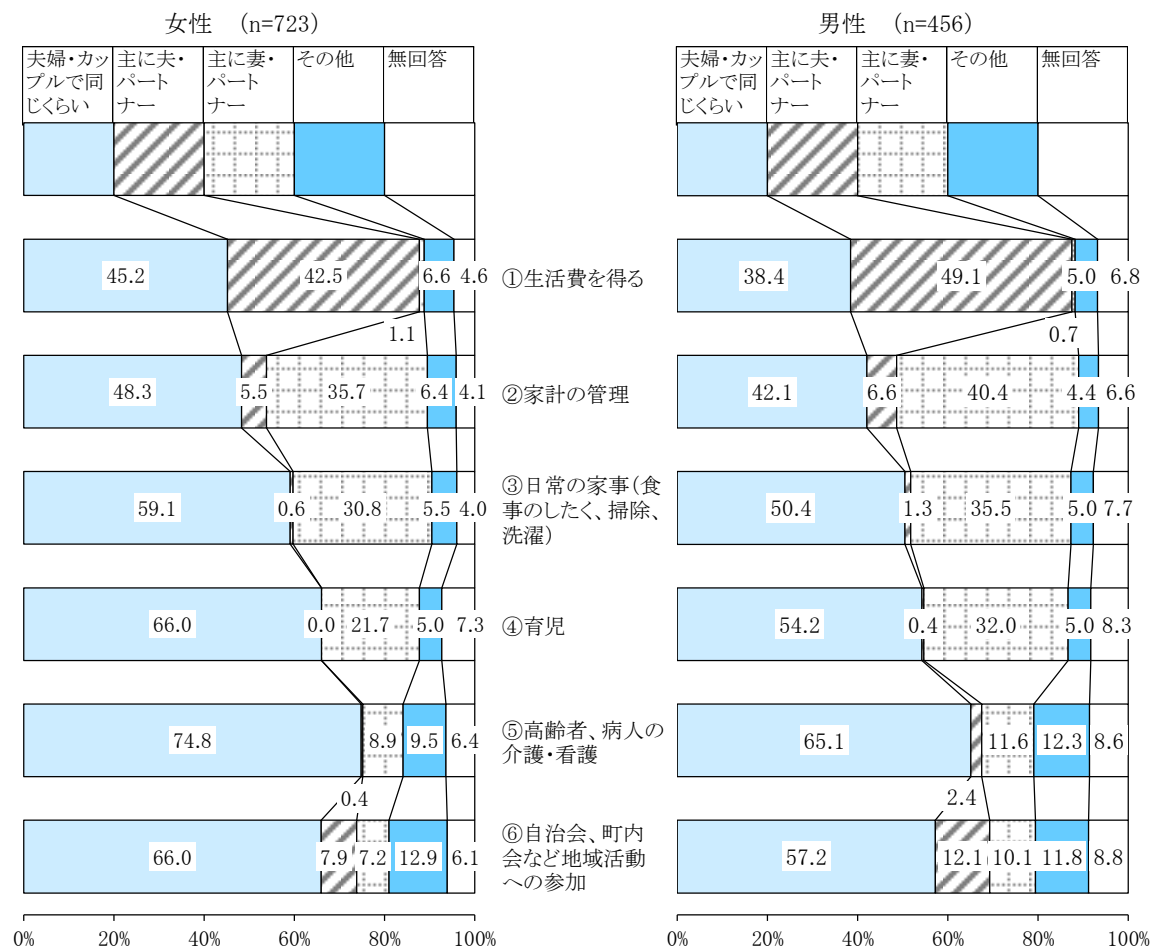
	n	育児事に適した女性もやるから	男つて方がよい、各個人や家庭に	男つて方がよい、各個人や家庭に	男つて方がよい、各個人や家庭に	男つて方がよい、各個人や家庭に	男つて方がよい、各個人や家庭に	男つて方がよい、各個人や家庭に	男つて方がよい、各個人や家庭に	男つて方がよい、各個人や家庭に	男つて方がよい、各個人や家庭に	男つて方がよい、各個人や家庭に	男つて方がよい、各個人や家庭に
全体	625	453	442	292	220	203	150	150	7	30	-	5	
上段/実数	625	453	442	292	220	203	150	150	7	30	-	5	
下段/MA%	100.0	72.5	70.7	46.7	35.2	32.5	24.0	24.0	1.1	4.8	-	0.8	
女性	29歳以下	44	37	32	14	13	15	7	10	-	1	-	
		100.0	84.1	72.7	31.8	29.5	34.1	15.9	22.7	-	2.3	-	
	30歳代	70	55	54	23	33	25	9	13	-	5	-	
		100.0	78.6	77.1	32.9	47.1	35.7	12.9	18.6	-	7.1	-	
	40歳代	94	70	63	44	29	27	11	24	2	8	-	
		100.0	74.5	67.0	46.8	30.9	28.7	11.7	25.5	2.1	8.5	-	
	50歳代	73	63	56	40	19	18	24	16	1	4	-	
	100.0	86.3	76.7	54.8	26.0	24.7	32.9	21.9	1.4	5.5	-		
60歳代	67	54	55	42	28	19	27	10	-	2	-		
	100.0	80.6	82.1	62.7	41.8	28.4	40.3	14.9	-	3.0	-		
70歳以上	68	43	48	36	23	17	26	22	1	2	-		
	100.0	63.2	70.6	52.9	33.8	25.0	38.2	32.4	1.5	2.9	-		
男性	29歳以下	29	20	19	10	11	15	5	3	1	2	-	
		100.0	69.0	65.5	34.5	37.9	51.7	17.2	10.3	3.4	6.9	-	
	30歳代	29	15	19	11	14	9	4	9	1	2	-	
		100.0	51.7	65.5	37.9	48.3	31.0	13.8	31.0	3.4	6.9	-	
	40歳代	36	23	18	16	15	13	8	11	1	1	-	
		100.0	63.9	50.0	44.4	41.7	36.1	22.2	30.6	2.8	2.8	-	
	50歳代	24	12	15	8	7	10	3	5	-	1	-	
	100.0	50.0	62.5	33.3	29.2	41.7	12.5	20.8	-	4.2	-		
60歳代	34	24	23	17	11	7	9	10	-	-	-		
	100.0	70.6	67.6	50.0	32.4	20.6	26.5	29.4	-	-	-		
70歳以上	43	29	30	23	11	22	14	12	-	-	-		
	100.0	67.4	69.8	53.5	25.6	51.2	32.6	27.9	-	-	-		

(4) 家庭での分担

①理想

問9 家庭での分担について、あなたはどのようにするのが望ましいと思いますか。また、実際にあなたの家庭では、どのように分担していますか。(①～⑥の項目について、理想と現実それぞれ各項目に○はひとつずつ)

【図表 2-4① 理想】



<性別> (図表 2-4①)

理想とする家庭での分担について、ほぼすべての項目で男女ともに「夫婦・カップルで同じくらい」が最も多くなっている。しかし、そのいずれの項目も、「夫婦・カップルで同じくらい」の割合は、男性より女性の方が高くなっている。ただし、「①生活費を得る」のみで、男性では「主に夫・パートナー」(49.1%)が最も多くなっている。一方女性では「夫婦・カップルで同じくらい」(45.2%)が最も多くなっている。男女差が最も大きいのは「④育児」で、女性の「夫婦・カップルで同じくらい」が男性より11.8ポイント高く、男性の「主に妻・パートナー」が女性より10.3ポイント高くなっている。

<性・年代別> (図表 2-4①-1)

① 生活費を得る

女性では、60歳代以下で「夫婦・カップルで同じくらい」が、70歳以上で「主に夫・パートナー」が最も多くなっている。男性では、40歳代以下で「夫婦・カップルで同じくらい」、50歳代以上で「主に夫・パートナー」が最も多くなっている。特に、女性29歳以下、男性29歳以下・30歳代で「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が、全体と比較して10ポイント以上高くなっている。

② 家計の管理

男女とも、60歳代以下で「夫婦・カップルで同じくらい」が、70歳以上で「主に妻・パートナー」が最も多くなっている。

③ 日常の家事（食事のしたく、掃除、洗濯）

男女とも、60歳代以下で「夫婦・カップルで同じくらい」が最も多く、その割合は年代が若くなるほど高くなっている。70歳以上で「主に妻・パートナー」が最も多くなっている。女性29歳以下で、「夫婦・カップルで同じくらい」は全体の割合と比較して20ポイント以上高くなっている。

④ 育児

男性70歳以上を除くすべての年代で「夫婦・カップルで同じくらい」が最も多く、おおむね若い年代ほどその割合が高くなっている。女性はいずれの年代も「夫婦・カップルで同じくらい」が男性の割合よりも高くなっている。男性70歳以上では「主に妻・パートナー」が44.5%で最も多くなっている。女性29歳以下で、「夫婦・カップルで同じくらい」は全体での割合と比較して20ポイント以上高くなっている。

⑤ 高齢者、病人の介護・看護

男女とも、すべての年代で「夫婦・カップルで同じくらい」が最も多くなっている。女性はいずれの年代も「夫婦・カップルで同じくらい」が男性の割合よりも高くなっている。女性29歳以下で、「夫婦・カップルで同じくらい」は全体での割合と比較して20ポイント以上高くなっている。

⑥ 自治会、町内会など地域活動への参加

男女とも、すべての年代で「夫婦・カップルで同じくらい」が最も多くなっている。女性はいずれの年代も「夫婦・カップルで同じくらい」が男性の割合よりも高くなっている。女性29歳以下で、「夫婦・カップルで同じくらい」は全体での割合と比較して20ポイント高くなっている。

各項目の年代による回答傾向の違いに注目してみると、年代差が特に大きいのは、「③日常の家事（食事のしたく、掃除、洗濯）」と「④育児」であり、男女とも若い年代ほど、理想として「夫婦・カップルで同じくらい」をあげている。

<性・夫婦・パートナーの就労状況別> (図表 2-4①-1)

① 生活費を得る

自身・配偶者（パートナー）ともに有職者の層では、「夫婦・カップルで同じくらい」が女性で 53.1%、男性で 58.4%と、女性が男性より 5.3 ポイント低くなっている。（※男性の配偶者（パートナー）のみ有職者の層は、回答者数が少ないため、参考値とする。以下同じ。）

② 家計の管理

「夫婦・カップルで同じくらい」が 5 割台、「主に妻・パートナー」が 3 割台と、自身・配偶者（パートナー）の就労状況別に大きな差はみられない。

③ 日常の家事（食事のしたく、掃除、洗濯）

自身・配偶者（パートナー）ともに有職者の層では、「夫婦・カップルで同じくらい」は、女性では 73.2%に対して、男性では 62.4%と、女性が男性より 10.8 ポイント高くなっている。女性の配偶者（パートナー）のみ有職者で「主に妻・パートナー」の割合が、全体と比して 10 ポイント以上高くなっている。

④ 育児

自身・配偶者（パートナー）ともに有職者の層では、「夫婦・カップルで同じくらい」が、女性では 78.9%に対して、男性では 67.3%と、女性が男性より 11.6 ポイント高くなっている。

⑤ 高齢者、病人の介護・看護

自身・配偶者（パートナー）ともに有職者の層では、「夫婦・カップルで同じくらい」は、女性では 85.6%に対して、男性では 67.3%と、女性が男性より 18.3 ポイント高くなっている。

⑥ 自治会、町内会など地域活動への参加

自身・配偶者（パートナー）ともに有職者の層では、「夫婦・カップルで同じくらい」は、女性では 75.3%、男性では 58.4%と、女性が男性より 16.9 ポイント高くなっている。

自身・配偶者（パートナー）ともに有職者の層では、家事、育児、介護などのケアについて女性のほうが男性より「夫婦・カップルで同じくらい」に考える傾向が強くなっており、同じ有職者であっても男女でケアの分担について意識の差が見られる。また、地域活動でも同じ傾向が見られる。

【図表 2-4①-1 性・年代別/性・夫婦・パートナーの就労状況別 理想①】

		n	①生活費を得る			②家計の管理			③日常の家事(食事のしたく、掃除、洗濯)		
			で夫 同婦 じ・ くカ らッ プ ル	夫主 ・に パ ー ト ナ ー	妻主 ・に パ ー ト ナ ー	で夫 同婦 じ・ くカ らッ プ ル	夫主 ・に パ ー ト ナ ー	妻主 ・に パ ー ト ナ ー	で夫 同婦 じ・ くカ らッ プ ル	夫主 ・に パ ー ト ナ ー	妻主 ・に パ ー ト ナ ー
全体	上段/実数	1,207	512	543	12	552	72	453	670	10	394
	下段/%	100.0	42.4	45.0	1.0	45.7	6.0	37.5	55.5	0.8	32.6
女性・年代別	29歳以下	56 100.0	38 67.9	15 26.8	-	30 53.6	2 3.6	21 37.5	45 80.4	-	8 14.3
	30歳代	98 100.0	48 49.0	40 40.8	-	54 55.1	4 4.1	35 35.7	71 72.4	-	21 21.4
	40歳代	151 100.0	72 47.7	67 44.4	-	72 47.7	11 7.3	53 35.1	97 64.2	-	40 26.5
	50歳代	115 100.0	67 58.3	37 32.2	1 0.9	66 57.4	6 5.2	31 27.0	74 64.3	-	30 26.1
	60歳代	113 100.0	51 45.1	47 41.6	3 2.7	57 50.4	6 5.3	39 34.5	68 60.2	1 0.9	36 31.9
	70歳以上	189 100.0	50 26.5	101 53.4	4 2.1	69 36.5	11 5.8	79 41.8	71 37.6	3 1.6	88 46.6
男性・年代別	29歳以下	48 100.0	27 56.3	17 35.4	-	26 54.2	2 4.2	16 33.3	34 70.8	-	8 16.7
	30歳代	46 100.0	27 58.7	16 34.8	-	31 67.4	2 4.3	10 21.7	32 69.6	-	9 19.6
	40歳代	79 100.0	37 46.8	36 45.6	-	43 54.4	4 5.1	26 32.9	50 63.3	1 1.3	21 26.6
	50歳代	57 100.0	21 36.8	30 52.6	2 3.5	28 49.1	4 7.0	22 38.6	33 57.9	-	20 35.1
	60歳代	80 100.0	32 40.0	39 48.8	1 1.3	35 43.8	6 7.5	32 40.0	37 46.3	2 2.5	34 42.5
	70歳以上	146 100.0	31 21.2	86 58.9	-	29 19.9	12 8.2	78 53.4	44 30.1	3 2.1	70 47.9
女性 状況別 のバ ・・ 就 配 偶 ト 偶	配偶者(パートナー)のみ有職者	130 100.0	54 41.5	68 52.3	-	66 50.8	10 7.7	45 34.6	64 49.2	-	58 44.6
	自身・配偶者(パートナー)ともに有職者	194 100.0	103 53.1	78 40.2	1 0.5	107 55.2	11 5.7	64 33.0	142 73.2	1 0.5	39 20.1
男性 状況別 のバ ・・ 就 配 偶 ト 偶	配偶者(パートナー)のみ有職者	14 100.0	7 50.0	6 42.9	-	7 50.0	-	5 35.7	8 57.1	-	4 28.6
	自身・配偶者(パートナー)ともに有職者	101 100.0	59 58.4	41 40.6	-	54 53.5	4 4.0	39 38.6	63 62.4	1 1.0	32 31.7

【図表 2-4①-1 性・年代別/性・夫婦・パートナーの就労状況別 理想②】

	n	④育児			⑤高齢者、病人の介護・看護			⑥自治会、町内会など地域活動への参加			
		で夫 同婦 じ・ くカ らッ プ ル	夫主 ・に パ ー ト ナ ー	妻主 ・に パ ー ト ナ ー	で夫 同婦 じ・ くカ らッ プ ル	夫主 ・に パ ー ト ナ ー	妻主 ・に パ ー ト ナ ー	で夫 同婦 じ・ くカ らッ プ ル	夫主 ・に パ ー ト ナ ー	妻主 ・に パ ー ト ナ ー	
全体	上段/実数 下段/%	1,207 100.0	736 61.0	2 0.2	312 25.8	853 70.7	14 1.2	121 10.0	749 62.1	112 9.3	101 8.4
女性・年代別	29歳以下	56 100.0	49 87.5	-	6 10.7	52 92.9	-	1 1.8	46 82.1	3 5.4	-
	30歳代	98 100.0	78 79.6	-	14 14.3	79 80.6	-	4 4.1	75 76.5	6 6.1	1 1.0
	40歳代	151 100.0	118 78.1	-	22 14.6	123 81.5	-	9 6.0	106 70.2	13 8.6	13 8.6
	50歳代	115 100.0	79 68.7	-	23 20.0	90 78.3	2 1.7	6 5.2	85 73.9	5 4.3	5 4.3
	60歳代	113 100.0	75 66.4	-	25 22.1	81 71.7	-	13 11.5	68 60.2	12 10.6	10 8.8
	70歳以上	189 100.0	78 41.3	-	66 34.9	115 60.8	1 0.5	31 16.4	96 50.8	18 9.5	23 12.2
男性・年代別	29歳以下	48 100.0	34 70.8	1 2.1	9 18.8	36 75.0	2 4.2	3 6.3	33 68.8	1 2.1	5 10.4
	30歳代	46 100.0	34 73.9	-	8 17.4	32 69.6	2 4.3	1 2.2	33 71.7	2 4.3	1 2.2
	40歳代	79 100.0	54 68.4	-	19 24.1	58 73.4	2 2.5	9 11.4	55 69.6	10 12.7	4 5.1
	50歳代	57 100.0	36 63.2	-	17 29.8	44 77.2	-	7 12.3	36 63.2	4 7.0	8 14.0
	60歳代	80 100.0	42 52.5	-	28 35.0	51 63.8	-	13 16.3	44 55.0	12 15.0	8 10.0
	70歳以上	146 100.0	47 32.2	1 0.7	65 44.5	76 52.1	5 3.4	20 13.7	60 41.1	26 17.8	20 13.7
状況別 女性 就労 配偶者 のみ 有職者	配偶者(パートナー)のみ有職者	130 100.0	92 70.8	-	29 22.3	93 71.5	-	13 10.0	85 65.4	8 6.2	15 11.5
	自身・配偶者(パートナー)ともに有職者	194 100.0	153 78.9	-	21 10.8	166 85.6	1 0.5	9 4.6	146 75.3	17 8.8	6 3.1
状況別 男性 就労 配偶者 のみ 有職者	配偶者(パートナー)のみ有職者	14 100.0	9 64.3	-	4 28.6	11 78.6	-	2 14.3	10 71.4	2 14.3	1 7.1
	自身・配偶者(パートナー)ともに有職者	101 100.0	68 67.3	1 1.0	22 21.8	68 67.3	1 1.0	12 11.9	59 58.4	15 14.9	8 7.9

<前回調査（平成 27 年（2015 年））との比較>（図表 2-4①-3）

前回調査の結果に比べ、「⑤高齢者、病人の介護・看護」以外のすべての項目で、男女とも「夫婦・カップルで同じくらい」が 10 ポイント以上上昇し、固定的な性別役割意識から性別にとらわれない役割意識に変化している様子が見られる。

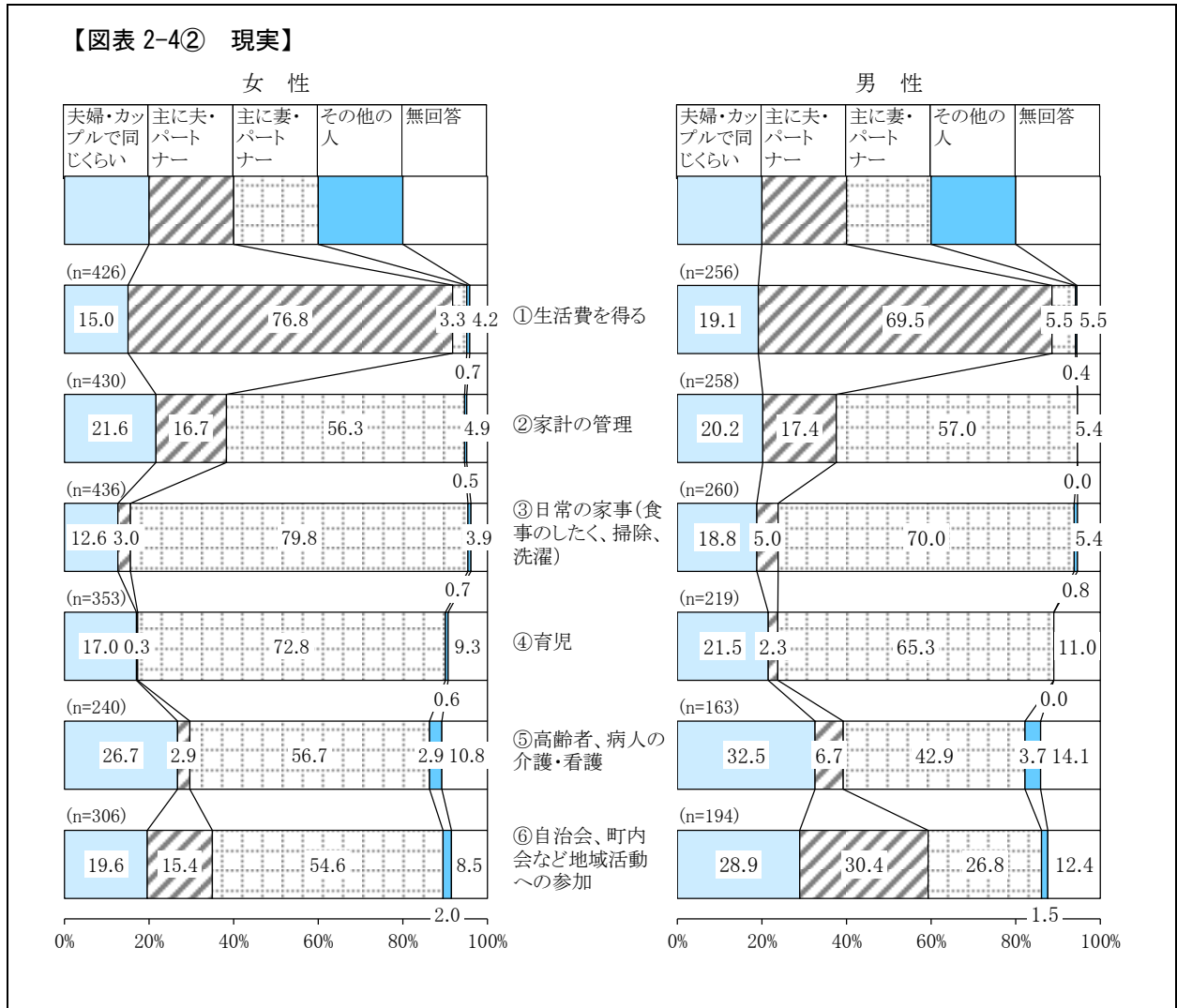
「⑤高齢者、病人の介護・看護」は、「夫婦・カップルで同じくらい」が女性では 8.3 ポイント上昇したものの、男性では大きな差はみられない。

【図表 2-4①-2 前回調査との比較 理想】

		女性				男性			
		n	で夫 同婦 じ・ くカ ッ プ ル	夫主 ・に パ ー ト ナ ー	妻主 ・に パ ー ト ナ ー	n	で夫 同婦 じ・ くカ ッ プ ル	夫主 ・に パ ー ト ナ ー	妻主 ・に パ ー ト ナ ー
①生活費を得る	今回調査	723	45.2	42.5	1.1	456	38.4	49.1	0.7
	前回調査	1,064	28.2	57.5	1.5	780	22.6	63.8	0.6
	スコア差		+17.0	-15.0	-0.4		+15.8	-14.7	+0.1
②家計の管理	今回調査	723	48.3	5.5	35.7	456	42.1	6.6	40.4
	前回調査	1,064	34.5	4.0	46.3	780	29.1	7.3	49.9
	スコア差		+13.8	+1.5	-10.6		+13.0	-0.7	-9.5
③日常の家事(食 事のしたく、掃除、 洗濯)	今回調査	723	59.1	0.6	30.8	456	50.4	1.3	35.5
	前回調査	1,064	41.0	0.3	44.8	780	34.0	0.4	51.0
	スコア差		+18.1	+0.3	-14.0		+16.4	+0.9	-15.5
④育児	今回調査	723	66.0	-	21.7	456	54.2	0.4	32.0
	前回調査	1,064	51.1	0.1	32.6	780	40.4	0.3	43.8
	スコア差		+14.9	-0.1	-10.9		+13.8	+0.1	-11.8
⑤高齢者、病人の 介護・看護	今回調査	723	74.8	0.4	8.9	456	65.1	2.4	11.6
	前回調査	1,064	66.5	0.3	10.2	780	65.5	1.0	12.8
	スコア差		+8.3	+0.1	-1.3		-0.4	+1.4	-1.2

※「⑥自治会、町内会など地域活動への参加」は2020年度より新規質問

②現実



<性別> (図表 2-4②)

現実での家庭での分担について、「①生活費を得る」では、男女とも「主に夫・パートナー」が最も多く、女性で76.8%、男性で69.5%を占めている。

しかし、「②家計の管理」「③日常の家事(食事のしたく、掃除、洗濯)」「④育児」「⑤高齢者、病人の介護・看護」では、男女とも「主に妻・パートナー」が最も多くなっている。特に、「③日常の家事(食事のしたく、掃除、洗濯)」「④育児」では男女ともに「主に妻・パートナー」が7割程度と高めである。

「⑥自治会、町内会など地域活動への参加」は、女性では「主に妻・パートナー」が54.6%で、男性では「主に夫・パートナー」が30.4%で最も多くなっている。

<性・年代別> (図表 2-4②-1)

① 生活費を得る

男女とも、すべての年代で「主に夫・パートナー」が最も多く、女性の30～50歳代で8割台、男性の50歳代で91.9%と特に高くなっている。(※男女29歳以下は回答者数が少ないため、参考値とする。)

② 家計の管理

男女とも、すべての年代で「主に妻・パートナー」が最も多くなっている。男女とも30歳代で「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が全体と比して10ポイント以上高くなっている。(※男女29歳以下は回答者数が少ないため、参考値とする。)

③ 日常の家事(食事のしたく、掃除、洗濯)

男女とも、すべての年代で「主に妻・パートナー」が最も多くなっている。男性30歳代では「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が44.4%と高めで「主に妻・パートナー」と同率である。(※男女29歳以下は回答者数が少ないため、参考値とする。)

④ 育児

男女とも、すべての年代で「主に妻・パートナー」が最も多く、特に女性30～60歳代と男性40～50歳代で7割台と高めである。(※男女29歳以下は回答者数が少ないため、参考値とする。)

⑤ 高齢者、病人の介護・看護

男女とも、すべての年代で「主に妻・パートナー」が最も多く、特に女性40～60歳代で6割以上と高めである。男性60歳代では「夫婦・カップルで同じくらい」が37.8%と高めで「主に妻・パートナー」と同率である。(※男女30歳代以下、男性50歳代は回答者数が少ないため、参考値とする。)

⑥ 自治会、町内会など地域活動への参加

女性では、すべての年代で「主に妻・パートナー」が最も多く、特に40～50歳代で6割台と高めである。男性では、40歳代で「主に夫・パートナー」、50歳代で「主に妻・パートナー」、60歳代で「夫婦・カップルで同じくらい」、70歳以上で「主に夫・パートナー」が最も多くなっている(※女性29歳以下、男性30歳代以下は回答者数が少ないため、参考値とする。)

すべての項目で、30歳男性の「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が全体と比較して10ポイント以上高くなっている。「②家計の管理」を除いて、同世代の女性とは現実の認識が異なっているようである。

<性・夫婦・パートナーの就労状況別> (図表 2-4②-1)

① 生活費を得る

女性の配偶者（パートナー）のみ有職者では、「主に夫・パートナー」の割合が高く、95.4%である。自身・配偶者（パートナー）ともに有職者の層では、男女ともに「主に夫・パートナー」の割合が最も多く、女性で72.5%、男性で62.4%となっている。（※男性の配偶者（パートナー）のみ有職者の層は、回答者数が少ないため、参考値とする。以下同じ。）

② 家計の管理

自身・配偶者（パートナー）ともに有職者の層では、男女ともに「主に妻・パートナー」が5割台と最も多くなっている。

③ 日常の家事（食事のしたく、掃除、洗濯）

女性では自身が有職か否かに関わらず、「主に妻・パートナー」が8割台と最も多い。男性の自身・配偶者（パートナー）ともに有職者の層では、「主に妻・パートナー」が66.0%、「夫婦・カップルで同じくらい」が26.0%となっている。

④ 育児

女性では自身が有職か否かに関わらず、「主に妻・パートナー」が7～8割と最も多くなっている。男性の自身・配偶者（パートナー）ともに有職者の層では、「主に妻・パートナー」が55.3%、「夫婦・カップルで同じくらい」が36.5%で女性と認識の差がみられる。

⑤ 高齢者、病人の介護・看護

女性では自身が有職か否かに関わらず、「主に妻・パートナー」が60%前後で最も多くなっている。男性の自身・配偶者（パートナー）ともに有職者の層では、「夫婦・カップルで同じくらい」が45.3%となっており、女性との認識の差がみられる。

⑥ 自治会、町内会など地域活動への参加

女性では自身が有職か否かに関わらず、「主に妻・パートナー」が、60%前後で最も多くなっている。男性の自身・配偶者（パートナー）ともに有職者の層では、「主に妻・パートナー」が25.4%、「夫婦・カップルで同じくらい」が34.9%、「主に夫・パートナー」が30.2%となっており、女性との認識の差がみられる。

【図表 2-4②-1 性・年代別/性・夫婦・パートナーの就労状況別 現実①】

		①生活費を得る				②家計の管理				③日常の家事(食事のしたく、掃除、洗濯)			
		n	じ く ら い 夫 婦 ・ カ ツ プ ル で 同	主 に 夫 ・ パ ー ト ナ ー	主 に 妻 ・ パ ー ト ナ ー	n	じ く ら い 夫 婦 ・ カ ツ プ ル で 同	主 に 夫 ・ パ ー ト ナ ー	主 に 妻 ・ パ ー ト ナ ー	n	じ く ら い 夫 婦 ・ カ ツ プ ル で 同	主 に 夫 ・ パ ー ト ナ ー	主 に 妻 ・ パ ー ト ナ ー
全体	上段/実数 下段/%	695 100.0	115 16.5	514 74.0	28 4.0	700 100.0	148 21.1	118 16.9	396 56.6	709 100.0	105 14.8	26 3.7	540 76.2
女性・年代別	29歳以下	12 100.0	4 33.3	6 50.0	2 16.7	12 100.0	3 25.0	3 25.0	6 50.0	12 100.0	4 33.3	1 8.3	7 58.3
	30歳代	72 100.0	11 15.3	60 83.3	1 1.4	71 100.0	23 32.4	7 9.9	39 54.9	72 100.0	13 18.1	-	59 81.9
	40歳代	107 100.0	13 12.1	89 83.2	3 2.8	104 100.0	24 23.1	22 21.2	56 53.8	108 100.0	12 11.1	3 2.8	91 84.3
	50歳代	78 100.0	9 11.5	63 80.8	3 3.8	80 100.0	14 17.5	16 20.0	48 60.0	80 100.0	7 8.8	-	70 87.5
	60歳代	64 100.0	14 21.9	44 68.8	4 6.3	66 100.0	14 21.2	10 15.2	40 60.6	64 100.0	8 12.5	2 3.1	53 82.8
	70歳以上	93 100.0	13 14.0	65 69.9	1 1.1	97 100.0	15 15.5	14 14.4	53 54.6	100 100.0	11 11.0	7 7.0	68 68.0
男性・年代別	29歳以下	9 100.0	2 22.2	6 66.7	1 11.1	9 100.0	1 11.1	2 22.2	5 55.6	9 100.0	3 33.3	1 11.1	3 33.3
	30歳代	28 100.0	8 28.6	17 60.7	3 10.7	28 100.0	11 39.3	4 14.3	13 46.4	27 100.0	12 44.4	3 11.1	12 44.4
	40歳代	52 100.0	12 23.1	35 67.3	5 9.6	52 100.0	14 26.9	11 21.2	27 51.9	54 100.0	8 14.8	3 5.6	42 77.8
	50歳代	37 100.0	2 5.4	34 91.9	1 2.7	36 100.0	5 13.9	9 25.0	22 61.1	37 100.0	5 13.5	-	32 86.5
	60歳代	46 100.0	7 15.2	35 76.1	3 6.5	47 100.0	7 14.9	8 17.0	30 63.8	47 100.0	7 14.9	4 8.5	34 72.3
	70歳以上	84 100.0	18 21.4	51 60.7	1 1.2	86 100.0	14 16.3	11 12.8	50 58.1	86 100.0	14 16.3	2 2.3	59 68.6
状況別 女性 就労 偶	配偶者(パートナー)のみ有職者	130 100.0	2 1.5	124 95.4	3 2.3	129 100.0	20 15.5	29 22.5	77 59.7	129 100.0	10 7.8	1 0.8	116 89.9
	自身・配偶者(パートナー)ともに有職者	193 100.0	42 21.8	140 72.5	6 3.1	190 100.0	52 27.4	22 11.6	110 57.9	193 100.0	26 13.5	2 1.0	160 82.9
状況別 男性 就労 偶	配偶者(パートナー)のみ有職者	13 100.0	2 15.4	6 46.2	5 38.5	14 100.0	4 28.6	1 7.1	9 64.3	14 100.0	1 7.1	3 21.4	10 71.4
	自身・配偶者(パートナー)ともに有職者	101 100.0	31 30.7	63 62.4	6 5.9	101 100.0	26 25.7	13 12.9	60 59.4	100 100.0	26 26.0	5 5.0	66 66.0

【図表 2-4②-1 性・年代別/性・夫婦・パートナーの就労状況別 現実②】

		④育児				⑤高齢者、病人の介護・看護				⑥自治会、町内会など地域活動への参加			
		n	主に夫・パートナー	主に妻・パートナー	n	主に夫・パートナー	主に妻・パートナー	n	主に夫・パートナー	主に妻・パートナー			
全体	上段/実数	584	110	6	407	413	120	19	210	507	118	106	223
	下段/%	100.0	18.8	1.0	69.7	100.0	29.1	4.6	50.8	100.0	23.3	20.9	44.0
女性・年代別	29歳以下	7	1	-	6	3	2	-	1	5	2	-	3
		100.0	14.3	-	85.7	100.0	66.7	-	33.3	100.0	40.0	-	60.0
	30歳代	59	12	-	47	17	3	-	12	26	5	4	14
		100.0	20.3	-	79.7	100.0	17.6	-	70.6	100.0	19.2	15.4	53.8
	40歳代	96	20	1	72	50	13	3	30	79	17	10	49
		100.0	20.8	1.0	75.0	100.0	26.0	6.0	60.0	100.0	21.5	12.7	62.0
50歳代	62	10	-	46	46	13	2	28	56	8	10	34	
	100.0	16.1	-	74.2	100.0	28.3	4.3	60.9	100.0	14.3	17.9	60.7	
60歳代	53	7	-	42	46	13	-	30	54	12	6	32	
	100.0	13.2	-	79.2	100.0	28.3	-	65.2	100.0	22.2	11.1	59.3	
70歳以上	76	10	-	44	78	20	2	35	86	16	17	35	
	100.0	13.2	-	57.9	100.0	25.6	2.6	44.9	100.0	18.6	19.8	40.7	
男性・年代別	29歳以下	7	5	-	1	3	2	-	-	3	2	-	-
		100.0	71.4	-	14.3	100.0	66.7	-	-	100.0	66.7	-	-
	30歳代	24	10	2	12	10	6	2	1	14	6	4	3
		100.0	41.7	8.3	50.0	100.0	60.0	20.0	10.0	100.0	42.9	28.6	21.4
	40歳代	47	11	-	35	23	8	1	11	35	10	12	11
		100.0	23.4	-	74.5	100.0	34.8	4.3	47.8	100.0	28.6	34.3	31.4
50歳代	27	6	-	21	14	3	1	9	21	4	6	11	
	100.0	22.2	-	77.8	100.0	21.4	7.1	64.3	100.0	19.0	28.6	52.4	
60歳代	36	6	-	25	37	14	3	14	40	14	11	8	
	100.0	16.7	-	69.4	100.0	37.8	8.1	37.8	100.0	35.0	27.5	20.0	
70歳以上	78	9	3	49	76	20	4	35	81	20	26	19	
	100.0	11.5	3.8	62.8	100.0	26.3	5.3	46.1	100.0	24.7	32.1	23.5	
女性・就労状況別	配偶者(パートナー)のみ有職者	113	17	1	91	69	23	-	41	91	20	7	57
		100.0	15.0	0.9	80.5	100.0	33.3	-	59.4	100.0	22.0	7.7	62.6
男性・就労状況別	自身・配偶者(パートナー)ともに有職者	164	31	-	121	90	19	4	58	126	25	20	73
		100.0	18.9	-	73.8	100.0	21.1	4.4	64.4	100.0	19.8	15.9	57.9
女性・就労状況別	配偶者(パートナー)のみ有職者	10	2	-	7	10	2	-	6	14	4	6	3
		100.0	20.0	-	70.0	100.0	20.0	-	60.0	100.0	28.6	42.9	21.4
男性・就労状況別	自身・配偶者(パートナー)ともに有職者	85	31	2	47	53	24	4	17	63	22	19	16
		100.0	36.5	2.4	55.3	100.0	45.3	7.5	32.1	100.0	34.9	30.2	25.4

<前回調査（平成 27 年（2015 年））との比較>（図表 2-4②-2）

前回調査の結果に比べ、「⑤高齢者、病人の介護・看護」で、男女とも「主に妻・パートナー」が 10 ポイント以上上昇している。また、「②家計の管理」では、女性で「主に妻・パートナー」が 10.7 ポイント低下している。それ以外の項目では大きな変化は見られない。

【図表 2-4②-2 前回調査との比較 現実】

(%)

		女 性				男 性			
		n	で夫 同婦 じ・ くカ ラツ いプ ル	夫主 ・に パ ー ト ナ ー	妻主 ・に パ ー ト ナ ー	n	で夫 同婦 じ・ くカ ラツ いプ ル	夫主 ・に パ ー ト ナ ー	妻主 ・に パ ー ト ナ ー
①生活費を得る	今回調査	426	15.0	76.8	3.3	256	19.1	69.5	5.5
	前回調査	657	18.7	73.1	2.7	493	15.8	76.1	2.2
	スコア差		-3.7	+3.7	+0.6		+3.3	-6.6	+3.3
②家計の管理	今回調査	430	21.6	16.7	56.3	258	20.2	17.4	57.0
	前回調査	664	16.4	11.1	67.0	501	14.8	17.0	61.1
	スコア差		+5.2	+5.6	-10.7		+5.4	+0.4	-4.1
③日常の家事(食 事のしたく、掃除、 洗濯)	今回調査	436	12.6	3.0	79.8	260	18.8	5.0	70.0
	前回調査	669	11.4	0.6	82.7	501	16.8	1.8	74.5
	スコア差		+1.2	+2.4	-2.9		+2.0	+3.2	-4.5
④育児	今回調査	353	17.0	0.3	72.8	219	21.5	2.3	65.3
	前回調査	558	16.3	-	72.8	420	20.2	0.5	67.4
	スコア差		+0.7	+0.3	0.0		+1.3	+1.8	-2.1
⑤高齢者、病人の 介護・看護	今回調査	240	26.7	2.9	56.7	163	32.5	6.7	42.9
	前回調査	391	35.8	0.8	44.2	314	49.7	2.9	28.3
	スコア差		-9.1	+2.1	+12.5		-17.2	+3.8	+14.6

※「⑥自治会、町内会など地域活動への参加」は2020年度より新規質問

＜理想-現実のスコア差①（＞（図表 2-4②-3）

すべての項目で「夫婦・カップルで同じくらい」のスコアについて理想が現実を上回っており、特に「③日常生活の家事」、「④育児」、「⑤介護・看護」においてその差は40ポイントに及んでいる。男女とも家庭生活での同等の役割分担を理想としながらも現実的にはどちらかのパートナーや夫あるいは妻に役割が偏っている。また上記の項目すべてで女性のスコアが男性のスコアを約15～18ポイント程度上回っており、理想と現実の差が女性において顕著に意識されていることがうかがえる。加えて女性で「自身・配偶者（パートナー）とも有職者」では差のスコアは50～60ポイント台となっており、女性全体よりさらに差のスコアが大きくなる傾向が読み取れる。

【図表 2-4②-3 性・年代別/性・夫婦・パートナーの就労状況別 理想-現実のスコア差①】

		①生活費を得る			②家計の管理			③日常の家事(食事のし たく、掃除、洗濯)		
		で夫 同婦 じ・ くカ らッ いプ ル	夫主 ・に パ ー ト ナ ー	妻主 ・に パ ー ト ナ ー	で夫 同婦 じ・ くカ らッ いプ ル	夫主 ・に パ ー ト ナ ー	妻主 ・に パ ー ト ナ ー	で夫 同婦 じ・ くカ らッ いプ ル	夫主 ・に パ ー ト ナ ー	妻主 ・に パ ー ト ナ ー
全 体		+25.9	-29.0	-3.0	+24.6	-10.9	-19.1	+40.7	-2.9	-43.6
性別	女性	+30.2	-34.3	-2.2	+26.7	-11.2	-20.6	+46.5	-2.4	-49.0
	男性	+19.3	-20.4	-4.8	+21.9	-10.8	-16.6	+31.6	-3.7	-34.5
女性・ 年代別	29歳以下	+34.6	-23.2	-16.7	+28.6	-21.4	-12.5	+47.1	-8.3	-44.0
	30歳代	+33.7	-42.5	-1.4	+22.7	-5.8	-19.2	+54.3	0.0	-60.5
	40歳代	+35.6	-38.8	-2.8	+24.6	-13.9	-18.7	+53.1	-2.8	-57.8
	50歳代	+46.8	-48.6	-2.9	+39.9	-14.8	-33.0	+55.5	0.0	-61.4
	60歳代	+23.2	-27.2	-3.6	+29.2	-9.9	-26.1	+47.7	-2.2	-50.9
	70歳以上	+12.5	-16.5	+1.0	+21.0	-8.6	-12.8	+26.6	-5.4	-21.4
男性・ 年代別	29歳以下	+34.1	-31.3	-11.1	+43.1	-18.0	-22.3	+37.5	-11.1	-16.6
	30歳代	+30.1	-25.9	-10.7	+28.1	-10.0	-24.7	+25.2	-11.1	-24.8
	40歳代	+23.7	-21.7	-9.6	+27.5	-16.1	-19.0	+48.5	-4.3	-51.2
	50歳代	+31.4	-39.3	+0.8	+35.2	-18.0	-22.5	+44.4	0.0	-51.4
	60歳代	+24.8	-27.3	-5.2	+28.9	-9.5	-23.8	+31.4	-6.0	-29.8
	70歳以上	-0.2	-1.8	-1.2	+3.6	-4.6	-4.7	+13.8	-0.2	-20.7
女性・夫婦・配偶者 ・パートナーの 就労状況別	配偶者(パートナー)のみ有職者	+40.0	-43.1	-2.3	+35.3	-14.8	-25.1	+41.4	-0.8	-45.3
	自身・配偶者(パートナー)ともに有職者	+31.3	-32.3	-2.6	+27.8	-5.9	-24.9	+59.7	-0.5	-62.8
男性・夫婦・配偶者 ・パートナーの 就労状況別	配偶者(パートナー)のみ有職者	+34.6	-3.3	-38.5	+21.4	-7.1	-28.6	+50.0	-21.4	-42.8
	自身・配偶者(パートナー)ともに有職者	+27.7	-21.8	-5.9	+27.8	-8.9	-20.8	+36.4	-4.0	-34.3

【図表 2-4②-3 性・年代別/性・夫婦・パートナーの就労状況別 理想－現実のスコア差②】

		④育児			⑤高齢者、病人の介護・看護			⑥自治会、町内会など地域活動への参加		
		で夫婦・くからいブル	主に・にパートナ	主に・にパートナ	で夫婦・くからいブル	主に・にパートナ	主に・にパートナ	で夫婦・くからいブル	主に・にパートナ	主に・にパートナ
全 体		+42.2	-0.8	-43.9	+41.6	-3.4	-40.8	+38.8	-11.6	-35.6
性別	女性	+49.0	-0.3	-51.1	+48.1	-2.5	-47.8	+46.4	-7.5	-47.4
	男性	+32.7	-1.9	-33.3	+32.6	-4.3	-31.3	+28.3	-18.3	-16.7
女性・年代別	29歳以下	+73.2	0.0	-75.0	+26.2	0.0	-31.5	+42.1	+5.4	-60.0
	30歳代	+59.3	0.0	-65.4	+63.0	0.0	-66.5	+57.3	-9.3	-52.8
	40歳代	+57.3	-1.0	-60.4	+55.5	-6.0	-54.0	+48.7	-4.1	-53.4
	50歳代	+52.6	0.0	-54.2	+50.0	-2.6	-55.7	+59.6	-13.6	-56.4
	60歳代	+53.2	0.0	-57.1	+43.4	0.0	-53.7	+38.0	-0.5	-50.5
	70歳以上	+28.1	0.0	-23.0	+35.2	-2.1	-28.5	+32.2	-10.3	-28.5
男性・年代別	29歳以下	-0.6	+2.1	+4.5	+8.3	+4.2	+6.3	+2.1	+2.1	+10.4
	30歳代	+32.2	-8.3	-32.6	+9.6	-15.7	-7.8	+28.8	-24.3	-19.2
	40歳代	+45.0	0.0	-50.4	+38.6	-1.8	-36.4	+41.0	-21.6	-26.3
	50歳代	+41.0	0.0	-48.0	+55.8	-7.1	-52.0	+44.2	-21.6	-38.4
	60歳代	+35.8	0.0	-34.4	+26.0	-8.1	-21.5	+20.0	-12.5	-10.0
	70歳以上	+20.7	-3.1	-18.3	+25.8	-1.9	-32.4	+16.4	-14.3	-9.8
女性・夫婦・配偶者・パートナーの就労状況別	配偶者(パートナー)のみ有職者	+55.8	-0.9	-58.2	+38.2	0.0	-49.4	+43.4	-1.5	-51.1
	自身・配偶者(パートナー)ともに有職者	+60.0	0.0	-63.0	+64.5	-3.9	-59.8	+55.5	-7.1	-54.8
男性・夫婦・配偶者・パートナーの就労状況別	配偶者(パートナー)のみ有職者	+44.3	0.0	-41.4	+58.6	0.0	-45.7	+42.8	-28.6	-14.3
	自身・配偶者(パートナー)ともに有職者	+30.8	-1.4	-33.5	+22.0	-6.5	-20.2	+23.5	-15.3	-17.5

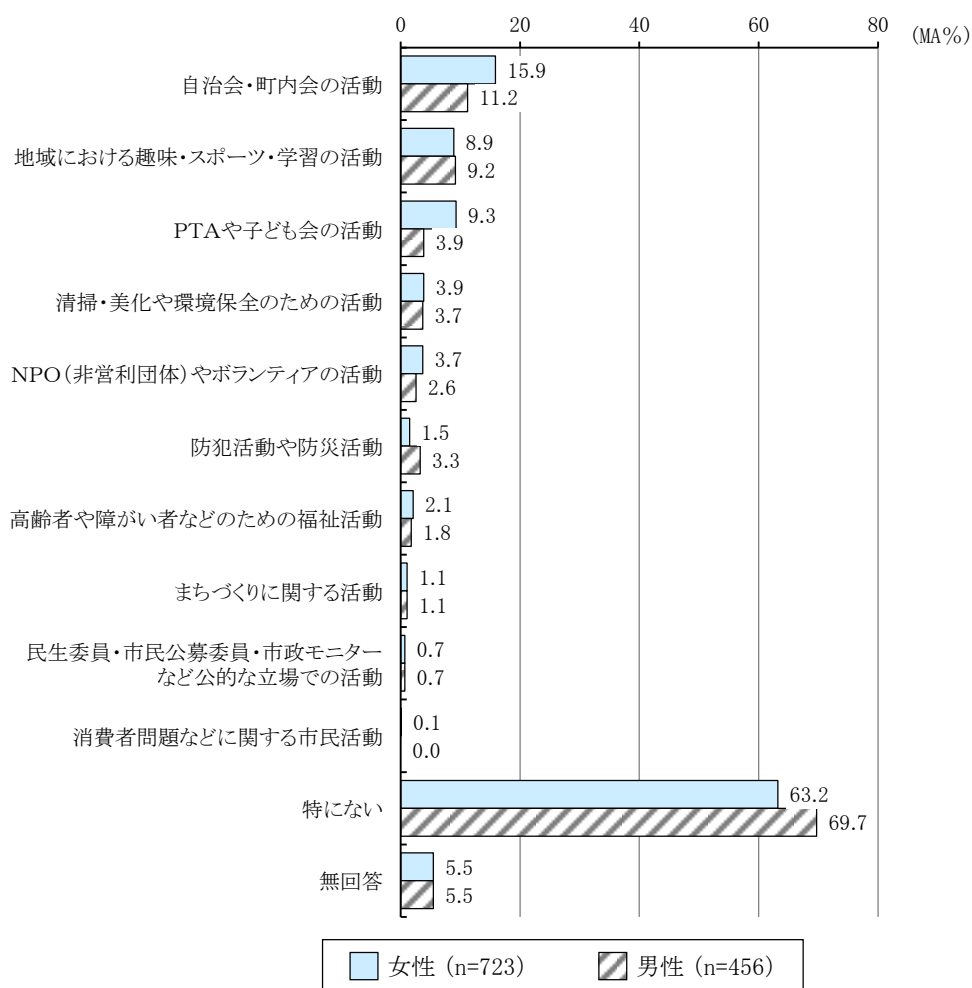
3. 地域活動について

(1) 地域活動の参加状況

①現在参加している活動

問 10 次の地域活動について、①現在参加している活動と、②今後（または引き続き）参加したい活動を、それぞれすべてお選びください。（それぞれ〇はいくつでも）

【図表 3-1① 現在参加している活動】



<性別> (図表 3-1①)

地域活動の参加状況について、現在参加している活動は、男女とも「自治会・町内会の活動」（女性 15.9%、男性 11.2%）が最も多く、次いで女性では「PTAや子ども会の活動」（9.3%）、男性では「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」（8.9%）となっている。また、「特にない」が男女ともに6割台となっている。

<性・年代別> (図表 3-1①-1)

女性では、40歳代で「PTAや子ども会の活動」、50歳代で「自治会・町内会の活動」が2割台の参加率となっている。また、「自治会・町内会の活動」は40歳代と60歳代以上、「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」は60歳代以上、「PTAや子ども会の活動」は30歳代で、1割台の参加率となっている。

男性では、「自治会・町内会の活動」は40歳代以上、「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」は30歳代と70歳以上、「PTAや子ども会の活動」は30歳代で1割台の参加率となっている。

また、男女とも29歳以下では「特にない」が8割半とすべての年代中で最も高い割合を示している。また女性の30歳代、男性の40～60歳代では7割以上を占めている。

「PTAや子ども会の活動」は、30歳代の女性が17.3%に対し同年代男性は10.9%、40歳代の女性が23.8%に対し同年代の男性は8.9%と、子どもに関する地域活動では女性のほうが活発なことがうかがえる。

【図表 3-1①-1 性・年代別 現在参加している活動】

		n	自治会・町内会の活動	地域における趣味・スポーツ・学習の活動	PTAや子ども会の活動	清掃・美化や環境保全の活動	ボランティア(非営利団体)やNPO	防犯活動や防災活動	高齢者や障がい者などの福祉活動	まちづくりに関する活動	市民生活委員・市民公募委員・市政モニターなどの活動	消費者問題などに関する活動	特にない	無回答
全体	上段/実数 下段/MA%	1,207 100.0	167 13.8	108 8.9	86 7.1	46 3.8	40 3.3	27 2.2	23 1.9	13 1.1	8 0.7	1 0.1	791 65.5	70 5.8
女性	29歳以下	56 100.0	2 3.6	2 3.6	2 3.6	1 1.8	1 1.8	2 3.6	1 1.8	- -	- -	- -	48 85.7	2 3.6
	30歳代	98 100.0	10 10.2	8 8.2	17 17.3	- -	- -	2 2.0	- -	- -	1 1.0	- -	69 70.4	3 3.1
	40歳代	151 100.0	26 17.2	11 7.3	36 23.8	2 1.3	4 2.6	2 1.3	2 1.3	2 1.3	1 0.7	- -	88 58.3	9 6.0
	50歳代	115 100.0	24 20.9	7 6.1	10 8.7	3 2.6	2 1.7	1 0.9	- -	- -	- -	- -	76 66.1	3 2.6
	60歳代	113 100.0	20 17.7	13 11.5	1 0.9	4 3.5	8 7.1	- -	4 3.5	3 2.7	2 1.8	1 0.9	68 60.2	7 6.2
	70歳以上	189 100.0	33 17.5	22 11.6	1 0.5	18 9.5	11 5.8	4 2.1	8 4.2	3 1.6	1 0.5	- -	108 57.1	16 8.5
	男性	29歳以下	48 100.0	2 4.2	3 6.3	1 2.1	- -	- -	- -	1 2.1	- -	- -	- -	41 85.4
30歳代		46 100.0	2 4.3	6 13.0	5 10.9	1 2.2	2 4.3	- -	1 2.2	- -	- -	- -	32 69.6	1 2.2
40歳代		79 100.0	8 10.1	6 7.6	7 8.9	1 1.3	- -	3 3.8	- -	- -	1 1.3	- -	59 74.7	2 2.5
50歳代		57 100.0	8 14.0	5 8.8	3 5.3	2 3.5	1 1.8	2 3.5	1 1.8	2 3.5	- -	- -	40 70.2	2 3.5
60歳代		80 100.0	13 16.3	3 3.8	1 1.3	1 1.3	1 1.3	4 5.0	2 2.5	1 1.3	- -	- -	59 73.8	3 3.8
70歳以上		146 100.0	18 12.3	19 13.0	1 0.7	12 8.2	8 5.5	6 4.1	3 2.1	2 1.4	2 1.4	- -	87 59.6	16 11.0

<前回調査（平成 27 年（2015 年））との比較>（図表 3-1①-2）

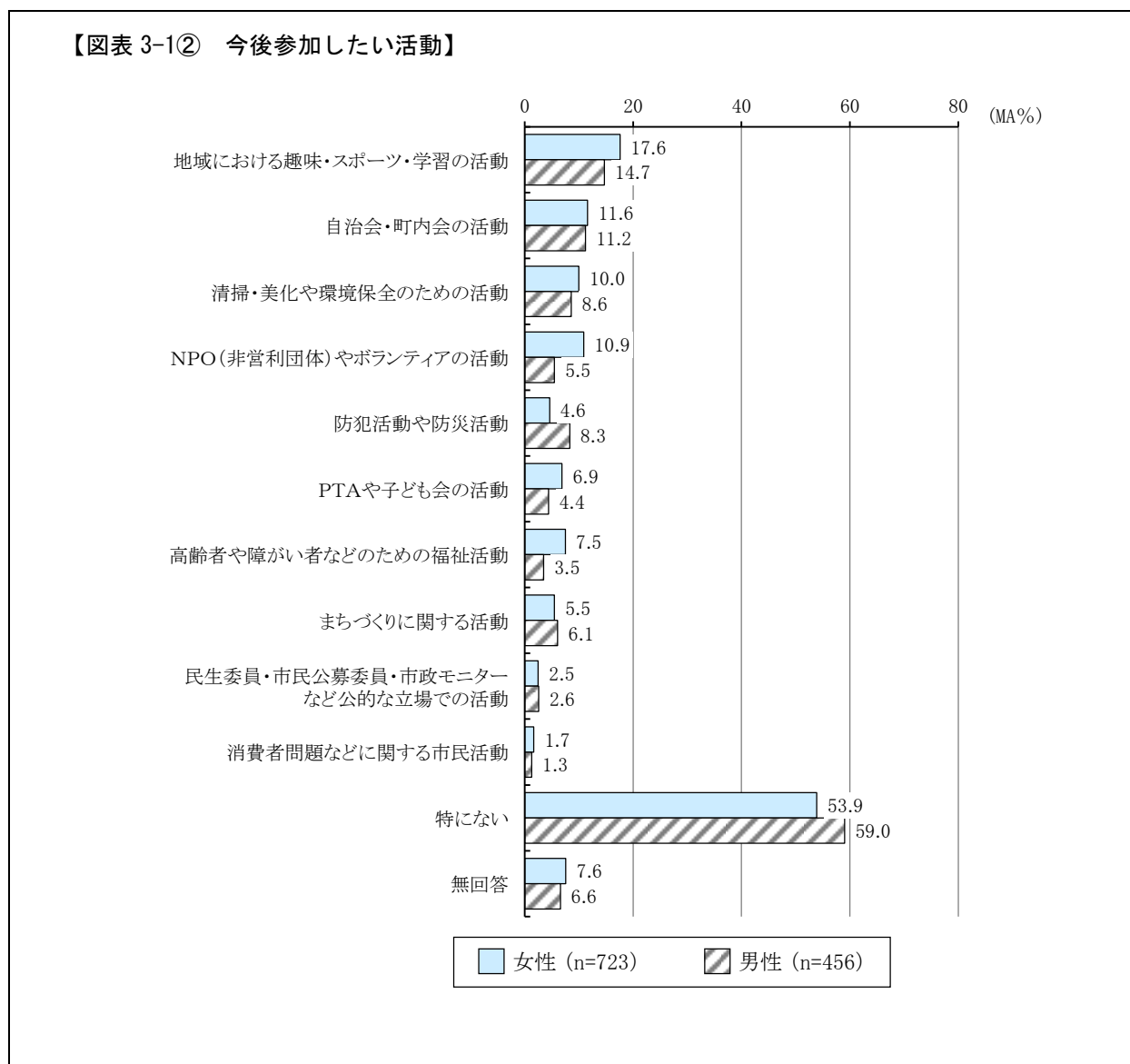
前回調査の結果に比べて、参加している地域活動に大きな差はみられない。一方、「特にない」は、前回調査より女性は 18.7 ポイント、男性は 17.3 ポイントと増加している。

【図表 3-1①-2 前回調査との比較 現在参加している活動】

(MA%)

		n	自治会・町内会の活動	地域における趣味・スポーツ・学習の活動	P T A や子ども会の活動	清掃・美化や環境保全のための活動	N P O（非営利団体）やボランティアの活動	防犯活動や防災活動	高齢者や障がい者などのための福祉活動	まちづくりに関する活動	民生委員・市民公募委員・市立場での活動	消費者問題などに関する活動	特にない	無回答
女性	今回調査	723	15.9	8.9	9.3	3.9	3.7	1.5	2.1	1.1	0.7	0.1	63.2	5.5
	前回調査	1,064	18.0	13.8	12.4	/	7.0	/	/	/	1.9	/	44.5	18.2
	スコア差	/	-2.1	-4.9	-3.1	/	-3.3	/	/	/	-1.2	/	+18.7	-12.7
男性	今回調査	456	11.2	9.2	3.9	3.7	2.6	3.3	1.8	1.1	0.7	-	69.7	5.5
	前回調査	780	14.7	11.5	3.6	/	6.3	/	/	/	0.9	/	52.4	20.8
	スコア差	/	-3.5	-2.3	+0.3	/	-3.7	/	/	/	-0.2	/	+17.3	-15.3

②今後参加したい活動



<性別> (図表 3-1②)

今後（または引き続き）参加したい活動は、男女とも「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」が最も多く、女性 17.6%、男性 14.7%となっている。次いで、男女ともに「自治会・町内会の活動」が 11%台となっており、女性は「NPO（非営利団体）やボランティアの活動」「清掃・美化や環境保全のための活動」が 10%台で続いている。

「現在参加している活動」との比較において、5ポイント以上上回っていたのは、男女ともに「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」であり、実際の参加状況以上に関心が高い傾向がみられた。同じく女性では、「清掃・美化や環境保全のための活動」、「NPO（非営利団体）やボランティアの活動」、「高齢者や障がい者などのための福祉活動」において、男性では、「防犯活動や防災活動」、「まちづくりに関する活動」において、「現在参加している活動」よりも 5ポイント以上上回っていた。

<性・年代別> (図表 3-1②-1)

今後（または引き続き）参加したい活動は、女性では、30歳以下と60歳代で「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」が2割台と最も多くなっている。

男性では、2割を超える項目はみられない。

また、男女ともに29歳以下、男性の40～50歳代で「特にない」の割合が高めである。

「PTA や子ども会の活動」に対する希望については、女性の30歳代、40歳代、男性の30歳代で割合が高くなっており、その年代から家庭内の役割に関連した活動への希望があることが予想される。

【図表 3-1②-1 性・年代別 今後参加したい活動】

		n	地域における趣味・スポーツ・学習の活動	自治会・町内会の活動	清掃の美化や環境保全の活動	NPO(非営利団体)やボランティアの活動	防犯活動や防災活動	PTA や子ども会の活動	高齢者や障がい者などの福祉活動	まちづくりに関する活動	市民活動	民生委員・市民公募委員・市立場での活動	消費者問題などに関する活動	特にない	無回答
全体	上段/実数	1,207	200	135	112	104	72	71	70	70	30	19	672	89	
	下段/MA%	100.0	16.6	11.2	9.3	8.6	6.0	5.9	5.8	5.8	2.5	1.6	55.7	7.4	
女性・年代別	29歳以下	56	11	3	7	9	7	3	3	5	1	2	36	1	
		100.0	19.6	5.4	12.5	16.1	12.5	5.4	5.4	8.9	1.8	3.6	64.3	1.8	
	30歳代	98	20	10	6	7	7	19	4	2	3	2	55	3	
		100.0	20.4	10.2	6.1	7.1	7.1	19.4	4.1	2.0	3.1	2.0	56.1	3.1	
	40歳代	151	17	16	9	17	8	19	9	7	4	-	91	8	
		100.0	11.3	10.6	6.0	11.3	5.3	12.6	6.0	4.6	2.6	-	60.3	5.3	
	50歳代	115	18	15	10	13	2	3	12	6	4	1	64	7	
	100.0	15.7	13.0	8.7	11.3	1.7	2.6	10.4	5.2	3.5	0.9	55.7	6.1		
60歳代	113	27	18	19	16	1	2	11	12	4	2	49	7		
	100.0	23.9	15.9	16.8	14.2	0.9	1.8	9.7	10.6	3.5	1.8	43.4	6.2		
70歳以上	189	33	22	21	17	8	4	15	8	2	5	95	29		
	100.0	17.5	11.6	11.1	9.0	4.2	2.1	7.9	4.2	1.1	2.6	50.3	15.3		
男性・年代別	29歳以下	48	6	2	3	3	4	2	3	3	1	2	34	1	
		100.0	12.5	4.2	6.3	6.3	8.3	4.2	6.3	6.3	2.1	4.2	70.8	2.1	
	30歳代	46	9	6	3	3	5	6	3	5	1	-	25	-	
		100.0	19.6	13.0	6.5	6.5	10.9	13.0	6.5	10.9	2.2	-	54.3	-	
	40歳代	79	11	8	6	4	8	7	3	5	1	-	49	5	
		100.0	13.9	10.1	7.6	5.1	10.1	8.9	3.8	6.3	1.3	-	62.0	6.3	
	50歳代	57	8	7	5	3	4	2	-	2	1	1	37	1	
	100.0	14.0	12.3	8.8	5.3	7.0	3.5	-	3.5	1.8	1.8	64.9	1.8		
60歳代	80	15	11	9	6	10	3	5	6	3	2	47	1		
	100.0	18.8	13.8	11.3	7.5	12.5	3.8	6.3	7.5	3.8	2.5	58.8	1.3		
70歳以上	146	18	17	13	6	7	-	2	7	5	1	77	22		
	100.0	12.3	11.6	8.9	4.1	4.8	-	1.4	4.8	3.4	0.7	52.7	15.1		

<前回調査（平成 27 年（2015 年））との比較>（図表 3-1②-2）

前回調査の結果に比べ、「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」で男性が 5.3 ポイント低下している。また、「特にない」が女性で 17.8 ポイント、男性で 17.5 ポイント上昇している。

【図表 3-1②-2 前回調査との比較 今後参加したい活動】

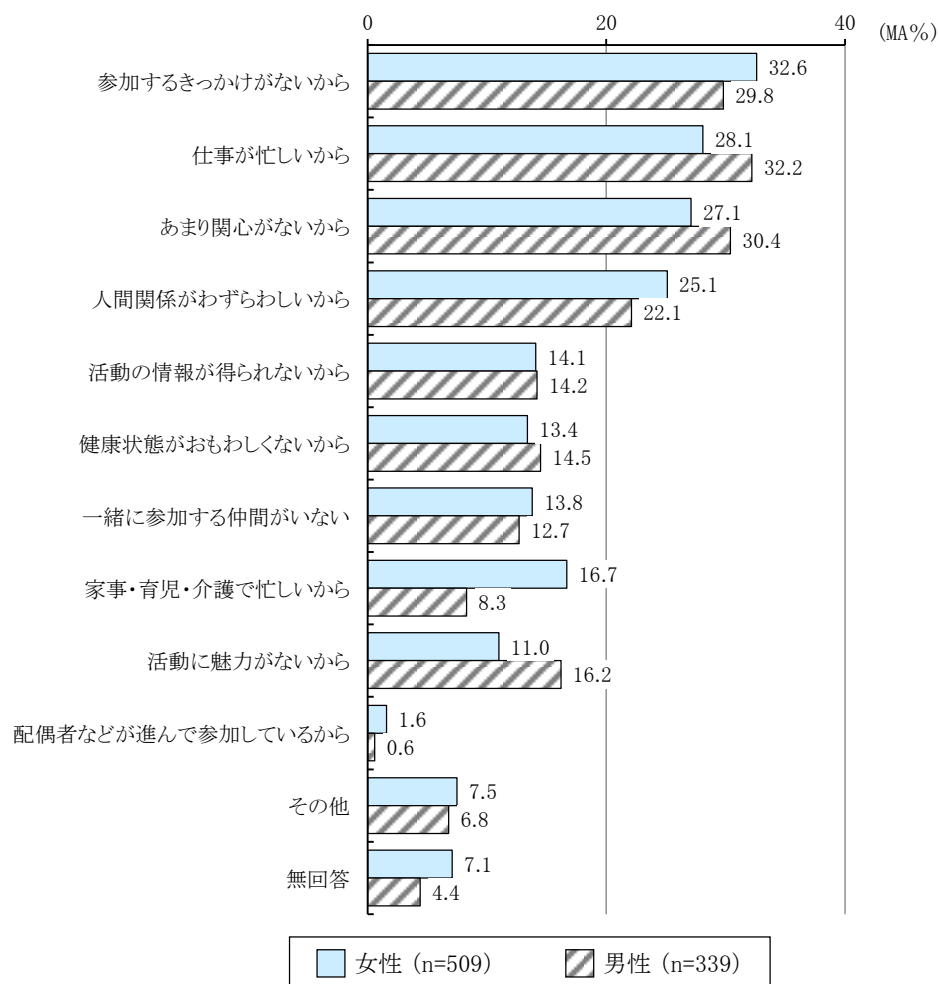
		(MA%)												
		n	地域における趣味・スポーツ・学習の活動	自治会・町内会の活動	清掃・美化や環境保全のための活動	NPO（非営利団体）やボランティアの活動	防犯活動や防災活動	PTA や子ども会の活動	高齢者や障がい者などのための福祉活動	まちづくりに関する活動	民生委員・市民公募委員・市政モニターなどの公的な立場での活動	消費者問題などに関する市民活動	特にない	無回答
女性	今回調査	723	17.6	11.6	10.0	10.9	4.6	6.9	7.5	5.5	2.5	1.7	53.9	7.6
	前回調査	1,064	18.4	10.3	/	12.1	/	8.2	/	/	5.0	/	36.1	32.0
	スコア差	/	-0.8	+1.3	/	-1.2	/	-1.3	/	/	-2.5	/	+17.8	-24.4
男性	今回調査	456	14.7	11.2	8.6	5.5	8.3	4.4	3.5	6.1	2.6	1.3	59.0	6.6
	前回調査	780	20.0	10.1	/	12.6	/	6.3	/	/	6.2	/	41.5	28.1
	スコア差	/	-5.3	+1.1	/	-7.1	/	-1.9	/	/	-3.6	/	+17.5	-21.5

(2) 地域活動に参加したくない理由

【問10で、ひとつでも「1. 特になし」と答えた方にお聞きします。】

問10-1 それはどのような理由からですか。(〇はいくつでも)

【図表 3-2 地域活動に参加したくない理由】



<性別> (図表 3-2)

地域活動に参加したくないと回答した人に、その理由をたずねたところ、女性は「参加するきっかけがないから」(32.6%)が最も多く、次いで「仕事が忙しいから」(28.1%)、「あまり関心がないから」(27.1%)と続いている。男性は「仕事が忙しいから」(32.2%)が最も多く、「あまり関心がないから」(30.4%)、「参加するきっかけがないから」(29.8%)と続いている。

また、女性は「家事・育児・介護で忙しいから」が16.7%で男性(8.3%)に比べ8.4ポイント高くなっており、男性では「活動に魅力がないから」が16.2%で女性(11.0%)に比べ5.2ポイント高くなっている。

<性・年代別> (図表 3-2-1)

女性では、29歳以下と40歳代で「参加するきっかけがないから」(29歳以下: 52.1%、40歳代: 33.0%)、30歳代と60歳代で「仕事が忙しいから」(30歳代: 44.2%、60歳代: 31.4%)、50歳代で「あまり関心がないから」(39.1%)、70歳以上で「健康状態がおもわしくないから」(30.6%)が、それぞれ最も多くなっている。

男性では、29歳以下で「あまり関心がないから」(41.9%)、30歳代で「参加するきっかけがないから」(48.5%)、40~50歳代で「仕事が忙しいから」(40歳代: 59.4%、50歳代: 46.5%)、60歳代で「人間関係がわずらわしいから」(34.4%)、70歳以上で「健康状態がおもわしくないから」(40.2%)が、それぞれ最も多くなっている。

30歳代、40歳代、50歳代において、男性では「仕事が忙しいから」が、女性では「家事・育児・介護で忙しいから」、「仕事が忙しいから」で高い割合となっている年代が多くなっている。また、「参加するきっかけがないから」、「活動の情報が得られないから」、「活動に魅力がないから」の項目において、男女ともに比較的若年層の割合が高くなっている。

【図表 3-2-1 性・年代別 地域活動に参加したくない理由】

	n	か参加するきっかけがない	仕事が忙しいから	あまり関心がないから	人間関係がわずらわしい	活動の情報が得られない	健康状態がおもわしくない	一緒に参加する仲間がない	家事・育児・介護で忙しい	活動に魅力がないから	配者などが進んで参加しているから	その他	無回答	
全体	866	273	255	247	213	123	120	116	115	114	10	65	53	
上段/実数		31.5	29.4	28.5	24.6	14.2	13.9	13.4	13.3	13.2	1.2	7.5	6.1	
下段/MA%	100.0													
女性	29歳以下	48	25	18	17	11	10	-	11	7	7	-	1	4
		100.0	52.1	37.5	35.4	22.9	20.8	-	22.9	14.6	14.6	-	2.1	8.3
	30歳代	77	28	34	24	23	15	1	12	25	14	-	3	8
		100.0	36.4	44.2	31.2	29.9	19.5	1.3	15.6	32.5	18.2	-	3.9	10.4
	40歳代	106	35	30	31	21	12	5	10	22	11	1	5	8
		100.0	33.0	28.3	29.2	19.8	11.3	4.7	9.4	20.8	10.4	0.9	4.7	7.5
	50歳代	87	30	33	34	28	14	10	17	18	10	1	3	7
	100.0	34.5	37.9	39.1	32.2	16.1	11.5	19.5	20.7	11.5	1.1	3.4	8.0	
60歳代	70	21	22	13	17	12	15	6	5	5	1	6	2	
	100.0	30.0	31.4	18.6	24.3	17.1	21.4	8.6	7.1	7.1	1.4	8.6	2.9	
70歳以上	121	27	6	19	28	9	37	14	8	9	5	20	7	
	100.0	22.3	5.0	15.7	23.1	7.4	30.6	11.6	6.6	7.4	4.1	16.5	5.8	
男性	29歳以下	43	13	16	18	6	4	1	6	5	7	-	-	4
		100.0	30.2	37.2	41.9	14.0	9.3	2.3	14.0	11.6	16.3	-	-	9.3
	30歳代	33	16	13	14	6	9	1	7	5	8	-	1	3
		100.0	48.5	39.4	42.4	18.2	27.3	3.0	21.2	15.2	24.2	-	3.0	9.1
	40歳代	64	22	38	18	8	12	3	9	12	9	-	2	2
		100.0	34.4	59.4	28.1	12.5	18.8	4.7	14.1	18.8	14.1	-	3.1	3.1
	50歳代	43	9	20	8	7	3	1	3	1	8	-	4	2
	100.0	20.9	46.5	18.6	16.3	7.0	2.3	7.0	2.3	18.6	-	9.3	4.7	
60歳代	64	16	17	21	22	8	6	11	2	14	1	3	4	
	100.0	25.0	26.6	32.8	34.4	12.5	9.4	17.2	3.1	21.9	1.6	4.7	6.3	
70歳以上	92	25	5	24	26	12	37	7	3	9	1	13	-	
	100.0	27.2	5.4	26.1	28.3	13.0	40.2	7.6	3.3	9.8	1.1	14.1	-	

<前回調査（平成 27 年（2015 年））との比較>（図表 3-2-2）

前回調査の結果に比べ、女性では大きな変化はみられない。

男性では、「仕事が忙しいから」が 10.0 ポイント、「あまり関心がないから」が 7.5 ポイント低下している。

【図表 3-2-2 前回調査との比較 地域活動に参加したくない理由】

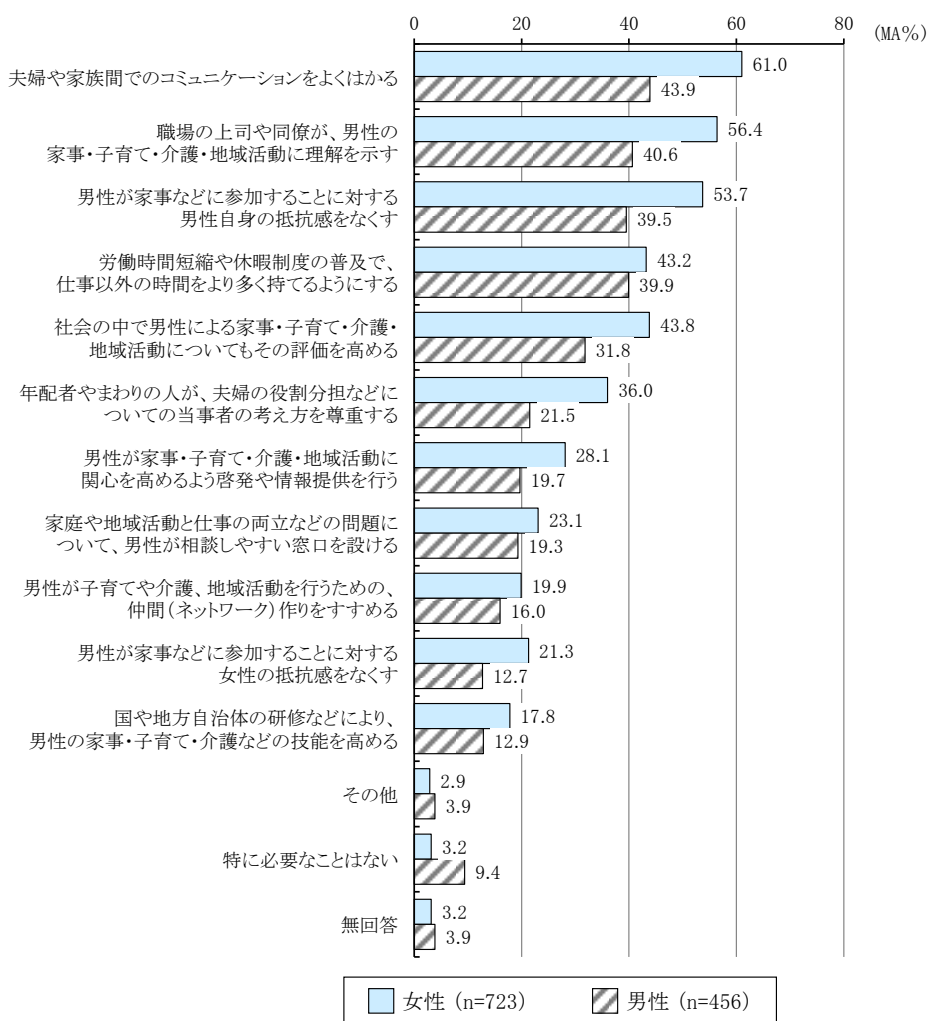
			(MA%)											
		n	か ら 参 加 す る き つ か け が な い	仕 事 が 忙 し い か ら	あ ま り 関 心 が な い か ら	か ら 人 間 関 係 が わ ず ら わ し い	か ら 活 動 の 情 報 が 得 ら れ な い	い か ら 健 康 状 態 が お も わ し く な い	な い 一 緒 に 参 加 す る 仲 間 が い ない	い か ら 家 事 ・ 育 児 ・ 介 護 で 忙 し い	活 動 に 魅 力 が な い か ら	配 偶 者 な ど が 進 ん で 参 加 し て い る か ら	そ の 他	無 回 答
女 性	今回調査	509	32.6	28.1	27.1	25.1	14.1	13.4	13.8	16.7	11.0	1.6	7.5	7.1
	前回調査	549	30.4	31.7	30.2	24.8	14.6	17.5	12.0	18.6	15.7		8.9	0.9
	スコア差		+2.2	-3.6	-3.1	+0.3	-0.5	-4.1	+1.8	-1.9	-4.7		-1.4	+6.2
男 性	今回調査	339	29.8	32.2	30.4	22.1	14.2	14.5	12.7	8.3	16.2	0.6	6.8	4.4
	前回調査	448	28.6	42.2	37.9	24.8	12.7	15.2	17.0	8.5	17.2		8.0	0.7
	スコア差		+1.2	-10.0	-7.5	-2.7	+1.5	-0.7	-4.3	-0.2	-1.0		-1.2	+3.7

4. 男性の家事・子育て・介護・地域活動の参加について

(1) 男性が家事・子育て・介護・地域活動に参加していくために必要なこと

問 11 今後、男性が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

【図表 4-1 男性が家事・子育て・介護・地域活動に参加していくために必要なこと】



<性別> (図表 4-1)

男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことは、男女とも「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」(女性 61.0%、男性 43.9%) が最も多くなっており、次いで「職場の上司や同僚が、男性の家事・子育て・介護・地域活動に理解を示す」(女性 56.4%、男性 40.6%) となっている。

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」「職場の上司や同僚が、男性の家事・子育て・介護・地域活動に理解を示す」「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」「社会の中で男性による家事・子育て・介護・地域活動についてもその評価を高める」「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重する」の項目では、女性の割合が男性より 10 ポイント以上高くなっている。

<性・年代別> (図表 4-1-1)

女性では、29歳以下と60歳代以上で「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」(29歳以下：76.8%、60歳代：61.1%、70歳以上：58.2%)が最も多く、30～50歳代では「職場の上司や同僚が、男性の家事・子育て・介護・地域活動に理解を示す」(30歳代：70.4%、40歳代：58.9%、50歳代：67.0%)が最も多くなっている。特に女性の29歳以下と30歳代では半数以上の項目で女性の他の年代より割合が高くなっており、男性が家事等に参加していくために必要なことへの積極的な関心の高さがうかがえる。

男性では、29歳以下、60歳代で「職場の上司や同僚が、男性の家事・子育て・介護・地域活動に理解を示す」(29歳以下：52.1%、60歳代：43.8%)、30～50歳代で「労働時間短縮や休暇制度の普及で、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」(30歳代：54.3%、40歳代：48.1%、50歳代：45.6%)、70歳以上で「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」(41.8%)が最も多くなっている。

<性・配偶者の有無別> (図表 4-1-1)

男女とも、いずれの層でも「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」が最も高くなっている。女性の配偶者・パートナーなし層で65.5%、女性の配偶者・パートナーあり層で58.2%であったが、男性はいずれの層でも4割台であり、男女で差がみられた。

先ほども確認したとおり、女性のほうが、さまざまな対策について必要だと回答している割合が高いが、特に女性の29歳以下と30歳代では、濃い青色に網掛けされた項目が多くなっている。

【図表 4-1-1 性・年代別/性・配偶者の有無別

男性が家事・子育て・介護・地域活動に参加していくために必要なこと】

		n	くはかる	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくする	職場の上司や同僚が、男性の家事・子育て・介護・地域活動に理解を示す	男性自身の家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす	労働時間をより多く持てるようにする	労働時間短縮や休暇制度の普及で、仕事以外の時間をより多く持てるようにする	社会の中で男性による家事・子育て・介護・地域活動についてもその評価を高める	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重する	男性が高めるよう啓発や情報提供を行う	男性が家事・子育て・介護・地域活動に関心が高まるよう啓発や情報提供を行う	家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設ける	男性が子育てや介護、地域活動を行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめる	男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくす	家事・子育て・介護などの技能を高める	国や地方自治体の研修などにより、男性の家事・子育て・介護などの技能を高める	その他	特に必要なことはない	無回答
全体	上段/実数 下段/MA%	1,207 100.0	660 54.7	609 50.5	578 47.9	502 41.6	472 39.1	368 30.5	301 24.9	259 21.5	220 18.2	218 18.1	190 15.7	41 3.4	68 5.6	41 3.4				
女性・年代別	29歳以下	56 100.0	43 76.8	40 71.4	38 67.9	40 71.4	31 55.4	28 50.0	13 23.2	23 41.1	12 21.4	14 25.0	14 25.0	2 3.6	-	-				
	30歳代	98 100.0	68 69.4	69 70.4	60 61.2	54 55.1	49 50.0	39 39.8	27 27.6	17 17.3	21 21.4	26 26.5	21 21.4	3 3.1	2 2.0	-				
	40歳代	151 100.0	86 57.0	89 58.9	83 55.0	71 47.0	76 50.3	51 33.8	37 24.5	28 18.5	24 15.9	29 19.2	25 16.6	5 3.3	5 3.3	3 2.0				
	50歳代	115 100.0	64 55.7	77 67.0	60 52.2	57 49.6	51 44.3	43 37.4	40 34.8	24 20.9	25 21.7	27 23.5	20 17.4	1 0.9	3 2.6	3 2.6				
	60歳代	113 100.0	69 61.1	65 57.5	60 53.1	41 36.3	52 46.0	38 33.6	37 32.7	22 19.5	29 25.7	22 19.5	23 20.4	5 4.4	1 0.9	3 2.7				
	70歳以上	189 100.0	110 58.2	67 35.4	86 45.5	48 25.4	57 30.2	60 31.7	48 25.4	53 28.0	32 16.9	35 18.5	26 13.8	5 2.6	12 6.3	14 7.4				
男性・年代別	29歳以下	48 100.0	24 50.0	25 52.1	18 37.5	24 50.0	18 37.5	21 43.8	9 18.8	8 16.7	10 20.8	10 20.8	7 14.6	1 2.1	3 6.3	1 2.1				
	30歳代	46 100.0	21 45.7	22 47.8	16 34.8	25 54.3	16 34.8	8 17.4	6 13.0	8 17.4	9 19.6	5 10.9	8 17.4	2 4.3	4 8.7	1 2.2				
	40歳代	79 100.0	37 46.8	33 41.8	32 40.5	38 48.1	25 31.6	13 16.5	16 20.3	8 10.1	16 20.3	12 15.2	6 7.6	7 8.9	6 7.6	1 1.3				
	50歳代	57 100.0	24 42.1	19 33.3	19 33.3	26 45.6	23 40.4	8 14.0	8 14.0	10 17.5	4 7.0	4 7.0	6 10.5	1 1.8	3 5.3	-				
	60歳代	80 100.0	34 42.5	35 43.8	34 42.5	27 33.8	25 31.3	12 15.0	19 23.8	18 22.5	14 17.5	10 12.5	11 13.8	4 5.0	5 6.3	1 1.3				
	70歳以上	146 100.0	60 41.1	51 34.9	61 41.8	42 28.8	38 26.0	36 24.7	32 21.9	36 24.7	20 13.7	17 11.6	21 14.4	3 2.1	22 15.1	14 9.6				
配偶者の有無別	女性・ 配偶者・ パートナーあり	440 100.0	256 58.2	241 54.8	221 50.2	183 41.6	188 42.7	142 32.3	116 26.4	85 19.3	75 17.0	91 20.7	72 16.4	13 3.0	18 4.1	16 3.6				
	女性・ 配偶者・ パートナーなし	281 100.0	184 65.5	167 59.4	167 59.4	128 45.6	129 45.9	117 41.6	87 31.0	81 28.8	69 24.6	63 22.4	57 20.3	8 2.8	5 1.8	7 2.5				
配偶者の有無別	男性・ 配偶者・ パートナーあり	264 100.0	117 44.3	103 39.0	109 41.3	109 41.3	85 32.2	48 18.2	56 21.2	50 18.9	40 15.2	34 12.9	32 12.1	12 4.5	20 7.6	7 2.7				
	男性・ 配偶者・ パートナーなし	192 100.0	83 43.2	82 42.7	71 37.0	73 38.0	60 31.3	50 26.0	34 17.7	38 19.8	33 17.2	24 12.5	27 14.1	6 3.1	23 12.0	11 5.7				

<前回調査（平成 27 年（2015 年））との比較>（図表 4-1-2）

前回調査の結果に比べ、女性では、「社会の中で男性による家事・子育て・介護・地域活動についてもその評価を高める」が 5.8 ポイント低下している。男性では、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」が 7.3 ポイント、「労働時間短縮や休暇制度の普及で、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」が 6.4 ポイント低下している。

【図表 4-1-2 前回調査との比較

男性が家事・子育て・介護・地域活動に参加していくために必要なこと】

(MA%)

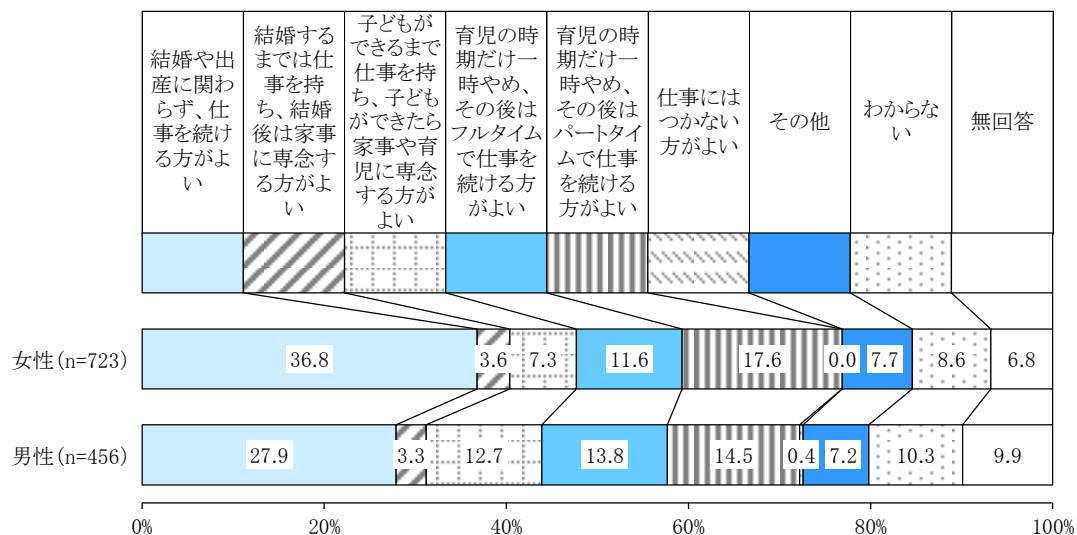
		n	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる	職場の上司や同僚が、男性の家事・子育て・介護・地域活動に理解を示す	男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす	労働時間をより多く持てるようにする	社会の中で男性による家事・子育て・介護・地域活動についてもその評価を高める	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについて当事者の考え方を尊重する	男性が家事・子育て・介護・地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行う	家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設ける	男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）作りをするため	男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくす	国や地方自治体の研修などにより、男性の家事・子育て・介護などの技能を高める	その他	特に必要なことはない	無回答
女性	今回調査	723	61.0	56.4	53.7	43.2	43.8	36.0	28.1	23.1	19.9	21.3	17.8	2.9	3.2	3.2
	前回調査	1,064	58.0	54.0	57.0	47.7	49.6	38.2	28.7	23.6	23.4	21.6	19.5	4.1	3.3	4.5
	スコア差		+3.0	+2.4	-3.3	-4.5	-5.8	-2.2	-0.6	-0.5	-3.5	-0.3	-1.7	-1.2	-0.1	-1.3
男性	今回調査	456	43.9	40.6	39.5	39.9	31.8	21.5	19.7	19.3	16.0	12.7	12.9	3.9	9.4	3.9
	前回調査	780	51.2	48.0	41.3	46.3	36.2	24.4	23.7	21.0	18.2	13.8	14.7	6.2	7.2	4.0
	スコア差		-7.3	-7.4	-1.8	-6.4	-4.4	-2.9	-4.0	-1.7	-2.2	-1.1	-1.8	-2.3	+2.2	-0.1

5. 仕事について

(1) 女性の働き方について

問 12 あなたは、女性の働き方についてどのようにお考えですか。(〇はひとつ)

【図表 5-1 女性の働き方について】



<性別> (図表 5-1)

女性の働き方については、男女とも「結婚や出産に関わらず、仕事を続ける方がよい」が最も多いが、女性 36.8%、男性 27.9%と、男性は女性より 8.9 ポイント低くなっている。男女とも、「育児の時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける方がよい」(女性 17.6%、男性 14.5%)、「育児の時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける方がよい」(女性 11.6%、男性 13.8%)と続いている。「子どもができるまで仕事を持ち、子どもができたらか家事や育児に専念する方がよい」は、女性 7.3%、男性 12.7%と、男性の方が 5.4 ポイント高くなっている。

<性・年代別> (図表 5-1-1)

女性では、すべての年代で「結婚や出産に関わらず、仕事を続ける方がよい」が最も多く、特に 40～60 歳代で 4 割台と高くなっているが、29 歳以下では 3 割台と若干低くなっている。次いで 29 歳以下では「その他」が、30～40 歳代と 60 歳代以上では「育児の時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける方がよい」が、50 歳代では「育児の時だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける方がよい」が続いている。

男性では、60 歳代までのすべての年代で「結婚や出産に関わらず、仕事を続ける方がよい」が最も多い。特に 50 歳代で 42.1%と高くなっているが、60 歳代までのその他の年代では 2～3 割となっている。一方 70 歳以上では、「子どもができるまで仕事を持ち、子どもができたらか家事や育児に専念する方がよい」が最も多く、18.5%となっている。

<性・配偶者の有無別> (図表 5-1-1)

女性では、配偶者・パートナーあり／なしに関わらず、「結婚や出産に関わらず、仕事を続ける方がよい」が3割台、「育児の時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける方がよい」が1割台で大きな差はみられない。

男性でも、配偶者・パートナーあり／なしに関わらず、「結婚や出産に関わらず、仕事を続ける方がよい」が2割台で最も多いが、配偶者・パートナーなし層は、「子どもができるまで仕事をもち、子どもができたら家事や育児に専念する方がよい」が15.6%で、配偶者・パートナーあり層(10.6%)に比べて5ポイント高い。

【図表 5-1-1 性・年代別/性・配偶者の有無別 女性の働き方について】

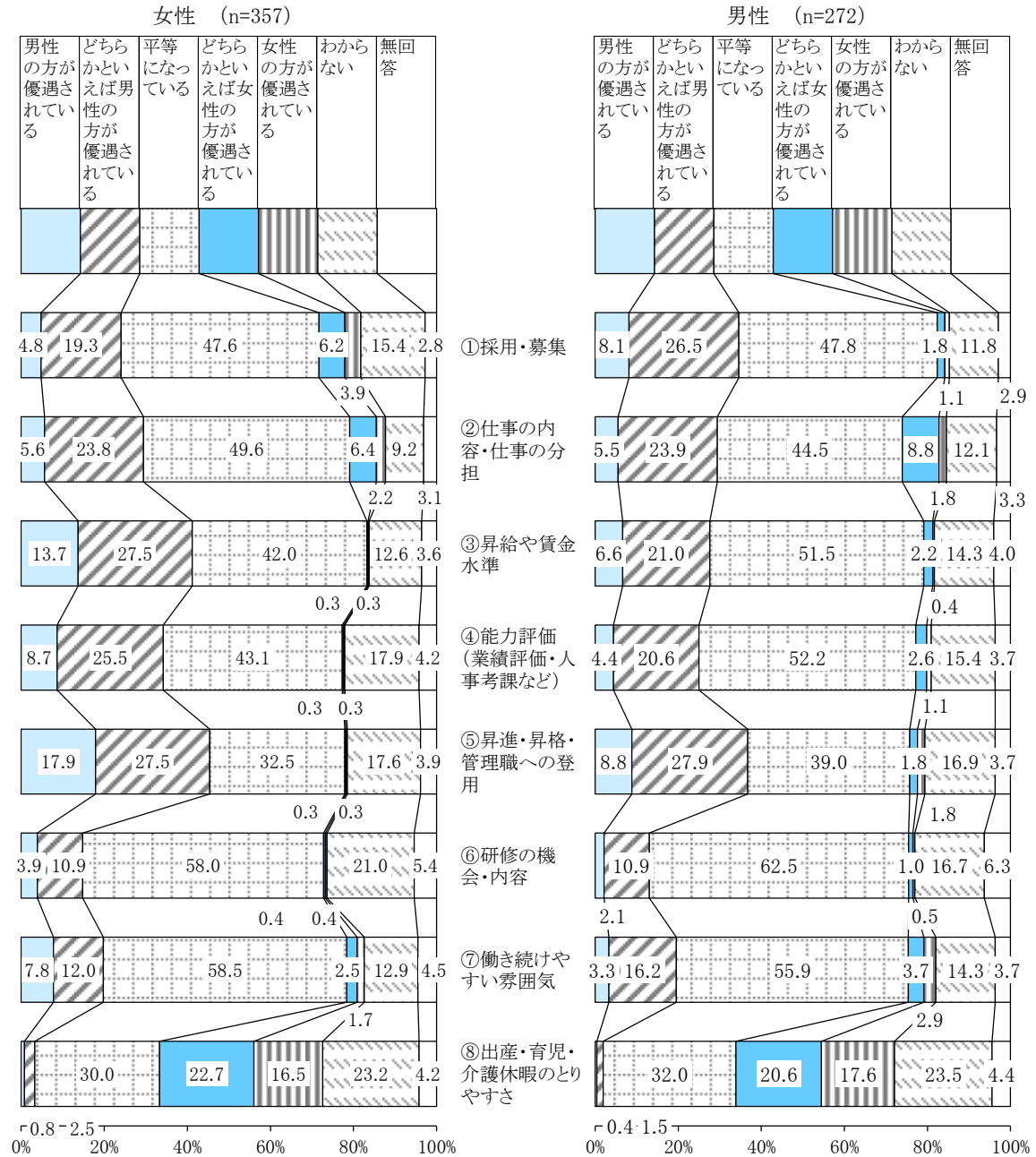
		n	を結 婚け や 出 産 が よ い わ ら ず 、 仕 事	よ 結 婚 後 す は 家 事 に は 専 念 す る 方 が よ い	結 婚 す る ま で は 専 念 す る 方 が よ い	育 ち 子 に 専 念 す る 方 が よ い	子 ど も が で き る ま で 仕 事 を 持 つ	け の 育 児 の 時 期 だ け 一 時 や め を 続 け	育 児 の 時 期 だ け 一 時 や め を 続 け	続 の 育 児 の 時 期 だ け 一 時 や め を 続 け	仕 事 に は つ か な い 方 が よ い	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全体	上段/実数	1,207	405	43	113	149	194	2	93	111	97			
	下段/%	100.0	33.6	3.6	9.4	12.3	16.1	0.2	7.7	9.2	8.0			
女性・年代別	29歳以下	56	19	-	5	4	8	-	11	6	3			
		100.0	33.9	-	8.9	7.1	14.3	-	19.6	10.7	5.4			
	30歳代	98	39	1	4	8	20	-	9	12	5			
		100.0	39.8	1.0	4.1	8.2	20.4	-	9.2	12.2	5.1			
	40歳代	151	68	3	5	12	29	-	16	12	6			
		100.0	45.0	2.0	3.3	7.9	19.2	-	10.6	7.9	4.0			
	50歳代	115	51	1	5	18	15	-	11	7	7			
	100.0	44.3	0.9	4.3	15.7	13.0	-	9.6	6.1	6.1				
60歳代	113	47	2	3	17	23	-	7	6	8				
	100.0	41.6	1.8	2.7	15.0	20.4	-	6.2	5.3	7.1				
70歳以上	189	42	19	31	24	32	-	2	19	20				
	100.0	22.2	10.1	16.4	12.7	16.9	-	1.1	10.1	10.6				
男性・年代別	29歳以下	48	10	2	7	5	7	-	6	9	2			
		100.0	20.8	4.2	14.6	10.4	14.6	-	12.5	18.8	4.2			
	30歳代	46	11	-	4	9	7	-	6	6	3			
		100.0	23.9	-	8.7	19.6	15.2	-	13.0	13.0	6.5			
	40歳代	79	27	2	8	10	15	-	5	6	6			
		100.0	34.2	2.5	10.1	12.7	19.0	-	6.3	7.6	7.6			
	50歳代	57	24	1	4	5	7	-	8	7	1			
	100.0	42.1	1.8	7.0	8.8	12.3	-	14.0	12.3	1.8				
60歳代	80	29	1	8	16	15	-	4	4	3				
	100.0	36.3	1.3	10.0	20.0	18.8	-	5.0	5.0	3.8				
70歳以上	146	26	9	27	18	15	2	4	15	30				
	100.0	17.8	6.2	18.5	12.3	10.3	1.4	2.7	10.3	20.5				
有無別 女性・ 配偶者の	配偶者・ パートナーあり	440	167	20	31	51	73	-	35	35	28			
		100.0	38.0	4.5	7.0	11.6	16.6	-	8.0	8.0	6.4			
有無別 男性・ 配偶者の	配偶者・ パートナーあり	281	99	6	22	32	53	-	21	27	21			
		100.0	35.2	2.1	7.8	11.4	18.9	-	7.5	9.6	7.5			
有無別 女性・ 配偶者の	配偶者・ パートナーあり	264	79	10	28	37	43	-	21	23	23			
		100.0	29.9	3.8	10.6	14.0	16.3	-	8.0	8.7	8.7			
有無別 男性・ 配偶者の	配偶者・ パートナーあり	192	48	5	30	26	23	2	12	24	22			
		100.0	25.0	2.6	15.6	13.5	12.0	1.0	6.3	12.5	11.5			

(2) 仕事における平等感

【問 13 は、「収入を得る仕事をしている」方にお聞きします。】

問 13 ご自身の職場において、次の①～⑧の項目について男女は平等になっていると思いますか。(それぞれ〇はひとつずつ)

【図表 5-2 仕事における平等感】



<性別> (図表 5-2)

雇用の場における男女平等感について、男女とも、全項目で「平等」の割合が最も多い。女性で「平等」の割合が最も多い項目は「⑦働き続けやすい雰囲気」(58.5%)で次いで「研修の機会・内容」となっている。その後「②仕事の内容、仕事の分担」(49.6%)「①採用・募集」(47.6%)と続いている。一方男性で「平等」の割合が最も多い項目は「⑥研修の機会・内容」(62.5%)次いで「⑦働き続けやすい雰囲気」(55.9%)となっている。その後「④能力評価」

(52.5%)「⑤昇給や賃金水準」(51.5%)と続いている。

「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた「男性優遇」と「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた「女性優遇」の割合では、男女ともほぼ全項目で「男性優遇」が「女性優遇」の割合を上回っている。女性で「③昇給や賃金水準」「⑤昇進・昇格・管理職への登用」「④能力評価(業績評価・人事考課など)」、男性で「①採用・募集」「⑤昇進・昇格・管理職への登用」が高くなっている。「③昇給や賃金水準」は、女性が男性の割合より13.6ポイント高く、「①採用・募集」は、男性が女性の割合より10.5ポイント高くなっている。

「②仕事の内容・仕事の分担」は、男女とも「平等」が最も多いが、「男性優遇」の回答も3割程度ある。「⑥研修の機会・内容」「⑦働き続けやすい雰囲気」は「平等」が5～6割程度と他の項目より高くなっている。「⑧出産・育児・介護休暇の取りやすさ」は他の項目と比べて「女性優遇」の割合が高い。

<性・年代別> (図表 5-2-1)

① 採用・募集

男女とも、すべての年代で「平等」が最も多く、女性30歳代以下でその割合は高めである。また、いずれの年代でも「男性優遇」は男性の割合が女性を上回っている。

② 仕事の内容・仕事の分担

女性では、60歳代以下では「平等」、70歳以上では「男性優遇」が最も多く、男性では、すべての年代で「平等」が最も多くなっている。

③ 昇給や賃金水準

女性では、30歳代以下と50歳代で「平等」、40歳代と60歳代以上で「男性優遇」が最も多くなっている。男性では、すべての年代で「平等」が最も多くなっている。いずれの年代でも「男性優遇」は女性の割合が男性を上回っている。

女性は、30歳代から60歳代まで「男性優遇」の割合が全体と比べて相対的に高く、男性は、29歳以下、30歳代、50歳代で「平等」の割合が相対的に高くなっている。

④ 能力評価(業績評価・人事考課など)

男女ともに、すべての年代で「平等」が最も多くなっている。

⑤ 昇進・昇格・管理職への登用

女性では、29歳以下では「平等」が、30歳代以上ではすべての年代で「男性優遇」が最も多くなっている。男性では、30歳代以下と50歳代では「平等」、40歳代と60歳代以上では「男性優遇」が最も多くなっている。

⑥ 研修の機会や内容

男女とも、すべての年代で「平等」が最も多くなっている。50歳代、60歳代の女性において、「男性優遇」の割合が全体と比してやや高くなっている。本人たちが働いてきた環境や経験が影響しているのかもしれない。(※男女29歳以下は回答者数が少ないため、参考値とする。)

⑦ 働き続けやすい雰囲気

男女とも、すべての年代で「平等」が最も多くなっている。

⑧ 出産・育児・介護休暇のとりやすさ

女性40歳代以下、男性30～40歳代では「女性優遇」、女性50歳代、男性29歳以下、50歳代では「平等」が最も多くなっている。また、男女ともに60歳代以上は「わからない」が最も多くなっている。

<性・雇用形態別> (図表 5-2-1)

① 採用・募集

男女とも、いずれの層でも「平等」が最も多くなっている。

② 仕事の内容・仕事の分担

男女とも、いずれの層でも「平等」が最も多くなっている。

③ 昇給や賃金水準

女性では、正規雇用では「男性優遇」が、男性の正規雇用で「平等」が最も多くなっている。非正規雇用では、男女ともに「平等」が最も多くなっている。

④ 能力評価（業績評価・人事考課など）

男女とも、いずれの層でも「平等」が最も多くなっている。女性の正規雇用では、「男性優遇」が全体と比較して相対的に高くなっている。

⑤ 昇進・昇格・管理職への登用

女性の正規雇用では「男性優遇」が、男性の正規雇用では「平等」が最も多くなっている。非正規雇用をみると、女性では「男性優遇」が、男性では「平等」が最も多くなっている。

⑥ 研修の機会や内容

男女とも、いずれの層でも「平等」が最も多くなっており、男女ともに正規雇用でその割合が高めである。

⑦ 働き続けやすい雰囲気

男女とも、いずれの層でも「平等」が最も多くなっている。

⑧ 出産・育児・介護休暇のとりやすさ

正規雇用をみると、男女とも「女性優遇」が最も多くなっている。非正規雇用では、女性は「平等」が、男性は「わからない」が最も多くなっている。

【図表 5-2-1 性・年代別/性・雇用形態別 仕事における平等感①】

	n	①採用・募集					②仕事の内容・仕事の分担					③昇給や賃金水準					
		計	平等	計	わからない	無回答	計	平等	計	わからない	無回答	計	平等	計	わからない	無回答	
		『男性優遇』		『女性優遇』			『男性優遇』		『女性優遇』			『男性優遇』		『女性優遇』			
全体	上段/実数 下段/%	641 100.0	181 28.2	307 47.9	45 7.0	89 13.9	19 3.0	186 29.0	304 47.4	62 9.7	66 10.3	23 3.6	224 34.9	294 45.9	10 1.6	87 13.6	26 4.1
女性・年代別	29歳以下	32 100.0	4 12.5	21 65.6	4 12.5	3 9.4	-	4 12.5	24 75.0	1 3.1	3 9.4	-	8 25.0	19 59.4	-	5 15.6	-
	30歳代	72 100.0	12 16.7	39 54.2	11 15.3	10 13.9	-	19 26.4	39 54.2	9 12.5	5 6.9	-	30 41.7	35 48.6	1 1.4	6 8.3	-
	40歳代	100 100.0	28 28.0	43 43.0	8 8.0	21 21.0	-	32 32.0	47 47.0	10 10.0	10 10.0	1 1.0	46 46.0	37 37.0	-	15 15.0	2 2.0
	50歳代	77 100.0	23 29.9	36 46.8	6 7.8	10 13.0	2 2.6	24 31.2	39 50.6	5 6.5	7 9.1	2 2.6	31 40.3	32 41.6	-	11 14.3	3 3.9
	60歳代	54 100.0	14 25.9	25 46.3	4 7.4	6 11.1	5 9.3	20 37.0	23 42.6	2 3.7	4 7.4	5 9.3	24 44.4	21 38.9	1 1.9	3 5.6	5 9.3
	70歳以上	22 100.0	5 22.7	6 27.3	3 13.6	5 22.7	3 13.6	6 27.3	5 22.7	4 18.2	4 18.2	3 13.6	8 36.4	6 27.3	-	5 22.7	3 13.6
男性・年代別	29歳以下	25 100.0	7 28.0	13 52.0	1 4.0	4 16.0	-	5 20.0	10 40.0	5 20.0	5 20.0	-	4 16.0	14 56.0	1 4.0	6 24.0	-
	30歳代	42 100.0	15 35.7	19 45.2	3 7.1	4 9.5	1 2.4	9 21.4	23 54.8	4 9.5	5 11.9	1 2.4	9 21.4	26 61.9	1 2.4	4 9.5	2 4.8
	40歳代	72 100.0	25 34.7	38 52.8	2 2.8	6 8.3	1 1.4	20 27.8	33 45.8	13 18.1	5 6.9	1 1.4	25 34.7	34 47.2	3 4.2	9 12.5	1 1.4
	50歳代	53 100.0	20 37.7	27 50.9	1 1.9	5 9.4	-	21 39.6	24 45.3	3 5.7	5 9.4	-	15 28.3	33 62.3	-	5 9.4	-
	60歳代	50 100.0	16 32.0	22 44.0	1 2.0	9 18.0	2 4.0	17 34.0	19 38.0	2 4.0	10 20.0	2 4.0	13 26.0	22 44.0	1 2.0	11 22.0	3 6.0
	70歳以上	30 100.0	11 36.7	11 36.7	-	4 13.3	4 13.3	8 26.7	12 40.0	2 6.7	3 10.0	5 16.7	9 30.0	11 36.7	1 3.3	4 13.3	5 16.7
雇用女性形態・別	正規雇用	152 100.0	40 26.3	80 52.6	14 9.2	17 11.2	1 0.7	48 31.6	79 52.0	15 9.9	9 5.9	1 0.7	72 47.4	65 42.8	1 0.7	12 7.9	2 1.3
	非正規雇用	154 100.0	32 20.8	74 48.1	21 13.6	24 15.6	3 1.9	40 26.0	82 53.2	13 8.4	16 10.4	3 1.9	53 34.4	74 48.1	-	24 15.6	3 1.9
	非就労者 (学生を除く)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
雇用男性形態・別	正規雇用	164 100.0	60 36.6	89 54.3	3 1.8	10 6.1	2 1.2	50 30.5	78 47.6	20 12.2	14 8.5	2 1.2	45 27.4	96 58.5	5 3.0	16 9.8	2 1.2
	非正規雇用	53 100.0	16 30.2	22 41.5	2 3.8	10 18.9	3 5.7	15 28.3	25 47.2	2 3.8	9 17.0	2 3.8	12 22.6	26 49.1	-	11 20.8	4 7.5
	非就労者 (学生を除く)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【図表 5-2-1 性・年代別/性・雇用形態別 仕事における平等感②】

	n	④能力評価(業績評価・人事考課など)					⑤昇進・昇格・管理職への登用					⑦働き続けやすい雰囲気					
		計 『男性 優遇』	平 等	計 『女性 優遇』	わ か ら な い	無 回 答	計 『男性 優遇』	平 等	計 『女性 優遇』	わ か ら な い	無 回 答	計 『男性 優遇』	平 等	計 『女性 優遇』	わ か ら な い	無 回 答	
全体	上段/実数 下段/%	641 100.0	192 30.0	302 47.1	13 2.0	106 16.5	28 4.4	266 41.5	226 35.3	13 2.0	110 17.2	26 4.1	127 19.8	368 57.4	33 5.1	85 13.3	28 4.4
女性・年代別	29歳以下	32 100.0	9 28.1	19 59.4	-	4 12.5	-	14 43.8	15 46.9	-	3 9.4	-	9 28.1	18 56.3	2 6.3	3 9.4	-
	30歳代	72 100.0	26 36.1	36 50.0	1 1.4	9 12.5	-	33 45.8	28 38.9	1 1.4	10 13.9	-	15 20.8	48 66.7	3 4.2	6 8.3	-
	40歳代	100 100.0	39 39.0	39 39.0	1 1.0	19 19.0	2 2.0	52 52.0	28 28.0	1 1.0	15 15.0	4 4.0	20 20.0	61 61.0	6 6.0	10 10.0	3 3.0
	50歳代	77 100.0	27 35.1	33 42.9	-	14 18.2	3 3.9	36 46.8	23 29.9	-	16 20.8	2 2.6	16 20.8	49 63.6	2 2.6	8 10.4	2 2.6
	60歳代	54 100.0	15 27.8	21 38.9	-	11 20.4	7 13.0	20 37.0	17 31.5	-	12 22.2	5 9.3	9 16.7	24 44.4	1 1.9	13 24.1	7 13.0
	70歳以上	22 100.0	6 27.3	6 27.3	-	7 31.8	3 13.6	7 31.8	5 22.7	-	7 31.8	3 13.6	2 9.1	9 40.9	1 4.5	6 27.3	4 18.2
	29歳以下	25 100.0	4 16.0	13 52.0	2 8.0	6 24.0	-	6 24.0	13 52.0	-	6 24.0	-	5 20.0	16 64.0	-	4 16.0	-
30歳代	42 100.0	9 21.4	25 59.5	2 4.8	5 11.9	1 2.4	17 40.5	18 42.9	2 4.8	4 9.5	1 2.4	9 21.4	27 64.3	4 9.5	1 2.4	1 2.4	
40歳代	72 100.0	21 29.2	38 52.8	2 2.8	9 12.5	2 2.8	31 43.1	26 36.1	5 6.9	9 12.5	1 1.4	17 23.6	36 50.0	8 11.1	10 13.9	1 1.4	
50歳代	53 100.0	12 22.6	34 64.2	3 5.7	4 7.5	-	18 34.0	26 49.1	2 3.8	7 13.2	-	10 18.9	35 66.0	2 3.8	6 11.3	-	
60歳代	50 100.0	13 26.0	20 40.0	1 2.0	14 28.0	2 4.0	18 36.0	15 30.0	1 2.0	14 28.0	2 4.0	7 14.0	25 50.0	4 8.0	12 24.0	2 4.0	
70歳以上	30 100.0	9 30.0	12 40.0	-	4 13.3	5 16.7	10 33.3	8 26.7	-	6 20.0	6 20.0	5 16.7	13 43.3	-	6 20.0	6 20.0	
雇用女性形態別	正規雇用	152 100.0	64 42.1	66 43.4	2 1.3	17 11.2	3 2.0	79 52.0	57 37.5	2 1.3	13 8.6	1 0.7	36 23.7	93 61.2	12 7.9	9 5.9	2 1.3
	非正規雇用	154 100.0	39 25.3	75 48.7	-	36 23.4	4 2.6	58 37.7	50 32.5	-	40 26.0	6 3.9	26 16.9	95 61.7	3 1.9	25 16.2	5 3.2
	非就労者 (学生を除く)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
雇用男性形態別	正規雇用	164 100.0	41 25.0	98 59.8	8 4.9	15 9.1	2 1.2	67 40.9	71 43.3	9 5.5	15 9.1	2 1.2	34 20.7	101 61.6	14 8.5	13 7.9	2 1.2
	非正規雇用	53 100.0	10 18.9	23 43.4	1 1.9	16 30.2	3 5.7	15 28.3	18 34.0	-	17 32.1	3 5.7	10 18.9	25 47.2	2 3.8	13 24.5	3 5.7
	非就労者 (学生を除く)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【図表 5-2-1 性・年代別 仕事における平等感③】

		n	⑧出産・育児・介護休暇のとりやすさ				
			計 『男性優遇』	平等	計 『女性優遇』	わからない	無回答
全体		641	17	200	247	147	30
上段/実数		100.0	2.7	31.2	38.5	22.9	4.7
下段/%							
女性・年代別	29歳以下	32	2	6	17	7	-
		100.0	6.3	18.8	53.1	21.9	-
	30歳代	72	3	26	33	10	-
		100.0	4.2	36.1	45.8	13.9	-
	40歳代	100	2	26	45	25	2
		100.0	2.0	26.0	45.0	25.0	2.0
	50歳代	77	5	29	24	17	2
	100.0	6.5	37.7	31.2	22.1	2.6	
60歳代	54	-	16	14	17	7	
	100.0	-	29.6	25.9	31.5	13.0	
70歳以上	22	-	4	7	7	4	
	100.0	-	18.2	31.8	31.8	18.2	
男性・年代別	29歳以下	25	-	13	8	4	-
		100.0	-	52.0	32.0	16.0	-
	30歳代	42	2	14	19	5	2
		100.0	4.8	33.3	45.2	11.9	4.8
	40歳代	72	1	22	36	12	1
		100.0	1.4	30.6	50.0	16.7	1.4
	50歳代	53	1	22	18	12	-
	100.0	1.9	41.5	34.0	22.6	-	
60歳代	50	-	12	15	21	2	
	100.0	-	24.0	30.0	42.0	4.0	
70歳以上	30	1	4	8	10	7	
	100.0	3.3	13.3	26.7	33.3	23.3	
雇用女性形態・別	正規雇用	152	7	44	81	18	2
		100.0	4.6	28.9	53.3	11.8	1.3
	非正規雇用	154	5	53	39	52	5
	100.0	3.2	34.4	25.3	33.8	3.2	
非就労者(学生を除く)	-	-	-	-	-	-	
	-	-	-	-	-	-	
雇用男性形態・別	正規雇用	164	3	67	72	19	3
		100.0	1.8	40.9	43.9	11.6	1.8
	非正規雇用	53	1	10	16	23	3
	100.0	1.9	18.9	30.2	43.4	5.7	
非就労者(学生を除く)	-	-	-	-	-	-	
	-	-	-	-	-	-	

		n	⑥研修の機会・内容				
			計 『男性優遇』	平等	計 『女性優遇』	わからない	無回答
全体		458	63	275	5	86	29
上段/実数		100.0	13.8	60.0	1.1	18.8	6.3
下段/%							
女性・年代別	29歳以下	12	-	10	-	2	-
		100.0	-	83.3	-	16.7	-
	30歳代	44	3	33	-	8	-
		100.0	6.8	75.0	-	18.2	-
	40歳代	71	9	45	1	13	3
		100.0	12.7	63.4	1.4	18.3	4.2
	50歳代	56	12	32	-	10	2
	100.0	21.4	57.1	-	17.9	3.6	
60歳代	54	11	22	1	14	6	
	100.0	20.4	40.7	1.9	25.9	11.1	
70歳以上	20	3	7	-	7	3	
	100.0	15.0	35.0	-	35.0	15.0	
男性・年代別	29歳以下	13	1	9	1	2	-
		100.0	7.7	69.2	7.7	15.4	-
	30歳代	25	1	20	1	2	1
		100.0	4.0	80.0	4.0	8.0	4.0
	40歳代	44	5	30	-	8	1
		100.0	11.4	68.2	-	18.2	2.3
	50歳代	39	6	28	-	5	-
	100.0	15.4	71.8	-	12.8	-	
60歳代	42	6	23	1	10	2	
	100.0	14.3	54.8	2.4	23.8	4.8	
70歳以上	29	6	10	-	5	8	
	100.0	20.7	34.5	-	17.2	27.6	
雇用女性形態・別	正規雇用	99	15	69	-	14	1
		100.0	15.2	69.7	-	14.1	1.0
	非正規雇用	119	18	62	1	32	6
	100.0	15.1	52.1	0.8	26.9	5.0	
非就労者(学生を除く)	-	-	-	-	-	-	
	-	-	-	-	-	-	
雇用男性形態・別	正規雇用	104	9	80	2	11	2
		100.0	8.7	76.9	1.9	10.6	1.9
	非正規雇用	41	6	21	-	11	3
	100.0	14.6	51.2	-	26.8	7.3	
非就労者(学生を除く)	-	-	-	-	-	-	
	-	-	-	-	-	-	

<前回調査（平成27年（2015年））との比較>（図表5-2-2）

前回調査の結果に比べ、男女ともに、全項目で「平等」の割合が上昇し、女性の「⑧出産・育児・介護休暇のとりやすさ」以外の全項目で「男性優遇」の割合が低下している。

「男性優遇」の割合は、女性では「①採用・募集」「⑤昇進・昇格・管理職への登用」「⑦働き続けやすい雰囲気」で、男性では「②仕事の内容・仕事の分担」「③昇給や賃金水準」「⑤昇進・昇格・管理職への登用」「⑦働き続けやすい雰囲気」で、10ポイント以上低下している。

働く環境においても、すこしずつ男女平等に向けての変化があることがうかがえる。

【図表5-2-2 前回調査との比較 仕事における平等感】

(%)

		女 性					男 性						
		n	計『男性優遇』	平等	計『女性優遇』	わからない	無回答	n	計『男性優遇』	平等	計『女性優遇』	わからない	無回答
①採用・募集	今回調査	357	24.1	47.6	10.1	15.4	2.8	272	34.6	47.8	2.9	11.8	2.9
	前回調査	467	34.3	40.5	5.1	14.3	5.8	497	41.6	41.4	3.8	10.1	3.0
	スコア差		-10.2	+7.1	+5.0	+1.1	-3.0		-7.0	+6.4	-0.9	+1.7	-0.1
②仕事の内容・仕事の分担	今回調査	357	29.4	49.6	8.7	9.2	3.1	272	29.4	44.5	10.7	12.1	3.3
	前回調査	467	33.8	40.3	7.7	12.6	5.6	497	39.8	34.2	12.9	10.1	3.0
	スコア差		-4.4	+9.3	+1.0	-3.4	-2.5		-10.4	+10.3	-2.2	+2.0	+0.3
③昇給や賃金水準	今回調査	357	41.2	42.0	0.6	12.6	3.6	272	27.6	51.5	2.6	14.3	4.0
	前回調査	467	49.5	31.9	0.6	12.6	5.4	497	45.1	40.0	0.8	10.1	4.0
	スコア差		-8.3	+10.1	0.0	0.0	-1.8		-17.5	+11.5	+1.8	+4.2	0.0
⑤昇進・昇格・管理職への登用	今回調査	357	45.4	32.5	0.6	17.6	3.9	272	36.8	39.0	3.7	16.9	3.7
	前回調査	467	59.7	21.0	0.9	12.8	5.6	497	55.1	26.0	2.4	12.3	4.2
	スコア差		-14.3	+11.5	-0.3	+4.8	-1.7		-18.3	+13.0	+1.3	+4.6	-0.5
⑥研修の機会・内容	今回調査	257	14.8	58.0	0.8	21.0	5.4	192	13.0	62.5	1.6	16.7	6.3
	前回調査	467	19.3	55.2	1.5	17.8	6.2	497	19.7	59.8	1.2	15.1	4.2
	スコア差		-4.5	+2.8	-0.7	+3.2	-0.8		-6.7	+2.7	+0.4	+1.6	+2.1
⑦働き続けやすい雰囲気	今回調査	357	19.9	58.5	4.2	12.9	4.5	272	19.5	55.9	6.6	14.3	3.7
	前回調査	467	33.0	42.2	6.0	12.8	6.0	497	30.8	47.3	5.4	13.1	3.4
	スコア差		-13.1	+16.3	-1.8	+0.1	-1.5		-11.3	+8.6	+1.2	+1.2	+0.3
⑧出産・育児・介護休暇のとりやすさ	今回調査	357	3.4	30.0	39.2	23.2	4.2	272	1.8	32.0	38.2	23.5	4.4
	前回調査	467	3.0	22.9	47.1	20.1	6.9	497	3.8	18.7	51.1	21.9	4.4
	スコア差		+0.4	+7.1	-7.9	+3.1	-2.7		-2.0	+13.3	-12.9	+1.6	0.0

※「④能力評価（業績評価・人事考課など）」は2020年度より新規質問

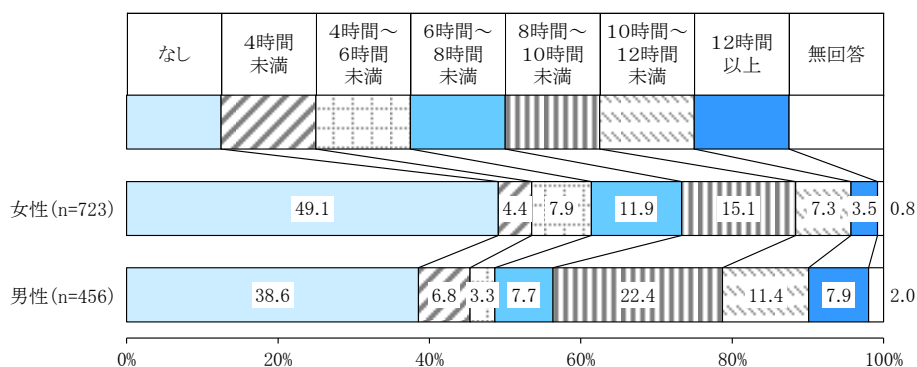
(3) 仕事や家事・育児・介護に要する時間

①仕事

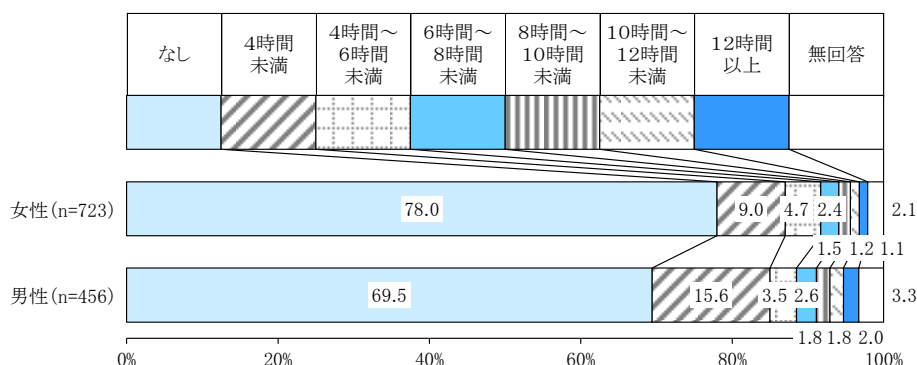
問 16 1日のうちで、あなたが仕事（在宅就労を含む）や、家事・育児・介護などをして
いる平均時間は、平日、休日それぞれでどのくらいですか。
(それぞれ〇はひとつずつ)

【図表 5-3① 仕事】

<平日>



<休日>



<性別> (図表 5-3①)

仕事時間について、回答者に高齢者が多いことも反映して、平日は、男女ともに「なし」が最も多く、女性で49.1%、男性で38.6%と、女性の方が10.5ポイント高い。次いで、男女ともに「8時間～10時間未満」で、女性15.1%、男性22.4%となっている。

休日も、男女ともに「なし」が最も多く、女性で78.0%、男性で69.5%と、ともに平日より大幅に高く、男性より女性の方が8.5ポイント高い。次いで、男女ともに「4時間未満」が、女性9.0%、男性15.6%となっている。

<性・年代別> (図表 5-3①-1、5-3①-2)

平日は、女性では、すべての年代で「なし」が最も多く、50歳代以下では3割前後、60歳代で52.2%、70歳以上で86.8%である。次いで50歳代までのすべての年代で「8時間～10時間未満」が続いている。29歳以下と30歳代では、「なし」がやや多い(29歳以下28.6%、30歳代27.6%)が「8時間～10時間未満」(29歳以下25.0%、30歳代26.5%)と拮抗している。

男性では、29歳以下、30歳代、50歳代では「8時間～10時間未満」、40歳代では「10時間

～12時間未満」が最も多くなっている。次いで同じく29歳以下、30歳代、50歳代では「10時間～12時間未満」が、40歳代では「8時間～10時間未満」それに続き、さらに50歳代以下のすべての年代で「12時間以上」が続いており、男性において長時間労働の傾向が読み取れる。一方定年退職後などの60歳代以上では「なし」が最も多くなっている。

休日は、女性では、すべての年代で「なし」が最も多く、29歳以下で62.5%、30～60歳代で7割台、70歳以上で92.1%である。しかし、次いで29歳以下で「6時間～8時間」、30～50歳代で「4時間未満」が1割台が続いている。

男性でも、すべての年代で「なし」が最も多く、29歳以下で47.9%、30歳代と60歳代で6割台、40～50歳代で5割台、70歳以上で88.4%である。すべての年代で「4時間未満」が次いでおり、29歳以下と40歳代で2割台、30歳代と50～60歳代で1割台である。

<性・雇用形態別> (図表 5-3①-1、5-3①-2)

平日は、男女とも正規雇用では「8時間～10時間未満」が最も多く4割台となっており、次いで、「10時間～12時間未満」が2割台、「12時間以上」1割台と続いている。ただし「12時間以上」で若干男性の割合が高くなっている。女性の非正規雇用では、「6時間～8時間未満」が29.2%と最も多く、次いで「4時間～6時間未満」が27.3%となっている。一方男性では「8時間～10時間未満」が34.0%と最も多く、次いで「6時間～8時間未満」が22.6%である。男女ともに正規雇用で就労時間が長い傾向があるが、女性では正規雇用と非正規雇用での就労時間の差が大きいと言える。

休日は、正規雇用では、男女ともに「なし」が6割台で最も多く、「4時間未満」が2割台が続いている。非正規雇用では、「なし」が女性で54.5%、男性で49.1%が最も多く、次いで女性で「4時間～6時間未満」が14.9%、男性で「4時間未満」が15.1%となっている。

【図表 5-3①-1 性・年代別/性・雇用形態別 仕事（平日）】

		n	①平日							
			なし	4時間未満	6 4時間未満	8 6時間未満	1 8 0時間未満	1 1 2 0時間未満	1 2 時間以上	無回答
全体	上段/実数	1,207	547	64	73	123	218	106	61	15
	下段/%	100.0	45.3	5.3	6.0	10.2	18.1	8.8	5.1	1.2
女性・年代別	29歳以下	56 100.0	16 28.6	4 7.1	2 3.6	9 16.1	14 25.0	9 16.1	1 1.8	1 1.8
	30歳代	98 100.0	27 27.6	7 7.1	8 8.2	14 14.3	26 26.5	8 8.2	8 8.2	- -
	40歳代	151 100.0	49 32.5	3 2.0	20 13.2	27 17.9	29 19.2	13 8.6	9 6.0	1 0.7
	50歳代	115 100.0	39 33.9	5 4.3	10 8.7	15 13.0	26 22.6	14 12.2	6 5.2	- -
	60歳代	113 100.0	59 52.2	6 5.3	12 10.6	15 13.3	12 10.6	6 5.3	1 0.9	2 1.8
	70歳以上	189 100.0	164 86.8	7 3.7	5 2.6	6 3.2	2 1.1	3 1.6	- -	2 1.1
男性・年代別	29歳以下	48 100.0	7 14.6	5 10.4	4 8.3	2 4.2	14 29.2	7 14.6	5 10.4	4 8.3
	30歳代	46 100.0	2 4.3	2 4.3	1 2.2	5 10.9	20 43.5	10 21.7	6 13.0	- -
	40歳代	79 100.0	10 12.7	5 6.3	- -	7 8.9	20 25.3	23 29.1	13 16.5	1 1.3
	50歳代	57 100.0	7 12.3	5 8.8	- -	6 10.5	22 38.6	9 15.8	8 14.0	- -
	60歳代	80 100.0	32 40.0	5 6.3	6 7.5	8 10.0	21 26.3	2 2.5	3 3.8	3 3.8
	70歳以上	146 100.0	118 80.8	9 6.2	4 2.7	7 4.8	5 3.4	1 0.7	1 0.7	1 0.7
雇用女性形態別	正規雇用	152 100.0	6 3.9	2 1.3	3 2.0	26 17.1	62 40.8	34 22.4	19 12.5	- -
	非正規雇用	154 100.0	- -	12 7.8	42 27.3	45 29.2	36 23.4	12 7.8	5 3.2	2 1.3
	非就労者 (学生を除く)	338 100.0	338 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
雇用男性形態別	正規雇用	164 100.0	5 3.0	6 3.7	2 1.2	11 6.7	68 41.5	43 26.2	28 17.1	1 0.6
	非正規雇用	53 100.0	6 11.3	6 11.3	5 9.4	12 22.6	18 34.0	3 5.7	2 3.8	1 1.9
	非就労者 (学生を除く)	151 100.0	151 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -

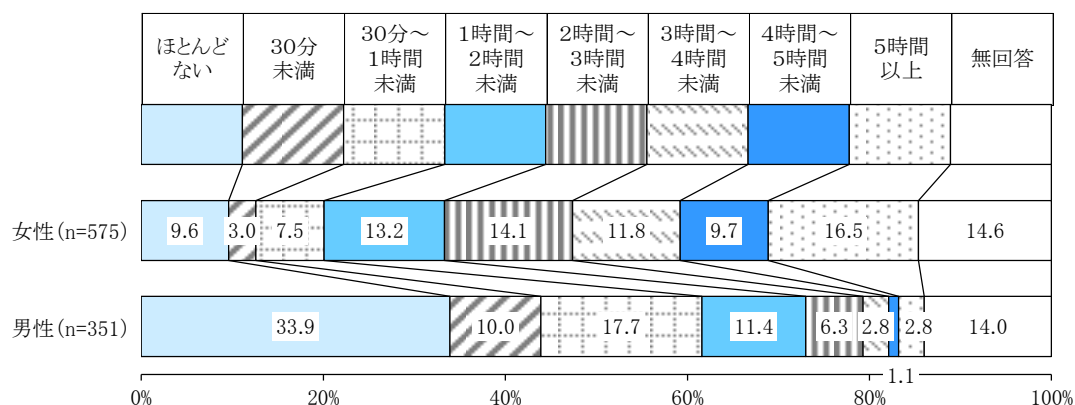
【図表 5-3①-2 性・年代別/性・雇用形態別 仕事（休日）】

		n	②休日							無回答
			なし	4時間未満	6時間未満	8時間未満	10時間未満	12時間未満	12時間以上	
全体	上段/実数 下段/%	1,207 100.0	901 74.6	141 11.7	50 4.1	29 2.4	21 1.7	17 1.4	17 1.4	31 2.6
女性・年代別	29歳以下	56 100.0	35 62.5	5 8.9	3 5.4	7 12.5	1 1.8	3 5.4	-	2 3.6
	30歳代	98 100.0	73 74.5	13 13.3	4 4.1	2 2.0	2 2.0	-	2 2.0	2 2.0
	40歳代	151 100.0	112 74.2	16 10.6	11 7.3	2 1.3	3 2.0	2 1.3	2 1.3	3 2.0
	50歳代	115 100.0	89 77.4	14 12.2	7 6.1	-	2 1.7	2 1.7	-	1 0.9
	60歳代	113 100.0	80 70.8	9 8.0	9 8.0	5 4.4	3 2.7	1 0.9	4 3.5	2 1.8
	70歳以上	189 100.0	174 92.1	8 4.2	-	1 0.5	-	1 0.5	-	5 2.6
男性・年代別	29歳以下	48 100.0	23 47.9	10 20.8	7 14.6	1 2.1	2 4.2	1 2.1	-	4 8.3
	30歳代	46 100.0	32 69.6	7 15.2	1 2.2	3 6.5	1 2.2	2 4.3	-	-
	40歳代	79 100.0	46 58.2	19 24.1	2 2.5	1 1.3	2 2.5	2 2.5	4 5.1	3 3.8
	50歳代	57 100.0	33 57.9	10 17.5	2 3.5	4 7.0	2 3.5	1 1.8	3 5.3	2 3.5
	60歳代	80 100.0	54 67.5	13 16.3	3 3.8	2 2.5	1 1.3	1 1.3	2 2.5	4 5.0
	70歳以上	146 100.0	129 88.4	12 8.2	1 0.7	1 0.7	-	1 0.7	-	2 1.4
雇用女性形態別	正規雇用	152 100.0	99 65.1	31 20.4	3 2.0	6 3.9	4 2.6	1 0.7	3 2.0	5 3.3
	非正規雇用	154 100.0	84 54.5	21 13.6	23 14.9	7 4.5	6 3.9	5 3.2	5 3.2	3 1.9
	非就労者 (学生を除く)	338 100.0	338 100.0	-	-	-	-	-	-	-
雇用男性形態別	正規雇用	164 100.0	99 60.4	38 23.2	6 3.7	4 2.4	5 3.0	5 3.0	4 2.4	3 1.8
	非正規雇用	53 100.0	26 49.1	8 15.1	4 7.5	4 7.5	2 3.8	2 3.8	3 5.7	4 7.5
	非就労者 (学生を除く)	151 100.0	151 100.0	-	-	-	-	-	-	-

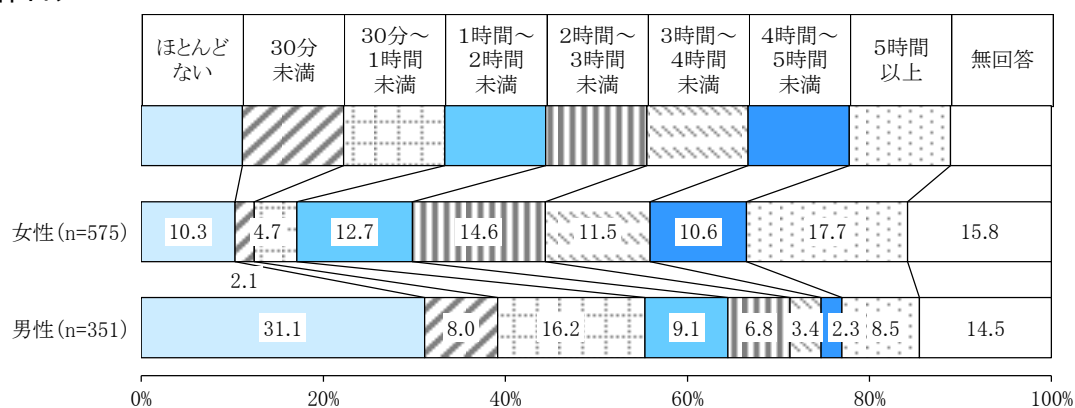
②家事・育児・介護など

【図表 5-3② 家事・育児・介護など】

<平日>



<休日>



<性別> (図表 5-3②)

家事・育児・介護などの時間について、平日は、女性では「5時間以上」(16.5%)、「2時間～3時間未満」(14.1%)、「1時間～2時間未満」(13.2%)の順に多くなっているが、男性では「ほとんどない」が33.9%で最も多く、次いで「30分～1時間未満」が17.7%で続いている。

休日は、女性では「5時間以上」(17.7%)、「2時間～3時間未満」(14.6%)、「1時間～2時間未満」(12.7%)などについて平日との間で大きな差はみられない。男性では「ほとんどない」が31.1%で最も多く、次いで「30分～1時間未満」が16.2%で続き、その他の多くの項目での割合も大きく変わらず、平日との間で大きな差はみられない。ただし、「5時間以上」が8.5%と、平日(2.8%)に比べて5.7ポイント高くなっている。

<性・年代別> (図表 5-3②-1、5-3②-2)

平日は、女性では29歳以下は「ほとんどない」「30分～1時間未満」がともに25.9%で最も多く、家事等の時間は短くなっているが、一方30～50歳代では「5時間以上」(30歳代34.4%、40歳代25.7%、50歳代18.6%)が最も多い。また60歳代では「3時間～4時間未満」が21.4%で最も多い。29歳以下で家事などの時間が短くなっているのは、家事を担ってくれる家族との同居、婚姻状況などにより影響を受けた結果と考えられる。

男性は、すべての年代で「ほとんどない」が最も多く、60歳代で25.0%、50歳代で41.9%、その他の年代では3割台となっている。

休日は、女性では平日と同様の傾向であるが、「5時間以上」が30歳代で35.9% (平日より1.5ポイント増)、40歳代で26.7% (平日より1.0ポイント増)、50歳代で22.1% (平日より3.5ポイント増)、60歳代で15.2% (平日より2.7ポイント増)と、平日より僅かながら増えている。

男性では、29歳以下、40～50歳代、70歳以上では「ほとんどない」が最も多いが、30歳代では「5時間以上」が34.5%で最も多く、休日における家事・育児・介護などへの参画が垣間見える。また、60歳代では「30分～1時間未満」が25.0%で最も多くなっている。

<性・雇用形態別> (図表 5-3②-1、5-3②-2)

平日は、女性は、正規雇用では「30分～1時間未満」「1時間～2時間未満」が21.2%で最も多く、非正規雇用では「1時間～2時間未満」が20.2%、「2時間～3時間未満」「5時間以上」が16.8%、非就労者では「5時間以上」が18.8%で最も多くなっている。

男性は、雇用形態を問わず「ほとんどない」が最も多くなっている。次いで、「30分～1時間未満」と続いている。

休日は、女性は、正規雇用では「1時間～2時間未満」が20.2%で最も多いが、「5時間以上」が19.2%と僅差で続いている。非正規雇用では「5時間以上」が18.5%、非就労者も「5時間以上」が17.4%で最も多い。

男性は、いずれの層でも「ほとんどない」が最も多いが、正規雇用では「5時間以上」が13.5%で続いている。非正規雇用、非就労者では、「30分～1時間未満」が19%台で続いている。

【図表 5-3②-1 性・年代別/性・雇用形態別 家事・育児・介護など（平日）】

		n	①平日								無回答
			ほとんどない	30分未満	13時間未満	21時間未満	32時間未満	43時間未満	54時間未満	5時間以上	
全体		950	179	52	107	120	103	81	61	111	136
上段/実数		100.0	18.8	5.5	11.3	12.6	10.8	8.5	6.4	11.7	14.3
下段/%											
女性・年代別	29歳以下	27	7	4	7	3	3	1	-	2	-
		100.0	25.9	14.8	25.9	11.1	11.1	3.7	-	7.4	-
	30歳代	64	2	1	8	12	4	4	8	22	3
		100.0	3.1	1.6	12.5	18.8	6.3	6.3	12.5	34.4	4.7
	40歳代	105	9	4	6	12	18	13	14	27	2
		100.0	8.6	3.8	5.7	11.4	17.1	12.4	13.3	25.7	1.9
50歳代	86	2	5	6	15	13	14	8	16	7	
	100.0	2.3	5.8	7.0	17.4	15.1	16.3	9.3	18.6	8.1	
60歳代	112	10	-	9	17	16	24	13	14	9	
	100.0	8.9	-	8.0	15.2	14.3	21.4	11.6	12.5	8.0	
70歳以上	180	25	3	7	17	27	12	13	14	62	
	100.0	13.9	1.7	3.9	9.4	15.0	6.7	7.2	7.8	34.4	
男性・年代別	29歳以下	25	8	4	4	5	-	-	-	2	2
		100.0	32.0	16.0	16.0	20.0	-	-	-	8.0	8.0
	30歳代	29	11	5	-	2	6	3	1	-	1
		100.0	37.9	17.2	-	6.9	20.7	10.3	3.4	-	3.4
	40歳代	50	17	5	8	9	5	2	-	1	3
		100.0	34.0	10.0	16.0	18.0	10.0	4.0	-	2.0	6.0
50歳代	43	18	6	10	5	3	-	-	-	1	
	100.0	41.9	14.0	23.3	11.6	7.0	-	-	-	2.3	
60歳代	68	17	9	14	11	4	2	2	-	9	
	100.0	25.0	13.2	20.6	16.2	5.9	2.9	2.9	-	13.2	
70歳以上	136	48	6	26	8	4	3	1	7	33	
	100.0	35.3	4.4	19.1	5.9	2.9	2.2	0.7	5.1	24.3	
雇用女性形態別	正規雇用	99	8	7	21	21	11	13	6	11	1
		100.0	8.1	7.1	21.2	21.2	11.1	13.1	6.1	11.1	1.0
	非正規雇用	119	7	5	11	24	20	16	12	20	4
	100.0	5.9	4.2	9.2	20.2	16.8	13.4	10.1	16.8	3.4	
非就労者(学生を除く)	298	28	2	7	22	44	31	32	56	76	
	100.0	9.4	0.7	2.3	7.4	14.8	10.4	10.7	18.8	25.5	
雇用男性形態別	正規雇用	104	37	11	23	13	9	3	2	3	3
		100.0	35.6	10.6	22.1	12.5	8.7	2.9	1.9	2.9	2.9
	非正規雇用	41	18	4	4	5	5	2	-	-	3
	100.0	43.9	9.8	9.8	12.2	12.2	4.9	-	-	7.3	
非就労者(学生を除く)	137	43	8	23	12	5	3	2	5	36	
	100.0	31.4	5.8	16.8	8.8	3.6	2.2	1.5	3.6	26.3	

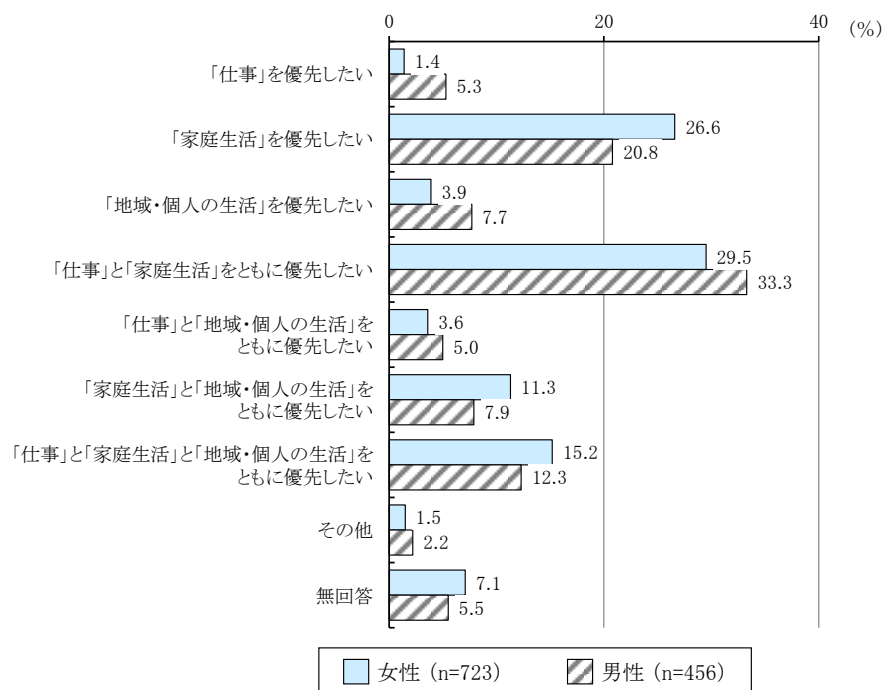
【図表 5-3②-2 性・年代別/性・雇用形態別 家事・育児・介護など（休日）】

		n	②休日								無回答	
			ほとんどない	30分未満	13時間未満	21時間未満	32時間未満	43時間未満	54時間未満	5時間以上		
全体		上段/実数 下段/%	950 100.0	171 18.0	41 4.3	86 9.1	107 11.3	112 11.8	81 8.5	69 7.3	138 14.5	145 15.3
女性・年代別	29歳以下	27 100.0	7 25.9	3 11.1	5 18.5	5 18.5	2 7.4	1 3.7	1 3.7	2 7.4	1 3.7	
	30歳代	64 100.0	3 4.7	1 1.6	3 4.7	13 20.3	6 9.4	5 7.8	6 9.4	23 35.9	4 6.3	
	40歳代	105 100.0	8 7.6	2 1.9	4 3.8	13 12.4	16 15.2	15 14.3	14 13.3	28 26.7	5 4.8	
	50歳代	86 100.0	1 1.2	2 2.3	1 1.2	13 15.1	15 17.4	12 14.0	16 18.6	19 22.1	7 8.1	
	60歳代	112 100.0	15 13.4	-	5 4.5	15 13.4	18 16.1	21 18.8	12 10.7	17 15.2	9 8.0	
	70歳以上	180 100.0	25 13.9	4 2.2	9 5.0	14 7.8	27 15.0	12 6.7	12 6.7	13 7.2	64 35.6	
男性・年代別	29歳以下	25 100.0	9 36.0	4 16.0	4 16.0	3 12.0	1 4.0	1 4.0	-	1 4.0	2 8.0	
	30歳代	29 100.0	7 24.1	4 13.8	-	3 10.3	2 6.9	1 3.4	1 3.4	10 34.5	1 3.4	
	40歳代	50 100.0	12 24.0	4 8.0	5 10.0	6 12.0	4 8.0	4 8.0	4 8.0	8 16.0	3 6.0	
	50歳代	43 100.0	18 41.9	4 9.3	4 9.3	7 16.3	4 9.3	3 7.0	1 2.3	1 2.3	1 2.3	
	60歳代	68 100.0	15 22.1	7 10.3	17 25.0	6 8.8	9 13.2	1 1.5	1 1.5	3 4.4	9 13.2	
	70歳以上	136 100.0	48 35.3	5 3.7	27 19.9	7 5.1	4 2.9	2 1.5	1 0.7	7 5.1	35 25.7	
雇用女性形態別	正規雇用	99 100.0	7 7.1	4 4.0	7 7.1	20 20.2	15 15.2	11 11.1	12 12.1	19 19.2	4 4.0	
	非正規雇用	119 100.0	12 10.1	2 1.7	7 5.9	17 14.3	21 17.6	19 16.0	14 11.8	22 18.5	5 4.2	
	非就労者 (学生を除く)	298 100.0	28 9.4	3 1.0	8 2.7	28 9.4	44 14.8	26 8.7	31 10.4	52 17.4	78 26.2	
雇用男性形態別	正規雇用	104 100.0	29 27.9	9 8.7	13 12.5	13 12.5	10 9.6	8 7.7	5 4.8	14 13.5	3 2.9	
	非正規雇用	41 100.0	15 36.6	2 4.9	8 19.5	3 7.3	5 12.2	1 2.4	-	4 9.8	3 7.3	
	非就労者 (学生を除く)	137 100.0	42 30.7	6 4.4	26 19.0	10 7.3	5 3.6	2 1.5	1 0.7	8 5.8	37 27.0	

(4) 希望する暮らし方

問 17 あなたは、希望として、どのような暮らし方をしたいと思いますか。(〇はひとつ)

【図表 5-4 希望する暮らし方】



<性別> (図表 5-4)

希望する暮らし方について、男女ともに「仕事と家庭生活をともに優先したい」が最も多く、女性で29.5%、男性で33.3%となっている。次いで、「家庭生活を優先したい」が、女性で26.6%、男性で20.8%となっている。さらに「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」が続いており、家庭生活を中心に仕事、地域・個人の生活のバランスがとれた生活を理想とする人が多くなっている。

<性・年代別> (図表 5-4-1)

女性では、50歳代以下のすべての年代では「仕事と家庭生活をともに優先したい」が3～4割台で最も多くなっており、次いで「家庭生活を優先したい」が2割台で続いている。60歳代では「仕事と家庭生活をともに優先したい」が27.4%でもっとも多いが、「家庭生活を優先したい」が23.9%の僅差で続いている。70歳以上は「家庭生活を優先したい」が31.7%で最も多くなっている。

男性でも、60歳代以下のすべての年代では「仕事と家庭生活をともに優先したい」が3～4割台で最も多くなっている。次いで50歳代以下では「家庭生活を優先したい」が1割台で続いている。ただし、60歳代では、「家庭生活を優先したい」が2割台となっている。70歳以上では「家庭生活を優先したい」が23.3%で最も多くなっている。

女性の40歳代、男性の30歳代、50歳代で「仕事と家庭生活をともに優先したい」の割合が全体と比べて10ポイント以上高くなっている。

<性・雇用形態別> (図表 5-4-1)

男女ともに、正規雇用、非正規雇用では「仕事と家庭生活をともに優先したい」が最も多く、非就労者では「家庭生活を優先したい」が最も多くなっている。

【図表 5-4-1 性・年代別/性・雇用形態別 希望する暮らし方】

		n	「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域・個人の生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	その他	無回答
全体	上段/実数	1,207	35	291	64	372	51	124	170	23	77
	下段/%	100.0	2.9	24.1	5.3	30.8	4.2	10.3	14.1	1.9	6.4
女性・年代別	29歳以下	56 100.0	- -	14 25.0	2 3.6	19 33.9	4 7.1	8 14.3	8 14.3	- -	1 1.8
	30歳代	98 100.0	2 2.0	29 29.6	2 2.0	36 36.7	2 2.0	9 9.2	16 16.3	1 1.0	1 1.0
	40歳代	151 100.0	3 2.0	37 24.5	2 1.3	66 43.7	7 4.6	13 8.6	21 13.9	- -	2 1.3
	50歳代	115 100.0	1 0.9	25 21.7	2 1.7	40 34.8	9 7.8	14 12.2	22 19.1	- -	2 1.7
	60歳代	113 100.0	2 1.8	27 23.9	6 5.3	31 27.4	3 2.7	17 15.0	23 20.4	1 0.9	3 2.7
	70歳以上	189 100.0	2 1.1	60 31.7	13 6.9	21 11.1	1 0.5	21 11.1	20 10.6	9 4.8	42 22.2
	男性・年代別	29歳以下	48 100.0	4 8.3	9 18.8	2 4.2	19 39.6	3 6.3	2 4.2	6 12.5	1 2.1
30歳代	46 100.0	1 2.2	8 17.4	3 6.5	20 43.5	1 2.2	2 4.3	10 21.7	1 2.2	- -	
40歳代	79 100.0	6 7.6	15 19.0	1 1.3	31 39.2	7 8.9	6 7.6	13 16.5	- -	- -	
50歳代	57 100.0	5 8.8	8 14.0	4 7.0	24 42.1	5 8.8	5 8.8	5 8.8	1 1.8	- -	
60歳代	80 100.0	1 1.3	21 26.3	11 13.8	27 33.8	3 3.8	2 2.5	12 15.0	1 1.3	2 2.5	
70歳以上	146 100.0	7 4.8	34 23.3	14 9.6	31 21.2	4 2.7	19 13.0	10 6.8	6 4.1	21 14.4	
雇用女性形態別	正規雇用	152 100.0	3 2.0	28 18.4	4 2.6	63 41.4	11 7.2	14 9.2	28 18.4	1 0.7	- -
	非正規雇用	154 100.0	4 2.6	25 16.2	3 1.9	74 48.1	5 3.2	10 6.5	30 19.5	1 0.6	2 1.3
	非就労者 (学生を除く)	338 100.0	1 0.3	125 37.0	18 5.3	46 13.6	6 1.8	55 16.3	35 10.4	8 2.4	44 13.0
雇用男性形態別	正規雇用	164 100.0	5 3.0	32 19.5	6 3.7	68 41.5	14 8.5	10 6.1	26 15.9	3 1.8	- -
	非正規雇用	53 100.0	5 9.4	10 18.9	4 7.5	20 37.7	3 5.7	4 7.5	6 11.3	1 1.9	- -
	非就労者 (学生を除く)	151 100.0	3 2.0	38 25.2	20 13.2	29 19.2	3 2.0	20 13.2	13 8.6	5 3.3	20 13.2

＜前回調査（平成 27 年（2015 年））との比較＞（図表 5-4-2）

前回調査の結果に比べ、女性では、「仕事と家庭生活をともに優先したい」が 5.4 ポイント上昇し、「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」が 4.5 ポイント低下している。

男性ではどの項目でも大きな変化はみられなかった。

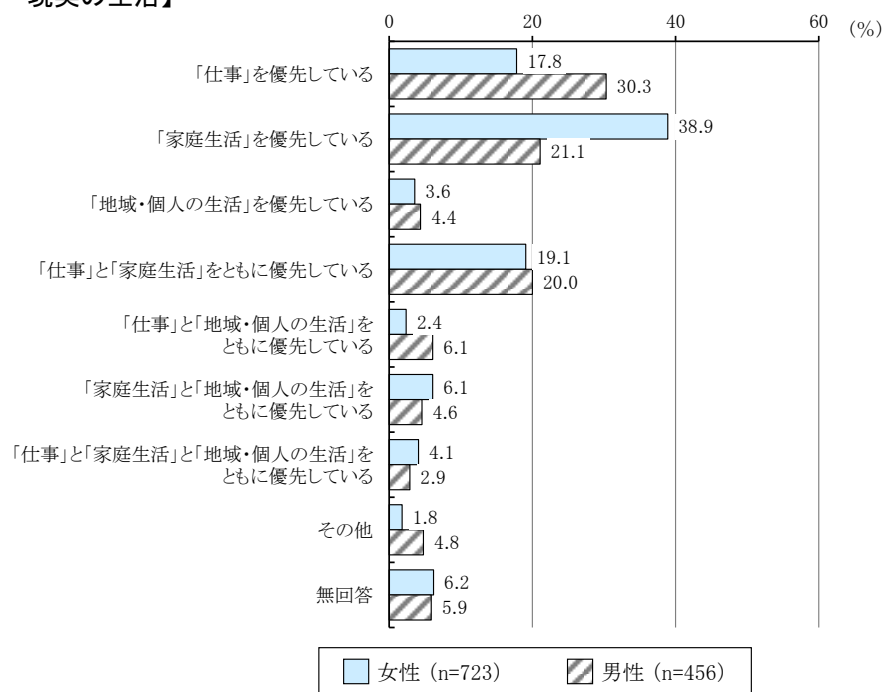
【図表 5-4-2 前回調査との比較 希望する暮らし方】

		(%)										
		n	「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域・個人の生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「個人の生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	その他	無回答
女性	今回調査	723	1.4	26.6	3.9	29.5	3.6	11.3	15.2	1.5	7.1	
	前回調査	1,064	2.1	28.2	5.5	24.1	3.8	15.8	13.5	2.3	4.9	
	スコア差		-0.7	-1.6	-1.6	+5.4	-0.2	-4.5	+1.7	-0.8	+2.2	
男性	今回調査	456	5.3	20.8	7.7	33.3	5.0	7.9	12.3	2.2	5.5	
	前回調査	780	5.6	20.4	7.6	32.6	5.3	8.5	13.6	3.3	3.2	
	スコア差		-0.3	+0.4	+0.1	+0.7	-0.3	-0.6	-1.3	-1.1	+2.3	

(5) 現実の生活

問 18 あなたの現実の生活に最も近いものはどれですか。(〇はひとつ)

【図表 5-5 現実の生活】



<性別> (図表 5-5)

現実の生活について、女性では「家庭生活を優先している」が 38.9%で最も多く、次いで「仕事と家庭生活をともに優先している」が 19.1%、「仕事を優先している」が 17.8%となっている。男性では「仕事を優先している」が 30.3%で最も多く、次いで「家庭生活を優先している」が 21.1%、「仕事と家庭生活をともに優先している」が 20.0%となっている。

男女で差が顕著なのは、「家庭生活を優先している」で、女性が男性より 17.8 ポイント高く、「仕事を優先している」では男性が女性より 12.5 ポイント高くなっている。

<性・年代別> (図表 5-5-1)

女性では、29 歳以下で「仕事を優先している」(39.3%) が最も多いが、次いで「家庭生活を優先している」(21.4%) が続いている。30 歳代、40 歳代では「家庭生活を優先している」が 3 割～4 割台で最も多いが、次いで「仕事を優先している」と「仕事と家庭をともに優先している」がこの順番で僅差の 2 割台で続いている。50 歳代で「仕事と家庭生活をともに優先している」(28.7%) が最も多くなっているが、次いで「仕事を優先している」(27.8%) と「家庭生活を優先している」(27.0%) が僅差で続いている。60 歳代、70 歳代では、「家庭生活を優先している」が最も多くなっている。女性では年代毎で傾向が異なる。

一方男性では、60 歳代以下のすべての年代で「仕事を優先している」が最も多く、50 歳代以下のすべての年代で「仕事と家庭をともに優先する」がそれに続いている。男性では 60 歳代以下の年代では年代に関わらずほぼ傾向は同じである。また、70 歳以上では、女性同様、「家庭生活を優先している」が最も多くなっている。現実では、男女が対照的である。

<性・雇用形態別> (図表 5-5-1)

正規雇用では、男女とも、「仕事を優先している」が4割台で最も多く、「仕事と家庭生活をともに優先している」が3割台で続いている。非正規雇用では、女性では「仕事と家庭生活をともに優先している」が36.4%で最も多く、男性では「仕事を優先している」が47.2%で最も多い。女性では雇用形態によって意識に差があるが、男性では雇用形態に関わらず一貫して仕事を優先する意識が強いことが読み取れる。非就労者では、男女とも、「家庭生活を優先している」が最も多く、女性で60.7%、男性で42.4%となっている。

【図表 5-5-1 性・年代別/性・雇用形態別 現実の生活】

		n	「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人の生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	その他	無回答
全体	上段/実数	1,207	272	390	47	232	47	65	43	37	74
	下段/%	100.0	22.5	32.3	3.9	19.2	3.9	5.4	3.6	3.1	6.1
女性・年代別	29歳以下	56	22	12	5	7	5	1	-	2	2
		100.0	39.3	21.4	8.9	12.5	8.9	1.8	-	3.6	3.6
	30歳代	98	25	39	-	25	2	3	3	1	-
		100.0	25.5	39.8	-	25.5	2.0	3.1	3.1	1.0	-
	40歳代	151	31	70	1	32	4	2	9	1	1
		100.0	20.5	46.4	0.7	21.2	2.6	1.3	6.0	0.7	0.7
	50歳代	115	32	31	1	33	3	7	5	-	3
	100.0	27.8	27.0	0.9	28.7	2.6	6.1	4.3	-	2.6	
60歳代	113	13	44	4	29	2	10	5	1	5	
	100.0	11.5	38.9	3.5	25.7	1.8	8.8	4.4	0.9	4.4	
70歳以上	189	6	85	14	12	1	21	8	8	34	
	100.0	3.2	45.0	7.4	6.3	0.5	11.1	4.2	4.2	18.0	
男性・年代別	29歳以下	48	18	7	5	9	4	-	-	3	2
		100.0	37.5	14.6	10.4	18.8	8.3	-	-	6.3	4.2
	30歳代	46	17	3	3	15	4	1	3	-	-
		100.0	37.0	6.5	6.5	32.6	8.7	2.2	6.5	-	-
	40歳代	79	32	9	-	23	8	3	2	1	1
		100.0	40.5	11.4	-	29.1	10.1	3.8	2.5	1.3	1.3
	50歳代	57	28	3	2	15	6	1	2	-	-
	100.0	49.1	5.3	3.5	26.3	10.5	1.8	3.5	-	-	
60歳代	80	26	19	4	17	2	4	2	3	3	
	100.0	32.5	23.8	5.0	21.3	2.5	5.0	2.5	3.8	3.8	
70歳以上	146	17	55	6	12	4	12	4	15	21	
	100.0	11.6	37.7	4.1	8.2	2.7	8.2	2.7	10.3	14.4	
雇用女性形態別	正規雇用	152	70	20	2	47	8	1	4	-	-
		100.0	46.1	13.2	1.3	30.9	5.3	0.7	2.6	-	-
	非正規雇用	154	40	37	2	56	5	2	11	-	1
	100.0	26.0	24.0	1.3	36.4	3.2	1.3	7.1	-	0.6	
非就労者(学生を除く)	338	4	205	19	14	1	40	6	9	40	
	100.0	1.2	60.7	5.6	4.1	0.3	11.8	1.8	2.7	11.8	
雇用男性形態別	正規雇用	164	71	8	1	54	19	4	6	1	-
		100.0	43.3	4.9	0.6	32.9	11.6	2.4	3.7	0.6	-
	非正規雇用	53	25	6	3	14	4	-	1	-	-
	100.0	47.2	11.3	5.7	26.4	7.5	-	1.9	-	-	
非就労者(学生を除く)	151	3	64	12	8	2	17	4	18	23	
	100.0	2.0	42.4	7.9	5.3	1.3	11.3	2.6	11.9	15.2	

<前回調査（平成 27 年（2015 年））との比較>（図表 5-5-2）

前回調査の結果に比べ、女性では、大きな変化はみられなかった。

男性では、「仕事を優先している」が 5.9 ポイント低下している。

【図表 5-5-2 前回調査との比較 現実の生活】

											(%)
		n	「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人の生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「個人生活」と「地域生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	その他	無回答
女性	今回調査	723	17.8	38.9	3.6	19.1	2.4	6.1	4.1	1.8	6.2
	前回調査	1,064	16.7	40.8	4.6	16.2	2.3	9.3	3.1	2.8	4.2
	スコア差		+1.1	-1.9	-1.0	+2.9	+0.1	-3.2	+1.0	-1.0	+2.0
男性	今回調査	456	30.3	21.1	4.4	20.0	6.1	4.6	2.9	4.8	5.9
	前回調査	780	36.2	20.8	5.6	17.9	4.1	4.7	3.8	3.1	3.7
	スコア差		-5.9	+0.3	-1.2	+2.1	+2.0	-0.1	-0.9	+1.7	+2.2

<理想-現実のスコア差①（図表 5-5-3）>

「仕事を優先している」は、女性の 50 歳代以下、男性の 60 歳代以下のスコアにおいて、現実が希望を大きく上回っており、希望する以上に仕事を優先せざるを得ない状況がうかがわれる。特に女性の 29 歳以下、と男性の 50 歳代において、ポイントの絶対値が高く、現実と希望の乖離が大きい。

「家庭生活を優先している」は、特に 40 歳代の女性において、希望よりも現実に優先せざるを得ない状況がある。反対に男性の 30 歳代では、希望のスコアが現実のスコアより 10 ポイント以上高く、家庭を優先したいと思っているが、できない割合がやや高い。

「仕事と家庭生活をともに優先している」は女性の 40 歳代以下、男性のすべての年代において、希望スコアが現実スコアを上回っており、ワーク・ファミリーバランスを取りたくても取れない状況にある回答者の割合が高い。

「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先している」については、男女ともすべての年代の値がプラスであり、希望が満たされていない状況がうかがわれる。特に女性の 29 歳以下、30 歳代、50 歳代、60 歳代、男性の 29 歳以下、30 歳代、40 歳代、60 歳代でその傾向が強い。

雇用形態別では、男女ともに、正規雇用において、「仕事を優先している」のスコアの差が 40 ポイント台であり、現実において特に仕事優先の傾向が見られる。非正規雇用においてもその同様の傾向である。

【図表 5-5-3 性・年代別/性・雇用形態別 希望－現実のスコア差】

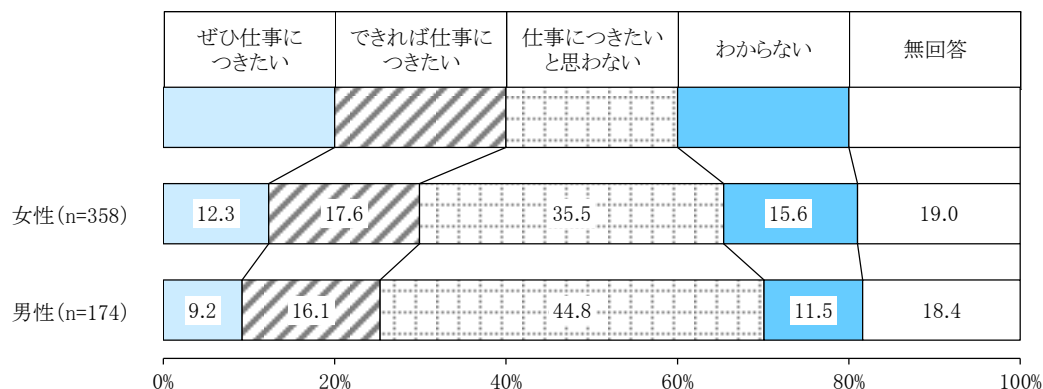
		「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人の生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
全体		-19.6	-8.2	+1.4	+11.6	+0.3	+4.9	+10.5
性別	女性	-16.4	-12.3	+0.3	+10.4	+1.2	+5.2	+11.1
	男性	-25.0	-0.3	+3.3	+13.3	-1.1	+3.3	+9.4
女性・年代別	29歳以下	-39.3	+3.6	-5.3	+21.4	-1.8	+12.5	+14.3
	30歳代	-23.5	-10.2	+2.0	+11.2	0.0	+6.1	+13.2
	40歳代	-18.5	-21.9	+0.6	+22.5	+2.0	+7.3	+7.9
	50歳代	-26.9	-5.3	+0.8	+6.1	+5.2	+6.1	+14.8
	60歳代	-9.7	-15.0	+1.8	+1.7	+0.9	+6.2	+16.0
	70歳以上	-2.1	-13.3	-0.5	+4.8	0.0	0.0	+6.4
男性・年代別	29歳以下	-29.2	+4.2	-6.2	+20.8	-2.0	+4.2	+12.5
	30歳代	-34.8	+10.9	0.0	+10.9	-6.5	+2.1	+15.2
	40歳代	-32.9	+7.6	+1.3	+10.1	-1.2	+3.8	+14.0
	50歳代	-40.3	+8.7	+3.5	+15.8	-1.7	+7.0	+5.3
	60歳代	-31.2	+2.5	+8.8	+12.5	+1.3	-2.5	+12.5
	70歳以上	-6.8	-14.4	+5.5	+13.0	0.0	+4.8	+4.1
女性・雇用形態別	正規雇用	-44.1	+5.2	+1.3	+10.5	+1.9	+8.5	+15.8
	非正規雇用	-23.4	-7.8	+0.6	+11.7	0.0	+5.2	+12.4
	非就労者(学生を除く)	-0.9	-23.7	-0.3	+9.5	+1.5	+4.5	+8.6
男性・雇用形態別	正規雇用	-40.3	+14.6	+3.1	+8.6	-3.1	+3.7	+12.2
	非正規雇用	-37.8	+7.6	+1.8	+11.3	-1.8	+7.5	+9.4
	非就労者(学生を除く)	0.0	-17.2	+5.3	+13.9	+0.7	+1.9	+6.0

(6) 今後の就労意向

【問 14 は、現在「収入を得る仕事をしていない」方にお聞きします。】

問 14 あなたは、今後、収入を得る仕事につきたいと思いますか。(〇はひとつ)

【図表 5-6 今後の就労意向】



<性別> (図表 5-6)

現在、収入を得る仕事をしていない人に、就労の希望をたずねたところ、男女とも、「仕事につきたいと思わない」が女性 35.5%、男性 44.8%で最も多く、また女性に比べ男性の方が 9.3 ポイント高くなっている。これはこの問の回答者に 60 歳代以上が多くなっていることに影響を受けた結果と考えられる。

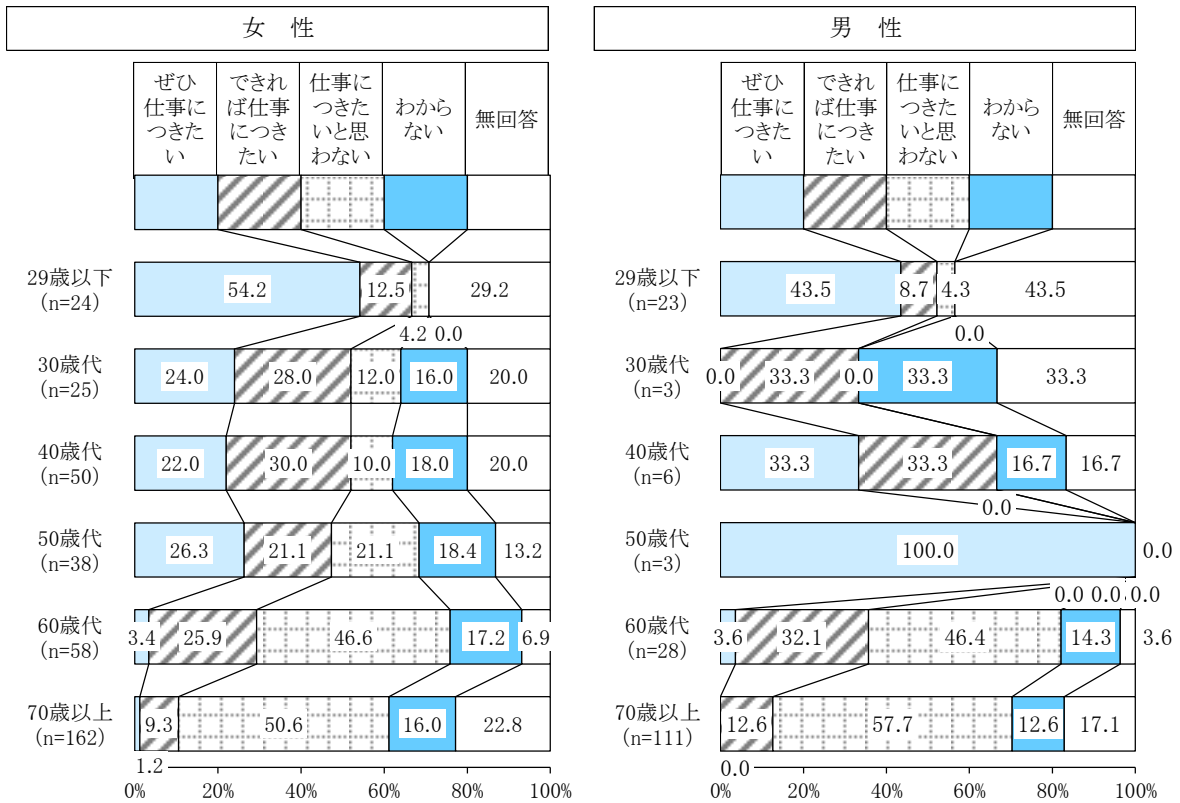
一方、「ぜひ仕事につきたい」と「できれば仕事につきたい」を合わせた「仕事につきたい」の割合は、女性 29.9%、男性 25.3%で、女性の方が 4.6 ポイント高くなっている。

<性・年代別> (図表 5-6-1)

女性では、29 歳以下で「ぜひ仕事につきたい」が 54.2%で最も多くなっている。30～40 歳代は「できれば仕事につきたい」が 3 割で最も多くなっており、「ぜひ仕事につきたい」が 2 割台で続いている。50 歳代では、「ぜひ仕事につきたい」が 26.3%で最も多くなっており、「できれば仕事につきたい」が 21.1%となっている。60 歳代以上の年代では「仕事につきたいと思わない」が 4～5 割で最も多くなっている。60 歳代以下では、就労の意欲は年代にかかわらず一定ある。

男性では、60 歳代は「仕事につきたいと思わない」が 46.4%で最も多く、次いで「できれば仕事につきたい」が 32.1%となっている。70 歳以上では「仕事につきたいと思わない」が 57.7%を占めている。(※男性 50 歳代以下は、回答者数が少ないため、参考値とする。)

【図表 5-6-1 性・年代別 今後の就労意向】



＜前回調査（平成 27 年（2015 年））との比較＞（図表 5-6-2）

前回調査の結果に比べ、女性で「できれば仕事につきたい」が 5.4 ポイント低下している。男性では、大きな変化はみられなかった。

【図表 5-6-2 前回調査との比較 今後の就労意向】

	女性						男性					
	n	ぜひ仕事につきたい	できれば仕事につきたい	仕事につきたいと思わない	わからない	無回答	n	ぜひ仕事につきたい	できれば仕事につきたい	仕事につきたいと思わない	わからない	無回答
今回調査	358	12.3	17.6	35.5	15.6	19.0	174	9.2	16.1	44.8	11.5	18.4
前回調査	564	12.6	23.0	33.5	13.7	17.2	246	8.1	17.9	43.9	11.0	19.1
スコア差		-0.3	-5.4	+2.0	+1.9	+1.8		+1.1	-1.8	+0.9	+0.5	-0.7

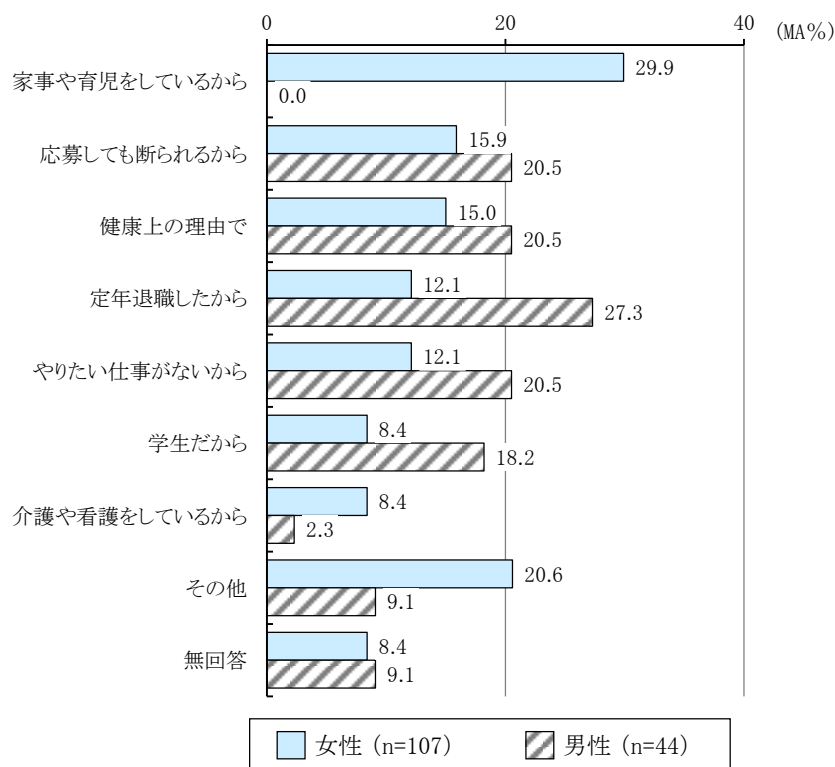
(7) 働いていない理由

【問 14-1・問 14-2 は、仕事につきたいのに、仕事についていない方にお聞きします。】

問 14-1 仕事につきたいのに、仕事についていない理由をお聞かせください。

(〇はいくつでも)

【図表 5-7 働いていない理由】



<性別> (図表 5-7)

現在、収入を得る仕事をしていない人に、働いていない理由をたずねたところ、女性では「家事や育児をしているから」が 29.9%で最も多くなっており、次いで「その他」(20.6%)、「応募しても断られるから」(15.9%)、「健康上の理由で」(15.0%)となっている。男性では「定年退職したから」が 27.3%で最も多く、次いで「応募しても断られるから」「健康上の理由で」「やりたい仕事がないから」が 20.5%で並んでいる。

「家事や育児をしているから」は男性では 0%のため、女性の方が 29.9 ポイント高くなっている。一方、「定年退職したから」は、男性の方が 15.2 ポイント高い。

<性・年代別> (図表 5-7-1)

女性では、40 歳代は「家事や育児をしているから」が 50.0%で最も多くなっている。(※その他の層は、回答者数が少ないため、参考値とする。)

【図表 5-7-1 性・年代別 働いていない理由】

		n	し家で て事 いる や育 か児 らを	ら応 れ募 るし かて らも 断	で健 康上 の理 由	か定 年退 職し た	がや りた いか い ら仕 事	学 生 だ か ら	し介 護 や 看 護 を	そ の 他	無 回 答
全体 上段/実数		156	34	27	26	25	22	17	10	27	13
下段/MA%		100.0	21.8	17.3	16.7	16.0	14.1	10.9	6.4	17.3	8.3
女 性	29歳以下	16 100.0	2 12.5	2 12.5	- -	- -	2 12.5	8 50.0	- -	- -	4 25.0
	30歳代	13 100.0	9 69.2	- -	2 15.4	- -	2 15.4	1 7.7	- -	3 23.1	1 7.7
	40歳代	26 100.0	13 50.0	3 11.5	2 7.7	- -	2 7.7	- -	3 11.5	6 23.1	2 7.7
	50歳代	18 100.0	5 27.8	7 38.9	6 33.3	- -	3 16.7	- -	3 16.7	5 27.8	- -
	60歳代	17 100.0	2 11.8	1 5.9	3 17.6	6 35.3	3 17.6	- -	3 17.6	3 17.6	1 5.9
	70歳以上	17 100.0	1 5.9	4 23.5	3 17.6	7 41.2	1 5.9	- -	- -	5 29.4	1 5.9
	29歳以下	12 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	8 66.7	- -	- -	4 33.3
30歳代	1 100.0	- -	1 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	
40歳代	4 100.0	- -	2 50.0	1 25.0	- -	2 50.0	- -	- -	- -	- -	
50歳代	3 100.0	- -	1 33.3	2 66.7	- -	- -	- -	- -	- -	- -	
60歳代	10 100.0	- -	2 20.0	4 40.0	7 70.0	4 40.0	- -	1 10.0	- -	- -	
70歳以上	14 100.0	- -	3 21.4	2 14.3	5 35.7	3 21.4	- -	- -	4 28.6	- -	

＜前回調査（平成 27 年（2015 年））との比較＞（図表 5-7-2）

前回調査の結果に比べ、女性で、「応募しても断られるから」が 11.8 ポイント、「やりたい仕事がないから」8.2 ポイント、男性で「応募しても断られるから」が 14.4 ポイント、「やりたい仕事がないから」が 13.6 ポイント上昇している。この結果は調査期間がコロナ対応やコロナ対応における経済的影響があった時期であったため、それにより仕事の採用が減ったことに影響を受けている可能性があるかもしれない。また、男性で「学生だから」が 14.5 ポイント上昇している。一方、男性では「定年退職したから」が 31.6 ポイント低下している。

【図表 5-7-2 前回調査との比較 働いていない理由】

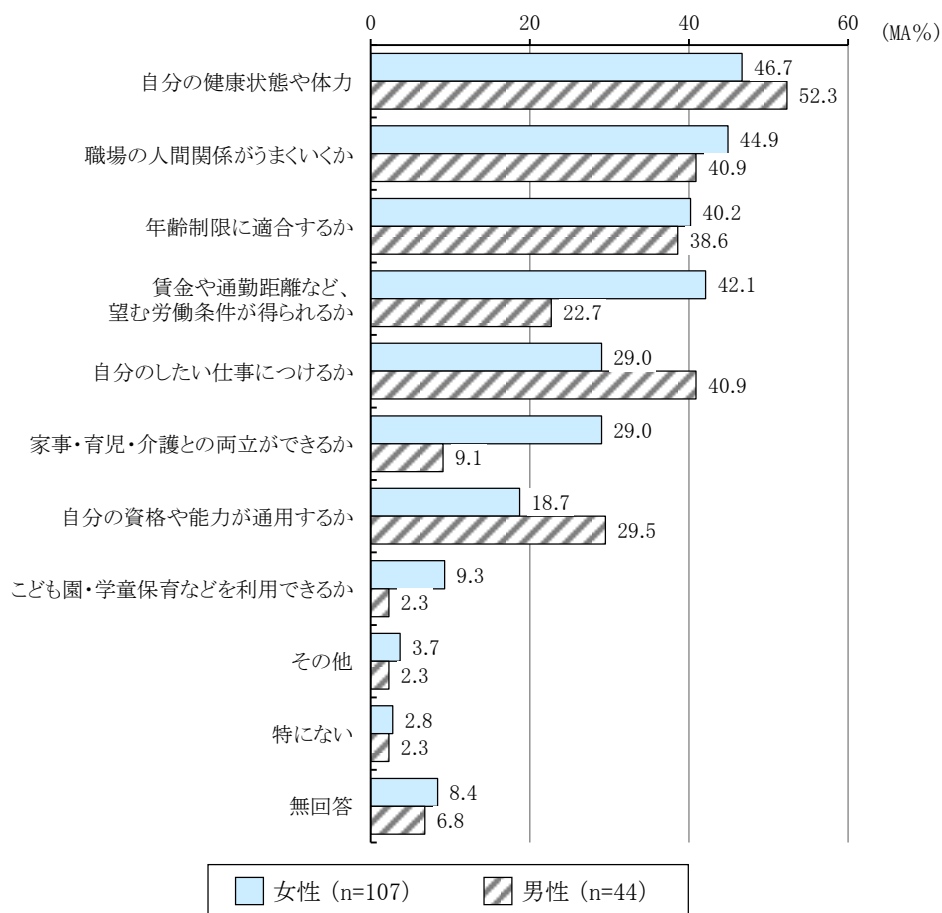
		n	し家で て事 いる や育 か児 らを	ら応 れ募 るし かて らも 断	で健 康上 の理 由	か定 年退 職し た	がや りた いか い ら仕 事	学 生 だ か ら	し介 護 や 看 護 を	そ の 他	無 回 答
女 性	今回調査	107	29.9	15.9	15.0	12.1	12.1	8.4	8.4	20.6	8.4
	前回調査	564	21.5	4.1	22.7	15.4	3.9	1.8	7.4	19.1	9.8
	スコア差		+8.4	+11.8	-7.7	-3.3	+8.2	+6.6	+1.0	+1.5	-1.4
男 性	今回調査	44	-	20.5	20.5	27.3	20.5	18.2	2.3	9.1	9.1
	前回調査	246	0.8	6.1	25.6	58.9	6.9	3.7	4.5	6.9	7.7
	スコア差		-0.8	+14.4	-5.1	-31.6	+13.6	+14.5	-2.2	+2.2	+1.4

(MA%)

(8) 仕事につく上での不安

【問 14-1・問 14-2 は、仕事につきたいのに、仕事についていない方にお聞きします。】
 問 14-2 仕事につく上で、不安を感じることや困ることはありますか。(〇はいくつでも)

【図表 5-8 仕事につく上での不安】



<性別> (図表 5-8)

仕事につきたい、できれば仕事につきたいと回答した人に、仕事につく上で困ったことや不安についてたずねたところ、男女とも「自分の健康状態や体力」が最も多く、女性で 46.7%、男性で 52.3%となっている。次いで、女性では、「職場の人間関係がうまくいくか」(44.9%)、「賃金や通勤距離など、望む労働条件が得られるか」(42.1%)、「年齢制限に適合するか」(40.2%)が4割台で続いている。男性では「職場の人間関係がうまくいくか」と「自分のしたい仕事につけるか」が 40.9%で続いている。

男女差の大きい項目をみると、「賃金や通勤距離など、望む労働条件が得られるか」は 19.4 ポイント、「家事・育児・介護との両立ができるか」は 19.9 ポイント、女性の方が高く、一方「自分のしたい仕事につけるか」は 11.9 ポイント、「自分の資格や能力が通用するか」は 10.8 ポイント、男性の方が高くなっている。

<性・年代別> (図表 5-8-1)

女性では、40歳代（回答者数 26 人）では「自分の健康状態や体力」「職場の人間関係がうまくいくか」が 50.0%で最も多くなっている。（※その他の層は、回答者数が少ないため、参考値とする。）

【図表 5-8-1 性・年代別 仕事につく上での不安】

		n	体自 分の 健康 状態 や	う職 場の 人間 関係 が	る年 齢制 限に 適合 す	がど 賃金 や通 勤距 離な ど、 望む 労働 条件	に自 分の 健康 状態 や	かと 家事 ・育 児が でき るか	が自 分の 資格 や能 力	る育 など も園 ・学 童保 育	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全体	上段/実数	156	76	67	64	55	50	37	33	11	5	4	12
	下段/MA%	100.0	48.7	42.9	41.0	35.3	32.1	23.7	21.2	7.1	3.2	2.6	7.7
女性	29歳以下	16	2	8	1	6	6	4	3	2	-	1	5
		100.0	12.5	50.0	6.3	37.5	37.5	25.0	18.8	12.5	-	6.3	31.3
	30歳代	13	3	7	4	9	5	9	3	7	1	-	-
		100.0	23.1	53.8	30.8	69.2	38.5	69.2	23.1	53.8	7.7	-	-
	40歳代	26	13	13	7	11	7	11	4	1	1	1	1
		100.0	50.0	50.0	26.9	42.3	26.9	42.3	15.4	3.8	3.8	3.8	3.8
	50歳代	18	12	9	10	10	7	6	5	-	1	-	-
	100.0	66.7	50.0	55.6	55.6	38.9	33.3	27.8	-	5.6	-	-	
60歳代	17	12	8	10	4	4	1	3	-	1	-	-	
	100.0	70.6	47.1	58.8	23.5	23.5	5.9	17.6	-	5.9	-	-	
70歳以上	17	8	3	11	5	2	-	2	-	-	1	3	
	100.0	47.1	17.6	64.7	29.4	11.8	-	11.8	-	-	5.9	17.6	
男性	29歳以下	12	6	7	1	3	6	2	5	1	-	-	3
		100.0	50.0	58.3	8.3	25.0	50.0	16.7	41.7	8.3	-	-	25.0
	30歳代	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-
		100.0	-	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-
	40歳代	4	1	2	-	-	1	-	-	-	1	-	-
		100.0	25.0	50.0	-	-	25.0	-	-	-	25.0	-	-
	50歳代	3	2	2	2	1	1	-	2	-	-	-	-
	100.0	66.7	66.7	66.7	33.3	33.3	-	66.7	-	-	-	-	
60歳代	10	8	5	5	4	7	1	4	-	-	-	-	
	100.0	80.0	50.0	50.0	40.0	70.0	10.0	40.0	-	-	-	-	
70歳以上	14	6	1	9	2	3	-	2	-	-	1	-	
	100.0	42.9	7.1	64.3	14.3	21.4	-	14.3	-	-	7.1	-	

<前回調査（平成 27 年（2015 年））との比較> (図表 5-8-2)

前回調査の結果に比べ、女性では、「家事・育児・介護との両立ができるか」が 19.3 ポイント低下し、「職場の人間関係がうまくいくか」が 15.0 ポイント、「賃金や通勤距離など、望む労働条件が得られるか」が 24.7 ポイント上昇している。

男性では、「職場の人間関係がうまくいくか」が 15.9 ポイント上昇している。

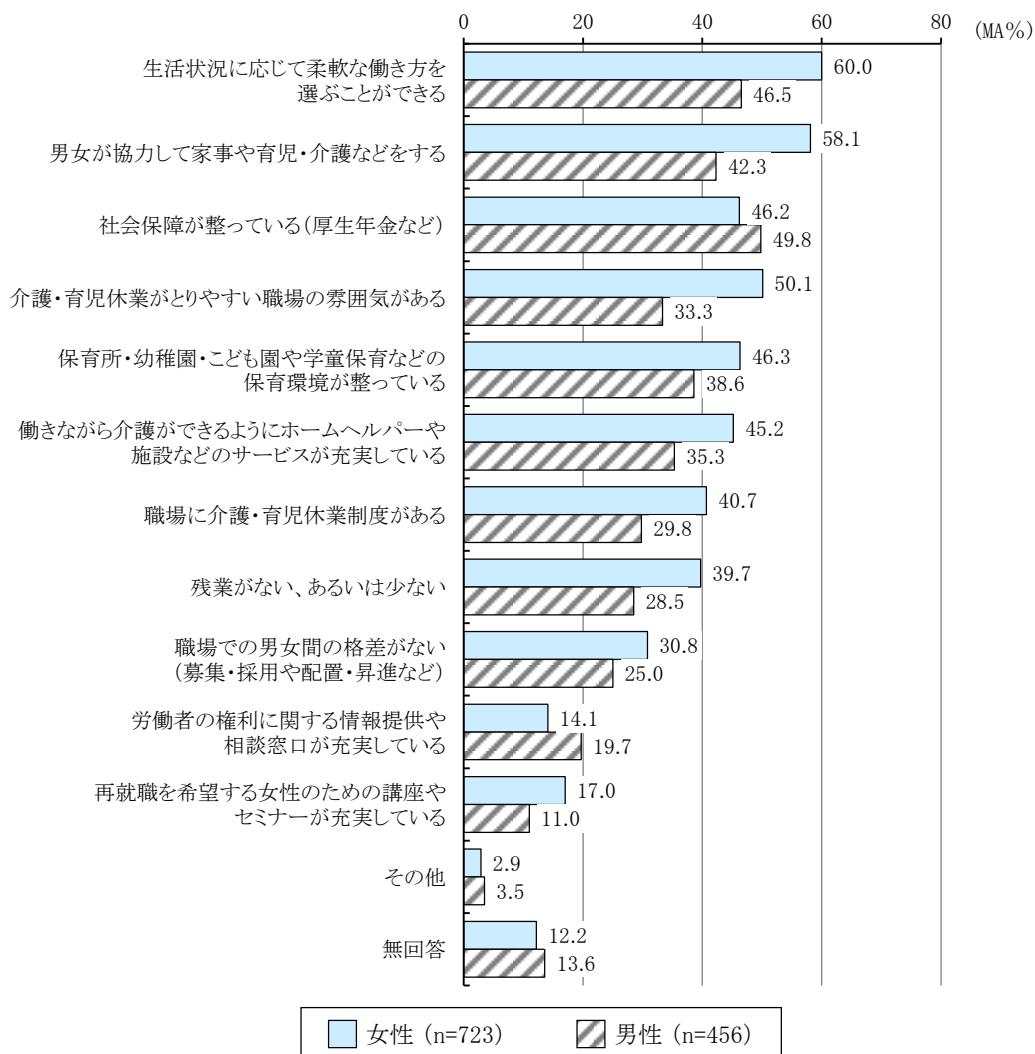
【図表 5-8-2 前回調査との比較 仕事につく上での不安】

		n	に自 分の 健康 状態 や	が自 分の 資格 や能 力	う職 場の 人間 関係 が	がど 賃金 や通 勤距 離な ど、 望む 労働 条件	体自 分の 健康 状態 や	かと 家事 ・育 児が でき るか	が自 分の 資格 や能 力	る育 など も園 ・学 童保 育	そ の 他	特 に な い	無 回 答
女性	今回調査	107	29.0	18.7	44.9	42.1	46.7	29.0	9.3	40.2	3.7	2.8	8.4
	前回調査	201	34.8	24.4	29.9	17.4	44.8	48.3	17.4	38.8	1.5	2.5	2.0
	スコア差		-5.8	-5.7	+15.0	+24.7	+1.9	-19.3	-8.1	+1.4	+2.2	+0.3	+6.4
男性	今回調査	44	40.9	29.5	40.9	22.7	52.3	9.1	2.3	38.6	2.3	2.3	6.8
	前回調査	64	50.0	37.5	25.0	20.3	46.9	4.7	-	40.6	3.1	3.1	1.6
	スコア差		-9.1	-8.0	+15.9	+2.4	+5.4	+4.4	+2.3	-2.0	-0.8	-0.8	+5.2

(9) 働く上で大切なこと

問 15 もし、あなたが働き続けたい、あるいは働き始めたいと考えた場合、どのようなことが大切だと思いますか。(〇はいくつでも)

【図表 5-9 働く上で大切なこと】



<性別> (図表 5-9)

働き続けたい、働き始めたいと考えたときに大切なことは、女性では、「生活状況に応じて柔軟な働き方を選ぶことができる」が 60.0%で最も多く、「男女が協力して家事や育児・介護などをする」(58.1%)、「介護・育児休業がとりやすい職場の雰囲気がある」(50.1%)と続いている。男性では、「社会保障が整っている(厚生年金など)」が 49.8%で最も多く、「生活状況に応じて柔軟な働き方を選ぶことができる」(46.5%)、「男女が協力して家事や育児・介護などをする」(42.3%)と続いている。

男女を比較すると、「社会保障が整っているか」「労働者の権利に関する情報提供や相談窓口が充実しているか」を除くすべての項目で女性の割合が男性の割合を上回っており、女性は男性よりも、多くの項目の重要性を認識している。特に「生活状況に応じて柔軟な働き方を選ぶことができる」「男女が協力して家事や育児・介護などをする」「介護・育児休業がとりやすい職場の雰囲気がある」「職場に介護・育児休業制度がある」「残業がない、あるいは少ない」の5項目で、女性の方が10ポイント以上高くなっている。

<性・年代別> (図表 5-9-1)

女性では、29歳以下では、「働きながら介護ができるようにホームヘルパーや施設等のサービスが充実している」「生活状況に応じて柔軟な働き方を選ぶことができる」「その他」を除くすべての項目で男女を含めた全体よりも10ポイント以上割合が高くなっており、特に「保育所・幼稚園・こども園や学童保育などの保育環境が整っている」「介護・育児休業が取りやすい職場の雰囲気がある」「職場に介護・育児休業制度がある」という職場内での子育てを支援する制度や雰囲気あるいは「男女が協力して家事や育児・介護をする」という家庭での役割の協業については20～30ポイントの差で高くなっている。30歳代でも、「保育所・幼稚園・こども園や学童保育などの保育環境が整っている」「介護・育児休業が取りやすい職場の雰囲気がある」「職場に介護・育児休業制度がある」「男女が協力して家事や育児をする」などで男女を含めた全体より10ポイント以上割合が高くなっており、特に「保育所・幼稚園・こども園や学童保育などの保育環境が整っている」「職場に介護・育児休業制度がある」「男女が協力して家事や育児をする」「残業がない、あるいは少ない」では10強から20強ポイントの差がある。比較的若い年代でのこれらの項目の重要性認識の高さがうかがえる。40歳代と60歳代では「生活状況に応じて柔軟な働き方を選ぶことができる」が6～7割で最も多い。50歳代では「介護・育児休業がとりやすい職場の雰囲気がある」が65.2%で最も多く、「生活状況に応じて柔軟な働き方を選ぶことができる」が64.3%で続いている。

男性では、いずれの年代でも「社会保障が整っている（厚生年金など）」が1位あるいは2位にあがっている。29歳以下では、さらに「残業がない、少ない」「職場での男女格差がない」50歳代では「労働者の権利に関する情報提供や相談窓口が充実している」で全体より10ポイント以上高くなっており、この年代の重要性認識の高さがうかがえる。60歳代では「生活状況に応じて柔軟な働き方を選ぶことができる」が61.3%で最も多くなっている。

【図表 5-9-1 性・年代別 働く上で大切なこと】

	n	生活状況に応じて柔軟な働き方を選ぶことができる	介護・育児休業が取りやすい職場の雰囲気がある	介護・育児休業制度がある	男女が協力して家事や育児・介護をする	年金など	社会保障が整っている（厚生年金など）	職場での男女格差がない	労働者の権利に関する情報提供や相談窓口が充実している	残業がない、あるいは少ない	職場での男女格差がない	再就職やセミナーが女性のため	その他	無回答	
全体	1,207	660	622	572	525	519	492	437	426	344	198	176	40	151	
	100.0	54.7	51.5	47.4	43.5	43.0	40.8	36.2	35.3	28.5	16.4	14.6	3.3	12.5	
女性	29歳以下	56	34	44	33	40	43	25	34	33	32	17	2	3	
		100.0	60.7	78.6	58.9	71.4	76.8	44.6	60.7	58.9	57.1	30.4	28.6	3.6	5.4
	30歳代	98	68	69	48	56	69	43	55	62	30	9	21	3	8
		100.0	69.4	70.4	49.0	57.1	70.4	43.9	56.1	63.3	30.6	9.2	21.4	3.1	8.2
	40歳代	151	106	101	66	70	72	67	54	69	49	17	19	4	6
		100.0	70.2	66.9	43.7	46.4	47.7	44.4	35.8	45.7	32.5	11.3	12.6	2.6	4.0
	50歳代	115	74	60	61	75	46	72	56	42	39	23	24	2	9
	100.0	64.3	52.2	53.0	65.2	40.0	62.6	48.7	36.5	33.9	20.0	20.9	1.7	7.8	
60歳代	113	74	62	56	60	43	53	44	37	32	11	17	1	10	
	100.0	65.5	54.9	49.6	53.1	38.1	46.9	38.9	32.7	28.3	9.7	15.0	0.9	8.8	
70歳以上	189	77	83	69	60	61	66	50	44	40	24	25	9	52	
	100.0	40.7	43.9	36.5	31.7	32.3	34.9	26.5	23.3	21.2	12.7	13.2	4.8	27.5	
男性	29歳以下	48	25	24	29	20	23	16	17	22	20	14	5	2	4
		100.0	52.1	50.0	60.4	41.7	47.9	33.3	35.4	45.8	41.7	29.2	10.4	4.2	8.3
	30歳代	46	23	25	28	21	25	14	19	23	19	6	6	1	4
		100.0	50.0	54.3	60.9	45.7	54.3	30.4	41.3	50.0	41.3	13.0	13.0	2.2	8.7
	40歳代	79	35	37	40	27	38	24	27	26	18	14	7	1	10
		100.0	44.3	46.8	50.6	34.2	48.1	30.4	34.2	32.9	22.8	17.7	8.9	1.3	12.7
	50歳代	57	25	22	27	18	21	30	16	12	10	11	6	2	5
	100.0	43.9	38.6	47.4	31.6	36.8	52.6	28.1	21.1	17.5	19.3	10.5	3.5	8.8	
60歳代	80	49	29	41	24	30	29	21	21	20	19	8	1	8	
	100.0	61.3	36.3	51.3	30.0	37.5	36.3	26.3	26.3	25.0	23.8	10.0	1.3	10.0	
70歳以上	146	55	56	62	42	39	48	36	26	27	26	18	9	31	
	100.0	37.7	38.4	42.5	28.8	26.7	32.9	24.7	17.8	18.5	17.8	12.3	6.2	21.2	

＜前回調査（平成 27 年（2015 年））との比較＞（図表 5-9-2）

前回調査の結果に比べ、「その他」を除くと、男性の「生活状況に応じて柔軟な働き方を選ぶことができる」以外はすべて上昇している。男女とも「保育所・幼稚園・こども園や学童保育などの保育環境が整っている」「職場での男女間の格差がない（募集・採用や配置・昇進など）」が 10 ポイント以上高くなっており、男性では「男女が協力して家事や育児・介護などをする」でも 10 ポイント以上上昇している。

【図表 5-9-2 前回調査との比較 働く上で大切なこと】

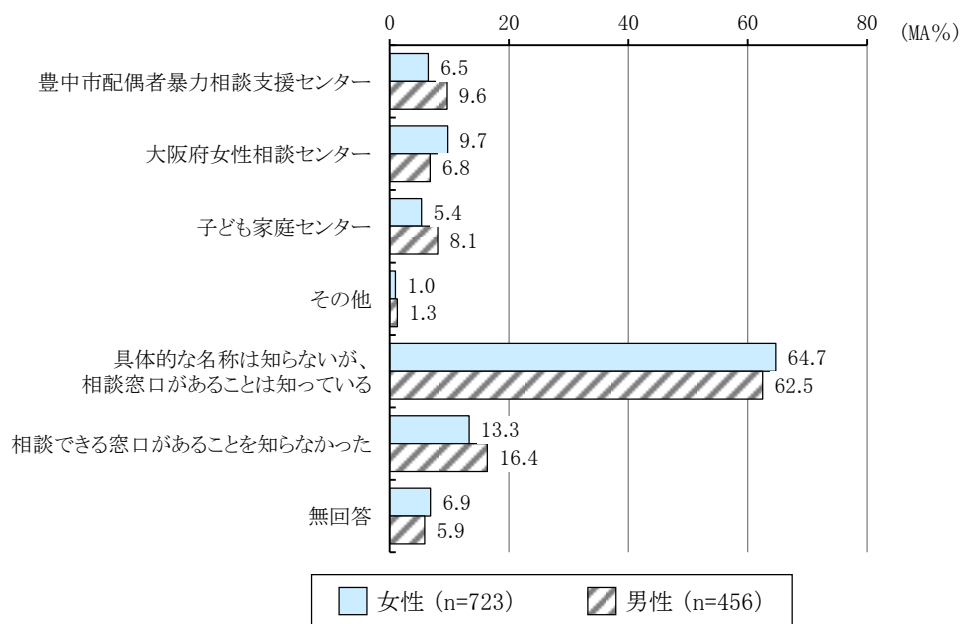
		(MA%)														
		n	生活状況に応じて柔軟な働き方を選ぶことができる	男女が協力して家事や育児・介護などをとする	社会保障が整っている（厚生年金など）	介護の雰囲気がある	学童保育などの保育環境が整っている	保育所・幼稚園・こども園や学童保育が充実している	働きながら介護ができるようヘルパーや施設などがある	職場に介護・育児休業制度がある	残業がない、あるいは少ない	（募集・採用や配置・昇進など）職場での男女間の格差がない	労働者の権利に関する情報提供や相談窓口が充実している	再就職やセミナーが女性のため	その他	無回答
女性	今回調査	723	60.0	58.1	46.2	50.1	46.3	45.2	40.7	39.7	30.8	14.1	17.0	2.9	12.2	
	前回調査	1,064	57.2	50.8	39.7	45.1	35.4	35.4	32.7	34.1	19.9	12.1	16.5	4.5	9.3	
	スコア差		+2.8	+7.3	+6.5	+5.0	+10.9	+9.8	+8.0	+5.6	+10.9	+2.0	+0.5	-1.6	+2.9	
男性	今回調査	456	46.5	42.3	49.8	33.3	38.6	35.3	29.8	28.5	25.0	19.7	11.0	3.5	13.6	
	前回調査	780	51.7	30.1	45.9	27.6	23.6	30.6	23.3	25.1	14.9	14.7	8.8	6.2	9.4	
	スコア差		-5.2	+12.2	+3.9	+5.7	+15.0	+4.7	+6.5	+3.4	+10.1	+5.0	+2.2	-2.7	+4.2	

6. 男女の人権について

(1) 配偶者や交際相手からの暴力に関する相談窓口の認知状況

問 19 配偶者・パートナー・交際相手からの暴力（なぐる・ける・無視するなどの身体的・精神的な暴力など）について、あなたが知っている相談窓口をすべてお選びください。（〇いくつでも）

【図表 6-1 配偶者や交際相手からの暴力に関する相談窓口の認知状況】



<性別> (図表 6-1)

配偶者や交際相手からの暴力に関する相談窓口の認知状況は、男女とも、「具体的な名称は知らないが、相談窓口があることは知っている」が最も多く、女性 64.7%、男性 62.5%となっている。次いで、「相談できる窓口があることを知らなかった」が女性 13.3%、男性 16.4%で続いている。相談のできる具体的な窓口の名称の認知については、いずれも 1 割未満となっている。

<性・年代別> (図表 6-1-1)

女性では、「具体的な名称は知らないが、相談窓口があることは知っている」は40歳代以下のすべての年代で70%前後となっているが、50歳代以上の年代では5割強台から6割台でやや低くなっている。29歳以下では「相談できる窓口があることを知らなかった」が25.0%となっており、この項目においてすべての年代で最も割合が高くなっている。

男性では、「具体的な名称は知らないが、相談窓口があることは知っている」は40歳代が最も多く73.4%だが、それ以外のすべての年代では5割台から6割台となっている。30歳代と50～60歳代で「相談できる窓口があることを知らなかった」が2割台となっているが、40歳代と29歳以下ではさらに低く1割台となっている。

【図表 6-1-1 性・年代別 配偶者や交際相手からの暴力に関する相談窓口の認知状況】

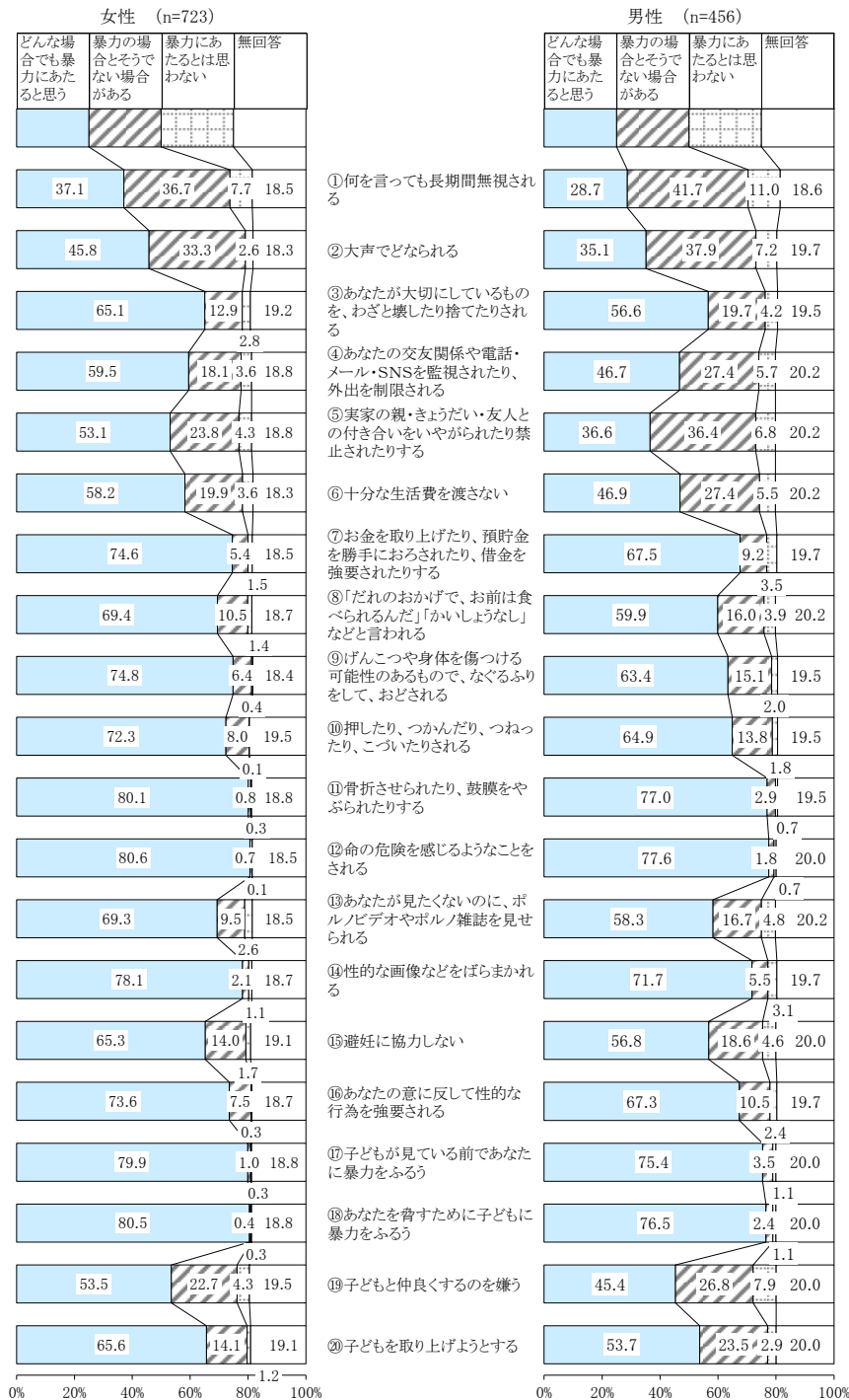
	n	支豊中 援市 セン タ	大 阪 府 女 性 相 談 セ ン	子 ども 家 庭 セ ン タ	そ の 他	こ い が 具 体 的 な 相 談 名 称 は 知 ら な い が 、 こ の 窓 口 が あ る こ と は 知 っ て い る	こ の 窓 口 が あ る こ と を 知 ら な か っ た	無 回 答	
全体 上段/実数	1,207	92	103	79	13	773	173	80	
下段/MA%	100.0	7.6	8.5	6.5	1.1	64.0	14.3	6.6	
女 性	29歳以下	56 100.0	1 1.8	- -	2 3.6	- -	39 69.6	14 25.0	1 1.8
	30歳代	98 100.0	9 9.2	7 7.1	7 7.1	- -	70 71.4	14 14.3	- -
	40歳代	151 100.0	10 6.6	18 11.9	11 7.3	3 2.0	106 70.2	17 11.3	2 1.3
	50歳代	115 100.0	9 7.8	17 14.8	10 8.7	- -	75 65.2	12 10.4	3 2.6
	60歳代	113 100.0	9 8.0	14 12.4	6 5.3	- -	67 59.3	19 16.8	6 5.3
	70歳以上	189 100.0	9 4.8	14 7.4	3 1.6	4 2.1	110 58.2	20 10.6	38 20.1
	男 性	29歳以下	48 100.0	6 12.5	1 2.1	6 12.5	- -	29 60.4	8 16.7
30歳代		46 100.0	3 6.5	3 6.5	4 8.7	- -	25 54.3	13 28.3	- -
40歳代		79 100.0	7 8.9	7 8.9	6 7.6	1 1.3	58 73.4	9 11.4	1 1.3
50歳代		57 100.0	7 12.3	6 10.5	5 8.8	1 1.8	32 56.1	15 26.3	- -
60歳代		80 100.0	6 7.5	5 6.3	7 8.8	1 1.3	51 63.8	16 20.0	2 2.5
70歳以上		146 100.0	15 10.3	9 6.2	9 6.2	3 2.1	90 61.6	14 9.6	22 15.1

(2) 配偶者等からの暴力（ドメスティック・バイオレンス／DV）に対する認識

問 20 あなたが配偶者・パートナー・交際相手から①～⑳のようなことをされることは、暴力にあたると思いますか。それぞれについてお聞かせください。（横方向にそれぞれ○はひとつずつ）

また、あなたが配偶者・パートナー・交際相手からされたことがあるものを、すべてお選びください。（縦方向に○はいくつでも）

【図表 6-2 配偶者等からの暴力に対する認識】



<性別> (図表 6-2)

配偶者等からの暴力に対する認識について、女性ではすべての項目で「どんな場合でも暴力にあたる」が最も多かった。一方男性では、「①何を言っても長期間無視される」(41.7%)、「②大声でどなられる」(37.9%)の2項目では「暴力の場合とそうでない場合がある」が「どんな場合でも暴力にあたる」を上回って最も多かった。それ以外では「どんな場合でも暴力にあたる」が最も多かった。

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高いのは、男女とも「⑫命の危険を感じるようなことをされる」が最も高く、以下、多少順位に差はあるものの、「⑪骨折させられたり、鼓膜をやぶられたりする」、「⑬あなたを脅すために子どもに暴力をふるう」、「⑭子どもが見ている前であなたに暴力をふるう」といった身体的暴力と子どもを使った暴力に関する項目が上位4項目となっている。

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が5割未満となっている項目は、女性では「①何を言っても長期間無視される」「②大声でどなられる」の2項目のみだが、男性では、この2項目に加え、「④あなたの交友関係や電話・メール・SNSを監視されたり、外出を制限される」「⑤実家の親・きょうだい・友人との付き合いをいやがられたり禁止されたりする」「⑥十分な生活費を渡さない」「⑯子どもと仲良くするのを嫌う」となっている。

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合は、いずれも男性より女性の方が高いが、その差が最も大きいのは「⑤実家の親・きょうだい・友人との付き合いをいやがられたり禁止されたりする」で16.5ポイントであった。その他、「②大声でどなられる」「④あなたの交友関係や電話・メール・SNSを監視されたり、外出を制限される」「⑥十分な生活費を渡さない」「⑨げんこつや身体を傷つける可能性のあるもので、なぐるふりをして、おどされる」「⑬あなたが見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる」「⑳子どもを取り上げようとする」で、女性の方が10ポイント以上高くなっている。

各質問項目を暴力の種類によって以下のように分類し、暴力種類別の傾向を報告する。⑨～⑫は身体的暴力、①～③は精神的暴力、④～⑤は社会的暴力、⑥～⑧は経済的暴力、⑬～⑯は性的暴力、⑰～⑳は子どもを使った暴力と分類する。

男女とも身体的暴力では「どんな場合も暴力にあたると思う」の割合が他の暴力の中で最も高く、女性ではすべての項目で7割台から8割台となっている。また男性では女性に比べやや低く6割台から7割台となっている。

精神的暴力では、男女とも「③あなたが大切にしていたものをわざと壊したり捨てられたりする」は「どんな場合でも暴力にあたると思う」と考える人が5割台から6割台となっているが、「①何を言っても長期間無視される」(女性37.1%、男性28.7%)、「②大声でどなられる」(女性45.8%、男性35.1%)では暴力の認知は低くなっている。

社会的暴力では、男女とも「④あなたの交友関係や電話・メール・SNSを監視されたり、外出を制限される」(女性59.5%、男性46.7%)と比べて「⑤実家の親・きょうだい・友人との付き合いをいやがられたり禁止されたりする」(女性53.1%、男性36.6%)のほうがより「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が低く、暴力の認知がやや低くなっている。

性的暴力では、男女とも「⑭性的な画像などをばらまかれる」(女性78.1%、男性71.7%)や「⑯あなたの意に反して性的な行為を強要される」(女性73.6%、男性67.3%)と比べて「⑮避妊に協力しない」(女性65.3%、男性56.8%)のほうが「どんな場合でも暴力にあたると思う」が低くなっている。

<性・年代別> (図表 6-2-1)

男女ともに、おおむね若い年代ほど暴力の認知が高い傾向がある。

女性の29歳以下では、暴力への認知度は高くなっているが、他の暴力種類と比べて、精神的暴力(①②)や社会的暴力(④)に対しては全体平均とほとんど差がなかった。

女性の30歳代、40歳代では、全体平均と比べてどの暴力についても「どんな場合でも暴力にあたると思う」認知が高かった。

女性の50歳代では、身体的暴力に対する認知は高いが、②や⑥に対しては全体平均との差は少なくなっていた。

男性では、30歳代以下で割合が高い傾向で、特に「③あなたが大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりされる」「④あなたの交友関係や電話・メール・SNSを監視されたり、外出を制限される」「⑤実家の親・きょうだい・友人との付き合いをいやがられたり禁止されたりする」「⑥十分な生活費を渡さない」「⑦お金を取り上げたり、預貯金を勝手におろされたり、借金を強要されたりする」「⑧『だれのおかげでお前は食べられるんだ』『かいしょうなし』などと言われる」といった、精神的・経済的な暴力について高くなっている。男性は29歳以下および30歳代については、ほとんどの項目で全体平均より認知度が高くなっているが、30歳代では、①と④の項目については全体平均との差が少なくなっていた。

【図表 6-2-1 性・年代別 配偶者等からの暴力に対する認知①】

	n	無①	②	しい③	をを電④	さをい⑤	な⑥	要ろり⑦	しだお⑧	てのつ⑨	いり⑩	
		視何を 言されても 長期間	大声で どなら れる	たるあ りもな 捨たを がた、 大りわ 切さざ れとし る壊	をを電④ 制監話あ 限視・な さささ れれ る	さをい⑤ れい・実 なや友 たりが すらの の・親 た付き りきよ 、S 関 外N係 出Sや	な⑥ い十分 な生 活費 を渡 さ	要ろり⑦ さ、お れれ預 たたり り金取 す、を り勝上 金手げ をにた 強お	しだお⑧ 「前「 な「は だ「お が「食 れ「の といべ 言しら われか れうる なん	てのつ⑨ 、でけ げ「お 、るん どな可 さる能 れる性 るふり あ身体 るをを しも傷	いり⑩ たり、 押し つし さね たり つり た、 りつ 、か こん づだ	
全体 上段/実数	1,207	406	500	749	657	562	655	870	793	850	837	
下段/%	100.0	33.6	41.4	62.1	54.4	46.6	54.3	72.1	65.7	70.4	69.3	
女性	29歳以下	56 100.0	21 37.5	25 44.6	51 91.1	36 64.3	40 71.4	41 73.2	54 96.4	53 94.6	53 94.6	52 92.9
	30歳代	98 100.0	43 43.9	60 61.2	77 78.6	73 74.5	69 70.4	73 74.5	90 91.8	82 83.7	91 92.9	79 80.6
	40歳代	151 100.0	78 51.7	95 62.9	122 80.8	109 72.2	99 65.6	107 70.9	135 89.4	126 83.4	135 89.4	130 86.1
	50歳代	115 100.0	47 40.9	52 45.2	82 71.3	76 66.1	60 52.2	68 59.1	92 80.0	89 77.4	93 80.9	92 80.0
	60歳代	113 100.0	50 44.2	56 49.6	71 62.8	69 61.1	59 52.2	64 56.6	80 70.8	75 66.4	80 70.8	83 73.5
	70歳以上	189 100.0	29 15.3	43 22.8	67 35.4	66 34.9	56 29.6	67 35.4	87 46.0	76 40.2	88 46.6	86 45.5
	男性	29歳以下	48 100.0	20 41.7	24 50.0	39 81.3	28 58.3	22 45.8	29 60.4	39 81.3	36 75.0	36 75.0
30歳代		46 100.0	16 34.8	22 47.8	36 78.3	30 65.2	27 58.7	31 67.4	40 87.0	37 80.4	36 78.3	35 76.1
40歳代		79 100.0	25 31.6	27 34.2	52 65.8	41 51.9	33 41.8	39 49.4	61 77.2	50 63.3	56 70.9	55 69.6
50歳代		57 100.0	19 33.3	20 35.1	32 56.1	26 45.6	21 36.8	30 52.6	43 75.4	37 64.9	42 73.7	40 70.2
60歳代		80 100.0	24 30.0	31 38.8	47 58.8	38 47.5	27 33.8	37 46.3	57 71.3	50 62.5	50 62.5	51 63.8
70歳以上		146 100.0	27 18.5	36 24.7	52 35.6	50 34.2	37 25.3	48 32.9	68 46.6	63 43.2	69 47.3	75 51.4

【図表 6-2-1 性・年代別 配偶者等からの暴力に対する認識②】

		n	る鼓⑩ 膜を折 やぶら せられ たりす	う⑫ 命の危 険を感 じるよ	るポ⑬ ルにあ なたが 見たく ないの に、ポ ルノビ デオや ポルノ 雑誌を 見せら れる	ら⑭ 性的な 行為を 強要さ れる	⑮ 避妊に 協力し ない	る性⑯ 的なた の行為 を強要 される	うで⑰ あなた が暴力 をふる る前	子⑱ あなた に暴力 をふる るため に	の⑲ 子ども と仲良 くする	う⑳ 子ども を取り 上げよ
全体	上段/実数	1,207	953	958	786	914	749	859	943	954	607	738
	下段/%	100.0	79.0	79.4	65.1	75.7	62.1	71.2	78.1	79.0	50.3	61.1
女 性	29歳以下	56 100.0	56 100.0	56 100.0	49 87.5	55 98.2	52 92.9	51 91.1	56 100.0	56 100.0	34 60.7	47 83.9
	30歳代	98 100.0	94 95.9	96 98.0	85 86.7	93 94.9	77 78.6	86 87.8	95 96.9	95 96.9	70 71.4	76 77.6
	40歳代	151 100.0	140 92.7	142 94.0	123 81.5	139 92.1	122 80.8	132 87.4	140 92.7	141 93.4	97 64.2	121 80.1
	50歳代	115 100.0	104 90.4	104 90.4	87 75.7	98 85.2	82 71.3	95 82.6	103 89.6	104 90.4	68 59.1	84 73.0
	60歳代	113 100.0	86 76.1	86 76.1	75 66.4	83 73.5	72 63.7	83 73.5	85 75.2	85 75.2	60 53.1	69 61.1
	70歳以上	189 100.0	98 51.9	98 51.9	81 42.9	96 50.8	66 34.9	84 44.4	98 51.9	100 52.9	58 30.7	76 40.2
	男 性	29歳以下	48 100.0	43 89.6	44 91.7	36 75.0	42 87.5	39 81.3	40 83.3	43 89.6	43 89.6	26 54.2
30歳代		46 100.0	41 89.1	44 95.7	34 73.9	37 80.4	31 67.4	39 84.8	43 93.5	44 95.7	31 67.4	26 56.5
40歳代		79 100.0	66 83.5	69 87.3	52 65.8	67 84.8	53 67.1	60 75.9	68 86.1	68 86.1	44 55.7	50 63.3
50歳代		57 100.0	49 86.0	50 87.7	40 70.2	45 78.9	38 66.7	43 75.4	47 82.5	48 84.2	29 50.9	33 57.9
60歳代		80 100.0	65 81.3	64 80.0	48 60.0	59 73.8	41 51.3	58 72.5	64 80.0	63 78.8	31 38.8	44 55.0
70歳以上		146 100.0	87 59.6	83 56.8	56 38.4	77 52.7	57 39.0	67 45.9	79 54.1	83 56.8	46 31.5	58 39.7

＜前回調査（平成 27 年（2015 年））との比較＞（図表 6-2-2）

前回調査の結果に比べ、女性では「⑮避妊に協力しない」以外の項目で低下している。男性は、「⑮避妊に協力しない」が 6.9 ポイント上昇、その他、「⑬あなたが見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる」「⑯あなたの意に反して性的な行為を強要される」「⑦お金を取り上げたり、預貯金を勝手におろされたり、借金を強要されたりする」が微増している以外は低下している。

前掲した【図表 6-2 配偶者からの暴力に対する認識】では無回答が各項目で 2 割弱から 2 割台の割合となっており、前回調査の 1 割弱から 1 割台と比較し、全体で多くなっている。そこで、参考として、以下に前回および今回調査の無回答を除く調査結果を示し、比較を行う。

無回答を除く集計結果である＜参考＞との比較からは、女性では「②大声でどなられる」「③あなたが大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりされる」「④あなたの交友関係や電話・メール・SNS を監視されたり、外出を制限される」「⑩骨折させられたり、鼓膜をやぶられたりする」以外は増加しており、男性では「⑨げんこつや身体を傷つける可能性のあるもので、なぐるふりをして、おどされる」「⑩骨折させられたり、鼓膜をやぶられたりする」「⑫命の危険を感じるようなことをされる」のみ低下し、それ以外は増加している。

なお、今回調査で無回答が多くなっている理由としての問 20 の回答方法がややわかりにくかったことが影響している可能性も考えられる。

【図表 6-2-2 前回調査との比較 配偶者等からの暴力に対する認識】

		n	① 何を言っても長期間無視される	② 大声でどなられる	③ あなたが大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりされる	④ あなたの交友関係や電話・メール・SNSを監視されたり、外出を制限される	⑤ 実家の親・きょうだい・友人との付き合いをいやがられたり禁止されたりする	⑦ お金を取り上げたり、預貯金を勝手におろされたり、借金を強要されたりする	⑧ 「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」「がいしようなし」などと言われる	⑨ げんこつや身体を傷つける可能性のあるもので、なぐるふりをして、おどされる	⑩ 押したりされ、つかんだり、つねったり、こぶいたりされる	⑪ 骨折させられたり、鼓膜をやぶられたりする	⑫ 命の危険を感じるようなことをされる	⑬ あなたが見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる	⑭ 性的な画像などをばらまかれる	⑮ 避妊に協力しない	⑯ あなたの意に反して性的な行為を強要される
女性	今回調査	723	37.1	45.8	65.1	59.5	53.1	74.6	69.4	74.8	72.3	80.1	80.6	69.3	78.1	65.3	73.6
	前回調査	1,064	40.2	52.4	74.3	67.4	56.6	80.1	76.8	81.6	79.6	90.0	89.8	69.8	85.6	65.2	78.2
	スコア差		-3.1	-6.6	-9.2	-7.9	-3.5	-5.5	-7.4	-6.8	-7.3	-9.9	-9.2	-0.5	-7.5	+0.1	-4.6
男性	今回調査	456	28.7	35.1	56.6	46.7	36.6	67.5	59.9	63.4	64.9	77.0	77.6	58.3	71.7	56.8	67.3
	前回調査	780	32.2	35.3	62.6	51.4	38.2	67.1	61.0	72.4	69.2	88.1	88.7	56.9	76.0	49.9	66.5
	スコア差		-3.5	-0.2	-6.0	-4.7	-1.6	+0.4	-1.1	-9.0	-4.3	-11.1	-11.1	+1.4	-4.3	+6.9	+0.8

※「⑥十分な生活費を渡さない」「⑦子どもが見ている前であなたに暴力をふるう」「⑧あなたを脅すために子どもに暴力をふるう」「⑨子どもと仲良くするのを嫌う」「⑩子どもを取り上げようとする」は2020年度より新規質問

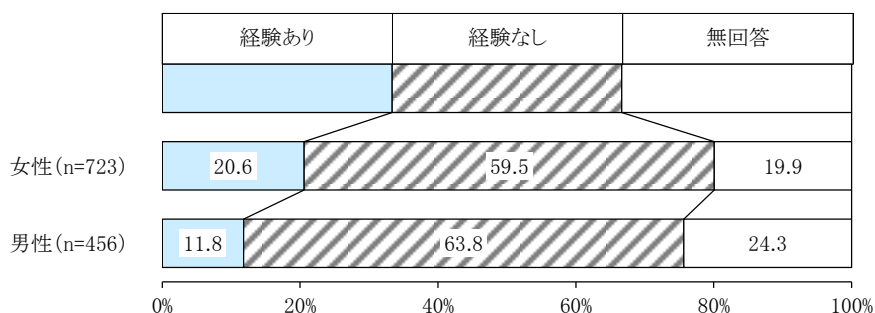
<参考>無回答を除く集計結果

		① 何を言っても長期間無視される	② 大声でどなられる	③ あなたが大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりされる	④ あなたの交友関係や電話・メール・SNSを監視されたり、外出を制限される	⑤ 実家の親・きょうだい・友人との付き合いをいやがられたり禁止されたりする	⑦ お金を取り上げたり、借金を強要されたりする	⑧ 「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」「がいしようなし」などと言われる	⑨ げんこつや身体を傷つける可能性のあるもので、なぐるふりをして、おどされる	⑩ 押したりされ、つかんだり、つねったり、こぶいたりされる	⑪ 骨折させられたり、鼓膜をやぶられたりする	⑫ 命の危険を感じるようなことをされる	⑬ あなたが見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる	⑭ 性的な画像などをばらまかれる	⑮ 避妊に協力しない	⑯ あなたの意に反して性的な行為を強要される
女性	今回調査	45.5 n=589	56.0 n=591	80.7 n=584	73.3 n=587	65.4 n=587	91.5 n=589	85.4 n=588	91.7 n=590	89.9 n=582	98.6 n=587	99.0 n=589	85.1 n=589	96.1 n=588	80.7 n=585	90.5 n=588
	前回調査	44.0 n=972	57.3 n=974	81.2 n=974	73.7 n=973	61.9 n=973	87.6 n=973	84.0 n=973	89.3 n=972	87.0 n=974	98.6 n=972	98.3 n=972	76.7 n=969	94.4 n=965	72.2 n=961	86.4 n=963
	スコア差	+1.5	-1.3	-0.5	-0.4	+3.5	+3.9	+1.4	+2.4	+2.9	0.0	+0.7	+8.4	+1.7	+8.5	+4.1
男性	今回調査	35.3 n=371	43.7 n=366	70.3 n=367	58.5 n=364	45.9 n=364	84.2 n=366	75.0 n=364	78.7 n=367	80.7 n=367	95.6 n=367	97.0 n=365	73.1 n=364	89.3 n=366	71.0 n=365	83.9 n=366
	前回調査	35.2 n=714	38.6 n=713	68.7 n=710	56.5 n=710	42.0 n=709	73.6 n=711	66.9 n=712	79.4 n=712	75.9 n=711	96.6 n=711	97.3 n=711	63.0 n=705	83.8 n=708	55.6 n=700	73.9 n=702
	スコア差	+0.1	+5.1	+1.6	+2.0	+3.9	+10.6	+8.1	-0.7	+4.8	-1.0	-0.3	+10.1	+5.5	+15.4	+10.0

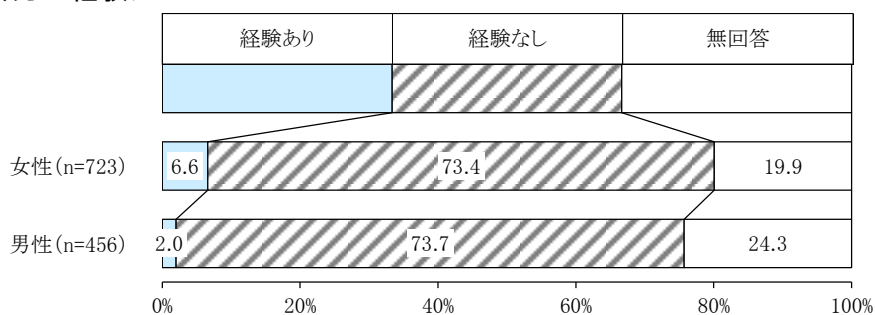
(3) 配偶者等からの暴力（ドメスティック・バイオレンス／DV)の経験の有無

【図表 6-3 配偶者等からの暴力の経験の有無①】

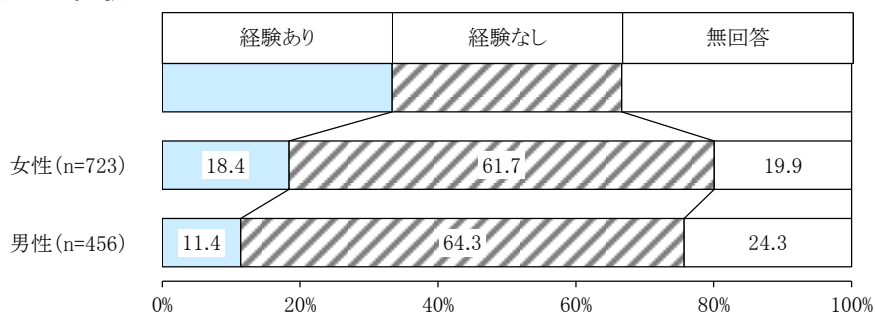
<被害経験>



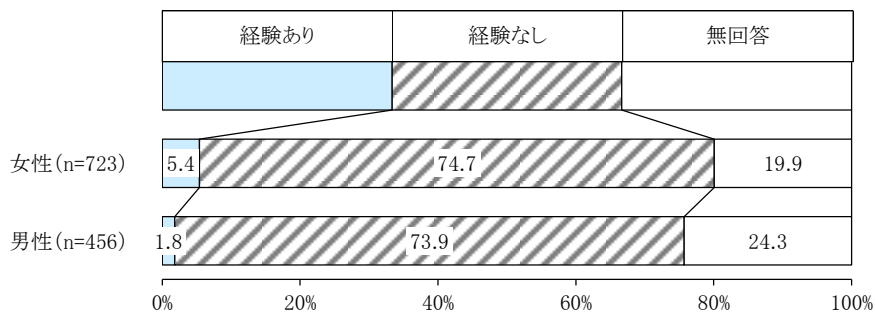
<身体的暴力の経験>



<精神的暴力の経験>

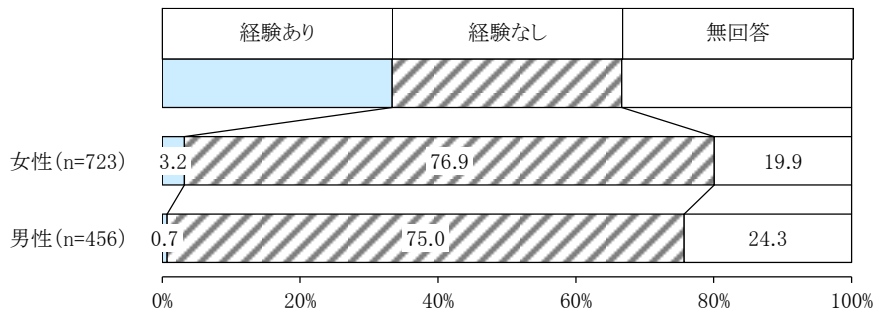


<経済的暴力の経験>

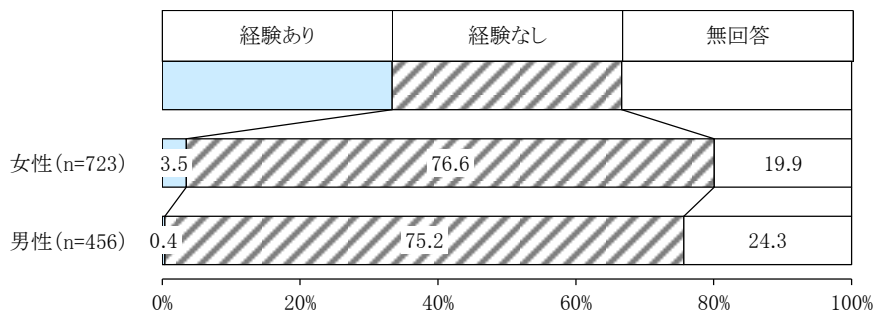


【図表 6-3 配偶者等からの暴力の経験の有無②】

＜性的暴力の経験＞



＜子どもを使った暴力の経験＞



＜性別＞（図表 6-3）

問 20 の「あなたがされたことがあるもの」①～⑳の各項目で1つでも経験があると回答した人を被害「経験あり」として結果を示す。また、各項目を暴力の種類によって以下のように分類し、暴力種類別の傾向を報告する。⑨～⑫は身体的暴力、①～③は精神的暴力、④～⑤は社会的暴力、⑥～⑧は経済的暴力、⑬～⑯は性的暴力、⑰～⑳は子どもを使った暴力と分類する。

配偶者等からの暴力の経験をみると、全体的な「被害経験」は、女性で 20.6%、男性で 11.8% となっている。

内容をみると、最も多いのは「精神的暴力の経験」で、女性で 18.4%、男性で 11.4% となっている。次いで、女性では、「身体的暴力の経験」が 6.6%、「経済的暴力の経験」が 5.4%、「子どもを使った暴力の経験」「性的暴力の経験」がいずれも 3% 台となっている。男性では、「身体的暴力の経験」が 2.0%、「経済的暴力の経験」が 1.8%、「性的暴力の経験」が 0.7%、「子どもを使った暴力の経験」が 0.4% となっており、いずれも女性より低くなっている。

<性・年代別> (図表 6-3-1)

①被害経験

女性では、40～60歳代で「経験あり」が20%を超えている。男性では、「経験あり」が30歳代を除いたすべての年代で女性よりも低くなっている。

②身体的暴力の経験

女性では、29歳以下で「経験あり」が10.7%と高めである。男性では、「経験あり」が50歳代を除いたすべての年代で女性よりも低くなっている。

③精神的暴力の経験

女性では、50～60歳代で「経験あり」が20%を超えている。男性では、「経験あり」が30歳代を除いたすべての年代で女性よりも低くなっている。

④経済的暴力の経験

女性では、40歳代と70歳以上で「経験あり」が6%台、50～60歳代が5%台で続く。男性では、いずれの年代も3%未満となっている。

⑤性的暴力の経験

女性では、「経験あり」が29歳以下で7.1%である。男性では、いずれの年代も3%未満となっている。

⑥子どもを使った暴力の経験

女性では、60歳代で「経験あり」が7.1%、50歳代が5.2%で続いている。男性ではいずれの年代も3%未満となっている。

【図表 6-3-1 性・年代別 配偶者等からの暴力の経験の有無①】

	n	①被害経験			②身体的暴力の経験			③精神的暴力の経験			
		経験あり	経験なし	無回答	経験あり	経験なし	無回答	経験あり	経験なし	無回答	
全体	上段/実数 下段/%	1,207 100.0	207 17.1	735 60.9	265 22.0	61 5.1	881 73.0	265 22.0	189 15.7	753 62.4	265 22.0
女性	29歳以下	56 100.0	11 19.6	39 69.6	6 10.7	6 10.7	44 78.6	6 10.7	9 16.1	41 73.2	6 10.7
	30歳代	98 100.0	15 15.3	68 69.4	15 15.3	6 6.1	77 78.6	15 15.3	12 12.2	71 72.4	15 15.3
	40歳代	151 100.0	31 20.5	92 60.9	28 18.5	12 7.9	111 73.5	28 18.5	28 18.5	95 62.9	28 18.5
	50歳代	115 100.0	28 24.3	70 60.9	17 14.8	5 4.3	93 80.9	17 14.8	28 24.3	70 60.9	17 14.8
	60歳代	113 100.0	29 25.7	56 49.6	28 24.8	10 8.8	75 66.4	28 24.8	25 22.1	60 53.1	28 24.8
	70歳以上	189 100.0	35 18.5	104 55.0	50 26.5	9 4.8	130 68.8	50 26.5	31 16.4	108 57.1	50 26.5
	男性	29歳以下	48 100.0	3 6.3	36 75.0	9 18.8	1 2.1	38 79.2	9 18.8	3 6.3	36 75.0
30歳代		46 100.0	8 17.4	27 58.7	11 23.9	2 4.3	33 71.7	11 23.9	8 17.4	27 58.7	11 23.9
40歳代		79 100.0	10 12.7	54 68.4	15 19.0	1 1.3	63 79.7	15 19.0	10 12.7	54 68.4	15 19.0
50歳代		57 100.0	10 17.5	35 61.4	12 21.1	3 5.3	42 73.7	12 21.1	10 17.5	35 61.4	12 21.1
60歳代		80 100.0	8 10.0	59 73.8	13 16.3	1 1.3	66 82.5	13 16.3	6 7.5	61 76.3	13 16.3
70歳以上		146 100.0	15 10.3	80 54.8	51 34.9	1 0.7	94 64.4	51 34.9	15 10.3	80 54.8	51 34.9

【図表 6-3-1 性・年代別 配偶者等からの暴力の経験の有無②】

	n	④経済的暴力の経験			⑤性的暴力の経験			⑥子どもを使った暴力の経験			
		経験あり	経験なし	無回答	経験あり	経験なし	無回答	経験あり	経験なし	無回答	
全体	上段/実数 下段/%	1,207 100.0	50 4.1	892 73.9	265 22.0	28 2.3	914 75.7	265 22.0	29 2.4	913 75.6	265 22.0
女性	29歳以下	56 100.0	2 3.6	48 85.7	6 10.7	4 7.1	46 82.1	6 10.7	2 3.6	48 85.7	6 10.7
	30歳代	98 100.0	2 2.0	81 82.7	15 15.3	4 4.1	79 80.6	15 15.3	1 1.0	82 83.7	15 15.3
	40歳代	151 100.0	10 6.6	113 74.8	28 18.5	3 2.0	120 79.5	28 18.5	5 3.3	118 78.1	28 18.5
	50歳代	115 100.0	6 5.2	92 80.0	17 14.8	4 3.5	94 81.7	17 14.8	6 5.2	92 80.0	17 14.8
	60歳代	113 100.0	6 5.3	79 69.9	28 24.8	4 3.5	81 71.7	28 24.8	8 7.1	77 68.1	28 24.8
	70歳以上	189 100.0	13 6.9	126 66.7	50 26.5	4 2.1	135 71.4	50 26.5	3 1.6	136 72.0	50 26.5
	男性	29歳以下	48 100.0	- -	39 81.3	9 18.8	1 2.1	38 79.2	9 18.8	- -	39 81.3
30歳代		46 100.0	1 2.2	34 73.9	11 23.9	1 2.2	34 73.9	11 23.9	1 2.2	34 73.9	11 23.9
40歳代		79 100.0	1 1.3	63 79.7	15 19.0	- -	64 81.0	15 19.0	- -	64 81.0	15 19.0
50歳代		57 100.0	1 1.8	44 77.2	12 21.1	1 1.8	44 77.2	12 21.1	1 1.8	44 77.2	12 21.1
60歳代		80 100.0	2 2.5	65 81.3	13 16.3	- -	67 83.8	13 16.3	- -	67 83.8	13 16.3
70歳以上		146 100.0	3 2.1	92 63.0	51 34.9	- -	95 65.1	51 34.9	- -	95 65.1	51 34.9

<他調査（内閣府：平成 29 年男女間における暴力に関する調査）との比較>（図表 6-3-2）

内閣府調査と比較すると、本調査ではいずれの項目でも無回答が大幅に多く、女性で 10 ポイント以上、男性で 20 ポイント以上「経験あり」「経験なし」とも低くなっている。

そこで以下に無回答を除く集計結果である<参考>を示す。無回答を除く集計結果である<参考>との比較からは、精神的暴力の経験が内閣府調査より男女とも 5 ポイント前後「経験あり」が多くなっている。

なお、本調査で無回答が多くなっている理由として、問 20 の回答方法がややわかりにくかったことが影響している可能性も考えられる。

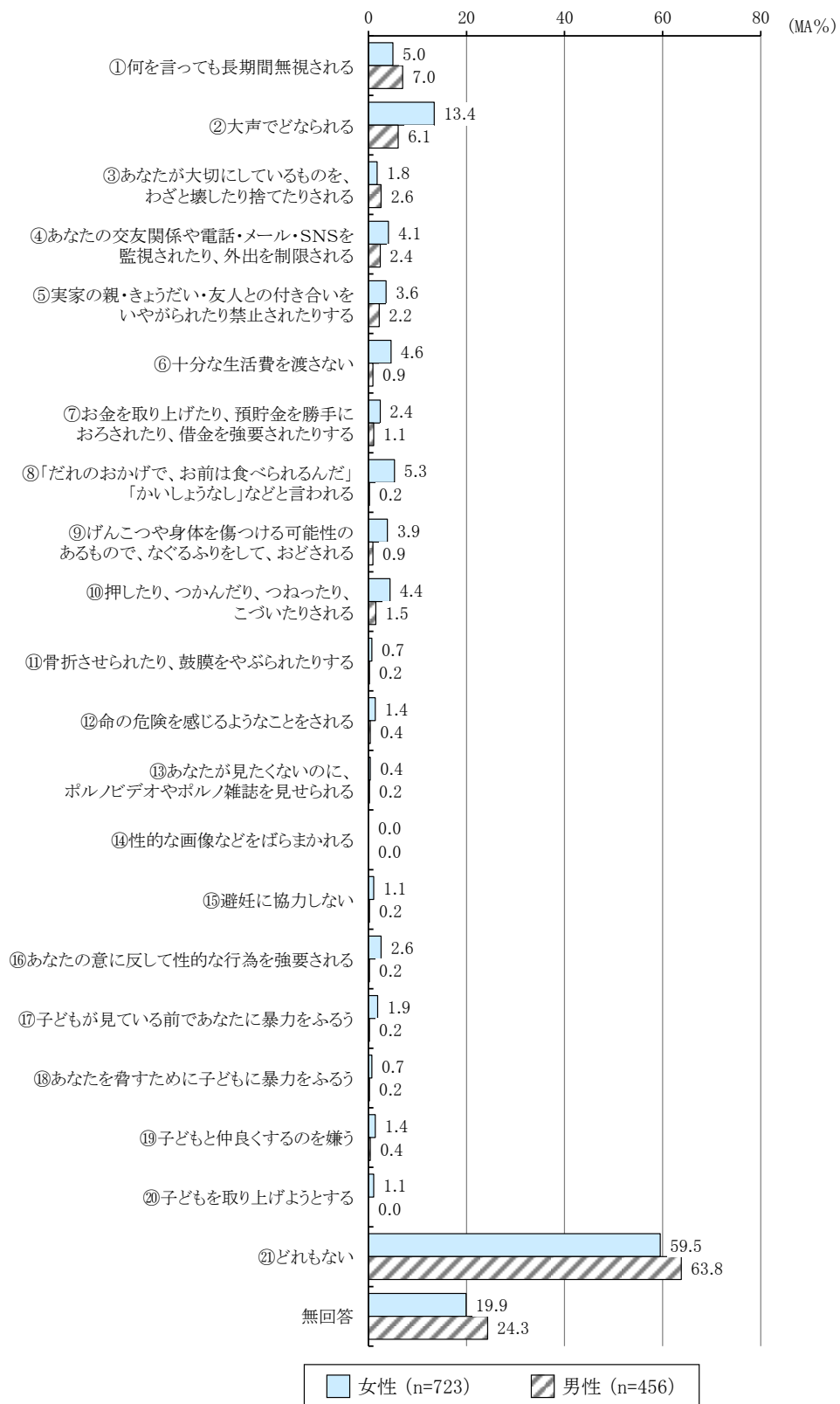
【図表 6-3-2 他調査との比較 配偶者等からの暴力の経験の有無】

		女 性				男 性			
		n	経験あり	経験なし	無回答	n	経験あり	経験なし	無回答
①被害経験	今回調査	723	20.6	59.5	19.9	456	11.8	63.8	24.3
	他調査	1,366	31.3	66.9	1.8	1,119	19.9	78.9	1.2
	スコア差		-10.7	-7.4	+18.1		-8.1	-15.1	+23.1
②身体的暴力の経験	今回調査	723	6.6	73.4	19.9	456	2.0	73.7	24.3
	他調査	1,366	19.8	78.0	2.2	1,119	14.5	83.7	1.8
	スコア差		-13.2	-4.6	+17.7		-12.5	-10.0	+22.5
③精神的暴力の経験	今回調査	723	18.4	61.7	19.9	456	11.4	64.3	24.3
	他調査	1,366	16.8	79.5	3.7	1,119	10.0	87.9	2.1
	スコア差		+1.6	-17.8	+16.2		+1.4	-23.6	+22.2
④経済的暴力の経験	今回調査	723	5.4	74.7	19.9	456	1.8	73.9	24.3
	他調査	1,366	10.0	86.2	3.9	1,119	2.9	94.7	2.4
	スコア差		-4.6	-11.5	+16.0		-1.1	-20.8	+21.9
⑤性的暴力の経験	今回調査	723	3.2	76.9	19.9	456	0.7	75.0	24.3
	他調査	1,366	9.7	86.3	4.0	1,119	1.5	96.0	2.5
	スコア差		-6.5	-9.4	+15.9		-0.8	-21.0	+21.8

<参考>無回答を除く集計結果

		女 性			男 性		
		n	経験あり	経験なし	n	経験あり	経験なし
①被害経験	今回調査	579	25.7	74.3	345	15.7	84.3
	他調査	1,341	31.8	68.2	1,106	20.2	79.8
	スコア差		-6.1	+6.1		-4.5	+4.5
②身体的暴力の経験	今回調査	723	8.3	91.7	456	2.6	97.4
	他調査	1,336	20.2	79.8	1,099	14.7	85.3
	スコア差		-11.9	+11.9		-12.1	+12.1
③精神的暴力の経験	今回調査	723	23.0	77.0	456	15.1	84.9
	他調査	1,315	17.4	82.6	1,096	10.2	89.8
	スコア差		+5.6	-5.6		+4.9	-4.9
④経済的暴力の経験	今回調査	723	6.7	93.3	456	2.3	97.7
	他調査	1,313	10.4	89.6	1,092	2.9	97.1
	スコア差		-3.7	+3.7		-0.6	+0.6
⑤性的暴力の経験	今回調査	723	4.0	96.0	456	0.9	99.1
	他調査	1,312	10.1	89.9	1,091	1.6	98.4
	スコア差		-6.1	+6.1		-0.7	+0.7

【図表 6-3-3 配偶者等からの暴力の経験の有無】



<性別> (図表 6-3-3)

配偶者等からの暴力の経験をみると、女性では、「②大声でどなられる」が13.4%で最も多く、「⑧『だれのおかげでお前は食べられるんだ』『かいしょうなし』などと言われる」(5.3%)、「①何を言っても長期間無視される」(5.0%)、「⑥十分な生活費を渡さない」(4.6%)と続いている。男性では、「①何を言っても長期間無視される」が7.0%で最も多く、「②大声でどなられる」が6.1%で続いている。

女性の方が総じて割合が高くなっているが、「①何を言っても長期間無視される」「③あなたが大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりされる」のみ、男性の方が高くなっている。男女差が大きいのは、「②大声でどなられる」で、女性の方が7.3ポイント高い。

<性・年代別> (図表 6-3-4)

女性では、すべての年代で「②大声でどなられる」が1割を超えており、特に60歳代で19.5%である。他の項目で1割を超えているものはないが、50歳代で「①何を言っても長期間無視される」「⑤実家の親・きょうだい・友人との付き合いをいやがられたり禁止されたりする」、29歳以下で「④あなたの交友関係や電話・メール・SNSを監視されたり、外出を制限される」「⑩押ししたり、つかんだり、つねったり、こづいたりされる」が7%を超えている。

男性では、30歳代で「①何を言っても長期間無視される」が15.2%、「②大声でどなられる」が13.0%、50歳代で「①何を言っても長期間無視される」が10.5%と1割を超えている。

【図表 6-3-4 性・年代別 配偶者等からの暴力の経験の有無①】

	n	①何を言っても長期間無視される	②大声でどなられる	③あなたが大切にしているものを捨てたりわざと壊す	④あなたが監視される、外出を制限される	⑤電話・メール・SNSやインターネットで誹謗中傷される	⑥実家の親・きょうだいや友人とつきあいが禁止される	⑦十分な生活費を渡さない	⑧お金の取り上げ、強要されたりする	⑨お金の借手になる	⑩お前の食べられかた、お前などと言われる	⑪お前の食べられかた、お前などと言われる	⑫お前の食べられかた、お前などと言われる	⑬お前の食べられかた、お前などと言われる	⑭お前の食べられかた、お前などと言われる	⑮お前の食べられかた、お前などと言われる	⑯お前の食べられかた、お前などと言われる	⑰お前の食べられかた、お前などと言われる	⑱お前の食べられかた、お前などと言われる	⑲お前の食べられかた、お前などと言われる	⑳お前の食べられかた、お前などと言われる	㉑お前の食べられかた、お前などと言われる	㉒お前の食べられかた、お前などと言われる
全体 上段/実数	1,207	69	129	26	43	37	40	24	42	36	41	36	41	36	41	36	41	36	41	36	41	36	41
下段/MA%	100.0	5.7	10.7	2.2	3.6	3.1	3.3	2.0	3.5	3.0	3.4	3.0	3.4	3.0	3.4	3.0	3.4	3.0	3.4	3.0	3.4	3.0	3.4
女性	29歳以下	56	2	6	-	4	3	1	2	3	3	5	3	5	3	5	3	5	3	5	3	5	3
	100.0	3.6	10.7	-	7.1	5.4	1.8	3.6	5.4	5.4	5.4	8.9	5.4	8.9	5.4	8.9	5.4	8.9	5.4	8.9	5.4	8.9	5.4
	30歳代	98	5	10	1	3	2	1	2	3	3	6	3	6	3	6	3	6	3	6	3	6	3
	100.0	5.1	10.2	1.0	3.1	2.0	1.0	2.0	3.1	3.1	3.1	6.1	3.1	6.1	3.1	6.1	3.1	6.1	3.1	6.1	3.1	6.1	3.1
	40歳代	151	7	21	3	8	5	9	2	10	6	10	6	10	6	10	6	10	6	10	6	10	6
	100.0	4.6	13.9	2.0	5.3	3.3	6.0	1.3	6.6	4.0	4.0	6.6	4.0	6.6	4.0	6.6	4.0	6.6	4.0	6.6	4.0	6.6	4.0
	50歳代	115	9	18	5	6	8	6	1	4	5	2	5	2	5	2	5	2	5	2	5	2	5
100.0	7.8	15.7	4.3	5.2	7.0	5.2	0.9	3.5	4.3	4.3	1.7	4.3	1.7	4.3	1.7	4.3	1.7	4.3	1.7	4.3	1.7	4.3	
60歳代	113	6	22	1	6	4	4	4	9	6	5	6	5	6	5	6	5	6	5	6	5	6	
100.0	5.3	19.5	0.9	5.3	3.5	3.5	3.5	8.0	5.3	5.3	4.4	5.3	4.4	5.3	4.4	5.3	4.4	5.3	4.4	5.3	4.4	5.3	
70歳以上	189	7	20	3	3	4	12	6	9	5	4	5	4	5	4	5	4	5	4	5	4	5	
100.0	3.7	10.6	1.6	1.6	2.1	6.3	3.2	4.8	2.6	2.6	2.1	2.6	2.1	2.6	2.1	2.6	2.1	2.6	2.1	2.6	2.1	2.6	
男性	29歳以下	48	1	1	1	1	1	-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	100.0	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	-	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1
	30歳代	46	7	6	1	1	1	1	1	1	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1
	100.0	15.2	13.0	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	4.3	2.2	4.3	2.2	4.3	2.2	4.3	2.2	4.3	2.2	4.3	2.2	4.3
	40歳代	79	7	6	3	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	100.0	8.9	7.6	3.8	2.5	2.5	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3
	50歳代	57	6	5	3	3	2	-	1	1	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1
100.0	10.5	8.8	5.3	5.3	3.5	-	1.8	1.8	1.8	3.5	1.8	3.5	1.8	3.5	1.8	3.5	1.8	3.5	1.8	3.5	1.8	3.5	
60歳代	80	4	2	1	-	-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
100.0	5.0	2.5	1.3	-	-	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	
70歳以上	146	7	8	3	4	4	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
100.0	4.8	5.5	2.1	2.7	2.7	0.7	1.4	1.4	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	

【図表 6-3-4 性・年代別 配偶者等からの暴力の経験の有無②】

	n	①鼓膜を折させられたり、うなことを感じる	②命の危険を感じる	③ポルノ雑誌を見せられたり、あなたが嫌いなものを指さる	④性的な画像などをばらまかれる	⑤避妊に協力しない	⑥性的な行為を強要されて	⑦子どもが暴力をふるう前	⑧子どもに暴力をふるうために	⑨子どもと仲良くするのを嫌う	⑩子どもを取り上げようとする	⑪どれも無い	無回答
全体 上段/実数	1,207	6	15	5	-	10	22	17	6	14	9	735	265
下段/MA%	100.0	0.5	1.2	0.4	-	0.8	1.8	1.4	0.5	1.2	0.7	60.9	22.0
女性	29歳以下	56	-	-	1	-	3	1	1	-	1	39	6
	100.0	-	-	1.8	-	5.4	1.8	1.8	-	1.8	69.6	10.7	6
	30歳代	98	-	2	-	-	1	4	-	1	-	68	15
	100.0	-	2.0	-	-	1.0	4.1	-	-	1.0	-	69.4	15.3
	40歳代	151	-	2	1	-	1	3	3	4	3	92	28
	100.0	-	1.3	0.7	-	0.7	2.0	2.0	2.6	2.0	60.9	18.5	28
	50歳代	115	1	1	-	-	2	3	2	3	1	70	17
100.0	0.9	0.9	-	-	1.7	2.6	1.7	2.6	0.9	60.9	14.8	17	
60歳代	113	1	3	1	-	-	4	5	1	3	56	28	
100.0	0.9	2.7	0.9	-	-	3.5	4.4	0.9	0.9	2.7	49.6	24.8	
70歳以上	189	3	2	-	-	1	4	3	1	1	104	50	
100.0	1.6	1.1	-	-	0.5	2.1	1.6	0.5	0.5	-	55.0	26.5	
男性	29歳以下	48	-	-	1	-	-	-	-	-	-	36	9
	100.0	-	-	2.1	-	-	-	-	-	-	-	75.0	18.8
	30歳代	46	-	-	-	-	1	-	1	1	-	27	11
	100.0	-	-	-	-	2.2	-	2.2	2.2	2.2	-	58.7	23.9
	40歳代	79	-	-	-	-	-	-	-	-	-	54	15
	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	68.4	19.0
	50歳代	57	1	2	-	-	-	1	-	1	-	35	12
100.0	1.8	3.5	-	-	-	1.8	-	1.8	-	-	61.4	21.1	
60歳代	80	-	-	-	-	-	-	-	-	-	59	13	
100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	73.8	16.3	
70歳以上	146	-	-	-	-	-	-	-	-	-	80	51	
100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	54.8	34.9	

<前回調査（平成27年（2015年））との比較>（図表 6-3-5）

前回調査の結果に比べ、男女ともすべての項目で低下しており、特に「②大声でどなられる」で20ポイント前後の低下がみられる。また、無回答が多くなっている。そこで以下に無回答を除く集計結果である<参考>を示す。ただし、以下に示す無回答を除く集計結果である<参考>と比較しても同様の傾向が確認された。

【図表 6-3-5 前回調査との比較 配偶者等からの暴力の経験の有無】

		(MA%)											
		n	①何を言っても長期間無視される	②大声でどなられる	③あなたをわざと壊したり捨てたりする	④あなたとの交友関係や電話・メール・SNSを監視された・り、外出を制限される	⑤実家の親戚・きょうだい・友人との付き合いをいやがら・たり禁止されたりする	⑥十分な生活費を渡さない	⑦お金を取り上げたり、預貯金を強要されたりする	⑧「だれのおかげで、お前は食べられない」と言われる	⑨性的なことをおどされる	⑩押しついたり、こづいたりする	⑪骨折させられたり、鼓膜を
女性	今回調査	723	5.0	13.4	1.8	4.1	3.6	4.6	2.4	5.3	3.9	4.4	0.7
	前回調査	1,064	13.8	34.9	6.7	10.6	10.6		5.5	13.8	11.7	11.1	2.0
	スコア差		-8.8	-21.5	-4.9	-6.5	-7.0		-3.1	-8.5	-7.8	-6.7	-1.3
男性	今回調査	456	7.0	6.1	2.6	2.4	2.2	0.9	1.1	0.2	0.9	1.5	0.2
	前回調査	780	16.3	24.1	7.2	7.8	10.4		5.3	6.3	6.4	12.1	1.4
	スコア差		-9.3	-18.0	-4.6	-5.4	-8.2		-4.2	-6.1	-5.5	-10.6	-1.2

		(MA%)											
		n	⑫命の危険を感じるようなことをされる	⑬あなたがたか知らない雑誌を見せられる	⑭性的な画像などをばらまかれる	⑮避妊に協力しない	⑯あなたの意に反して性的な行為を強要される	⑰子どもが見ている前であなたに暴力をふるう	⑱あなたを脅すために子どもに暴力をふるう	⑲子どもと仲良くするのを嫌う	⑳子どもを取り上げようとする	㉑どれも無い	無回答
女性	今回調査	723	1.4	0.4	-	1.1	2.6	1.9	0.7	1.4	1.1	59.5	19.9
	前回調査	1,064	2.1	3.5	0.5	8.3	11.2						
	スコア差		-0.7	-3.1	-0.5	-7.2	-8.6						
男性	今回調査	456	0.4	0.2	-	0.2	0.2	0.2	0.2	0.4	-	63.8	24.3
	前回調査	780	1.3	0.9	0.6	1.4	1.3						
	スコア差		-0.9	-0.7	-0.6	-1.2	-1.1						

<参考>無回答を除く集計結果

(MA%)

		①何を言っても長期間無視される	②大声でどなられる	③あなたをわざと壊したり捨てたりする	④あなたをSNSを監視される	⑤あなたの交友関係や電話・メール・SNSを制限される	⑥十分な生活費を渡さない	⑦お金を取り上げたり、預貯金を強要されたりする	⑧「お金の必要さたりする」などと言われる	⑨「だれのおかげで、お前は食べられないんだ」「が、いしよ」などと言われる	⑩可能性のあるもので、おどされる	⑪「おんこつや身体を傷つける」など言われる	⑫「おんこつや身体を傷つける」など言われる	⑬「おんこつや身体を傷つける」など言われる
女性	今回調査	6.2 n=579	16.8 n=579	2.2 n=579	5.2 n=579	4.5 n=579	5.7 n=579	2.9 n=579	6.6 n=579	4.8 n=579	5.5 n=579	0.9 n=579		
	前回調査	15.6 n=945	39.0 n=951	7.5 n=950	11.9 n=949	11.9 n=950		6.2 n=953	15.4 n=955	13.2 n=948	12.4 n=948	2.2 n=949		
	スコア差	-9.4	-22.2	-5.3	-6.7	-7.4		-3.3	-8.8	-8.4	-6.9	-1.3		
男性	今回調査	9.3 n=345	8.1 n=345	3.5 n=345	3.2 n=345	2.9 n=345	1.2 n=345	1.4 n=345	0.3 n=345	1.2 n=345	2.0 n=345	0.3 n=345		
	前回調査	18.3 n=693	27.1 n=694	8.1 n=690	8.9 n=689	11.7 n=690		6.0 n=688	7.1 n=688	7.3 n=686	13.7 n=686	1.6 n=685		
	スコア差	-9.0	-19.0	-4.6	-5.7	-8.8		-4.6	-6.8	-6.1	-11.7	-1.3		

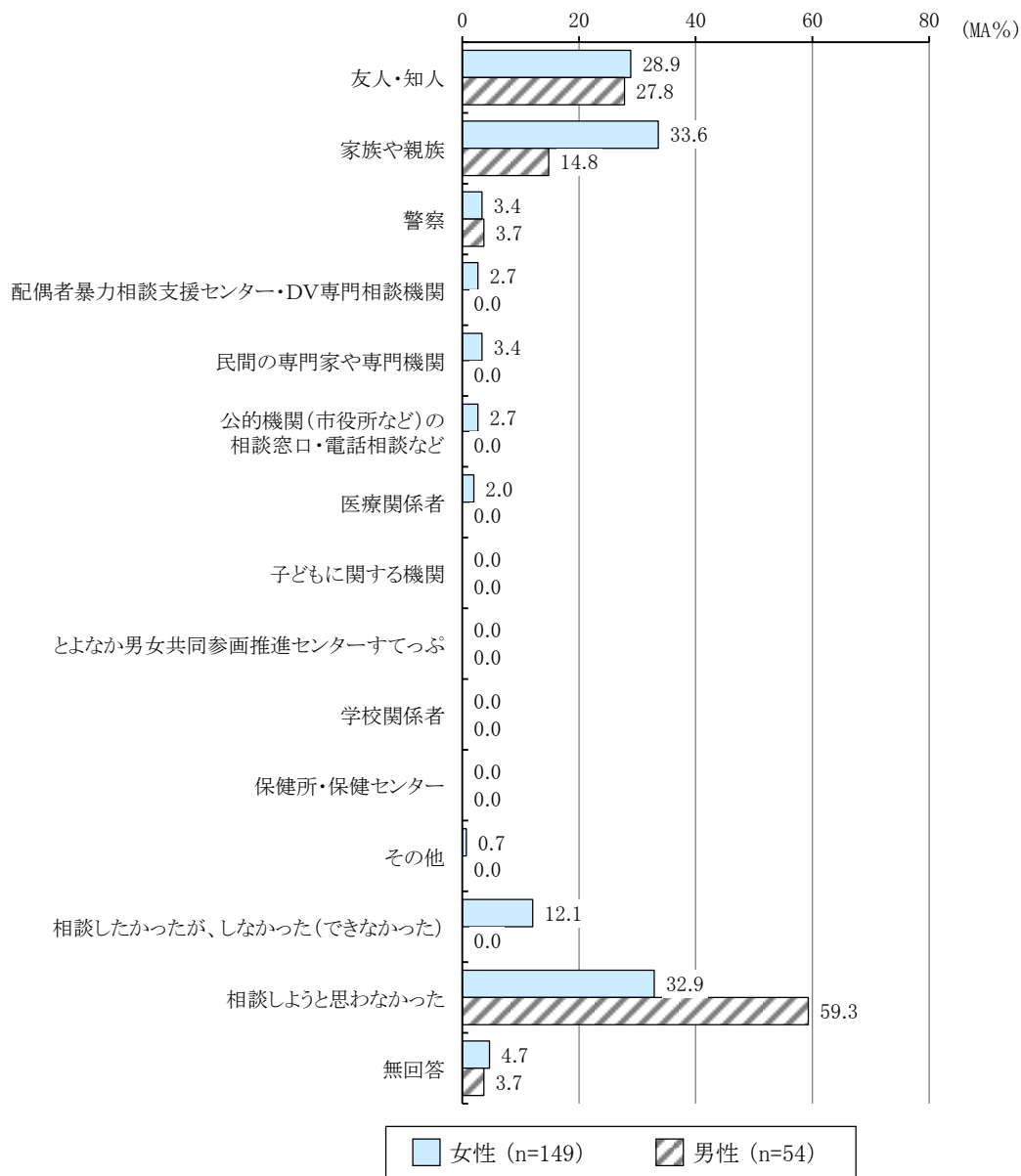
		⑭命の危険を感じるようなことをされる	⑮あなたが見たくない雑誌、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる	⑯性的な画像などをばらまかれる	⑰避妊に協力しない	⑱あなたの意に反して性的な行為を強要される	⑲子どもが見ている前であなたに暴力をふるう	⑳あなたを脅すために子どもに暴力をふるう	㉑子どもと仲良くするのを嫌う	㉒子どもを取り上げようとする	㉓どれも無い
女性	今回調査	1.7 n=579	0.5 n=579	- n=579	1.4 n=579	3.3 n=579	2.4 n=579	0.9 n=579	1.7 n=579	1.4 n=579	74.3 n=579
	前回調査	2.3 n=952	3.9 n=950	0.5 n=948	9.3 n=943	12.6 n=945					
	スコア差	-0.6	-3.4	-0.5	-7.9	-9.3					
男性	今回調査	0.6 n=345	0.3 n=345	- n=345	0.3 n=345	0.3 n=345	0.3 n=345	0.3 n=345	0.6 n=345	- n=345	84.3 n=345
	前回調査	1.5 n=685	1.0 n=681	0.7 n=682	1.6 n=674	1.5 n=673					
	スコア差	-0.9	-0.7	-0.7	-1.3	-1.2					

(4) 配偶者等からの暴力(ドメスティック・バイオレンス/DV)を受けたときの相談状況

【問 20 で、ひとつでもされたことがあったと答えた方にお聞きします。】

問 20-1 そのことをだれかに相談しましたか。(○はいくつでも)

【図表 6-4 配偶者等からの暴力を受けたときの相談状況】



<性別> (図表 6-4)

配偶者等からの暴力を受けた経験があると回答した人に、相談状況をたずねたところ、女性は、「家族や親族」が33.6%と最も多く、次いで「友人・知人」が28.9%となっており、家族や親族への相談が男性に比べ18.8ポイント高くなっている。また、女性で「相談しようと思わなかった」が32.9%であった。一方男性では、「友人・知人」が27.8%、「家族や親族」が14.8%となっているが、「相談しようと思わなかった」人が59.3%であった。

<性・年代別> (図表 6-4-1)

女性では、40歳代で「友人・知人」「家族や親族」が41.9%で並んで最も多くなっている。50～60歳代では、「相談しようと思わなかった」が最も多く、「家族や親族」が3割で続いている。70歳以上では「家族や親族」が31.4%で最も多くなっている。(※女性30歳代以下および男性の各年代は、回答者数が少ないため、参考値とする。)

【図表 6-4-1 性・年代別 配偶者等からの暴力を受けたときの相談状況】

		n	友人・知人	家族や親族	警察	配偶者・DV専門家相談支援センター	民間の専門家や専門機関	公的機関(市役所など)の相談窓口・電話相談など	医療関係者	子どもに関する機関	とよなか男女共同参画推進センター	学校関係者	保健所・保健センター	その他	相談しようと思わなかった(できなかったが、しな)	相談しようと思わなかった	無回答
全体	上段/実数	207	61	58	9	5	5	4	4	1	-	-	-	2	18	81	9
	下段/MA%	100.0	29.5	28.0	4.3	2.4	2.4	1.9	1.9	0.5	-	-	-	1.0	8.7	39.1	4.3
女性	29歳以下	11	5	3	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	4	-
		100.0	45.5	27.3	9.1	9.1	-	-	-	-	-	-	-	-	18.2	36.4	-
	30歳代	15	7	5	1	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	8	-
		100.0	46.7	33.3	6.7	6.7	6.7	-	6.7	-	-	-	-	-	-	53.3	-
	40歳代	31	13	13	1	2	4	2	2	-	-	-	-	1	2	5	1
		100.0	41.9	41.9	3.2	6.5	12.9	6.5	6.5	-	-	-	-	3.2	6.5	16.1	3.2
	50歳代	28	7	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	12	1
	100.0	25.0	32.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17.9	42.9	3.6	
60歳代	29	4	9	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	10	-	
	100.0	13.8	31.0	3.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17.2	34.5	-	
70歳以上	35	7	11	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-	4	10	5	
	100.0	20.0	31.4	2.9	-	-	5.7	-	-	-	-	-	-	11.4	28.6	14.3	
男性	29歳以下	3	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		100.0	33.3	66.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30歳代	8	5	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
		100.0	62.5	25.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25.0	-
	40歳代	10	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	1
		100.0	30.0	10.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	60.0	10.0
	50歳代	10	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-
	100.0	30.0	-	10.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	70.0	-	
60歳代	8	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	
	100.0	12.5	12.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	75.0	-	
70歳以上	15	2	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	1	
	100.0	13.3	13.3	6.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	73.3	6.7	

<前回調査（平成 27 年（2015 年））との比較>（図表 6-4-2）

前回調査の結果に比べ、女性では「家族や親族」が 12.2 ポイント、男性では「友人・知人」が 17.3 ポイント、それぞれ上昇している。「相談しようと思わなかった」は女性では 5.3 ポイント低くなり、男性ではほとんど変化がなかった。

【図表 6-4-2 前回調査との比較 配偶者等からの暴力を受けたときの相談状況】

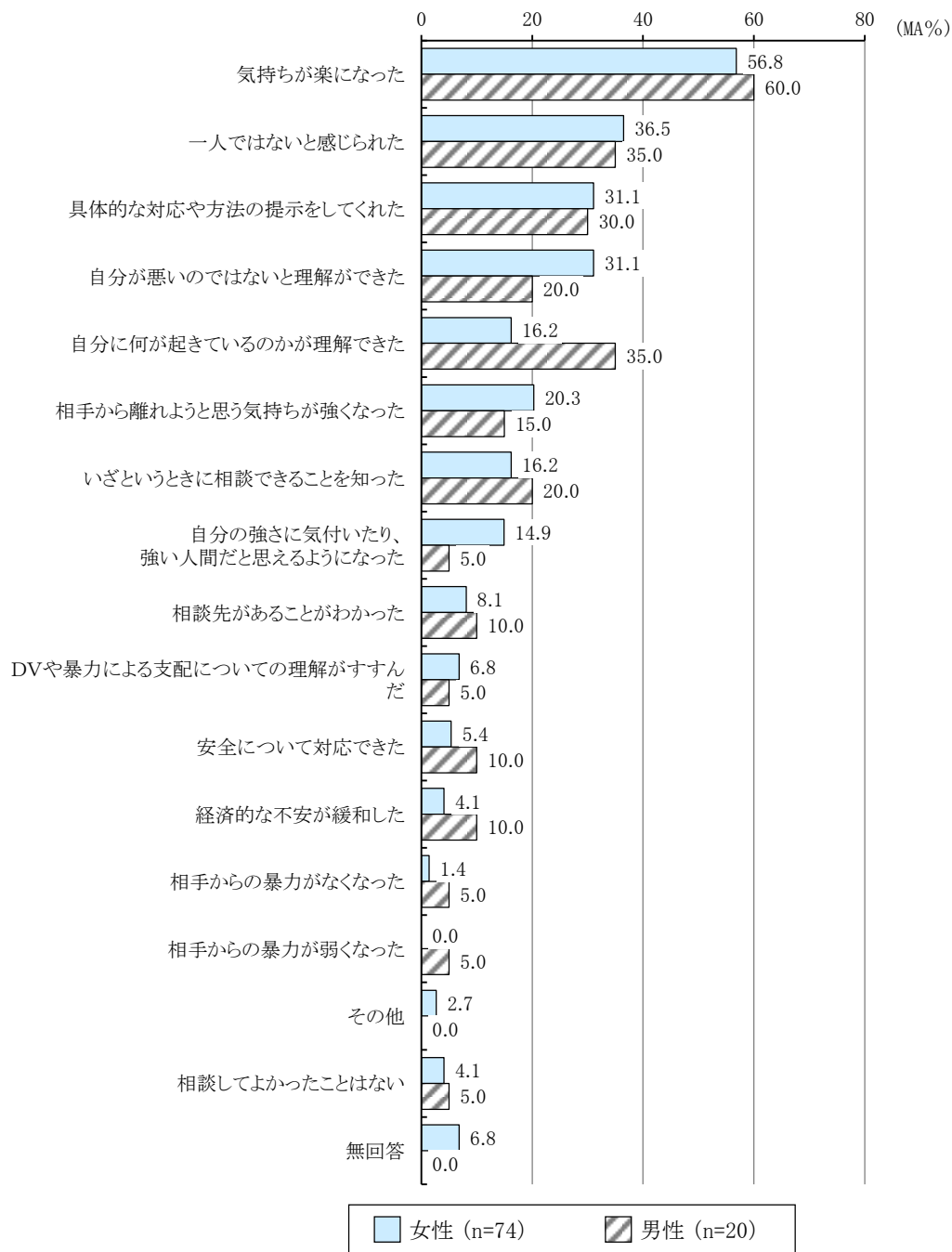
		n	友人・知人	家族や親族	警察	配偶者暴力相談支援センター・DV 専門相談機関	民間の専門家や専門機関	公的機関（市役所など）の相談窓口・電話相談など	医療関係者	子どもに関する機関	子どもや男女共同参画推進センターすてっぷ	学校関係者	保健所・保健センター	その他	相談できなかったが、しなかった（できなかった）	相談しようと思わなかった	無回答
女性	今回調査	149	28.9	33.6	3.4	2.7	3.4	2.7	2.0	-	-	-	-	0.7	12.1	32.9	4.7
	前回調査	477	27.0	21.4	1.5	-	0.8	1.0	0.8		0.2	0.2	0.2	2.1	9.4	38.2	10.9
	スコア差		+1.9	+12.2	+1.9	+2.7	+2.6	+1.7	+1.2		-0.2	-0.2	-0.2	-1.4	+2.7	-5.3	-6.2
男性	今回調査	54	27.8	14.8	3.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	59.3	3.7
	前回調査	275	10.5	11.6	1.1	-	0.7	1.5	0.4		-	1.5	-	2.2	3.6	60.4	13.5
	スコア差		+17.3	+3.2	+2.6	0.0	-0.7	-1.5	-0.4		0.0	-1.5	0.0	-2.2	-3.6	-1.1	-9.8

(5) 相談してよかったと感じたこと

【だれかに相談したことがある方にお聞きします。】

問 20-2 相談してよかったと感じたことはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

【図表 6-5 相談してよかったと感じたこと】



<性別> (図表 6-5)

男女ともに「相談してよかったことはない」(女性 4.1%、男性 5.0%)と回答している人は少なかった。

相談してよかったと感じたことは、女性では、「気持ちが楽になった」が 56.8%で最も多く、「一人ではないと感じられた」(36.5%)、「具体的な対応や方法の提示をしてくれた」「自分が悪いのではないと理解ができた」(31.1%)と続いている。男性では、「気持ちが楽になった」が 60.0%で最も多く、「一人ではないと感じられた」「自分に何が起きているのかが理解できた」(35.0%)が続いている。

男女差をみると、「自分が悪いのではないと理解ができた」は女性が 11.1 ポイント、「自分に何が起きているのかが理解できた」は男性が 18.8 ポイント高くなっている。

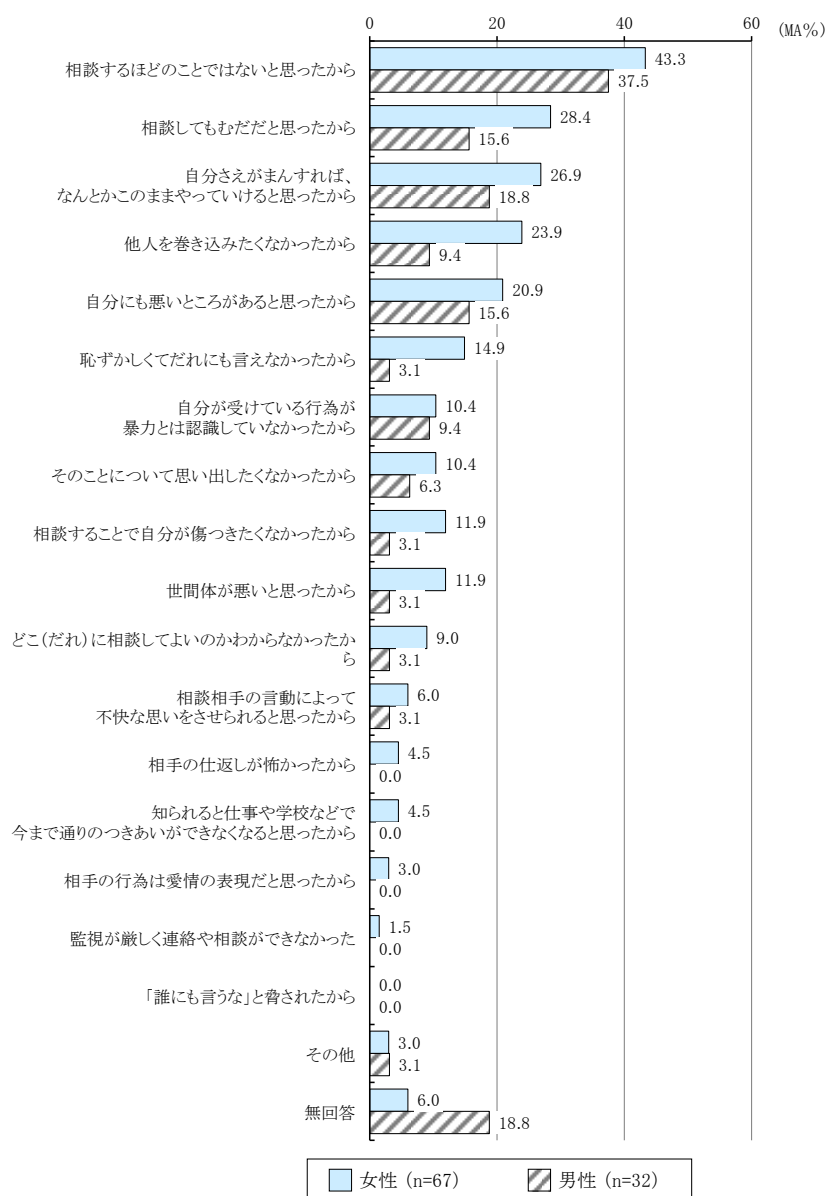
(6) 相談しなかった理由

【問 20-1 で「12. 相談したかったが、しなかった（できなかった）」

「13. 相談しようと思わなかった」と答えた方にお聞きします。】

問 20-3 相談しなかった、しようと思わなかったのはなぜですか。(〇はいくつでも)

【図表 6-6 相談しなかった理由】



<性別> (図表 6-6)

暴力行為を受けても相談したかったがしなかった、しようと思わなかったと回答した人に、その理由をたずねたところ、男女とも「相談するほどのことではないと思ったから」（女性 43.3%、男性 37.5%）が最も多く、次いで、女性では「相談してもむだだと思ったから」（28.4%）、男性では「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」（18.8%）と続いている。

「その他」と無回答を除くすべての項目で女性の方が高くなっており、特に「他人を巻き込みたくなかったから」「相談してもむだだと思ったから」「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」で 10 ポイント以上の差となっている。

<前回調査（平成 27 年（2015 年））との比較>（図表 6-6-2）

前回調査の結果に比べ、女性で「他人を巻き込みたくなかったから」が上昇している。男性で「相談するほどのことではないと思ったから」と「自分にも悪いところがあると思ったから」が低下している。

【図表 6-6-2 前回調査との比較 相談しなかった理由】

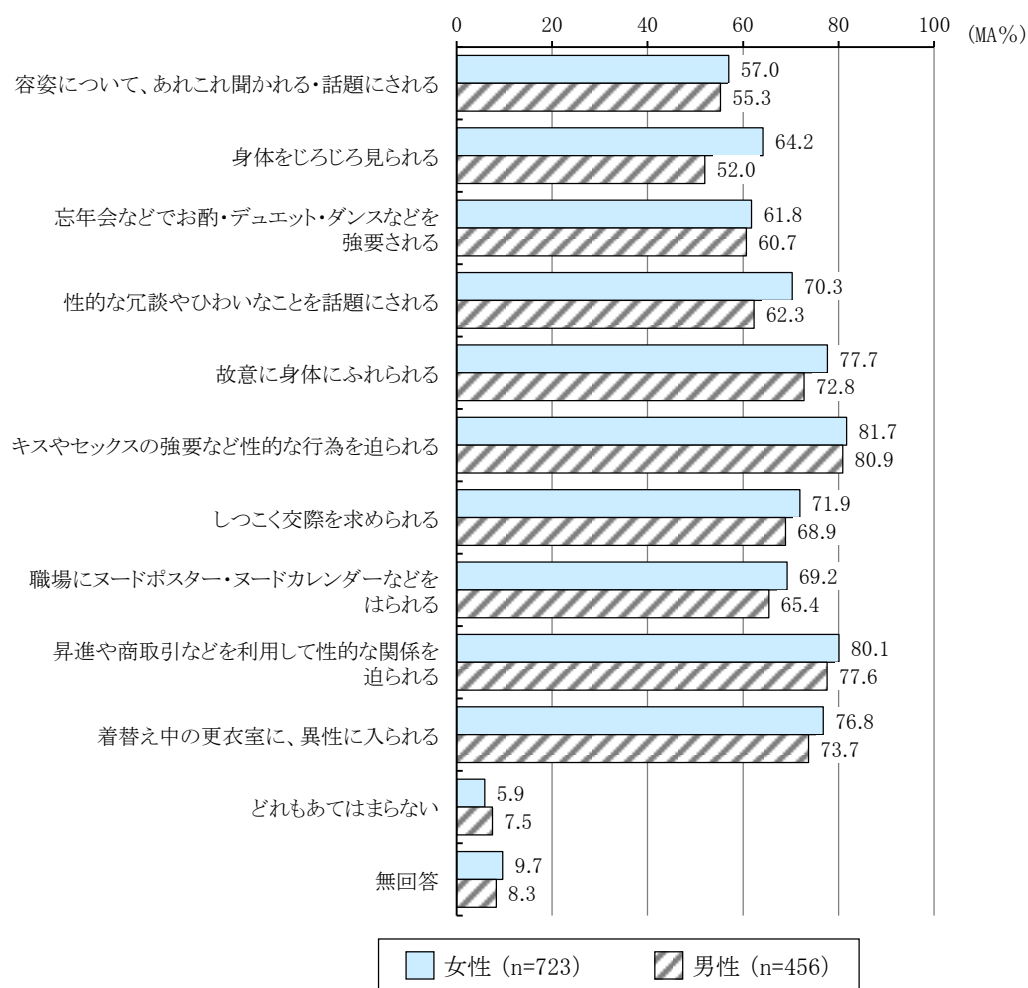
		n	相談するほどのことではないから	相談してもむだだと思った	自分かこのままやればいいから	他人を巻き込みたくなかったから	自分にも悪いところがあると思ったから	恥ずかしくてだれにも言えなかったから	自分とは認識している行為が暴力から	そのことについて思い出し	相談する自分で自分が傷つきたくなかったから	世間体が悪いと思ったから
女性	今回調査	67	43.3	28.4	26.9	23.9	20.9	14.9	10.4	10.4	11.9	11.9
	前回調査	227	49.8	25.1	25.6	9.3	29.5	12.3	15.9	5.3	6.2	4.4
	スコア差		-6.5	+3.3	+1.3	+14.6	-8.6	+2.6	-5.5	+5.1	+5.7	+7.5
男性	今回調査	32	37.5	15.6	18.8	9.4	15.6	3.1	9.4	6.3	3.1	3.1
	前回調査	176	64.2	18.8	11.4	9.1	33.0	6.8	9.1	2.8	2.8	5.1
	スコア差		-26.7	-3.2	+7.4	+0.3	-17.4	-3.7	+0.3	+3.5	+0.3	-2.0

		n	いどこ（だれ）に相談したからよ	思ったかから	快談相手の言動によつて不快な思いをさせられると	相手の仕返しを怖かったから	できなると通りの仕事や学校などが	知られると仕事や学校などが	相手の行為は愛情の表現だと思つたから	監視が厳しく連絡や相談ができなかった	たかにも言うな」と脅され	その他	無回答
女性	今回調査	67	9.0	6.0	4.5	4.5	3.0	1.5	-	-	3.0	6.0	
	前回調査	227	6.2	4.4	4.4	3.1	7.9				6.6	2.2	
	スコア差		+2.8	+1.6	+0.1	+1.4	-4.9				-3.6	+3.8	
男性	今回調査	32	3.1	3.1	-	-	-	-	-	-	3.1	18.8	
	前回調査	176	4.5	2.3	0.6	1.1	6.3				3.4	5.7	
	スコア差		-1.4	+0.8	-0.6	-1.1	-6.3				-0.3	+13.1	

(7) セクシュアル・ハラスメントの認識

問 21 次の中から、あなたがセクシュアル・ハラスメント（セク・ハラ/性的いやがらせ）にあたると思うものをすべてお選びください（①）。また自分の意思に反して、②職場、③学校、④地域などでされたことがあるものをお選びください。（〇はいくつでも）

【図表 6-7 セクシュアル・ハラスメントの認識】



<性別> (図表 6-7)

セクシュアル・ハラスメントの認識については、男女とも「キスやセックスの強要など性的な行為を迫られる」（女性 81.7%、男性 80.9%）が最も多くなっている。その他、「故意に身体にふれられる」「昇進や商取引などを利用して性的な関係を迫られる」「着替え中の更衣室に、異性に入られる」が男女ともに7割以上と高く、女性では、「性的な冗談やひわいなことを話題にされる」「しつこく交際を求められる」も7割を超えている。

男女で比較すると、「どれもあてはまらない」を除いて、いずれの項目も女性の方が高く、特に「身体をじろじろ見られる」で12.2ポイントと差が大きい。

<性・年代別> (図表 6-7-1)

セクシュアル・ハラスメントにあたる行為として、最も多いものは、「キスやセックスの強要など性的な行為を迫られる」で、女性 50 歳代以下で 9 割台、男性 60 歳代以下で 8 割台と高くなっている。

女性では、50 歳代以下で「昇進や商取引などを利用して性的な関係を迫られる」が 9 割台、「性的な冗談やひわいなことを話題にされる」「故意に身体にふれられる」「しつこく交際を求められる」「職場にヌードポスター・ヌードカレンダーなどをはられる」「着替え中の更衣室に、異性に入られる」が 8 割以上である。他の項目についても、50 歳代までは大きな違いはないが、60 歳代以上でセクシュアル・ハラスメントにあたる行為と答える割合が低くなっている。

男性では、年代ごとにバラつきがあるが、全体的に 50 歳代で高い項目が多くなっている。

「どれもあてはまらない」を除いて、50 歳代以下では、女性の割合の方が概ね高く、60 歳代以上の年代では男性の割合の方が概ね高くなっている。

【図表 6-7-1 性・年代別 セクシュアル・ハラスメントの認識】

	n	れれ容	る身	どデ	忘年	こ性	る故	れな	キス	れし	タ	職	ら	用昇	異性	着替	ど	無								
		聞か	体	を強	年会	性的	故意	など	しつ	性	つこ	ー	場	れる	進や	性	え中	れも	回							
全体	上段/実数	678	718	740	812	915	982	854	816	955	913	78	113	1,207	56.2	59.5	61.3	67.3	75.8	81.4	70.8	67.6	79.1	75.6	6.5	9.4
	下段/MA%	56.2	59.5	61.3	67.3	75.8	81.4	70.8	67.6	79.1	75.6	6.5	9.4	100.0	56.2	59.5	61.3	67.3	75.8	81.4	70.8	67.6	79.1	75.6	6.5	9.4
女 性	29歳以下	56	40	44	39	46	48	56	51	49	53	49	-	100.0	71.4	78.6	69.6	82.1	85.7	100.0	91.1	87.5	94.6	87.5	-	-
	30歳代	98	62	82	71	83	91	92	83	84	90	91	2	100.0	63.3	83.7	72.4	84.7	92.9	93.9	84.7	85.7	91.8	92.9	2.0	1.0
	40歳代	151	105	118	108	123	135	142	124	122	141	135	4	100.0	69.5	78.1	71.5	81.5	89.4	94.0	82.1	80.8	93.4	89.4	2.6	2.6
	50歳代	115	76	84	87	93	104	109	96	93	110	103	3	100.0	66.1	73.0	75.7	80.9	90.4	94.8	83.5	80.9	95.7	89.6	2.6	1.7
	60歳代	113	68	70	69	80	87	90	80	72	88	86	9	100.0	60.2	61.9	61.1	70.8	77.0	79.6	70.8	63.7	77.9	76.1	8.0	8.8
	70歳以上	189	60	65	72	82	96	101	85	79	96	90	25	100.0	31.7	34.4	38.1	43.4	50.8	53.4	45.0	41.8	50.8	47.6	13.2	53
男 性	29歳以下	48	28	27	32	36	38	43	33	38	40	38	-	100.0	58.3	56.3	66.7	75.0	79.2	89.6	68.8	79.2	83.3	79.2	-	-
	30歳代	46	34	30	33	31	36	40	33	34	39	38	1	100.0	73.9	65.2	71.7	67.4	78.3	87.0	71.7	73.9	84.8	82.6	2.2	4.3
	40歳代	79	44	46	51	55	62	71	61	63	69	67	3	100.0	55.7	58.2	64.6	69.6	78.5	89.9	77.2	79.7	87.3	84.8	3.8	2.5
	50歳代	57	38	39	44	45	44	50	48	43	49	48	4	100.0	66.7	68.4	77.2	78.9	77.2	87.7	84.2	75.4	86.0	84.2	7.0	1.8
	60歳代	80	52	44	54	54	69	71	65	58	69	68	6	100.0	65.0	55.0	67.5	67.5	86.3	88.8	81.3	72.5	86.3	85.0	7.5	2.5
	70歳以上	146	56	51	63	63	83	94	74	62	88	77	20	100.0	38.4	34.9	43.2	43.2	56.8	64.4	50.7	42.5	60.3	52.7	13.7	31

＜前回調査（平成 27 年（2015 年））との比較＞（図表 6-7-2）

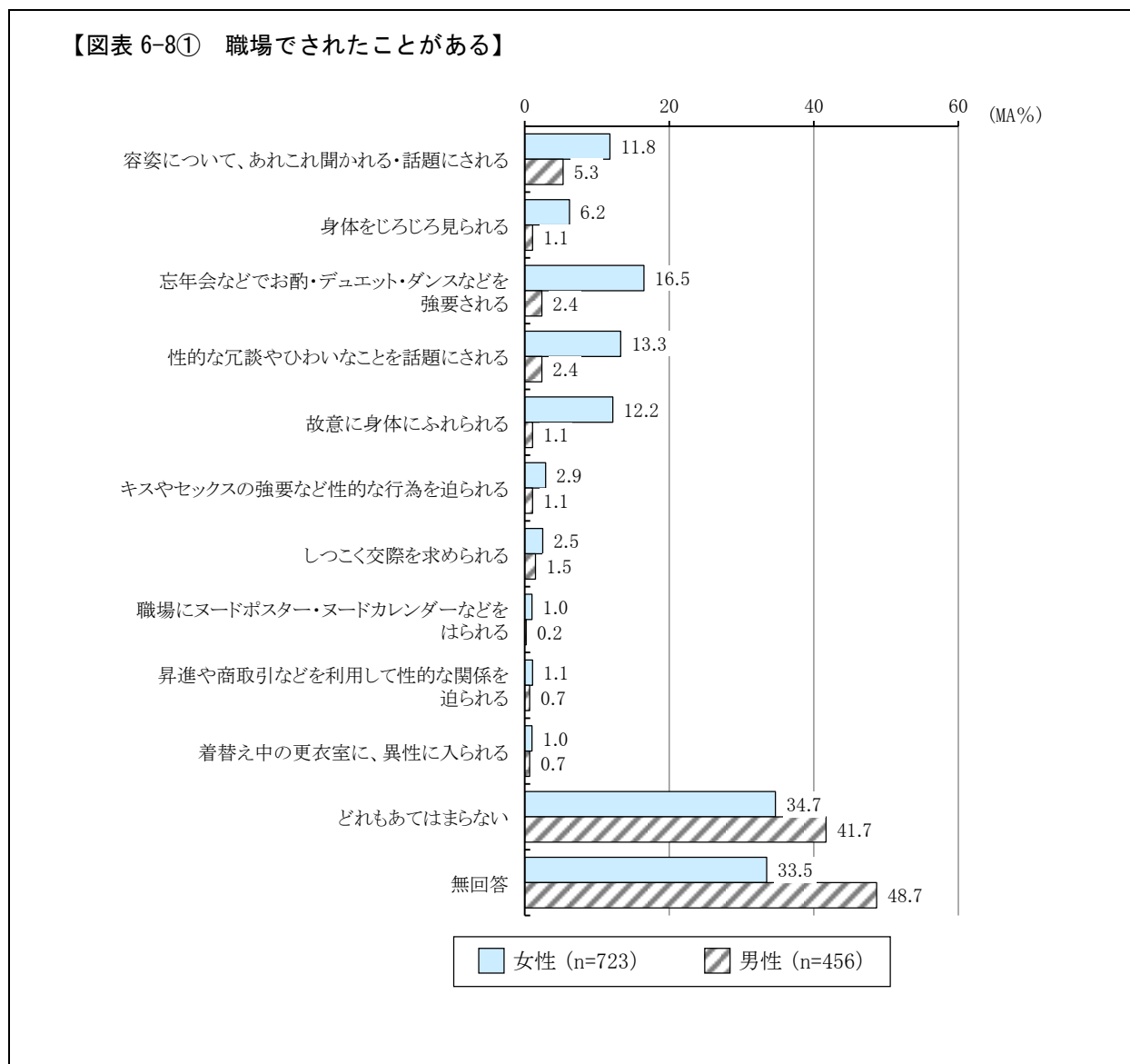
前回調査の結果に比べ、男女とも「どれもあてはまらない」、無回答以外、すべての項目で 10 ポイント以上上昇している。女性は、「身体をじろじろ見られる」が 19.2 ポイント、男性は「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」が 15.9 ポイントと、特に上昇している。さまざまな行為のセクシュアル・ハラスメントの認識は前回調査より今回調査のほうがいずれも高くなっている。

【図表 6-7-2 前回調査との比較 セクシュアル・ハラスメントの認識】

		n	れれ容 聞姿 かにつ いて、 ・話 題に れさこ	る身 体 を じ ろ じ ろ 見 ら れ	ど を 強 要 さ れ る ダ ン 酌 ス ・ な	忘 年 会 な ど で お 酌 ス ・ な	こ と を な 話 題 に や さ れ る い な	性 的 な 冗 談 に さ れ る い な	る 故 意 に 身 体 に ふ れ ら れ	れ な キ ス や セ ッ ク ス の 強 要 を 求 め ら れ	し つ こ く 交 際 を 求 め ら れ	ダ ー ナ ・ ヌ ー ド カ レ ス	職 場 に ヌ ー ド カ レ ス	ら れ る 性 的 な 引 換 え の 利 益	昇 進 や 商 取 引 な ど を 利 用 し て の 利 益	異 性 に 入 ら る 更 衣 室 に 、	ど れ も あ て は ま ら な い	無 回 答
女性	今回調査	723	57.0	64.2	61.8	70.3	77.7	81.7	71.9	69.2	80.1	76.8	5.9	9.7				
	前回調査	1,064	40.3	45.0	44.1	51.9	65.8	69.5	55.9	55.3	67.8	63.6	8.4	18.8				
	スコア差		+16.7	+19.2	+17.7	+18.4	+11.9	+12.2	+16.0	+13.9	+12.3	+13.2	-2.5	-9.1				
男性	今回調査	456	55.3	52.0	60.7	62.3	72.8	80.9	68.9	65.4	77.6	73.7	7.5	8.3				
	前回調査	780	39.4	37.7	45.1	48.1	58.8	67.1	55.8	54.6	65.9	60.8	9.5	21.5				
	スコア差		+15.9	+14.3	+15.6	+14.2	+14.0	+13.8	+13.1	+10.8	+11.7	+12.9	-2.0	-13.2				

(8) セクシュアル・ハラスメントの経験

①職場でされたことがある



<性別> (図表 6-8①)

職場でセクシュアル・ハラスメントを受けた経験については、女性で「忘年会などでお酌・デュエット・ダンスなどを強要される」(16.5%)、「性的な冗談やひわいなことを話題にされる」(13.3%)、「故意に身体にふれられる」(12.2%)、「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」(11.8%)が1割を超えている。男性は、「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」が5.3%で最も多く、「どれもあてはまらない」、無回答以外はいずれも女性の方が高くなっている。

また、「どれもあてはまらない」が女性で34.7%、男性で41.7%である。

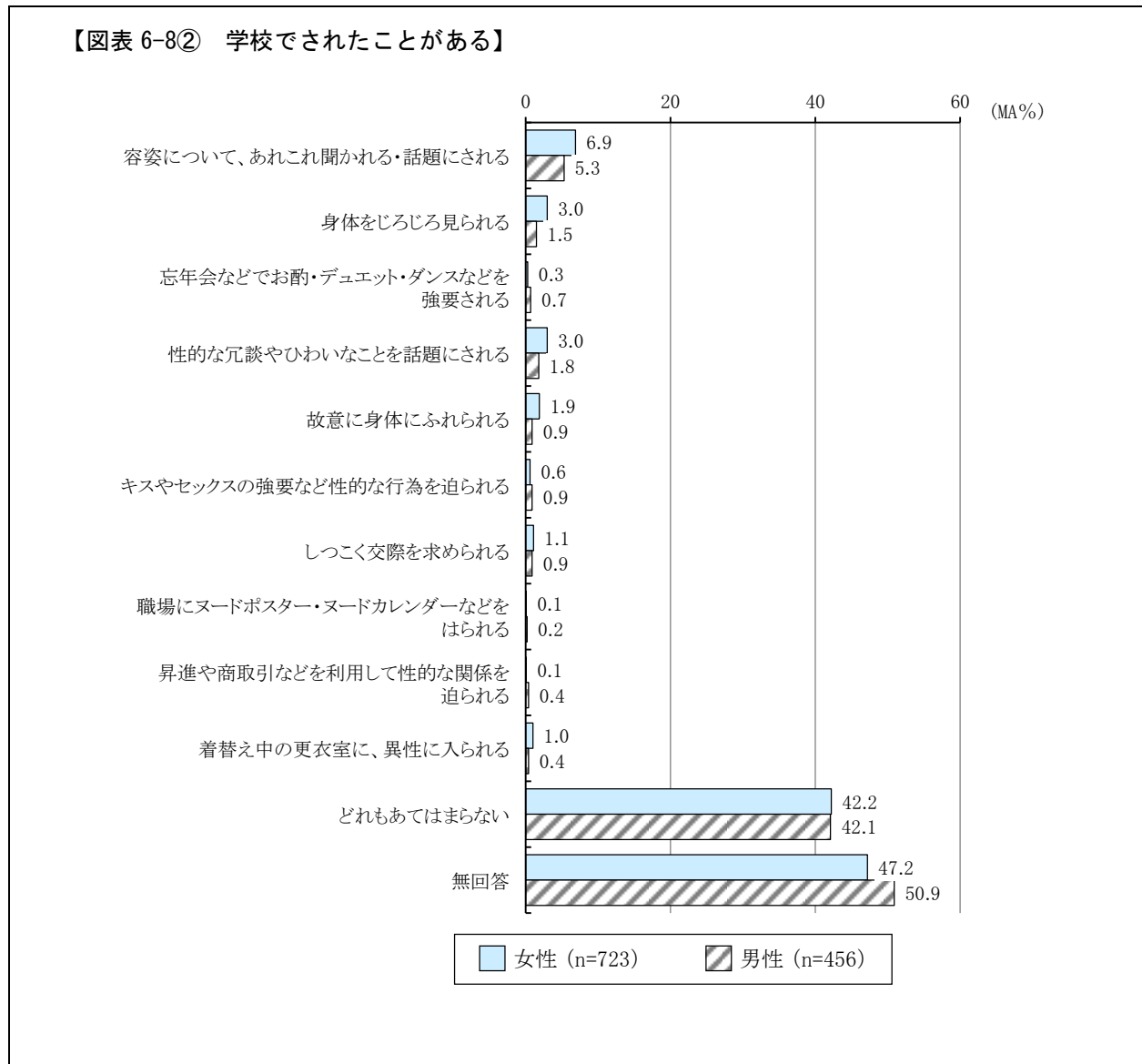
<前回調査（平成 27 年（2015 年））との比較>（図表 6-8①-2）

前回調査の結果に比べ、「どれもあてはまらない」が増え、無回答が減っている。それぞれの経験については、男女ともに大きな変化はみられない。

【図表 6-8①-2 前回調査との比較 職場でされたことがある】

		n	れ容 る開 姿か れつ いて ・話 題あ れこ	る身 体を じろ じろ 見ら れ	どデ ユ年 をエ 強会 要さ れど るダ ン酌 ス・ な	こ性 とを な冗 話談 にや さひ わい な	る故 意に 身 体 に ふ れ ら れ	れな どス 性的 なセ ツク スの 強要	れし つこ く交 際を 求め ら	ダ ター など をは はら れる	職 場 に ヌ ード カ ポ ス	ら れ し て 性 的 な 関 係 を 迫 る	昇 進 や 商 取 引 な ど を 利 用 し て 性 的 な 関 係 を 迫 る	異 性 に 入 ら れ る 更 衣 室 に 、	ど れ も あ て は ま ら な い	無 回 答
女性	今回調査	723	11.8	6.2	16.5	13.3	12.2	2.9	2.5	1.0	1.1	1.0	34.7	33.5		
	前回調査	1,064	12.8	7.0	15.9	13.6	12.9	3.4	3.8	1.4	0.8	1.2	14.4	55.2		
	スコア差		-1.0	-0.8	+0.6	-0.3	-0.7	-0.5	-1.3	-0.4	+0.3	-0.2	+20.3	-21.7		
男性	今回調査	456	5.3	1.1	2.4	2.4	1.1	1.1	1.5	0.2	0.7	0.7	41.7	48.7		
	前回調査	780	5.6	3.3	3.5	4.0	2.1	1.2	0.8	0.8	0.6	1.4	16.0	74.0		
	スコア差		-0.3	-2.2	-1.1	-1.6	-1.0	-0.1	+0.7	-0.6	+0.1	-0.7	+25.7	-25.3		

②学校でされたことがある



<性別> (図表 6-8②)

学校でセクシュアル・ハラスメントを受けた経験については、男女とも「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」が最も多く、女性で6.9%、男性で5.3%となっている。

また、「どれもあてはまらない」が女性で42.2%、男性で42.1%である。

<性・年代別> (図表 6-8②-1)

女性では、29歳以下で「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」が25.0%、「性的な冗談やひわいなことを話題にされる」(14.3%)、「身体をじろじろ見られる」(12.5%)も1割を超えている。男性では、30歳代以下で「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」が1割を超えている。

【図表 6-8②-1 性・年代別 学校でされたことがある】

		n	容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる	身体をじろじろ見られる	忘年会などでお酌・ダンスなどを強要される	性的な冗談やひわいなことを話題にされる	故意に身体にふられる	性的な行為を求められる	キスやセックスの強要	しつこく交際を求められる	職場にヌードポスター・ヌードカレン	昇進や商取引などを迫られる	着替え中の更衣室に、異性に入られる	どれもあてはまらない	無回答
全体	上段/実数	1,207	77	31	6	34	20	9	13	2	3	10	503	591	
	下段/MA%	100.0	6.4	2.6	0.5	2.8	1.7	0.7	1.1	0.2	0.2	0.8	41.7	49.0	
女性	29歳以下	56	14 25.0	7 12.5	-	8 14.3	4 7.1	2 3.6	3 5.4	-	-	2 3.6	25 44.6	12 21.4	
	30歳代	98	7 7.1	4 4.1	1 1.0	3 3.1	1 1.0	-	1 1.0	-	-	3 3.1	48 49.0	36 36.7	
	40歳代	151	10 6.6	6 4.0	-	9 6.0	5 3.3	2 1.3	1 0.7	1 0.7	1 0.7	-	71 47.0	61 40.4	
	50歳代	115	11 9.6	3 2.6	1 0.9	-	2 1.7	-	2 1.7	-	-	-	54 47.0	46 40.0	
	60歳代	113	4 3.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	43 38.1	66 58.4	
	70歳以上	189	4 2.1	2 1.1	-	2 1.1	2 1.1	-	1 0.5	-	-	1 0.5	64 33.9	119 63.0	
	男性	29歳以下	48	7 14.6	1 2.1	-	4 8.3	1 2.1	2 4.2	1 2.1	-	-	-	25 52.1	14 29.2
	30歳代	46	6 13.0	-	1 2.2	1 2.2	-	-	-	-	-	-	23 50.0	16 34.8	
	40歳代	79	4 5.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	42 53.2	33 41.8	
	50歳代	57	3 5.3	2 3.5	1 1.8	1 1.8	-	-	1 1.8	-	-	1 1.8	29 50.9	24 42.1	
	60歳代	80	2 2.5	2 2.5	-	1 1.3	1 1.3	-	-	-	-	-	34 42.5	43 53.8	
	70歳以上	146	2 1.4	2 1.4	1 0.7	1 0.7	2 1.4	2 1.4	2 1.4	1 0.7	2 1.4	1 0.7	39 26.7	102 69.9	

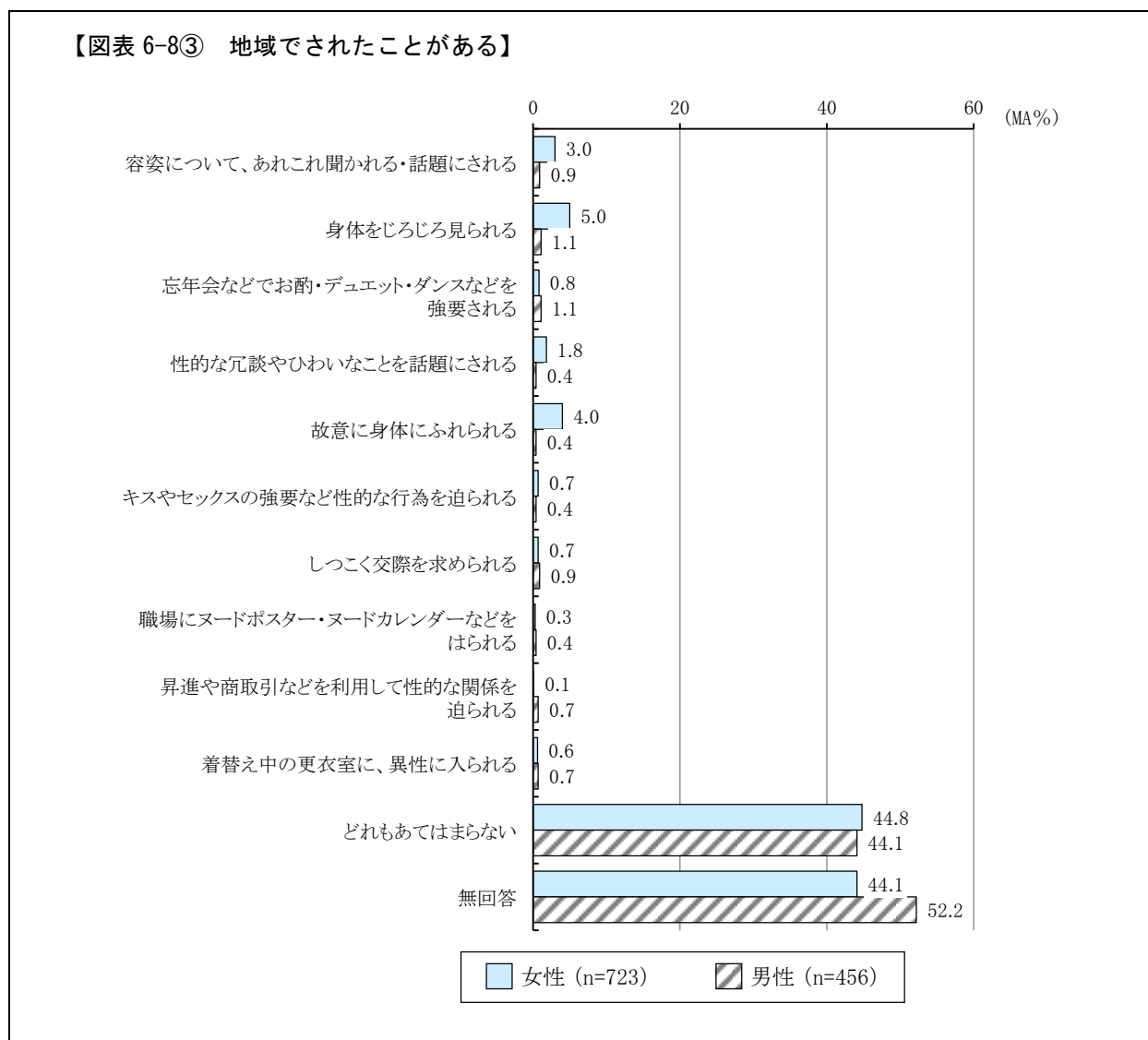
<前回調査(平成27年(2015年))との比較> (図表 6-8②-2)

前回調査の結果に比べ、「どれもあてはまらない」が増え、無回答が減っている。それぞれの経験については男女ともに大きな変化はみられない。

【図表 6-8②-2 前回調査との比較 学校でされたことがある】

		n	容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる	身体をじろじろ見られる	忘年会などでお酌・ダンスなどを強要される	性的な冗談やひわいなことを話題にされる	故意に身体にふられる	性的な行為を求められる	キスやセックスの強要	しつこく交際を求められる	職場にヌードポスター・ヌードカレン	昇進や商取引などを迫られる	着替え中の更衣室に、異性に入られる	どれもあてはまらない	無回答
女性	今回調査	723	6.9	3.0	0.3	3.0	1.9	0.6	1.1	0.1	0.1	1.0	42.2	47.2	
	前回調査	1,064	6.2	1.6	0.3	1.9	1.7	0.6	1.0	0.2	0.1	0.5	15.3	76.4	
	スコア差		+0.7	+1.4	0.0	+1.1	+0.2	0.0	+0.1	-0.1	0.0	+0.5	+26.9	-29.2	
男性	今回調査	456	5.3	1.5	0.7	1.8	0.9	0.9	0.9	0.2	0.4	0.4	42.1	50.9	
	前回調査	780	5.9	1.4	0.5	1.7	1.3	0.6	1.0	0.4	0.4	0.6	15.1	77.9	
	スコア差		-0.6	+0.1	+0.2	+0.1	-0.4	+0.3	-0.1	-0.2	0.0	-0.2	+27.0	-27.0	

③地域などでされたことがある



<性別> (図表 6-8③)

地域等でのセクシュアル・ハラスメントの経験については、女性で「身体をじろじろ見られる」5.0%が最も多く、「故意に身体にふれられる」(4.0%)、「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」(3.0%)がそれに次いでいる。

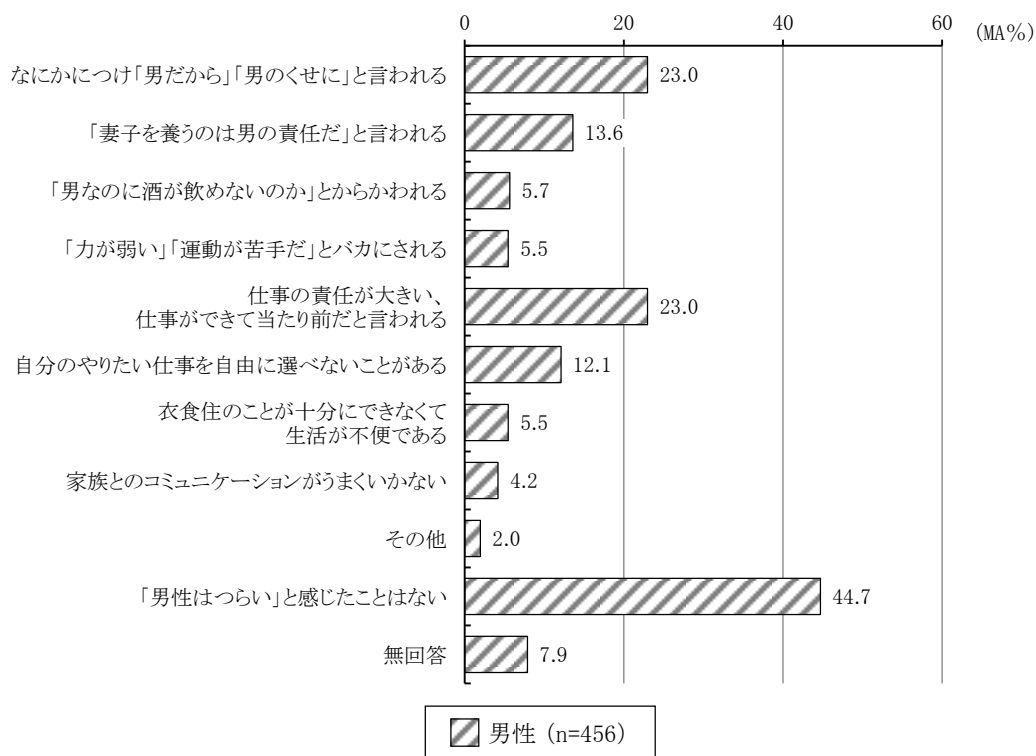
また、「どれもあてはまらない」が女性で44.8%、男性で44.1%である。

(9) 男性で「男性はつらい」と感じる理由

【男性の方のみにお聞きします。】

問 25 あなたが「男性はつらい」と感じるのは、どのような時ですか。(〇はいくつでも)

【図表 6-9 男性で「男性はつらい」と感じる理由】



<男性のみ> (図表 6-9)

男性に、「男性はつらい」と感じるのはどのような時かをたずねると、「なにかにつけ『男だから』『男のくせに』と言われる」「仕事の責任が大きい、仕事ができなくて当たり前だと言われる」がともに 23.0%で最も多く、次いで、「『妻子を養うのは男の責任だ』と言われる」(13.6%)、「自分のやりたい仕事を自由に選べないことがある」(12.1%)と続いている。

また、「『男性はつらい』と感じたことはない」が 44.7%である。

<年代別(男性のみ)> (図表 6-9-1)

「『男性はつらい』と感じたことはない」は、40～50歳代で5割台、60歳代以上で4割台、30歳代以下で3割台となっていることから、30歳代以下の若い年代でつらいと感じる割合が高くなっていることがうかがえる。具体的には、「なにかにつけ『男だから』『男のくせに』と言われる」「仕事の責任が大きい、仕事ができなくて当たり前だと言われる」が30歳代以下で3割台である。また、50歳代で「仕事の責任が大きい、仕事ができなくて当たり前だと言われる」、60歳代で「なにかにつけ『男だから』『男のくせに』と言われる」も3割前後である。

【図表 6-9-1 性・年代別 男性で「男性もつらい」と感じる理由（男性のみ）】

		n	「かならに男つらい」と感じる割合	「妻の責任だ」と言う割合	「わい男の酒から飲かめ」	「さが苦手が弱い」とバカ運動に動	「たい、事前責任が大きい」と言わき当てる	「仕事を自由に選べないことがある」	「自分のやりたくない仕事」	「不便である」	「衣食住の生活が十分でない」	「家族とのコミュニケーションがうまくない」	その他	「感じたことはつらい」と	無回答
全体	上段/実数	459	106	62	26	26	105	55	25	19	9	204	38		
	下段/MA%	100.0	23.1	13.5	5.7	5.7	22.9	12.0	5.4	4.1	2.0	44.4	8.3		
男性	29歳以下	48	18	6	3	8	15	7	1	2	3	19	2		
		100.0	37.5	12.5	6.3	16.7	31.3	14.6	2.1	4.2	6.3	39.6	4.2		
	30歳代	46	16	9	4	3	15	7	1	2	-	16	2		
		100.0	34.8	19.6	8.7	6.5	32.6	15.2	2.2	4.3	-	34.8	4.3		
	40歳代	79	13	10	3	3	17	11	1	2	2	43	1		
		100.0	16.5	12.7	3.8	3.8	21.5	13.9	1.3	2.5	2.5	54.4	1.3		
	50歳代	57	9	5	3	3	16	7	4	3	1	30	1		
	100.0	15.8	8.8	5.3	5.3	28.1	12.3	7.0	5.3	1.8	52.6	1.8			
60歳代	80	25	16	6	3	22	13	8	2	-	33	3			
	100.0	31.3	20.0	7.5	3.8	27.5	16.3	10.0	2.5	-	41.3	3.8			
70歳以上	146	24	16	7	5	20	10	10	8	3	63	27			
	100.0	16.4	11.0	4.8	3.4	13.7	6.8	6.8	5.5	2.1	43.2	18.5			

< 前回調査（平成 27 年（2015 年））との比較（男性のみ） >（図表 6-9-2）

前回調査の結果に比べ、「『男性はつらい』と感じたことはない」が 12.6 ポイント上昇しており、「自分のやりたい仕事を自由に選べないことがある」が 4.8 ポイント低下している。

【図表 6-9-2 前回調査との比較 男性で「男性もつらい」と感じる理由（男性のみ）】

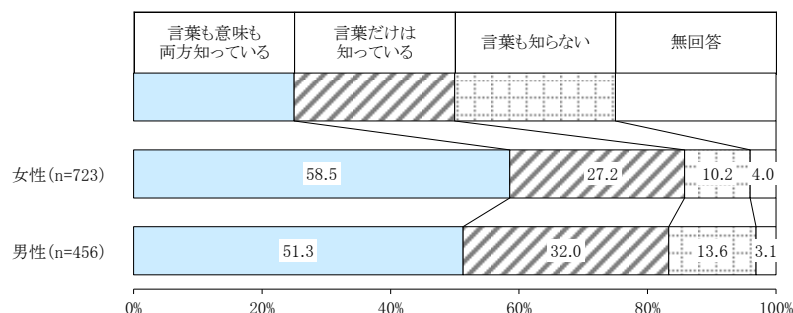
		n	「かならに男つらい」と感じる割合	「妻の責任だ」と言う割合	「わい男の酒から飲かめ」	「さが苦手が弱い」とバカ運動に動	「たい、事前責任が大きい」と言わき当てる	「仕事を自由に選べないことがある」	「自分のやりたくない仕事」	「不便である」	「衣食住の生活が十分でない」	「家族とのコミュニケーションがうまくない」	その他	「感じたことはつらい」と	無回答
男性	今回調査	456	23.0	13.6	5.7	5.5	23.0	12.1	5.5	4.2	2.0	44.7	7.9		
	前回調査	780	19.5	13.3	3.7	2.4	24.2	16.9	6.7	6.8	6.8	32.1	9.4		
	スコア差		+3.5	+0.3	+2.0	+3.1	-1.2	-4.8	-1.2	-2.6	-4.8	+12.6	-1.5		

7. LGBTをはじめとする性的少数者について

(1) LGBTをはじめとする性的少数者の認知状況

問 22 あなたは LGBTをはじめとする性的少数者について、どの程度知っていますか。
(○はひとつ)

【図表 7-1 LGBTをはじめとする性的少数者の認知状況】



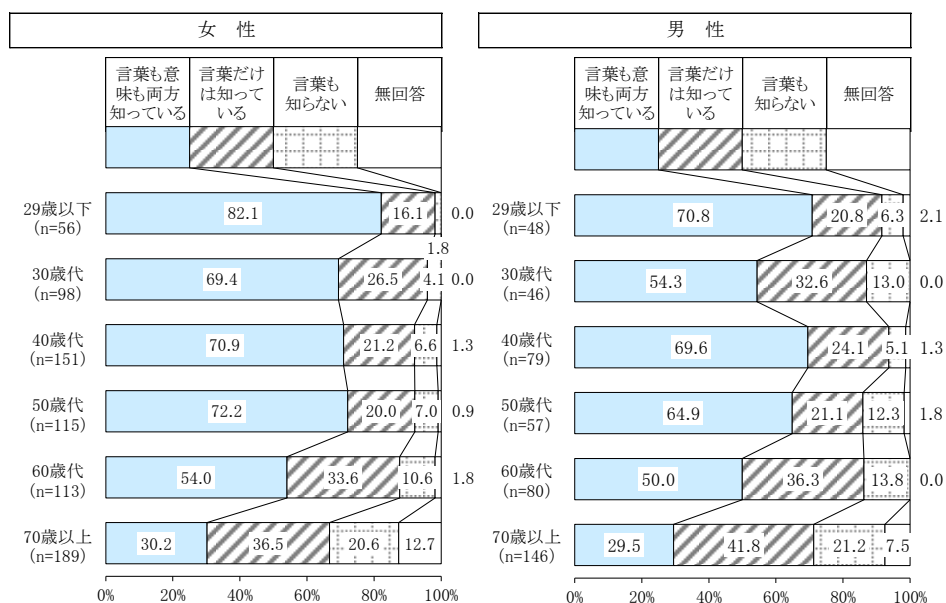
<性別> (図表 7-1)

LGBTをはじめとする性的少数者の認知状況は、男女とも「言葉も意味も両方知っている」が最も多く、女性で 58.5%、男性で 51.3% となっており、女性の方が 7.2 ポイント高い。「言葉だけは知っている」は、女性 27.2%、男性 32.0%、「言葉も知らない」は、女性 10.2%、男性 13.6% である。

<性・年代別> (図表 7-1-1)

女性では、「言葉も意味も両方知っている」は、おおむね年代が若くなるほど高く、29 歳以下で 82.1% である。30～50 歳代は 7 割前後で並んでおり、60 歳代で 54.0%、70 歳以上になると 30.2% である。男性でも、おおむね年代が若くなるほど高い傾向だが、30 歳代では低くなっている。

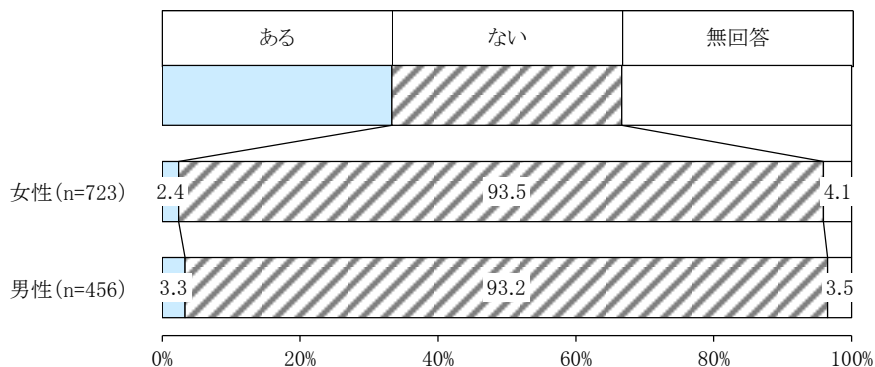
【図表 7-1-1 性・年代別 LGBTをはじめとする性的少数者の認知状況】



(2) 身体の性・心の性・性指向に悩んだ経験

問 23 あなたは、今までに自分の身体と性、心の性または性指向（性愛の対象がどのような人に向かうか、たとえば同性愛や両性愛など）に悩んだことがありますか。
 (○はひとつ)

【図表 7-2 身体の性・心の性・性指向に悩んだ経験】



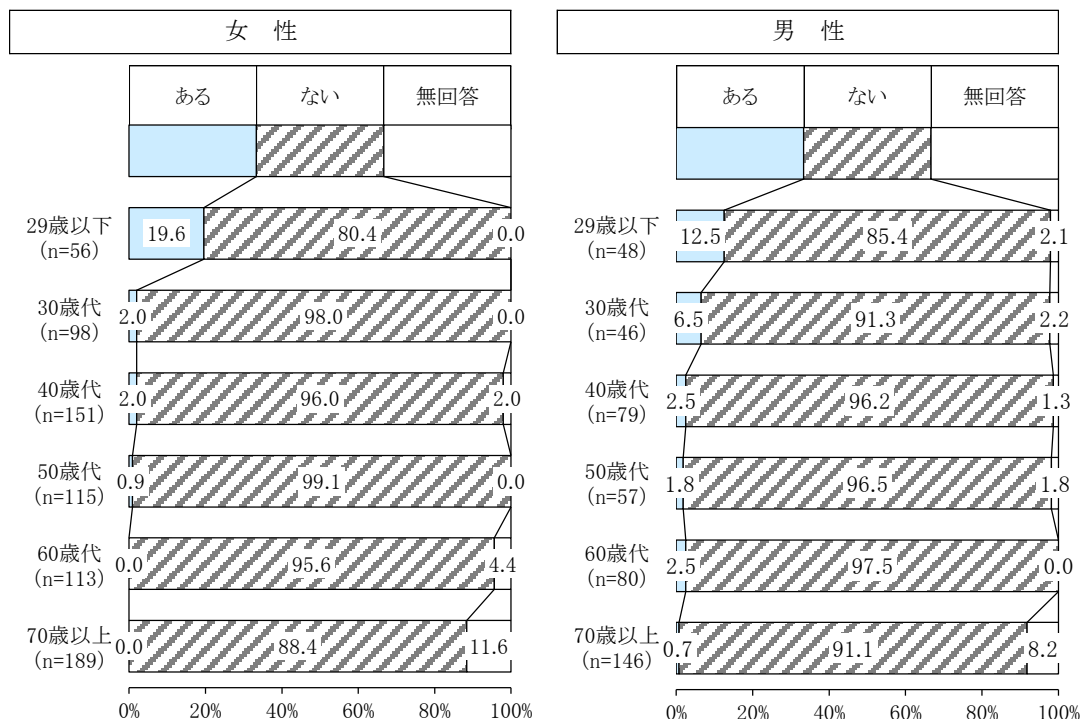
<性別> (図表 7-2)

身体の性・心の性・性指向に悩んだ経験は、男女とも「ない」が93%台を占めているが、「ある」は女性で2.4%、男性で3.3%となっている。

<性・年代別> (図表 7-2-1)

女性では、「ある」は、29歳以下では19.6%と高めで、30～40歳代で2.0%、50歳代以上では1%未満である。男性でも、29歳以下で「ある」が12.5%と高めで、30歳代で6.5%、40歳代と60歳代で2.5%と続いている。

【図表 7-2-1 性・年代別 身体の性・心の性・性指向に悩んだ経験】



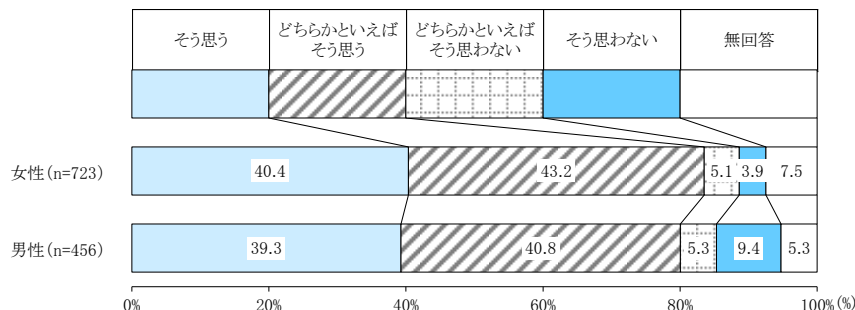
参考

大阪市が(2019)無作為抽出調査で行った「大阪市民の働き方と暮らしの多様性と共生にかんするアンケート」(以降大阪市調査と略記する)結果(有効回答数4,285人)の速報によれば、回答者のうち3.3%が、レズビアン(女性同性愛者)、ゲイ(男性同性愛者)、バイセクシュアル(両性愛者)、トランスジェンダー(性別越境者)、アセクシュアル(無性愛者)であると回答している。今回の豊中市の調査では性自認や性指向に関する悩みの経験を聞いたところ、女性の2.4%、男性の3.3%が悩んだことがあると回答している。今回調査は上記の大阪市調査のように回答者のLGBTとしてのアイデンティティを明確にきいている設問ではないため、厳密に言えばこの二つの調査結果は直接的には比較できない。しかし、今回豊中市でLGBTに関する悩みの経験率が一定大規模の無作為抽出調査によって判明したことは大阪市調査と並びLGBTの実態把握にとって意義深いデータと言える。

(3) LGBTをはじめとする性的少数者にとっての社会の生活のしづらさ

問 24 LGBTをはじめとする性的少数者にとって、現状は生活しづらい社会だと思いますか。(○はひとつ)

【図表 7-3 LGBTをはじめとする性的少数者にとっての社会の生活のしづらさ】



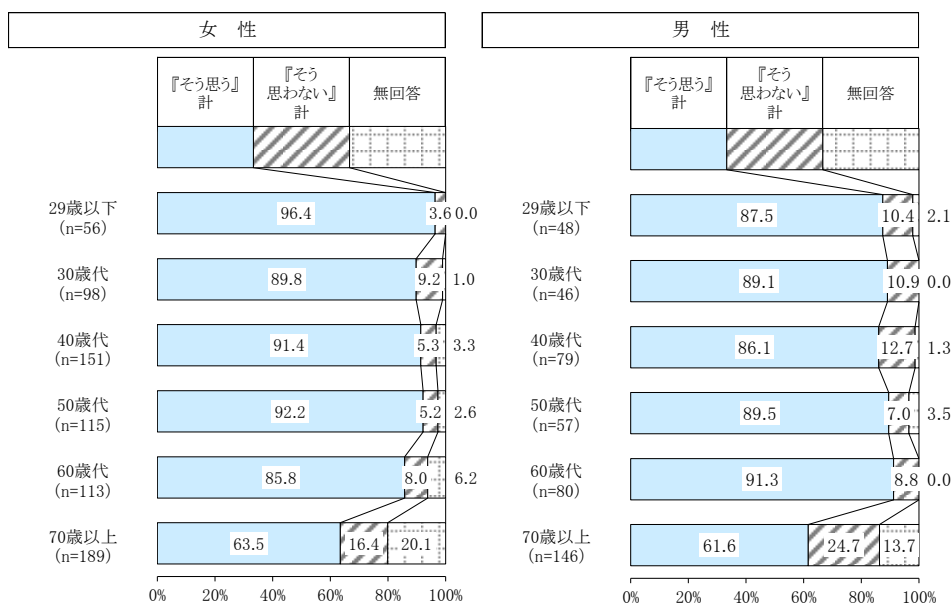
<性別> (図表 7-3)

LGBTをはじめとする性的少数者にとっての社会の生活のしづらさについては、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた「そう思う」は、女性で83.6%、男性で80.1%である。男性では、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた「そう思わない」が14.7%と、女性(9.0%)を5.7ポイント上回っている。

<性・年代別> (図表 7-3-1)

女性では、「そう思う」は60歳代以下のどの年代でも85%以上となっているが、70歳以上では63.5%にとどまっている。男性では、「そう思う」は女性と同様に60歳代以下で85%以上となっているが、70歳以上では61.6%にとどまっている。LGBTをはじめとする性的少数者にとっての社会の生活のしづらさがあると考えている割合は、おおむね年代が若いほど高く、70歳以上は低くなっており、これは年代別の言葉の認知度や理解度と同様の傾向であることがうかがえる。

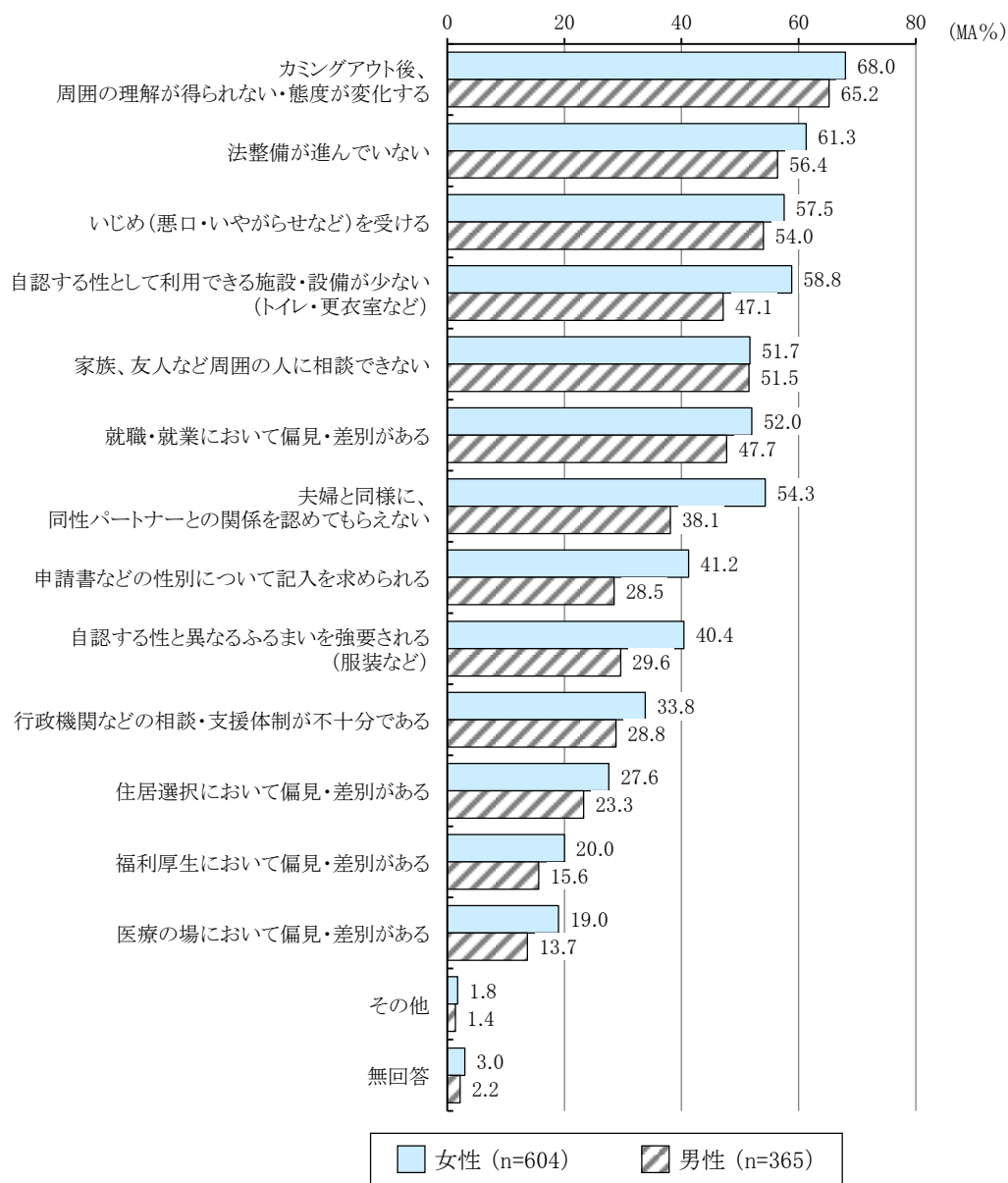
【図表 7-3-1 性・年代別 LGBTをはじめとする性的少数者にとっての社会の生活のしづらさ】



(4) 生活がつらい社会になっている理由

【問 24 で「1. そう思う」「2. どちらかといえばそう思う」と答えた方にお聞きします。】
 問 24-1 どのようなことが生活がつらい社会にしていると思いますか。(〇はいくつでも)

【図表 7-4 生活がつらい社会になっている理由】



<性別> (図表 7-4)

生活がつらい社会になっている理由については、男女とも、「カミングアウト後、周囲の理解が得られない・態度が変化する」(女性 68.0%、男性 65.2%) が最も多く、次いで「法整備が進んでいない」(女性 61.3%、男性 56.4%) が続いている。

いずれの項目でも、女性の方が男性より高く、特に「夫婦と同様に、同性パートナーとの関係を認めてもらえない」「申請書などの性別について記入を求められる」「自認する性として利用できる施設・設備が少ない(トイレ・更衣室など)」「自認する性と異なるふるまいを強要される(服装など)」では、10ポイント以上の差となっている。

<性・年代別> (図表 7-4-1)

女性では、29歳以下では「夫婦と同様に、同性パートナーとの関係を認めてもらえない」が74.1%で最も多い。30歳代以上では、いずれの年代でも「カミングアウト後、周囲の理解が得られない・態度が変化する」が多く、30～50歳代で7割台、60歳代で68.0%、70歳以上で46.7%となっている。50歳代で、「その他」、無回答を除くすべての項目が、全体より5ポイント以上高くなっている。

男性では、30歳代以下と60歳代以上では、「カミングアウト後、周囲の理解が得られない・態度が変化する」が最も多く、29歳以下で81.0%、30歳代と60歳代で7割、70歳以上で50.0%となっている。40～50歳代では、「法整備が進んでいない」が6～7割で最も多い。

【図表 7-4-1 性・年代別 生活がしづらい社会になっている理由】

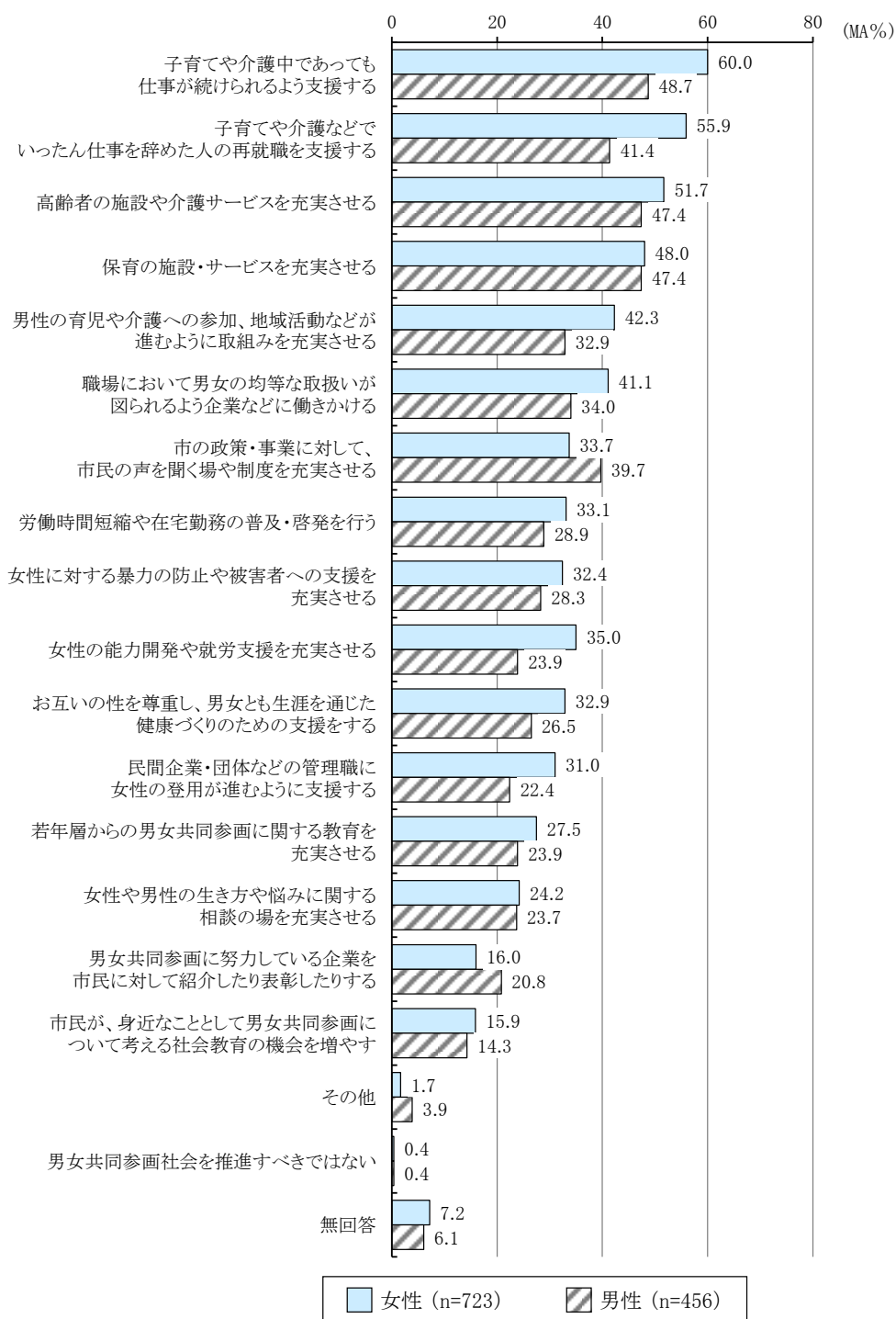
	n	カミングアウト後、周囲の理解が得られない・態度が変化する	法整備が進んでいない	けいじめ（悪口・いやがらせなど）を受ける	自認する性として利用できる施設・設備が少ない（トイレ・更衣室など）	家族、友人など周囲の人に相談できない	就職・就業において偏見・差別がある	夫婦と同様に、同性パートナーとの関係を認めてもらえない	申請書などの性別について記入を求められる	自認する性と異なるふるまいを強要される（服装など）	行政機関などの相談・支援体制が不十分である	住居選択において偏見・差別がある	福利厚生において偏見・差別がある	医療の場において偏見・差別がある	その他	無回答	
全体	上段/実数 下段/MA%	990 100.0	661 66.8	587 59.3	559 56.5	534 53.9	513 51.8	501 50.6	475 48.0	360 36.4	359 36.3	315 31.8	257 26.0	182 18.4	170 17.2	19 1.9	26 2.6
女性	29歳以下	54 100.0	38 70.4	38 70.4	36 66.7	33 61.1	27 50.0	29 53.7	40 74.1	30 55.6	27 50.0	22 40.7	24 44.4	15 27.8	8 14.8	1 1.9	1 1.9
	30歳代	88 100.0	68 77.3	56 63.6	52 59.1	61 69.3	47 53.4	39 44.3	56 63.6	43 48.9	45 51.1	30 34.1	21 23.9	12 13.6	11 12.5	1 1.1	-
	40歳代	138 100.0	102 73.9	81 58.7	86 62.3	90 65.2	73 52.9	73 52.9	79 57.2	53 38.4	61 44.2	42 30.4	33 23.9	20 14.5	24 17.4	4 2.9	2 1.4
	50歳代	106 100.0	80 75.5	76 71.7	68 64.2	68 64.2	64 60.4	65 61.3	64 60.4	47 44.3	50 47.2	46 43.4	35 33.0	30 28.3	26 24.5	1 0.9	1 0.9
	60歳代	97 100.0	66 68.0	64 66.0	52 53.6	51 52.6	51 52.6	52 53.6	49 50.5	39 40.2	33 34.0	33 34.0	24 24.7	25 25.8	22 22.7	1 1.0	5 5.2
	70歳以上	120 100.0	56 46.7	54 45.0	52 43.3	51 42.5	49 40.8	55 45.8	39 32.5	37 30.8	27 22.5	31 25.8	30 25.0	19 15.8	24 20.0	3 2.5	9 7.5
	男性	29歳以下	42 100.0	34 81.0	24 57.1	30 71.4	20 47.6	26 61.9	18 42.9	17 40.5	13 31.0	15 35.7	13 31.0	12 28.6	9 21.4	9 21.4	1 2.4
30歳代		41 100.0	29 70.7	20 48.8	24 58.5	18 43.9	22 53.7	14 34.1	17 41.5	11 26.8	19 46.3	11 26.8	9 22.0	5 12.2	6 14.6	1 2.4	-
40歳代		68 100.0	46 67.6	48 70.6	41 60.3	37 54.4	38 55.9	32 47.1	27 39.7	24 35.3	17 25.0	28 41.2	16 23.5	8 11.8	8 11.8	-	1 1.5
50歳代		51 100.0	32 62.7	34 66.7	22 43.1	24 47.1	26 51.0	26 51.0	22 43.1	13 25.5	11 21.6	15 29.4	11 21.6	8 15.7	9 17.6	-	1 2.0
60歳代		73 100.0	52 71.2	40 54.8	38 52.1	33 45.2	36 49.3	45 61.6	26 35.6	16 21.9	19 26.0	19 26.0	17 23.3	9 12.3	9 12.3	1 1.4	1 1.4
70歳以上		90 100.0	45 50.0	40 44.4	42 46.7	40 44.4	40 44.4	39 43.3	30 33.3	27 30.0	27 30.0	19 21.1	20 22.2	18 20.0	9 10.0	2 2.2	5 5.6

8. 男女共同参画社会の実現について

(1) 市が力をいれていくべきこと

問 26 男女共同参画社会を推進していくために、市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

【図表 8-1 市が力をいれていくべきこと】



<性別> (図表 8-1)

男女共同参画社会を推進していくために市が力を入れていくべきことについて、女性では、「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」が 60.0%で最も多く、次いで、「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が 55.9%、「高齢者の施設や介護サービスを充実させる」が 51.7%、「保育の施設・サービスを充実させる」が 48.0%と続いている。

男性においても、女性が上位 4 位に挙げた項目が、順位は異なるものの上位を占めている。

ほとんどの項目において女性の割合の方が上回っており、特に、「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」「子育てや介護中であっても仕事が続けられるように支援する」「女性の能力開発や就労支援を充実させる」では、10 ポイント以上の差がみられる。男性の方が高いのは、「市の政策・事業に対して、市民の声を聞く場や制度を充実させる」「男女共同参画に努力している企業を市民に対して紹介したり表彰したりする」である。

<性・年代別> (図表 8-1-1)

女性は、29 歳以下では「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」(76.8%)、30 歳代では「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」(70.4%)、40~60 歳代では「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」(40 歳代：63.6%、50 歳代：67.0%、60 歳代：62.8%)、70 歳以上では「高齢者の施設や介護サービスを充実させる」(54.5%) が最も多い。

男性では、29 歳以下では「職場において男女の均等な取扱いが図られるよう企業などに働きかける」(52.1%)、30~40 歳代では「保育の施設・サービスを充実させる」(30 歳代：56.5%、40 歳代：46.8%)、50 歳代と 70 歳以上では「高齢者の施設や介護サービスを充実させる」(50 歳代：42.1%、70 歳以上：58.2%)、60 歳代では「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」(65.0%) が最も多い。

「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」は、50 歳代以下の各年代で男女の割合の差が大きくなっており、「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」は 50 歳代以下の各年代で 20 ポイント以上、「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」は 30 歳代以下で 30 ポイント以上の差となっている。

【図表 8-1-1 性・年代別 市が力をいれていくべきこと①】

	n	子育てや介護が継続されるよう支援も	子育てや介護などでの再就職を支援する	高齢者の施設や介護サービスを実施させる	保育者の施設・サービスを充実させる	加齢に取組みを充実させる	男性の育児や介護への参加、地域活動などが進むよう	職場において男女の均等な取扱いが図られるよう企業などに働きかける	市民の声を聞く場や制度を充実させる	市の政策・事業に対して、労働時間短縮や在宅勤務の普及・啓発を行う	被害者への支援を充実させ	女性に対する暴力の防止や女性の能力開発や就労支援を充実させる
全体	1,207	670	606	604	573	468	466	436	379	373	369	30.6
	100.0	55.5	50.2	50.0	47.5	38.8	38.6	36.1	31.4	30.9	30.6	
女性	29歳以下	56	37	43	27	37	32	30	19	37	33	22
		100.0	66.1	76.8	48.2	66.1	57.1	53.6	33.9	66.1	58.9	39.3
	30歳代	98	69	69	43	63	51	47	33	52	33	38
		100.0	70.4	70.4	43.9	64.3	52.0	48.0	33.7	53.1	33.7	38.8
	40歳代	151	96	79	64	65	65	64	47	50	40	53
		100.0	63.6	52.3	42.4	43.0	43.0	42.4	31.1	33.1	26.5	35.1
	50歳代	115	77	68	67	58	52	44	44	35	48	44
	100.0	67.0	59.1	58.3	50.4	45.2	38.3	38.3	30.4	41.7	38.3	
60歳代	113	71	65	70	52	49	51	40	31	36	33	
	100.0	62.8	57.5	61.9	46.0	43.4	45.1	35.4	27.4	31.9	29.2	
70歳以上	189	83	79	103	71	56	60	60	33	43	62	
	100.0	43.9	41.8	54.5	37.6	29.6	31.7	31.7	17.5	22.8	32.8	
男性	29歳以下	48	22	21	19	23	16	25	23	22	20	17
		100.0	45.8	43.8	39.6	47.9	33.3	52.1	47.9	45.8	41.7	35.4
	30歳代	46	23	16	18	26	19	19	18	19	12	9
		100.0	50.0	34.8	39.1	56.5	41.3	41.3	39.1	41.3	26.1	19.6
	40歳代	79	34	31	26	37	26	17	31	26	17	16
		100.0	43.0	39.2	32.9	46.8	32.9	21.5	39.2	32.9	21.5	20.3
	50歳代	57	23	21	24	17	19	14	20	10	12	9
	100.0	40.4	36.8	42.1	29.8	33.3	24.6	35.1	17.5	21.1	15.8	
60歳代	80	52	42	44	46	27	30	35	23	24	18	
	100.0	65.0	52.5	55.0	57.5	33.8	37.5	43.8	28.8	30.0	22.5	
70歳以上	146	68	58	85	67	43	50	54	32	44	40	
	100.0	46.6	39.7	58.2	45.9	29.5	34.2	37.0	21.9	30.1	27.4	

【図表 8-1-1 性・年代別 市が力をいれていくべきこと②】

	n	りとおの互いのための生涯の支援を健康、つづき	に職に女性・登用が進むよう	民間企業・団体の管理	に若年層からの男女共同参画	せる関する相談の場を充実させる	る女性や男性の生き方や悩み	する企業市民に紹介	る男女共同参画に努めて	る市民が、身近なことを	その他	男女共同参画社会を推進す	無回答
全体	1,207	368	333	314	290	216	187	33	5	82			
	100.0	30.5	27.6	26.0	24.0	17.9	15.5	2.7	0.4	6.8			
女性	29歳以下	56	34	20	19	24	14	10	1	-	-	-	
		100.0	60.7	35.7	33.9	42.9	25.0	17.9	1.8	-	-	-	
	30歳代	98	28	35	26	29	12	15	2	1	1	1	
		100.0	28.6	35.7	26.5	29.6	12.2	15.3	2.0	1.0	1.0	1.0	
	40歳代	151	43	42	41	34	24	23	2	1	6	6	
		100.0	28.5	27.8	27.2	22.5	15.9	15.2	1.3	0.7	4.0	4.0	
	50歳代	115	41	35	38	22	22	17	3	-	4	4	
	100.0	35.7	30.4	33.0	19.1	19.1	14.8	2.6	-	3.5	3.5		
60歳代	113	34	37	34	25	14	15	2	-	6	6		
	100.0	30.1	32.7	30.1	22.1	12.4	13.3	1.8	-	5.3	5.3		
70歳以上	189	57	54	40	41	29	35	2	1	35	35		
	100.0	30.2	28.6	21.2	21.7	15.3	18.5	1.1	0.5	18.5	18.5		
男性	29歳以下	48	22	16	18	22	12	11	3	-	2	2	
		100.0	45.8	33.3	37.5	45.8	25.0	22.9	6.3	-	4.2	4.2	
	30歳代	46	16	12	9	10	11	8	2	-	-	-	
		100.0	34.8	26.1	19.6	21.7	23.9	17.4	4.3	-	-	-	
	40歳代	79	21	12	19	14	12	8	5	1	5	5	
		100.0	26.6	15.2	24.1	17.7	15.2	10.1	6.3	1.3	6.3	6.3	
	50歳代	57	9	13	14	13	8	5	2	1	1	1	
	100.0	15.8	22.8	24.6	22.8	14.0	8.8	3.5	1.8	1.8	1.8		
60歳代	80	23	13	19	19	22	15	3	-	3	3		
	100.0	28.8	16.3	23.8	23.8	27.5	18.8	3.8	-	3.8	3.8		
70歳以上	146	30	36	30	30	30	18	3	-	17	17		
	100.0	20.5	24.7	20.5	20.5	20.5	12.3	2.1	-	11.6	11.6		

<前回調査（平成27年（2015年））との比較>（図表8-1-2）

前回調査の結果に比べ、男女とも「職場において男女の均等な取扱いが図られるよう企業などに働きかける」「女性に対する暴力の防止や被害者への支援を充実させる」が5ポイント以上上昇している。女性では、「お互いの性を尊重し、男女とも生涯を通じた健康づくりのための支援をする」「民間企業・団体などの管理職に女性の登用が進むように支援する」も5ポイント以上上昇している。

【図表8-1-2 前回調査との比較 市が力をいれていくべきこと】

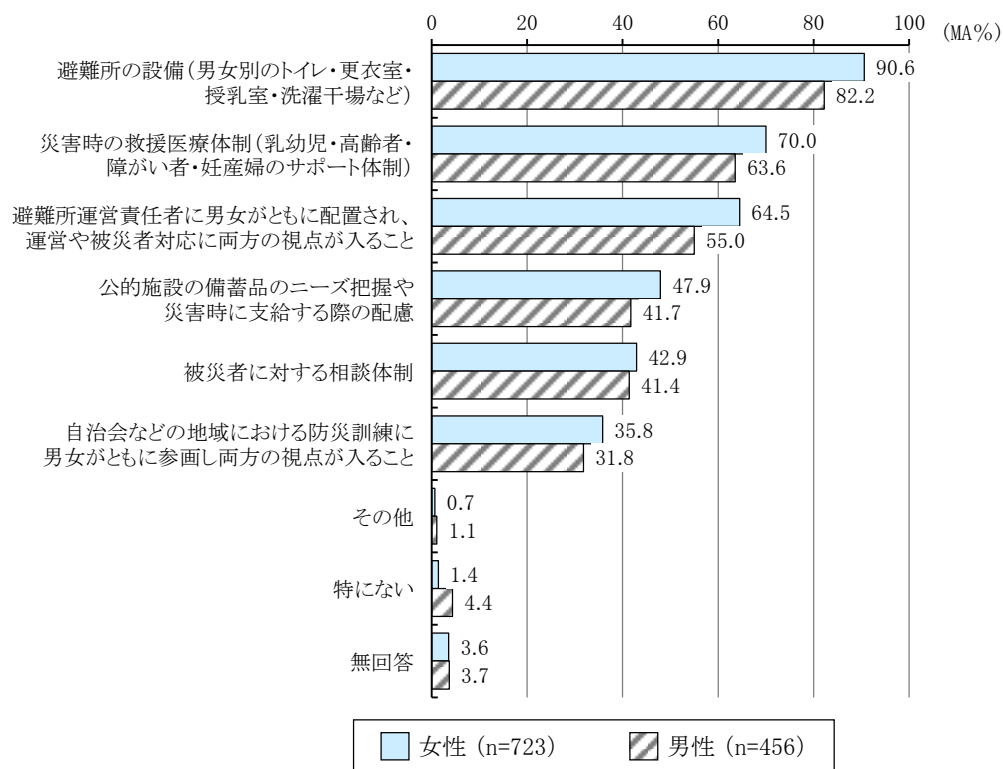
		n	子育てや介護が続けられるよう支援も	子育てや介護などでの再就職を支援する	高齢者の施設や介護サービス	保育の施設・サービスを充実させる	加齢に地域活動などを進めさせる	男性の育児や介護への参加を促進させる	取扱いが図られるよう均等な職場に働きかける	市民の声を聞く場や制度を充実させる	市政策・事業に對して、普及・啓発を行う	労働時間短縮や在宅勤務の	被害者への支援を充実させ	女性に対する暴力の防止や	女性の能力開発や就労支援を充実させる
女性	今回調査	723	60.0	55.9	51.7	48.0	42.3	41.1	33.7	33.1	32.4	35.0			
	前回調査	1,064	58.6	53.8	55.8	50.4	38.3	34.6	32.9	28.2	27.3	31.6			
	スコア差		+1.4	+2.1	-4.1	-2.4	+4.0	+6.5	+0.8	+4.9	+5.1	+3.4			
男性	今回調査	456	48.7	41.4	47.4	47.4	32.9	34.0	39.7	28.9	28.3	23.9			
	前回調査	780	46.9	43.8	47.9	44.6	28.1	28.6	32.7	29.7	22.8	25.8			
	スコア差		+1.8	-2.4	-0.5	+2.8	+4.8	+5.4	+7.0	-0.8	+5.5	-1.9			

		n	お互いの生涯を通じた健康づくり	民間企業・団体の登用を進むよう支援する	若年層からの男女共同参画に関する教育を充実させる	女性や男性の生きたり実務に	男女共同参画に努めて	市民が、身近なことに	その他	男女共同参画を推進す	無回答
女性	今回調査	723	32.9	31.0	27.5	24.2	16.0	15.9	1.7	0.4	7.2
	前回調査	1,064	26.4	25.1		22.2	18.9	13.0	1.8		8.6
	スコア差		+6.5	+5.9		+2.0	-2.9	+2.9	-0.1		-1.4
男性	今回調査	456	26.5	22.4	23.9	23.7	20.8	14.3	3.9	0.4	6.1
	前回調査	780	26.3	20.8		21.3	20.0	14.4	5.5		7.6
	スコア差		+0.2	+1.6		+2.4	+0.8	-0.1	-1.6		-1.5

(2) 防災対策において、性別に配慮した対応が必要だと思う事

問 27 防災・災害対応において、性別に配慮した対応が必要だと思うものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

【図表 8-2 防災対策において、性別に配慮した対応が必要だと思う事】



<性別> (図表 8-2)

防災・災害対応における性別に配慮した対応が必要と思うものについては、男女とも「避難所の設備(男女別のトイレ・更衣室・授乳室・洗濯干場など)」(女性 90.6%、男性 82.2%)が最も多く、次いで「災害時の救援医療体制(乳幼児・高齢者・障がい者・妊産婦のサポート体制)」(女性 70.0%、男性 63.6%)、「避難所運営責任者に男女がともに配置され、運営や被災者対応に両方の視点が入ること」(女性 64.5%、男性 55.0%)と続いている。すべての項目で男性に比べ女性の割合の方が高くなっている。

<性・年代別> (図表 8-2-1)

男女とも、各年代で「避難所の設備（男女別のトイレ・更衣室・授乳室・洗濯干場など）」が最も多く、特に女性 30～60 歳代、男性 60 歳代では 9 割台である。「災害時の救援医療体制（乳幼児・高齢者・障がい者・妊産婦のサポート体制）」は、女性 60 歳代で 84.1%と最も高く、同年代の男性の割合を 10.3 ポイント上回っている。また、女性 29 歳以下では、「避難所運営責任者に男女がともに配置され、運営や被災者対応に両方の視点が入ること」が 80.4%と高く、同年代の男性の割合を 30.4 ポイント上回っている。

29 歳以下では、男女差が大きく、「公的施設の備蓄品のニーズ把握や災害時に支給する際の配慮」は女性が 9.8 ポイント、その他の項目については、いずれも女性が 10 ポイント以上高くなっている。

また、男女ともに 60 歳代において、「被災者に対する相談体制」が全体と比べて 10 ポイント以上高くなっている。

【図表 8-2-1 性・年代別 防災対策において、性別に配慮した対応が必要だと思う事】

	n	乳の避難 室・トイレ 洗濯・設 備（更衣 室・女 授別）	ポがー災 ト乳害 者幼時 体・児の 制妊・救 産高援 婦齢医 の者療 サ・体 障制	方運女避 の営が難 視やと所 点被も運 が災に営 入者配責 る対置任 ことんれ 両、男	支ニ公 給的 す施 る把設 際握の のや備 配災蓄 慮害品 時に	制被 災者 に 対 す る 相 談 体	点とけ自 がもる治 入に防会 る参災な こ画訓ど し練の 両に地 方男域 の女に 視がお	そ の 他	特 に な い	無 回 答	
全体	上段/実数 下段/MA%	1,207 100.0	1,053 87.2	814 67.4	734 60.8	548 45.4	510 42.3	410 34.0	12 1.0	30 2.5	46 3.8
女 性	29歳以下	56 100.0	50 89.3	40 71.4	45 80.4	30 53.6	25 44.6	27 48.2	- -	3 5.4	1 1.8
	30歳代	98 100.0	93 94.9	66 67.3	60 61.2	45 45.9	38 38.8	37 37.8	- -	1 1.0	- -
	40歳代	151 100.0	141 93.4	101 66.9	97 64.2	64 42.4	52 34.4	43 28.5	3 2.0	2 1.3	2 1.3
	50歳代	115 100.0	106 92.2	74 64.3	79 68.7	56 48.7	49 42.6	38 33.0	- -	- -	3 2.6
	60歳代	113 100.0	104 92.0	95 84.1	73 64.6	62 54.9	60 53.1	42 37.2	1 0.9	- -	4 3.5
	70歳以上	189 100.0	160 84.7	129 68.3	111 58.7	89 47.1	86 45.5	72 38.1	1 0.5	4 2.1	16 8.5
	男 性	29歳以下	48 100.0	36 75.0	24 50.0	24 50.0	21 43.8	14 29.2	12 25.0	- -	4 8.3
30歳代		46 100.0	38 82.6	27 58.7	25 54.3	23 50.0	19 41.3	10 21.7	- -	1 2.2	1 2.2
40歳代		79 100.0	69 87.3	57 72.2	45 57.0	39 49.4	30 38.0	26 32.9	1 1.3	1 1.3	2 2.5
50歳代		57 100.0	48 84.2	37 64.9	29 50.9	19 33.3	20 35.1	20 35.1	- -	3 5.3	2 3.5
60歳代		80 100.0	72 90.0	59 73.8	53 66.3	35 43.8	42 52.5	21 26.3	1 1.3	1 1.3	1 1.3
70歳以上		146 100.0	112 76.7	86 58.9	75 51.4	53 36.3	64 43.8	56 38.4	3 2.1	10 6.8	10 6.8

<前回調査（平成 27 年（2015 年））との比較>（図表 8-2-2）

前回調査の結果に比べ、女性で「避難所の設備（男女別のトイレ・更衣室・授乳室・洗濯干場など）」が 7.0 ポイント上昇している。男性は、「避難所運営責任者に男女がともに配置され、運営や被災者対応に両方の視点が入ること」が 5.1 ポイント低下している。

【図表 8-2-2 前回調査との比較 防災対策において、性別に配慮した対応が必要だと思う事】

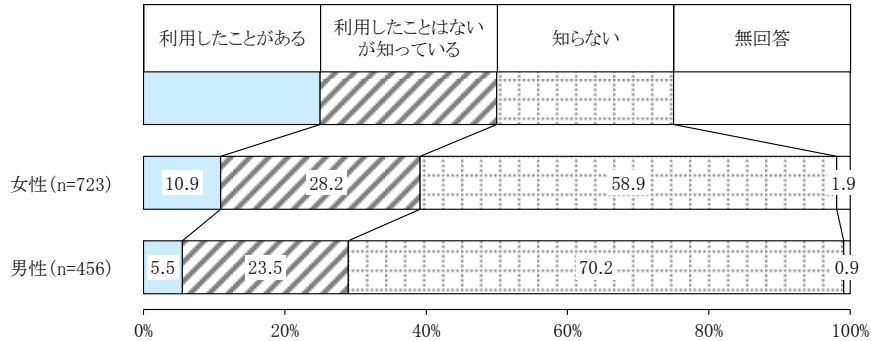
(MA%)

		n	乳の避 室ト難 洗レ所 干更の 場衣備 など（ 男女 授別	ポ が い ト 体 制 ） 妊 産 婦 の サ 障 制	災 害 時 の 救 援 医 療 に 関 連 した 事 項 に 関 する 事 項	方 運 営 の 視 点 が 入 る 事 項 に 関 する 事 項	女 性 の 運 営 に 関 する 事 項 に 関 する 事 項	支 給 の 配 慮 の 時 に 関 する 事 項	公 的 施 設 の 備 蓄 品 の 配 慮 の 時 に 関 する 事 項	制 災 者 に 対 する 相 談 体 制	点 が 入 る 事 項 に 関 する 事 項	自 治 会 の 訓 練 の 場 所 に 関 する 事 項	そ の 他	特 に な い	無 回 答
女性	今回調査	723	90.6	70.0	64.5	47.9	42.9	35.8	0.7	1.4	3.6				
	前回調査	1,064	83.6	68.9	64.4	44.1	38.9	36.7	0.8	1.9	4.6				
	スコア差		+7.0	+1.1	+0.1	+3.8	+4.0	-0.9	-0.1	-0.5	-1.0				
男性	今回調査	456	82.2	63.6	55.0	41.7	41.4	31.8	1.1	4.4	3.7				
	前回調査	780	77.9	64.0	60.1	39.9	38.2	33.7	2.1	3.8	4.0				
	スコア差		+4.3	-0.4	-5.1	+1.8	+3.2	-1.9	-1.0	+0.6	-0.3				

(3) 「とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ」利用状況

問 28 あなたは、豊中市の男女共同参画推進の拠点施設「とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ（豊中駅前）」を利用したことがありますか。（○はひとつ）

【図表 8-3 「とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ」利用状況】



<性別> (図表 8-3)

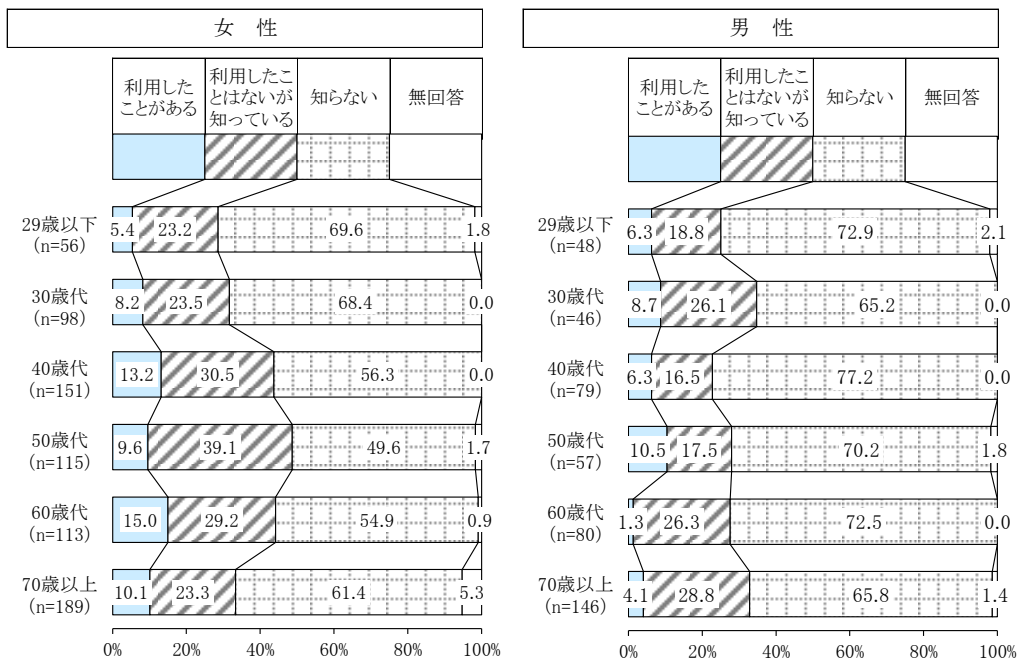
「とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ」の利用状況は、「利用したことがある」は女性で10.9%、男性で5.5%、「利用したことはないが知っている」は女性で28.2%、男性で23.5%と、いずれも女性の方が高くなっている。また、「知らない」は女性58.9%、男性70.2%である。男女とも「知らない」が最も多くなっているが、男性でその割合が高い。

<性・年代別> (図表 8-3-1)

女性では、「利用したことがある」「利用したことはないが知っている」をあわせた認知率は、50歳代が最も高く48.7%、40歳代と60歳代が4割台で続いている。「利用したことがある」は、40歳代と60歳代以上で1割を超えている。

男性では、認知率は、30歳代と70歳以上で3割台、その他の年代は2割台で続いている。「利用したことがある」は、50歳代でのみ1割を超えている。

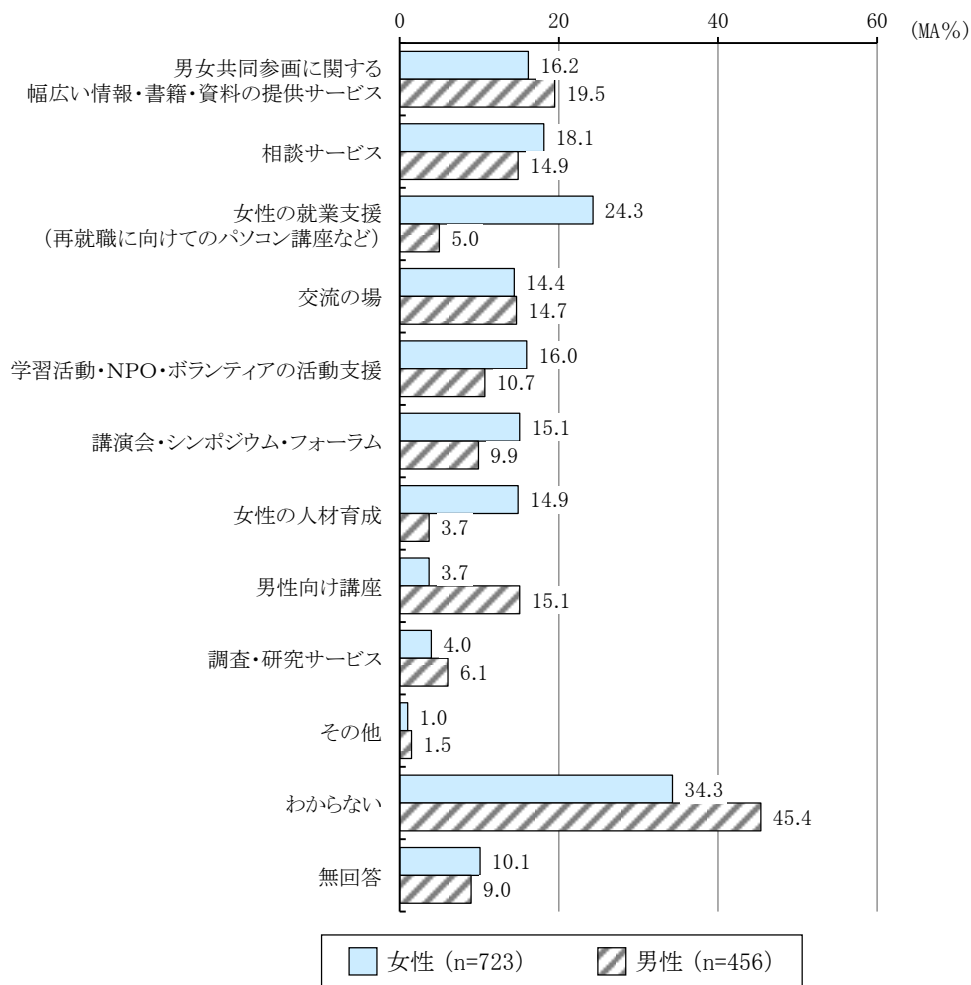
【図表 8-3-1 性・年代別 「とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ」利用状況】



(4) 「とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ」にあったら利用したいもの

問 29 豊中市の男女共同参画推進の拠点施設「とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ」にあったら、利用したいと思うものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

【図表 8-3 「とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ」にあったら利用したいもの



<性別> (図表 8-3)

「とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ」にあったら利用したいものは、女性では「女性の就業支援 (再就職に向けてのパソコン講座など)」が 24.3%で最も多く、「相談サービス」(18.1%)、「男女共同参画に関する幅広い情報・書籍・資料の提供サービス」(16.2%)と続いている。男性では、「男女共同参画に関する幅広い情報・書籍・資料の提供サービス」が 19.5%で最も多く、「男性向け講座」(15.1%)、「相談サービス」(14.9%)と続いている。

上記以外では、男女とも「わからない」という回答が最も多くなっている。

<性・年代別> (図表 8-3-1)

女性では、60歳代以下では、いずれの年代も「女性の就業支援（再就職に向けてのパソコン講座など）」が2～3割で最も多く、70歳以上では「相談サービス」が20.1%で最も多い。29歳以下で「女性の人材育成」、60歳代で「男女共同参画に関する幅広い情報・書籍・資料の提供サービス」「講演会・シンポジウム・フォーラム」も、23%と高くなっている。

男性では、29歳以下では「男女共同参画に関する幅広い情報・書籍・資料の提供サービス」「交流の場」（18.8%）、30歳代では「交流の場」（26.1%）、40～50歳代では「男性向け講座」（40歳代：17.7%、50歳代：15.8%）、60歳代以上では「男女共同参画に関する幅広い情報・書籍・資料の提供サービス」（60歳代：23.8%、70歳以上：22.6%）が最も多くなっている。

【図表 8-3-1 性・年代別 「とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ」にあったら利用したいもの】

		n	幅広い情報提供サービスに関する資料の提供	男女共同参画に関する幅広い情報・書籍・資料の提供サービス	相談サービス	女性の就業支援（再就職に向けてのパソコン講座など）	交流の場	学習活動・NPO活動・ボランティア	講演会・シンポジウム	女性の人材育成	男性向け講座	調査・研究サービス	その他	わからない	無回答
全体	上段/実数 下段/MA%	1,207 100.0	208 17.2	205 17.0	204 16.9	174 14.4	168 13.9	156 12.9	129 10.7	98 8.1	59 4.9	14 1.2	465 38.5	118 9.8	
女性	29歳以下	56 100.0	9 16.1	10 17.9	19 33.9	7 12.5	12 21.4	3 5.4	13 23.2	3 5.4	3 5.4	2 3.6	21 37.5	2 3.6	
	30歳代	98 100.0	8 8.2	13 13.3	32 32.7	12 12.2	12 12.2	6 6.1	16 16.3	5 5.1	4 4.1	-	37 37.8	5 5.1	
	40歳代	151 100.0	15 9.9	24 15.9	38 25.2	14 9.3	26 17.2	15 9.9	28 18.5	6 4.0	8 5.3	1 0.7	64 42.4	7 4.6	
	50歳代	115 100.0	23 20.0	25 21.7	35 30.4	11 9.6	21 18.3	23 20.0	17 14.8	-	7 6.1	2 1.7	35 30.4	12 10.4	
	60歳代	113 100.0	26 23.0	21 18.6	33 29.2	23 20.4	19 16.8	26 23.0	16 14.2	5 4.4	3 2.7	-	31 27.4	8 7.1	
	70歳以上	189 100.0	36 19.0	38 20.1	19 10.1	36 19.0	25 13.2	35 18.5	18 9.5	8 4.2	4 2.1	2 1.1	60 31.7	39 20.6	
	男性	29歳以下	48 100.0	9 18.8	8 16.7	1 2.1	9 18.8	7 14.6	4 8.3	1 2.1	7 14.6	4 8.3	2 4.2	22 45.8	1 2.1
30歳代		46 100.0	9 19.6	8 17.4	4 8.7	12 26.1	4 8.7	5 10.9	1 2.2	9 19.6	4 8.7	1 2.2	19 41.3	1 2.2	
40歳代		79 100.0	10 12.7	5 6.3	2 2.5	9 11.4	6 7.6	4 5.1	1 1.3	14 17.7	2 2.5	2 2.5	45 57.0	5 6.3	
50歳代		57 100.0	9 15.8	7 12.3	2 3.5	8 14.0	4 7.0	4 7.0	3 5.3	9 15.8	3 5.3	-	30 52.6	3 5.3	
60歳代		80 100.0	19 23.8	14 17.5	7 8.8	11 13.8	16 20.0	17 21.3	7 8.8	16 20.0	9 11.3	-	35 43.8	4 5.0	
70歳以上		146 100.0	33 22.6	26 17.8	7 4.8	18 12.3	12 8.2	11 7.5	4 2.7	14 9.6	6 4.1	2 1.4	56 38.4	27 18.5	

(5) 自由回答一覧

問 30 男女共同参画社会の実現に向けたあなたのご意見、ご要望をお聞かせください。

(1) 男女共同参画実現に向けて必要なこと

男女共同参画の実現に向けて必要な取り組みや考え方に関する記述は多岐に渡り、計 97 件であった。以下ではそれらの内容をとりまとめ、①社会全般について、②女性について、③男性について、④高齢者について、⑤子どもについて、⑥職場について、⑦教育について、⑧国・市への要望に分類している。

① 社会全般について

記述内容	回答数
お互いの個性や能力を認め合い、活かし合える社会になってほしい	6
指導的地位にある男女比を是正するにはアファーマティブアクションも認められて良いと思う。様々な境遇の人がいることに留意し、男女共同参画がなるべく広く社会にいきわたるべき	1
平等にあたり、権利だけでなく義務も生じることを伝える必要がある。会社にもメリットデメリットをセットで考えないと浸透しないと思う	1
男女ともに社会や家庭において責任と自主的な行動と考えを持つ必要がある	1
もっと交流を増やして明るい未来を築いて欲しい	1
性別に関わらず平等に機会を与え、能力によって登用すべきだと思う	1
現実としてそれぞれの思い切った考え方の切り替えが必要	1
これからの若い人達がいろいろ考えて実行してほしい	1
男女両性の幸福のために、男女共同参画社会の実現は必要	1
性別関わりなく等しく何でもできる社会になるのはそう簡単ではない。意識して取り組むことが必要だと思う	1
計	15

*アファーマティブアクションとは、日本語では「積極的格差是正措置」と訳され、社会的に差別されている結果から生じている格差を是正するために、差別されている人を積極的に優遇することをさす。

② 女性について

記述内容	回答数
女性をもっと社会に参画できるよう体制づくり(出産時の人材提供など)を考えるべきである	2
女性の子育て支援と職場復帰を支援する事が重要だと思う	2
女性の社会参画意識の高揚と、同じ能力なら、女性を選ぶという風土作りが大切	1
女性が職場でも家庭でも平等でイキイキと生活できるような活躍できる社会になってほしい	1
シングルマザーにもっと経済支援をしてほしい	1
女性でも希望する人、優秀な人には、活躍の場が男性と同等に与えられるべきだと思います	1
女性が正規雇用されやすくなってほしい。またLGBTQ+への理解促進に力を入れてほしい	1
計	9

③ 男性について

記述内容	回答数
家事や育児などについて男性への教育が大切である	3
男性はコミュニケーション能力を高め、競争的より融和的になるべきだし、女性もそれを承認すべき	1
男性が出産・子育てにどう関わるのかが男女共同参画社会の実現に向けてのポイントだと思う	1
男性の育休の実績を増やしてほしい。介護補助の制度を充実してほしい	1
土日の父親と子どもが参加できるイベントの開催	1
男性と社会が意識を変えなければ、共同参画社会の実現は望めない	1
計	8

④ 高齢者について

記述内容	回答数
高齢者の意識改革が必要	4
社会的弱者、老人、介護者も生きやすい世になってほしい	1
高齢者が自由に参加できるプログラムなど情報発信をお願いしたい	1
年金生活者、高齢者のための触れ合い、男女の場所が欲しい	1
高齢者に対する社会情勢に適応した生活を希望	1
セカンドライフを地域に貢献できるように機会を設けて行く事が必要	1
計	9

⑤ 子どもについて

記述内容	回答数
保育園を利用しやすいように整備する必要がある	3
保育施設を増やしてほしい	2
子供に罪はなく、皆が平等に過ごせるようになって欲しい	1
育児の突発的な事態(病気など)に柔軟に対応する保育サービスの充実	1
学童保育をさらに充実させてほしい	1
計	8

⑥ 職場について

記述内容	回答数
男女が平等に仕事ができるような環境(長時間労働、多い転勤など)に改善すべき	2
男性の職場での子供のための有休取得を当たり前にしてほしい	2
職場での男女の差別を無くす事、活躍している女性を知らせる事で男性の意識を変える取り組みが必要	1
計	5

⑦ 教育について

記述内容	回答数
多様性を受け入れられる柔軟な考え方の教育が必要	4
従来からの固定的な性別役割にとられない学校教育の実施	2
LGBTなど性的少数者への理解を進めるためには特殊なものという態度ではなく普通に扱って学ぶ教育が必要	1
幼児期から男女共同参画に関する教育が必要	1
教育を見直し、学校でブレない方向性の確立を目指してほしい	1
男女LGBT問わず経済的にも生活面でも独立して生活を営む経験が必要。そのために子どもへの教育サポートが必要だ	1
男女共同参画と合わせて教育の充実をお願いしたい	1
計	11

⑧ 国や市への要望

記述内容	回答数
男女共同参画社会やLGBTについて、もっとPRをして欲しい	6
男女共同参画社会を引き続き推進してほしい	3
法整備が必要である	3
センターの業務内容を一般市民に知ってもらう啓発を行って欲しい。利用可能な魅力ある企画をアピールして欲しい	1
少しでも男女共に働きやすく住みやすい社会にするためには市の力が必要。もっと企業に働きかける必要がある	1
子供、介護に関しては女性の負担が大きくなるのでその周りのご支援を市や国にお願いしたい	1
幼少時に女性しか関わらない状況を改善する方法を考えてほしい	1
障害者や子育て中の人や介護の人が身近に相談できる場がほしい	1
皆が充実した生活を営める様な社会になるよう、自治体に良いサポートをしてほしい	1
制度を最大限活用した先進的な好事例を役所自らが是非作ってほしい	1
若い家族がもっと住みやすい環境を整えて力を注いでほしい。その後、男女共同参画推進のテーマを行ってほしい	1
商業施設毎に働く方向けの保育所や介護相談所を作って欲しい	1
魅力のある、参加したくなる企画や講演会をして欲しい	1
情報提供サービスをもっと充実して欲しい	1
男女ともに仕事と家庭内の仕事が同じ比率で協力できる社会の体制を作ることが必要だと思う	1
固定概念を変えるためにキャンペーンなどでゆっくり認識を変えていってほしい	1
豊中市で少しずつ努力して実績を上げ、女性への暴力などが減少されるよう期待します	1
DV被害者が相談しやすい環境を市にも整えて欲しい	1
まずはシステム作りをしてしまってから理解を求めていった方が結果的には良くなるように思います	1
男女共に受講できる講座を増やしてほしい	1
地方、地域からではなく国の主体で大々的に進めていくべき	1
コロナ社会での生活様式(収入も含む)の変化もあるのでポイントをしぼった活動をして欲しい。性別に配慮した防災・災害対応のような視点は重要だと思いました	1
改革を進め、全国から注目を浴びるくらい平等で住み良い豊中市を作ってほしい	1
計	32

(2) 男女共同参画実現に対する所感・意見、その他所感・意見

男女共同参画の実現に対する所感や意見は 136 件であった。性別等関係なく平等に暮らせる社会を望む意見、世間一般的な意識の変化を望む意見などの意見がみられた。

その他所感・意見としては豊中市や本調査についての意見がみられる。

記述内容	回答数
豊中市への言及	31
本調査について	19
性別等関係なく平等に暮らせる社会を望む	14
男女共同参画が進むことに賛成	11
意識が変わっていくことが望ましい	7
男性・女性の区別はあるべき	5
男女の収入の差が問題である	4
女性ばかり強調するのはおかしい	3
子供の頃からの教育をしっかりする	2
法律を変える	2
交流・話し合える場が必要	2
男女共同参画社会に向けて改善されつつある	2
わからない・考えたことがない	5
その他	29
計	136